

授業科目名： 日本言語文化I		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三ツ井 正孝
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
近代にみられる各種の文章にあらわれる語彙および、文法的現象を現代日本語と対照しながら考察することにより、現代日本語の「書き言葉」がどのように形成されてきたのかを考えるための礎とする。近代にみられる各種の文章にあらわれる語彙および、文法的現象に関する理解を深め、現代日本語との関連を理解する。				
授業の概要				
近代日本語および現代日本語がもつ語彙・文法の諸問題を、近年の研究成果を紹介しながら批判的に検討する。				
授業計画				
第1回： 現代語への変遷の様相				
第2回： 近代語を分析するための資料				
第3回： 語彙の問題 1 ・漢語の問題				
第4回： 語彙の問題 2 ・外来語の問題				
第5回： 語彙の問題 3 ・表記の問題				
第6回： 文法の問題 1 ・動詞の問題				
第7回： 文法の問題 2 ・形容詞の問題				
第8回： 文法の問題 3 ・副詞の問題				
第9回： 文法の問題 4 ・助詞の問題				
第10回： 文法の問題 5 ・ヴォイスの問題				
第11回： 文法の問題 6 ・テンスの問題				
第12回： 文法の問題 7 ・アスペクトの問題				
第13回： 文法の問題 8 ・モダリティの問題Ⅰ				
第14回： 文法の問題 9 ・モダリティの問題Ⅱ				
第15回：文法の問題10・方言と日本語史の問題				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト		授業時に資料を配付する。		
参考書・参考資料等		適宜指示する		
学生に対する評価		期末レポート（80%）と授業参加状況（20%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 日本言語文化I演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三ツ井 正孝
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
近代および現代日本語にみられる語彙および文法的現象に関し、出席者が主体的に考察をおこない、その内容について口頭発表および質疑応答をおこなうことにより、日本語に関する具体的な研究方法を学ぶ。近代および現代日本語の語彙・文法に関する研究方法を理解する。また、議論のあり方について適切に理解する。				
授業の概要				
近代日本語および現代日本語がもつ語彙・文法に関して、発表者が示した考察内容を出席者全員で批判的に検討する。				
授業計画				
第1回： オリエンテーション・演習実施方法に関する説明等				
第2回： 口頭発表1の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				
第3回： 口頭発表1の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して、さらに全員で議論する。				
第4回： 口頭発表2の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				
第5回： 口頭発表2の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して、さらに全員で議論する。				
第6回： 口頭発表3の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				
第7回： 口頭発表3の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して、さらに全員で議論する。				
第8回： 口頭発表4の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				
第9回： 口頭発表4の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して、さらに全員で議論する。				
第10回： 口頭発表5の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				
第11回： 口頭発表5の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して、さらに全員で議論する。				
第12回： 口頭発表6の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				
第13回： 口頭発表6の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して、さらに全員で議論する。				
第14回： 口頭発表7の1・発表者の発表内容に関する妥当性を全員で議論する。				

第15回：口頭発表7の2・前回の議論をふまえて修正された発表内容に関して，さらに全員で議論する。	
定期試験： 定期試験は実施しない	
テキスト	授業時に資料を配付
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	期末レポート（50%）と口頭発表及び質疑応答の状況（50%）により総合的に評価する。

授業科目名： 日本言語文化II		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 祥平
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
近年，国立国語研究所の精力的な活動などにより，日本語研究で利用できるコーパス（書き言葉や話し言葉の資料に言語研究用の各種情報を付与したデータベース）が多数，公開されるようになった。そのような各種コーパスを適切に日本語研究に活用することができれば，日本語研究の初心者であっても，先行研究での指摘に見直しを迫る新知見や，従来看過されていた新事象や日本語の動態の一側面を発見することができる可能性を秘めている。と同時に，各種コーパスの特徴や言語資料としての性格を知悉していないと，見当違いの結論を導き出してしまいう危険性もはらんでいる。 以上のような点を踏まえ，本授業では，国立国語研究所が構築した各種コーパスを利用した日本語研究の基礎知識を理解したうえで，各種コーパスを利用した日本語研究の経験を積むことで，受講者自身がコーパスを利用した日本語研究を行える実践力を身に着けることを目指す。 ・各種コーパスを利用した日本語研究の基礎知識を理解する。 ・各種コーパスの特徴や言語資料としての性格を理解したうえで，それらを利用した日本語研究を実践することができる。				
授業の概要				
各種コーパスを利用した日本語研究の基礎知識を理解したうえで，それらを利用した日本語研究の経験を積み，受講者自身がそれらを利用した日本語研究を行える実践力を身に着けることを目標とする。				
授業計画				
第1回： 言語研究におけるコーパスの意義，可能性と限界について				
第2回： 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『NINJAL-LWP for BCCWJ』『NINJAL-LWP for TWC』について				
第3回： 『日本語話し言葉コーパス』『日本語日常会話コーパス 』について				
第4回： 『名大会話コーパス』『現日研・職場談話コーパス』について				
第5回： 『昭和・平成書き言葉コーパス 』『昭和話し言葉コーパス』について				
第6回： 『日本語諸方言コーパス 』『日本語歴史コーパス』について				
第7回： 『中国語・韓国語母語の日本語学習者縦断発話コーパス』『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』について				

第8回：テキスト第1章「この言葉、使っていますか？」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語に観察される変化に関する諸問題】

第9回：テキスト第2章「新たな言葉が定着していく」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語における新語に関する諸問題】

第10回：テキスト第3章「どこまで直す？ 「馬から落馬」的な言葉」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。

【現代日本語における重複表現に関する諸問題】

第11回：テキスト第4章「表記に迷う～あなたならどう書きますか？」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。

【現代日本語における表記に関する諸問題】

第12回：テキスト第5章「意味で書き分けてみましょう」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。

【現代日本語における漢字表記の動態に関する諸問題】

第13回：テキスト第6章「どう数えますか？」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。

【現代日本語における数量表現に関する諸問題】

第14回：テキスト第7章「コロナ下の言葉」に記載されている事項について、各種コーパスを使用し、使用実態を確認・調査・分析・考察を行う。

【現代日本語と社会情勢との関係に関する諸問題】

第15回：各種コーパスを利用した日本語研究の可能性と限界について考える。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 毎日新聞校閲センター『校閲記者も迷う日本語表現』（毎日新聞出版・978-4-620-32790-7・税込み1,760円）

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ・授業内での発表内容: 30%

・期末に提出するレポート: 40%

・授業への参加度・貢献度: 30%

・演習形式の授業も含むため、自らの発表を責任をもって行うことはもちろん、他の受講生の発表に対しても積極的に自分の見解を述べることが求められる。

授業科目名： 日本言語文化Ⅱ演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 祥平
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
近年、日本語研究で利用できるコーパス（書き言葉や話し言葉の資料に言語研究用の各種情報を付与したデータベース）が多数、公開されるようになった。そのような既存のコーパスを利用した日本語研究によって、先行研究での指摘に見直しを迫る新知見や、従来看過されていた新事象や日本語の動態の一側面が発見されている。しかし、コーパス化された日本語資料は、日本語の使用実態の（ごく）一部であり、したがって既存のコーパスを利用した日本語研究は日本語の一側面を切り取った結果に過ぎないという点にも留意する必要があると思われる。 以上のような点を踏まえ、本授業では、日本語研究用のコーパス化されていない電子化資料（以下、「電子化資料」と表記）を日本語研究に利用するための基礎知識を理解したうえで、各種電子化資料を利用した日本語研究の経験を積むことを目的とする。そして、受講者自身が各種電子資料を利用した日本語研究を行い、既存のコーパスを利用した日本語研究では掘り取ることができない日本語の動態の諸相を把握する技術を身に着けることを目指す。 ・各種データベースやインターネット上の文書（SNSを含む）を利用した日本語研究の基礎知識を理解する。 ・各種データベースやインターネット上の文書（SNSを含む）の特徴や言語資料としての性格を理解したうえで、それらを利用した日本語研究を実践することができる。				
授業の概要				
各種データベースやインターネット上の文書（SNSを含む）を利用した日本語研究の基礎知識を理解したうえで、それらを利用した日本語研究の経験を積み、受講者自身がそれらを利用した日本語研究を行える実践力を身に着けることを目標とする。				
授業計画				
第1回：日本語研究用のコーパス化されていない電子化資料（以下、「電子化資料」と表記）を日本語研究に利用する意義とその可能性				
第2回：国立国語研究所が開発した各種コーパスの使い方を確認する。（講義・演習形式）				
第3回：電子化資料を利用した日本語研究の基礎・その1ーインターネット（各種検索エンジン、「青空文庫」、「用例.jp」）の場合ー				
第4回：電子化資料を利用した日本語研究の基礎・その2ーインターネット（「新聞広告データアーカイブ」、「東京コピーライターズクラブ」の「コピー検索」、「阪急文化アーカイブ				

ズ」) の場合—

第5回：電子化資料を利用した日本語研究の基礎・その3—インターネット（各種質問サイトと各種歌詞検索サイト）や各種SNSの場合—

第6回：電子化資料を利用した日本語研究の基礎・その4—各種新聞社のデータベース・神戸大学附属図書館「新聞記事文庫」の場合—

第7回：電子化資料を利用した日本語研究の基礎・その5—国会会議録・地方議会会議録の場合—

第8回：電子化資料を利用した日本語研究の基礎・その6—「国立国会図書館デジタル化資料全文テキストデータ」の場合—

第9回：テキストChapter1「とまどう日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語に観察される変化に関する諸問題】

第10回：テキストChapter2「気になる日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語における規範意識に関する諸問題】

第11回：テキストChapter3「どうする日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語に観察される「ゆれ」に関する諸問題】

第12回：テキストChapter4「時をかける日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語の時間表現に関する諸問題】

第13回：テキストChapter5「気配りの日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語の待遇表現に関する諸問題】

第14回：テキストChapter6「迷える日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語の文法に関する諸問題】

第15回：テキストChapter7「食べる日本語」に記載されている事項について、これまでの授業内で紹介した電子化資料や各種コーパスを使用し、使用実態について確認・調査・分析・考察を行う。【現代日本語の食に関する表現の諸問題】

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 塩田雄大『変わる日本語、それでも変わらない日本語』（世界文化社・9784418232062・税込み1,870円）

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ・授業内での発表内容: 30%

- ・期末に提出するレポート: 40%
- ・授業への参加度・貢献度: 30%
- ・演習形式の授業も含むため、責任をもって自らの発表を行うことはもちろん、他の受講生の発表に対しても積極的に自分の見解を述べることが求められる。

授業科目名： 日本古代言語文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 磯貝 淳一
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
和化漢文は、日本語の書記様式の形成に大きな影響を与えた資料と位置づけられるが、読解の困難さや資料の多様性から解明すべき課題を多く残している。本科目は、以上のような背景から、和化漢文研究に関する系統的な理解の修得と、汎用スキルとして古代から中世にかけての書記テキストの読解・分析、および研究課題の発見ができることを目指す。和化漢文資料の言語的特徴の把握にもとづいて、日本語文章史における和化漢文の位置づけを説明することができる。書記テキストを対象とする日本語研究について、関連諸領域の論考を含めた先行研究を検討し、既存の方法論の問題点を発見することができる。				
授業の概要				
日本語史研究において重要な位置を占める和化漢文資料を対象として、表記・語彙・文法等の観点からみた言語的な特徴を論ずる。また、漢字伝来以降、日本語の書記様式が様々に展開していく中での和化漢文体と他の諸文体との交渉について、原資料の読解にもとづいて分析・考察を加える。				
授業計画				
第1回： ガイダンス 日本語の歴史と漢字文化				
第2回： 「法隆寺金堂薬師仏光背銘」と日本語書記の問題				
第3回： 『古事記』—口頭言語と書記言語の交渉				
第4回： 『古事記』—「訓漢字」の存在について				
第5回： 『日本霊異記』—諸本の比較と用字の変遷				
第6回： 『日本霊異記』—和化漢文体の霊驗記・仏教説話の文体範疇				
第7回： 「古記録」—諸文体との比較からみる記録体の特徴				
第8回： 「古記録」—記録体の展開				
第9回： 『三宝絵』前田本—漢字文・仮名文・片仮名文の相関				
第10回： 『大日本国法華経験記』—出典資料との比較にみる「和化」				
第11回： 『雲州往来』—文章規範としての古往来の文体				
第12回： 『東山往来』—書簡文体と注釈文体とを繋ぐ問答形式				
第13回： 『色葉字類抄』—採録語彙の特徴と記録体との相関				
第14回： 『平家物語』延慶本—読み本系・語り本系の言語の相違				
第15回： 授業のまとめ—日本語書記史における和化漢文体の位置づけについて				

定期試験： 定期試験は実施しない	
テキスト	秋本守英編『資料と解説 日本文章表現史』（和泉書院、ISBN：9784757603318、3,300円）
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	レポート70%、毎回の討議に関わる提出物30%

授業科目名： 日本古代言語文化 演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 磯貝 淳一
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
和化漢文は日本語史研究における重要な資料であるとともに、東アジア漢字文化圏の視座からの日本語研究を可能にする資料でもある。本科目は、以上のような背景から、和化漢文研究資料読解の方法修得と、汎用スキルとして学際的研究への展開能力を獲得することを目指す。平安時代後期から院政期にかけての日本語の実態を理解し、日本語の歴史的な変遷の中に位置づけて説明することができる。先行研究との関連の中で自らの問題意識を発見し、新たな研究課題を創出することができる。				
授業の概要				
日本漢文（和化漢文）資料である『東山往来』（高野山図書館蔵、応永11年写本）の資料読解・言語的特徴の把握を行う。本資料は平安時代後期に成立した古往来（消息文例集）の一つである。往復各状の読解を行いつつ、とくに日本および中国で成立した周辺諸資料を広く援用することで当該期の日本語の特色・研究上の問題点の発見を目指す。				
授業計画				
第1回： ガイダンス、授業方法の説明				
第2回： 日本語史研究資料としての『東山往来』について／資料作成とプレゼンテーションのくふうについて				
第3回： 平安時代後期・院政期の日本語について				
第4回： 担当者による発表・討議 1 （『東山往来』第1条往状の読解、研究）				
第5回： 担当者による発表・討議 2 （『東山往来』第1条復状の読解、研究）				
第6回： 担当者による発表・討議 3 （『東山往来』第2条往状の読解、研究）				
第7回： 担当者による発表・討議 4 （『東山往来』第2条復状の読解、研究）				
第8回： 担当者による発表・討議 5 （『東山往来』第3条往状の読解、研究）				
第9回： 担当者による発表・討議 6 （『東山往来』第3条復状の読解、研究）				
第10回： 担当者による発表・討議 7 （『東山往来』第4条往状の読解、研究）				
第11回： 担当者による発表・討議 8 （『東山往来』第4条復状の読解、研究）				
第12回： 担当者による発表・討議 9 （『東山往来』第5条往状の読解、研究）				
第13回： 担当者による発表・討議10（『東山往来』第5条復状の読解、研究）				
第14回： 担当者による発表・討議11（『東山往来』第6条往状の読解、研究）				
第15回： まとめ—『東山往来』の言語の特徴について				

定期試験： 定期試験は実施しない	
テキスト	授業時に資料を配付する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	レポート70%、毎回の討議に関わる提出物30%

授業科目名： 日本古典文芸文化 各論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 早苗 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
平安文学作品の代表とも言える『源氏物語』を考察することを通して、多岐にわたる古典文学研究の方法を学ぶ。具体的には訳に頼ることなく原文と向き合いつつ、担当範囲に関わって、どのような研究がなされてきたのか、先行研究を理解・整理するという基礎的な作業を経験する。多様な見解をどのように把握・整理したうえで、自らの見解をいかに提示するかという能力は、社会に出てからも求められるものであろう。 ①『源氏物語』を原文で読み進め、作品のもつ特色を説明できる。 ②『源氏物語』に関する先行研究の紹介をもとに、網羅的に整理し、諸説を比較しつつ自分の見解をまとめることができる。				
授業の概要				
平安時代の文学作品なかでも『源氏物語』を中心として、これまでどのような研究がなされてきたか、問題点はどこにあるかを概説したうえで、全体で議論することで理解を深める。教員による『源氏物語』の概論や先行研究の紹介を基軸としつつ、受講者全員に割り当てた担当範囲に基づき、各自、先行研究を踏まえたうえで問題提起をしてもらう。作品世界への理解と、古典文学研究の方法への理解を目指す授業である。				
授業計画				
第1回： ガイダンス				
第2回： 概説①（作品の構成、特徴）				
第3回： 概説②（作品研究のテーマ）				
第4回： 先行研究の精読と発表と共同討議①桐壺巻（前半）				
第5回： 先行研究の精読と発表と共同討議②桐壺巻（後半）				
第6回： 先行研究の精読と発表と共同討議③帚木巻（前半）				
第7回： 先行研究の精読と発表と共同討議④帚木巻（後半）				
第8回： 先行研究の精読と発表と共同討議⑤空蝉巻（前半）				
第9回： 先行研究の精読と発表と共同討議⑥空蝉巻（後半）				
第10回： 先行研究の精読と発表と共同討議⑦夕顔巻（前半）				
第11回： 先行研究の精読と発表と共同討議⑧夕顔巻（後半）				

第12回：先行研究の精読と発表と共同討議⑨若紫巻（前半）

第13回：先行研究の精読と発表と共同討議⑩若紫巻（後半）

第14回：先行研究の精読と発表と共同討議⑪末摘花巻

第15回：作品の特質と研究方法の課題について＋期末レポート

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト ガイダンスで指示する。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ①日本古典文学に関する基礎的な知識をもとに、原文に即して作品の特色を説明したうえで、先行研究をいかにまとめて問題を指摘するか、という発表の達成度（55%）、②自他の発表にかかわらず、古典文学の研究方法を意識したうえで積極的に意見を述べることができるか、議論における発言の内容（45%）から総合的に評価する。

授業科目名： 日本古典文芸文化 各論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 早苗
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
平安文学作品を代表する『源氏物語』を考察することを通して、古典文学研究の方法を実践的に学ぶ。具体的には訳に頼ることなく原文と向き合い、自分なりの問題点を獲得したうえで、研究史に自分の見解を位置づける。多様な見解をどのように理解・整理し、そこに自らの見解をいかに提示するかという能力は、社会に出てからも求められるものであろう。本科目では、自身の発表における論理的かつ丁寧な説明と他の受講者の発表における積極的な質問という二つの立場を経験することで、多岐にわたる研究方法への理解を深めるとともに、古典文学作品の特質を具体的に把握することを目指す。 ①『源氏物語』を原文で読み進め、作品のもつ特色を説明できる。 ②『源氏物語』に関する先行研究の紹介をもとに、網羅的に整理し、諸説を比較しつつ自分の見解をまとめることができる。			
授業の概要			
平安時代の代表的な文学作品である『源氏物語』をとりあげて、日本古典文学の研究方法を実践的に理解する。受講者全員に担当範囲を割り当てて、原文を読み進めるなかで発見した問題について、先行研究を整理し、自分の見解を研究史に位置づけることを目指す。そのうえで、作品の特質を説明できるようにする。			
授業計画			
第1回： ガイダンス			
第2回： 概説 作品成立の背景			
第3回： 概説 作品の特徴			
第4回： 発表と共同討議（若菜上巻 前半）			
第5回： 発表と共同討議（若菜上巻 後半）			
第6回： 発表と共同討議（若菜下巻 前半）			
第7回： 発表と共同討議（若菜下巻 後半）			
第8回： 発表と共同討議（柏木巻 前半）			
第9回： 発表と共同討議（柏木巻 後半）			
第10回： 発表と共同討議（横笛巻 前半）			
第11回： 発表と共同討議（横笛巻 後半）			
第12回： 発表と共同討議（鈴虫巻 前半）			

第13回：発表と共同討議（鈴虫巻 後半）

第14回：発表と共同討議（夕霧巻 前半）

第15回：作品の特質と研究方法についてのまとめ＋期末レポート

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 初回ガイダンスで指示する。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ①日本古典文学に関する基礎的な知識をもとに、原文に即して作品の特色を説明したうえで、先行研究をいかにまとめて問題を指摘するか、という発表の達成度（55%）、②自他の発表にかかわらず、古典文学の研究方法を意識したうえで積極的に意見を述べることができるか、議論における発言の内容（45%）から総合的に評価する。

授業科目名： 日本古典文芸文化 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 亮太
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
『平家物語』は日本中世文学の傑作のひとつでありながら、研究の現状は活況とはいえない。こうした問題に正面から向き合うことで、先行研究を広く、深く学び、新たな知見を追求するために必要な思考の模索・構築を体験することが、本授業のねらいである。古典文学作品（今回は屋代本『平家物語』の考察を通して、以下の項目を満たせるようになること。 ①当該作品の先行研究が到達している現在の知見について深く理解し、自身の言葉で説明できる。 ②当該作品の先行研究が到達している現在の知見に関心を持ち、受講者自身の問題意識を持ち、また他社の意見を尊重して建設的な議論に参加することができる。 ③受講者自身が抱いた問題を解決するために、自主的に調査・考察を加え、その内容を説明することができる。			
授業の概要			
屋代本『平家物語』を原文で読む。描かれていることの内容検討や他本との本文比較等の諸問題を通して、『平家物語』ひいては中世文学に対する理解を深める。本授業は基本的に講義を聴き、コメントシートを提出、期末にはレポートを作成する。また、途中には数回、受講生同士の議論を行い（全員発言すること）、授業に対する関心を高め、問題意識を共有・進展させる授業とする。			
授業計画			
第1回： ガイダンス			
第2回： 作品概説			
第3回： 諸本概説			
第4回： 屋代本『平家物語』の書誌学的考察1（冊子の体裁について）			
第5回： 屋代本『平家物語』の書誌学的考察2（屋代弘賢について）			
第6回： 屋代本『平家物語』の成立1（語り本系諸本の関係）			
第7回： 屋代本『平家物語』の成立2（読み本諸本の関係）			
第8回： 屋代本『平家物語』と琵琶語りとの関係			
第9回： 屋代本『平家物語』と中世唱導文芸との関係			
第10回： 屋代本『平家物語』の表記			
第11回： 屋代本『平家物語』の文体			

第12回：屋代本『平家物語』の本文

第13回：屋代本『平家物語』の独自記事

第14回：屋代本『平家物語』の叙述方法1（語り本系諸本との比較）

第15回：屋代本『平家物語』の叙述方法2（読み本系諸本との比較）

定期試験：レポートの提出

テキスト 角川源義氏編『屋代本 平家物語』（角川書店 1973年11月）。但し、本テキストは高価なので、基本的には配布プリントを用いる。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 コメントシート（40%）、期末レポート（60%）。

授業科目名： 日本古典文芸文化 特論演習		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 阿部 亮太	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項					
授業のテーマ及び到達目標							
古典文学の研究は、自分自身で古典文学を読み解くことが不可欠である。その上で、膨大な先行研究を整理・理解し、自身の読解を更新しなくてはならない。よって、本科目では古典の名作『平家物語』を題材に取り、学習者が古典文学研究を実践し、考察を深め、また古典文学読解および口頭発表に関する知識や方法を身につけることを目的とする。古典文学作品（今回は屋代本『平家物語』）の読解に必要な基本的方法を定着させる。具体的には、①言葉の典拠を追求する過程で、関連する史資料・工具書を使いこなせるようになる。②膨大な数の『平家物語』研究を整理し、中でも必要な文献に当たることができるようになる。③先行研究と自分自身の読解を比較して、双方の妥当性を検証する。④「①～③」の過程で得た知見を、他の受講者に分かりやすく説明する（資料作成・口頭発表の工夫・方法を体得する）。⑤率先して討論に加わり、発表内容に関わる問題点を明示する。							
授業の概要							
屋代本『平家物語』の原文を読みこむ。まずは原文の担当箇所を受講者で分担し、発表順を決める。受講者は分担箇所について、①正確な翻刻、②適切な注釈（施注すべき語句を見極め、適度な分量の説明を加え、場合によっては例証を加える）、③「②」に基づいた的確な現代語訳、を載せた発表資料を作成して当日発表する。発表しない受講者は、発表者の提示した内容について質疑を行う（古文を読む上で建設的な議論を心掛ける）。次の分担者も上記作業を担当し、受講者全員で物語を前から順に解釈してゆく。							
授業計画							
第1回： ガイダンス							
第2回： 作品概説							
第3回： 発表方法・調査方法の説明							
第4回： 学生発表1・発表に対する質疑（たとえば「屋代本における平重盛の人物造型」）							
第5回： 学生発表2・発表に対する質疑（たとえば「屋代本の白山事件の叙述方法」）							
第6回： 学生発表3・発表に対する質疑（たとえば「鹿ヶ谷陰謀と静憲の関与をめぐる」）							
第7回： 学生発表4・発表に対する質疑（たとえば「以仁王事件の再検討」）							
第8回： 学生発表5・発表に対する質疑（たとえば「源頼政一族に関する情報源の探求」）							
第9回： 学生発表6・発表に対する質疑（たとえば「南都焼討と平家滅亡の叙述の関連性」）							
第10回： 学生発表7・発表に対する質疑（たとえば「屋代本の平清盛と『法華経』提婆達多							

品」)

第11回：学生発表8・発表に対する質疑（たとえば「屋代本における平維盛話群の再検討」）

第12回：学生発表9・発表に対する質疑（たとえば「屋代本と建礼門院話群の位置づけ」）

第13回：学生発表10・発表に対する質疑（たとえば「屋代本に見る断絶平家型の意義」）

第14回：学生発表11・発表に対する質疑（たとえば「屋代本の来歴再考」）

第15回：学生発表12・発表に対する質疑（たとえば「屋代本の用字に関する一考察」）

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 角川源義氏編『屋代本 平家物語』（角川書店 1973年11月）

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 発表の完成度（70%）と討論への貢献度（30%）により評価する。

授業科目名： 日本文芸文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長沼 光彦
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
研究する以上、作品分析は、単なる感想ではなく、意図的な方法論の実践と、同時代の語彙や社会的背景などの調査が必要となる。近現代文学研究の分野では、方法論が明確に自覚され、国語教育の分野でも援用されている。この科目を受けることで、方法論を自覚して、作品分析について相互に意見交換ができる客観的な説明ができる能力を身につけることができる。 ・小説の材料やモチーフを調べるために、文化的文脈を調べる方法を理解し実践できる。 ・小説の表現を考察するために、語り手論、テクスト論などの理論を理解し、考察に生かすことができる。				
授業の概要				
日本文学のうち明治時代以降の日本近現代文学の研究方法を学ぶ授業である。学部で学ぶ種々の文学研究理論、テクスト論、語り論、文化研究、比較文学などを、実際の作品分析を通して実践する方法について考える。				
授業計画				
第1回： 日本近代文学研究の概要				
第2回：夏目漱石『それから』：第一章の読解				
第3回：夏目漱石『それから』：第二章の読解				
第4回：夏目漱石『それから』：第三章の読解				
第5回：夏目漱石『それから』：第四章の読解				
第6回：夏目漱石『それから』：第五章の読解				
第7回：夏目漱石『それから』：第六章の読解				
第8回：夏目漱石『それから』：第七章の読解				
第9回：夏目漱石『それから』：第八章の読解				
第10回：夏目漱石『それから』：第八、九章の読解				
第11回：夏目漱石『それから』：第十、十一章の読解				
第12回：夏目漱石『それから』：第十二、十三章の読解				
第13回：夏目漱石『それから』：第十四、十五章の読解				
第14回：夏目漱石『それから』：第十六、十七章の読解				
第15回：まとめ				
定期試験： レポート提出				

テキスト	受講者が使用する夏目漱石『それから』のテキストは、新潮文庫など、どれを用いてもよい。必要に応じて、大学図書館所蔵の『漱石全集第六巻 それから・門』（岩波書店、2002・9）を参照する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	担当になった際の発表40%、討議への参加度合い20%、期末のレポート40%

授業科目名： 日本文芸文化演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長沼 光彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文学作品の研究は、個人の意見にとどまらず、分野に共通する方法をふまえた見解を示す必要がある。くわえて、方法を理論として理解するだけでなく、実際に作品分析に応用する必要がある。日本近現代文学研究の分野では、方法論が明確に自覚することは学会で共有されており、語り論は、国語教育の分野にも援用されている。この演習で、方法論を実践することにより、具体的な事例に基づいた作品分析について説明でき、相互に意見交換ができる能力を身につけることができる。 ・小説の材料やモチーフを調べるために、文化的文脈を調べる方法を理解し、実際の作品分析に応用できる。 ・小説の表現を考察するために、語り手論、テキスト論などの理論を理解し、実際の作品分析に応用できる。			
授業の概要			
日本文学のうち明治時代以降の日本近現代文学の研究方法を学び実践する演習である。学部で学ぶ種々の文学研究理論、テキスト論、語り論、文化研究、比較文学などを、自ら作品分析を行うことで理解を深め、実践できる力を身につける演習である。			
授業計画			
第1回： 日本近代文学研究の概要			
第2回： 素材、モチーフの調査、文化的文脈の考え方			
第3回： 語り手論、小説の表現分析について			
第4回： 夏目漱石『夢十夜』：第一夜の分析事例			
第5回： 夏目漱石『夢十夜』：第一夜の読解			
第6回： 夏目漱石『夢十夜』：第二夜の読解			
第7回： 夏目漱石『夢十夜』：第三夜の読解			
第8回： 夏目漱石『夢十夜』：第四夜の読解			
第9回： 夏目漱石『夢十夜』：第五夜の読解			
第10回：夏目漱石『夢十夜』：第六夜の読解			
第11回：夏目漱石『夢十夜』：第七夜の読解			
第12回：夏目漱石『夢十夜』：第八夜の読解			
第13回：夏目漱石『夢十夜』：第九夜の読解			

第14回：夏目漱石『夢十夜』：第十夜の読解	
第15回：まとめ	
定期試験：レポート提出	
テキスト	受講者が使用する夏目漱石『夢十夜』のテキストは、新潮文庫など、どれを用いてもよい。必要に応じて、大学図書館所蔵の『漱石全集第十二巻 小品』（岩波書店、1994・12）を参照する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	担当になった際の発表40%、討議への参加度合い20%、期末のレポート40%

授業科目名： 日本書道文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡村 浩
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
書は特別なもので、実技上の学びしかないと捉えられがちだが、表現の背景、実技と表裏一体として理論研究がある。ここでは日本の伝統文化における書の位置付け、特性を大づかみに捉える。次に新潟県ゆかりの書文化を、「書画文芸」の広い視点で捉える。書文化をとりまく多彩な研究対象を理解する。				
授業の概要				
日本における書道文化の多様性についての学びを第一の目標とする。 日本では「書道」、中国では主に「書法」、韓国では「書芸」と一般に称する。漢字文化圏、東アジア圏における書に関わる文化は多彩である。本講義では名称に「書道」を用いつつも、「道」字をはずし、広く「書」に関わる「書文化」への興味関心を高める授業展開を予定する。古代から現代までの書文化を通覧し、基本的な知見を理解する。				
授業計画				
第1回：日本書文化史の通史				
第2回：新潟県の伝統書画文芸				
第3回：文人と専門家の比較				
第4回：学者と書				
第5回：書と画の関係				
第6回：書は人なり・個性の表れた書				
第7回：良寛の人と書				
第8回：會津八一の人と書				
第9回：芭蕉等の来越文人				
第10回：漢詩と和歌と書				
第11回：上中下越の地方文人				
第12回：割烹と文人				
第13回：萬代橋と文人				
第14回：手紙に読む文人の日常				
第15回：書にみる時代性				
定期試験：評価のための課題を行う。				
テキスト『先人書画文芸探訪、あの日あの時』越佐文人研究会 2023（2,000円）				

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業参加状況（30％）とレポートの内容（70％）により総合的に評価する。

授業科目名： 日本書道文化演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡村 浩
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
書は特別なもので、実技上の学びしかないと捉えられがちだが、表現の背景、実技と表裏一体として理論研究がある。ここでは日本の伝統文化における書の位置付け、特性を大づかみに捉える。次に新潟県ゆかりの書文化を、「書画文芸」の広い視点で捉える。学修の成果につき、各自が設定したテーマに基いて時間中に研究発表を行う。書文化をとりまく多彩な研究対象を理解した上で、個別に設けたテーマで研究発表を重ねていく。				
授業の概要				
日本と中国の書文化を比較したり、芸術表現としての書、くらしの中に生きる書、地域と強く関わりのある書等を取り上げ、広く書文化に関わる知見を豊かにする。受講者は一年次に「日本書道文化」により、一定水準の学修は行っている。本講義では、講義で学んだ内容を主体的に活かすことをねらいとして、受講生自身に各自興味関心のある、書と接点を持つテーマを設定してもらい、定期的にレジュメを作成して研究発表を行う。参加者はその発表に対して積極的に感想を述べ合い、発表内容をより充実したものに磨き仕上げていく。				
授業計画				
第1回：日本史と書文化史				
第2回：近世の新潟書画文芸				
第3回：近代の新潟書画文芸				
第4回：文人の定義				
第5回：上越の書画文芸				
第6回：中越の書画文芸				
第7回：下越の書画文芸				
第8回：良寛の分析				
第9回：會津八一の分析				
第10回：俳句・和歌・工芸と書				
第11回：学問・僧・学者と書				
第12回：医家・政治家と書				
第13回：生活の中の書				
第14回：受講者のふるさとの書				
第15回：書の時代性				

定期試験： 評価のための課題を行う。	
テキスト	『先人書画文芸探訪、あの日あの時』越佐文人研究会 2023 (2,000円)
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業参加状況 (30%) と発表・レポートの内容 (70%) により総合的に評価する。

授業科目名： 中国言語文化Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 干野 真一
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
言語学および中国語文法等に関する論考（中国語および日本語で書かれたもの）を精読し、中国語で書かれたものについては、正確な翻訳を目指す。術語の使い方や、論述の展開にも意識を向けながら読み進める。必要に応じて、言語学辞典や文学作品についても抜粋し、日中における用語の使い方も含めて考察する。文構造を理解したうえで、曖昧さを排除してテキスト解釈を進める。中国語文法についての理解を通じて、文法に関する記述を過不足なく正確に読み解く力を養う。文法項目の意味や文法機能についての知識を深める。論文の構造や執筆順について理解する。また、参考資料を通じて、語学論文における論述の進め方等、構造について理解する。				
授業の概要				
本科目では、言語学および現代中国語文法、日中対照研究についてまとめられた書籍（中国語および日本語で書かれたもの）や論文を精読する。学生による発表（翻訳）と教員による解説により進める。中国語学分野における論文の体裁について確認する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス。資料配布。講義の進め方について。翻訳担当者の確認。				
第2回：論文①（動詞述語文に関する論文）の精読（1）内容についての理解				
第3回：論文①の精読（2）論文構造についてのディスカッション				
第4回：論文②（形容詞述語文に関する論文）の精読（1）内容理解				
第5回：論文②の精読（2）論文構造についてのディスカッション				
第6回：論文③（名詞述語文に関する論文）の精読（1）内容についての理解				
第7回：論文③の精読（2）論文構造についてのディスカッション				
第8回：論文④（二重目的語文に関する論文）の精読（1）内容理解				
第9回：論文④の精読（2）論文構造についてのディスカッション				
第10回：論文⑤（処置文に関する論文）の精読（1）内容についての理解				
第11回：論文⑤の精読（2）論文構造についてのディスカッション				
第12回：論文⑥（受け身文に関する論文）の精読（1）内容理解				
第13回：論文⑥の精読（2）論文構造についてのディスカッション				
第14回：論文⑦（使役文に関する論文）の精読（1）内容についての理解				
第15回：論文⑦の精読（2）論文構造についてのディスカッション				

定期試験： 定期試験は行わない。	
テキスト	テキストについては、授業初回で紹介する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の発表（読解・質問・問題提起など） 60%、まとめレポート40%

授業科目名： 中国言語文化I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 干野 真一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
言語学および中国語文法に関する論考（中国語および日本語で書かれたもの）を精読し、中国語で書かれたものについては、正確な翻訳を目指す。術語の使い方や、論述の展開にも意識を向けながら読み進める。必要に応じて、言語学辞典や文学作品についても考察する。文構造を理解したうえで、曖昧さを回避してテキスト解釈を進める。			
到達目標は以下のとおり。			
1. 指定された論文を適切にまとめる。			
2. 中国語文法についての理解を通じて、文法に関する記述を過不足なく正確に読み解く力を養う。			
3. 文法項目の意味や文法機能についての知識を深める。			
4. 参考資料を通じて、語学論文における論述の進め方等、構造について理解する。			
5. 論文の要旨を掴み、過不足なくまとめることができる。自分の考えを適切にコメントできる。			
授業の概要			
本科目では、言語学や現代中国語文法および日中対照言語学についてまとめられた書籍（中国語および日本語で書かれたもの）と論文を精読する。学生による発表（翻訳）と教員による解説により進める。中国語学分野における論文の体裁について確認する。			
また学生による発表を課し、レジュメの作り方、分かりやすい説明の方法についても考察する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス。資料配布。講義の進め方について。翻訳担当者の確認。			
第2回：論文①（前置詞の多義性に関する論文）の精読（1）内容についての理解			
第3回：論文①の精読（2）論文構造についてのディスカッション			
第4回：論文②（数量詞に関する論文）の精読（1）内容理解			
第5回：論文②の精読（2）論文構造についてのディスカッション			
第6回：論文③（比較文に関する論文）の精読（1）内容についての理解			
第7回：論文③の精読（2）論文構造についてのディスカッション			
第8回：論文④（存現文に関する論文）の精読（1）内容理解			
第9回：論文④の精読（2）論文構造についてのディスカッション			

第10回：論文⑤（結果補語表現に関する論文）の精読（1）内容についての理解	
第11回：論文⑤の精読（2）論文構造についてのディスカッション	
第12回：論文⑥（連動文に関する論文）の精読（1）内容理解	
第13回：論文⑥の精読（2）論文構造についてのディスカッション	
第14回：論文⑦（進行アспектに関する論文）の精読（1）内容についての理解	
第15回：論文⑦の精読（2）論文構造についてのディスカッション	
定期試験：定期試験は行わない。	
テキスト	テキストについては、授業初回で紹介する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の発表（読解・質問・問題提起など）60%、まとめレポート40%

授業科目名： 中国古典文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角谷 聡
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
中国文学史上の重要な発展期に位置づく唐代の小説について、語彙や内容上の特徴を把握すると同時に、漢文を正しく書き下し、更に日本語に訳出する能力や、的確な用例探索の技術を身につける。白文（訓点の附されていない漢文）を正しく書き下し、また現代日本語に訳出することができる。辞書や索引本、電子検索等を活用して適切な用例を探し出すことができる。中国文学史の流れの中で、唐代の小説が有する特徴を理解し、説明することができることを到達目標とする。				
授業の概要				
毎回、唐代の伝奇小説一篇を精読する。書き下し文、現代日本語訳及び語注、用例等を載せた資料をもとに、受講者全員で意見を出し合うことにより内容理解を深める。また、必要に応じて同時代の類似する逸話を紹介し、比較検討を行う。				
授業計画				
第1回： 第1週：牛僧孺と『玄怪録』、並びに唐代伝奇に関する概説				
第2回： 第2週：巻1「杜子春」の書き下しと日本語訳				
第3回： 第3週：巻1「杜子春」の用例と類話				
第4回： 第4週：巻1「張老」の書き下しと日本語訳				
第5回： 第5週：巻1「張老」の用例と類話				
第6回： 第6週：巻1「裴謚」の書き下しと日本語訳				
第7回： 第7週：巻2「裴謚」の用例と類話				
第8回： 第8週：巻2「韋氏」の書き下しと日本語訳				
第9回： 第9週：巻2「韋氏」の用例と類話				
第10回： 第10週：巻2「郭代公」の書き下しと日本語訳				
第11回： 第11週：巻2「郭代公」の用例と類話				
第12回： 第12週：巻3「尼妙寂」の書き下しと日本語訳				
第13回： 第13週：巻3「尼妙寂」の用例と類話				
第14回： 第14週：巻3「党氏女」の書き下しと日本語訳				
第15回： 第15週：巻3「党氏女」の用例と類話				
定期試験：筆記試験を実施				
テキスト 牛僧孺『玄怪録』（第1週の授業時にコピーを配布する）				

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	平常点（質問・発言） 15%
期末試験（筆記試験）	85%

授業科目名： 中国古典文化演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角谷 聡
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
唐代伝奇小説、さらには明清白話小説につながる源流と位置づく六朝期の志怪小説・志人小説について、文体や語彙、並びに物語展開の特徴を把握すると同時に、正確な漢文訓読文を作成し、更に現代日本語に訳出する能力や、的確な当該漢字の使用例を探し当てる技術について身につける。古代漢語で書かれた散文を正確な漢文訓読文に置き換え、また適切な現代日本語に訳出することができる。『大漢和辞典』・『漢語大詞典』や各種逐次索引、ならびにインターネット上の検索等を活用して、的確な当該漢字の使用例を探し出すことができる。中国古典小説の歴史において、六朝期に成立した志怪小説・志人小説が有する特徴を理解し、説明することができる。				
授業の概要				
毎回、演習発表者を決めて六朝期に成立した志怪小説・志人小説の読解を進める。担当者は漢文訓読文、現代日本語訳及び語釈、当該漢字の使用例等を含む資料を準備した上で発表し、その後受講者間での質疑応答を経て、作品理解を深める。また、必要に応じて六朝期の古小説等から類話を探し出して紹介することを通じ、物語成立の過程を検討する。				
授業計画				
第1回： 第1週：唐代の伝奇小説に関する概説				
第2回： 第2週：第152話「宋岱爲青州刺史、～」の書き下しと日本語訳				
第3回： 第3週：第152話「宋岱爲青州刺史、～」の用例と類話				
第4回： 第4週：第153話「孫興公常著戯頭、～」の書き下しと日本語訳				
第5回： 第5週：第153話「孫興公常著戯頭、～」の用例と類話				
第6回： 第6週：第154話「昔傅亮北征、～」の書き下しと日本語訳				
第7回： 第7週：第154話「昔傅亮北征、～」の用例と類話				
第8回： 第8週：第155話「齊宜都王鏗、」の書き下しと日本語訳				
第9回： 第9週：第155話「齊宜都王鏗、」の用例と類話				
第10回： 第10週：第156話「鄭餘慶處分廚家、～」の書き下しと日本語訳				
第11回： 第11週：第156話「鄭餘慶處分廚家、～」の用例と類話				
第12回： 第12週：第157話「學者當取三多、～」の書き下しと日本語訳				
第13回： 第13週：第157話「學者當取三多、～」の用例と類話				
第14回： 第14週：周楞伽集第42話「宰我謂、～」の書き下しと日本語訳				

第15回：第15週：周楞伽集第42話「宰我謂、～」の用例と類話	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	『余嘉錫論学雑著』所収「殷芸小説輯証」（第1週の授業時にコピーを配布する） なお、参考資料として魯迅輯『古小説鉤沈』を使用する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	平常点（質問・発言） 30%
演習点（資料作成及び口頭発表）	70%

授業科目名： 中国文芸文化Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土屋 太祐
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
『大方広佛華嚴經疏』の内容にもとづき、中国仏教の教理とその歴史的展開について一定の理解を得ることを目指す。また同時に、仏典に現れる語法的問題の概要を理解する。中国仏教の文献を思想史的な視野のものとで読解できるようになる。 中国古典文献の研究手法の概要を理解できるようになる。				
授業の概要				
澄観『大方広佛華嚴經疏』玄談のうち「二藏教所撰」第四立四教以下を会読する。ただし、会読テキストは参加者の論文執筆状況等に応じて最終的に決定する。参加者のうち一名があらかじめ資料を作成し、これに基づいて全員が議論に参加する形で会読を進める。とくに語学的な問題、思想的な問題、歴史的な問題を明らかにすることを目指す。				
授業計画				
第1回： 第1回：ガイダンス、資料説明				
第2回： 本文会読、およそ大正蔵本509頁中段～下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。				
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。				
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。				
第3回： 本文会読、およそ大正蔵本509頁下段～510頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。				
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。				
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。				
第4回： 本文会読、およそ大正蔵本510頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。				
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。				
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。				
第5回： 本文会読、およそ大正蔵本510頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。				
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。				
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。				
第6回： 本文会読、およそ大正蔵本511頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもと				

に討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第7回：本文会読、およそ大正蔵本511頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第8回：本文会読、およそ大正蔵本511頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第9回：本文会読、およそ大正蔵本512頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第10回：本文会読、およそ大正蔵本512頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第11回：本文会読、およそ大正蔵本512頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第12回：本文会読、およそ大正蔵本513頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第13回：本文会読、およそ大正蔵本513頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第14回：本文会読、およそ大正蔵本513頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第15回：本文会読、「二蔵教所撰」の最後まで読み切り、全体の振り返りを行う。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 澄観『大方広佛華嚴經疏』、大正蔵本。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 授業当日提出された訳注稿80%

教室における議論への参加態度と発言内容20%

授業科目名： 中国文芸文化Ⅱ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土屋 太祐
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
『大方広佛華嚴經疏』の内容にもとづき、中国仏教の教理とその歴史的展開について一定の理解を得ることを目指す。また同時に、仏典に現れる語法的問題の概要を理解する。中国仏教の文献を思想史的な視野のものとで読解できるようになる。 中国古典文献の研究手法の概要を理解できるようになる。			
授業の概要			
予定通りであれば、前学期に引き続き澄観『大方広佛華嚴經疏』を会読する。玄談のうち「三義理分齊」、「四教所被機」を読む。ただし、会読テキストは参加者の論文執筆状況等に応じて最終的に決定する。参加者のうち一名があらかじめ資料を作成し、これに基づいて全員が議論に参加する形で会読を進める。とくに語学的な問題、思想的な問題、歴史的な問題を明らかにすることを目指す。			
授業計画			
第1回： ガイダンス、資料説明			
第2回： 本文会読、およそ大正蔵本5 1 4 頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。			
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。			
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。			
第3回： 本文会読、およそ大正蔵本5 1 4 頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。			
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。			
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。			
第4回： 本文会読、およそ大正蔵本5 1 4 頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。			
本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。			
その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。			
第5回： 本文会読、およそ大正蔵本5 1 5 頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもと			

に討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第6回：本文会読、およそ大正蔵本515頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第7回：本文会読、およそ大正蔵本515頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第8回：本文会読、およそ大正蔵本516頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第9回：本文会読、およそ大正蔵本516頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第10回：本文会読、およそ大正蔵本516頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第11回：本文会読、およそ大正蔵本517頁上段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要な場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第12回：本文会読、およそ大正蔵本517頁中段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに

討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第13回：本文会読、およそ大正蔵本517頁下段を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第14回：本文会読、「四教所被機」前半を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

第15回：本文会読、「四教所被機」後半を読む。当日は受講者の作成した資料をもとに討論を進める。

本文の理解に必要がある場合は適宜、思想史的背景について講義する。

その際、配布資料の注釈作成を求めることがある。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 澄観『大方広佛華嚴經疏』、大正蔵本。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 当日提出された訳注稿80%

教室における議論への参加態度と発言内容20%

授業科目名： 中国書道文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角田 勝久
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
書の特質を、日本のみならず中国朝鮮、東アジアの書跡を通して広い視点から検討し、特質を探る。日本の書跡の源流が中国や韓国にあることを鑑み、それらがどのように日本に伝わって日本で広まったのか、具体的に検討する。日本と中国を中心としながら東アジアの書跡、あるいは特定の書や書人を検討対象とし、それらの特質を実証的に分析できるようにする。論文として客観的な分析結果を示し、それが書の分野のみならず、他の分野の研究者が読んでも理解できる内容に仕上げることを目標とする。				
授業の概要				
東アジア特に、日本をはじめとする中国や韓国の書跡に注目し、その特質について検討する。また新潟が生んだ名筆家である、會津八一や良寛などにも着目し、書の持つ多様な美の本質を分析する。				
授業計画				
第1回： 本授業の概要説明。				
第2回： 日本の書の歴史				
第3回： 近現代の日本の書				
第4回： 古代中国の書				
第5回： 唐宋時代の中国の書				
第6回： 中国清朝の書				
第7回： 中国近代の書				
第8回： 日中の篆刻				
第9回： 日本の文人画				
第10回： 中国の文人画				
第11回： 良寛の書				
第12回： 會津八一の書				
第13回： 韓国の書跡				
第14回： 韓国の石刻				
第15回： 東アジアの書全体の総括＋期末レポート				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 『東アジアにおける「書の美学」その伝統と変容』（神林恒道、萱のり子、角田勝久編				

、三元社、2016)	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	レポート課題30%、研究対象に関する論文70%。

授業科目名： 中国書道文化演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角田 勝久
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
書の特質を、東アジアの書跡を通して広い視点から検討し、特質を探る。日本の書跡の源流が中国や韓国にあることを鑑み、それらがどのように日本に伝わって日本で広まったのか、具体的に検討する。その検討方法が実証的方法論によってなされているか、見極める視点を養う。東アジアの書跡、あるいは特定の書や書人を検討対象とし、それらの特質を実証的に分析できるようにする。実証的に集めたデータを活用して、これまで言われてこなかった独自の見解を論文としてまとめる。その場合に論文として客観的な分析結果を示し、それが書の分野のみならず、他の分野の研究者が読んでも理解できる内容に仕上げることを目標とする。				
授業の概要				
日本をはじめとする中国や韓国の書跡に注目し、その特質について検討する。また新潟が生んだ名筆家である、會津八一や良寛などにも着目し、書の持つ多様な美の本質を分析する。さらにその分析結果が実証的か再検討し、論文の作成につなげてゆく。				
授業計画				
第1回： 本授業の概要説明				
第2回： 日本の書の特質				
第3回： 近現代の日本の書の特質				
第4回： 古代中国の書の特質				
第5回： 唐宋時代の中国の書の特質				
第6回： 中国清朝の書の特質				
第7回： 中国近代の書の特質				
第8回： 日中の篆刻の特質				
第9回： 日本の文人画の特質				
第10回： 中国の文人画の特質				
第11回： 良寛の書の特質				
第12回： 會津八一の書の特質				
第13回： 韓国の書跡の特質				
第14回： 韓国の石刻の特質				
第15回： 東アジアの書の特質についての総括＋期末レポート				
定期試験： 定期試験は実施しない				

テキスト	『東アジアにおける「書の美学」その伝統と変容』（神林恒道、萱のり子、角田勝久編、三元社、2016）
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	検討対象に関するレポート50%、課題の論文50%によって判断する。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-A（日本語文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯貝淳一、長沼光彦、三ツ井正孝、岡田祥平、高橋早苗
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、日本文学や日本語学などの日本語文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。導入的な課題研究Ⅰのあと、専攻分野が確定した1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを進め、翌年度のはじめに予定されている研究中間報告の準備を行なう。そして以上の過程を通して、日本語文化の領域に関する研究能力を養成し、中学校及び高等学校国語に関する専門知識の基盤を構築すると共に、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、国語に関わる探究の方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、研究を進める上で必要な資質・能力を練磨すると共に日本文学や日本語学などの日本語文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：日本文学や日本語学など日本語文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：日本語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の調査			
第3回：日本語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の読解・分析			
第4回：日本語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究整理レポート作成			
第5回：日本語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の計画			
第6回：日本語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の実施			
第7回：日本語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査報告資料作成			
第8回：先行研究整理レポート・資料調査報告資料に基づく日本語文化の領域に関する教員との討議			
第9回：日本語文化の領域に関する教員との討議をふまえた中間報告までの検討課題設定			
第10回：検討課題に基づく先行研究の補足調査・整理			
第11回：検討課題に基づく補足資料調査の計画・実施			
第12回：中間報告に向けた先行研究整理に関する準備資料の作成			

第13回：中間報告に向けた資料調査に基づく報告準備資料の作成

第14回：本科目で学んだ日本言語文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本授業で学んだ日本言語文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-A（日本語文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯貝淳一、長沼光彦、三ツ井正孝、岡田祥平、高橋早苗
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、日本文学や日本語学などの日本語文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱの成果をまとめ、日本語文化領域の教員が複数参加する中間報告会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性を確認する。また発表での討議をふまえ、研究を進めていく上で必要な資質・能力・方法や日本語文化に関わる知識を再確認しその向上をはかることで、中学校及び高等学校国語に関する専門知識の基盤を強化するとともに、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、国語に関わる探究の方法に習熟することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、研究を進める上で必要な資質・能力を練磨すると共に日本文学や日本語学などの日本語文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：日本文学や日本語学など日本語文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：日本語文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査			
第3回：日本語文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査結果の整理			
第4回：日本語文化の領域に関する中間報告資料の完成に向けた作成方法の学習			
第5回：日本語文化の領域に関する中間報告と討議			
第6回：日本語文化の領域に関する中間報告における討議の振り返りと論点の確認			
第7回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の調査			
第8回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の整理分析			
第9回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究整理レポート作成			
第10回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の準備			
第11回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の実施			
第12回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査結果レポート作成			
第13回：日本語文化の領域に関する中間報告での論点への対応を通した検討課題の抽出			

第14回：本科目で学んだ日本語文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本科目で学んだ日本語文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

各指導教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-A（日本語文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯貝淳一、長沼光彦、三ツ井正孝、岡田祥平、高橋早苗
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本文学や日本語学などの日本語文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲの中間報告を通して改めて確認した研究を進める上で必要な資質・能力・方法を意識的に運用し、研究成果をまとめ、発表する。発表では2年間の課題研究をふまえ、学際的な「総合知」の視点から自らが獲得した研究の資質・能力・方法の到達を確認すると共に、具体的な題材に即して蓄積した日本語文化の領域に関する知見を整理する。また本科目を通して講義科目では涵養しづらい「主体的・対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、その成果を中学校及び高等学校国語の教育分野をはじめ、社会において幅広く運用する実践的方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、研究を進める上で必要な資質・能力を練磨すると共に日本文学や日本語学などの日本語文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：日本文学や日本語学など日本語文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究補足調査			
第3回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究整理			
第4回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の準備			
第5回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の実施			
第6回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の整理			
第7回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足調査結果の総合的検討			
第8回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の考え方の検討			
第9回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の原案作成と検討			
第10回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめ方（1）―研究目的と方法について―			
第11回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめ方（2）―研究の内容について―			
第12回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめ方（3）―研究の結論について―			
第13回：日本語文化の領域に関する研究成果のまとめ（4）―研究の学術的な意義と課題に			

ついてー

第14回：日本言語文化の領域に関する研究成果の最終発表と討議

第15回：本科目で獲得した日本言語文化の領域に関する研究方法・知見の全体的なまとめ
定期試験なし

テキスト

各担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 映像文化I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石田 美紀
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
①1990年代以降の映像文化を成立させる技術と表象、そして経済の問題を考える座標を形成すること。②ハリウッドを中心とした各国・各地域の映画におけるジェンダーとセクシュアリティ表象の力学に関する知識と諸理論を獲得すること。③視聴覚表現である映像を、言語での確に記述できるようになること。1990年代以降の映像文化を成立させる技術と表象、そして経済の問題を考える座標を形成し、各国・各地域の映画におけるジェンダーとセクシュアリティ表象の力学についての知識を獲得するとともに、視聴覚表現である映像を、言語での確に記述できるようになること。			
授業の概要			
現行の映像文化を考察する上で無視できないジェンダーとセクシュアリティに関する文献（英語および日本語）を講読し、参加者との討議を通して、現代における映像文化の問題点を理解する。			
授業計画			
第1回： 各自の研究計画の紹介を中心とした自己紹介 履修者の関心に応じて講読するテキストを選定する。			
第2回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第3回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第4回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第5回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第6回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第7回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第8回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第9回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第10回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第11回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第12回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第13回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			
第14回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			

第15回：テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 菅野優香『クリア・シネマ 世界と時間に別の仕方存在するために』フィルムアート社

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 講読および、議論への参加を中心に授業への参加姿勢を日常点とします。配点の内訳は 講義中の議論への参加度及び発言:60% 期末レポート:40%

授業科目名： 映像文化I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石田 美紀
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 映像文化を成立させる技術と表象、そして経済の問題を考える座標し、ハリウッドを中心とした各国・各地域の映画史の流れを理解すること。物語映画を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 と、物語映画における人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティの表象を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件を理解したうえで、視聴覚表現である映像とその受容経験について、言語での確に記述できるようになること。			
授業の概要 1990年代後半から2020年代にかけて、新しい技術と情報環境の整備により、従来の表象がどのように変化していったかを理解する。それと同時に、以下の項目についての知識を習得する。 ・物語映画を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ・物語映画における人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティの表象を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件			
授業計画 第1回： 各自の研究計画の紹介を中心とした自己紹介 履修者の関心に応じて講読するテキストを選定する。 第2回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第3回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第4回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第5回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第6回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第7回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第8回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第9回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第10回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第11回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第12回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。 第13回： テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。			

第14回：テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。

第15回：テキストの輪読と、各自がそこから発見したテーマ、問題について議論を行う。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 藤井仁子編『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院、2008年

ジェイムズ・モナコ『映画の教科書』フィルムアート社、1988年

D. ボードウェル、K. トンプソン『フィルム・アートー映画芸術入門』2007年

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 講読および、議論への参加を中心に授業への参加姿勢を日常点とします。配点の内訳は 講義中の議論への参加度及び発言60%、期末レポート40%

授業科目名： 表象文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 番場 俊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
「表象」は、狭義の文学・芸術にとどまらず、メディアやジェンダーといった現代の社会・文化的問題にもかかわると同時に、古典的な哲学や神学における論争の焦点にもなってきた概念である。この講義では、表象文化論の中心的争点の一つである「身体」について、「アーカイヴ」という社会・文化的制度のとのかわりに着目し、「顔」や「声」という問題にアプローチするための方法を考える。 (1)「表象」という基本的概念の多義性とそれが孕む問題点を理解し、使うことができる。 (2)アートとメディアにおける「身体」（顔、声）の問題へのアプローチについて、自分なりの手がかりをもつことができる。 (3)映像と身体のアーカイヴ化という歴史的・理論的問題について、基礎的な事項を理解する。			
授業の概要			
表象文化論の中心的争点の一つである「身体」（顔、声）について、「アーカイヴ」という社会・文化的制度のとのかわりを焦点として検討する。			
授業計画			
第1回： イントロダクション：身体からアーカイヴへ			
第2回： 漱石「第一夜」の読解			
第3回： バルト「ロマン派の歌」の検討			
第4回： バルト「声のきめ」の検討			
第5回： まとめと討議I			
第6回： ベンヤミン「写真小史」(1)：「視覚的無意識」の概念			
第7回： ベンヤミン「写真小史」(2)：「アウラ」と写真			
第8回： クラウス「写真の言説的空間」			
第9回： まとめと討議II			
第10回： Allan Sekula, "The Body and the Archive" (1)：犯罪者の身体にカメラを向ける試み			
第11回： Allan Sekula, "The Body and the Archive" (2)：アーカイヴと統計			
第12回： Allan Sekula, "The Body and the Archive" (3)：アルフォンス・ベルティヨン			
第13回： Allan Sekula, "The Body and the Archive" (4)：フランシス・ゴールトン			

第14回：Allan Sekula, "The Body and the Archive" (5)：ウォーカー・エヴァンスとアーカイヴ

第15回：まとめと討議III

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト ロラン・バルト『第三の意味——映像と演劇と音楽と』沢崎浩平訳、みすず書房、1998年

ヴァルター・ベンヤミン『図説 写真小史』ちくま学芸文庫、1998年

ロザリンド・E・クラウス『アヴァンギャルドのオリジナリティ——モダニズムの神話』谷川渥・小西信之訳、月曜社、2021年

Allan Sekula, "The Body and the Archive," October 39, Winter 1986

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 期末試験はおこなわず、発表（回数は参加人数による）（50%）、積極的な発言による毎回の演習への貢献（50%）によって評価する。

授業科目名： 表象文化演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 番場 俊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
「表象」は、狭義の文学・芸術にとどまらず、メディアやジェンダーといった現代の社会・文化的問題にもかかわると同時に、古典的な哲学や神学における論争の焦点にもなってきた概念である。この講義では、この基本的概念について、「モダニズム」や「ポストモダニズム」に関する基本的な文献を読みながら検討する。 (1)「表象」という基本的概念の多義性とそれが孕む問題点を理解し、使うことができる。 (2)「イメージ」の問題が孕む神学的次元を理解し、現代の映像理解に役立てることができる。 (3)「モダニズム」と「ポストモダニズム」（ポストモダン）という概念を理解し、自らの探究に役立てることができる。			
授業の概要			
表象文化論の基礎概念（表象、モダニズム、ポストモダニズム）について、基本的な文献を読みながら検討する。			
授業計画			
第1回： イントロダクション			
第2回： 「表象」という基本概念(1)：英語 representation の多義性に注目しつつ、「代表」「代行」としての「表象」概念を検討する			
第3回： 「表象」という基本概念(2)：ジェンダー研究のジュディス・バトラーの議論を参照しつつ、「表象」と「ジェンダー」の関係について検討する			
第4回： 「表象」という基本概念(3)：ドイツ語 Vorstellung をめぐって展開された哲学者ハイデガーの議論を検討する。			
第5回： 「表象」という基本概念(4)：「表象」概念をめぐる重大な歴史的イベントであった聖像破壊論争（8～9世紀）を検討する。			
第6回： まとめと討議I：「表象」概念をめぐるこれまでの講義のまとめと討議			
第7回： モダニズムの再検討(1)：「表象」という概念に対する批判としてのモダニズム（近代絵画）について、アメリカの美術批評家グリーンバーグの古典的な論文を検討する			
第8回： モダニズムの再検討(2)：モダニズムと大衆文化の関係について検討する。			
第9回： モダニズムの再検討(3)：モダニズムと否定神学の関係について、画家マレーヴィチの理論的テキストを読みながら検討する。			

第10回：モダニズムの再検討(4)：ひきつづきマレーヴィチのテキストを精読し、モダニズムと社会制度の関係について検討する。

第11回：まとめと討議Ⅱ：モダニズムについてこれまでの講義のまとめと討議

第12回：ポストモダンの再検討(1)：デュシャン、ウォーホル以降の「アート」概念の問い直しについて、検討する。

第13回：ポストモダンの再検討(2)：ひきつづき、近代における「アート」概念の揺らぎについて検討する。

第14回：ポストモダンの再検討(3)：ポストモダンの現状に関する分析哲学の見解を検討する。

第15回：まとめと討議Ⅲ：ポストモダンにおける「アート」概念の揺らぎについてまとめ、討議する。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 西村清和『現代アートの哲学』産業図書、1995年

クレメント・グリーンバーグ『グリーンバーグ批評選集』藤枝晃雄編訳、勁草書房、2005年

Patricia Railing, ed., Malevich Writes: A Theory of Creativity: Cubism to Suprematism, Artist • Bookworks, 2014

ほか

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 期末試験はおこなわず、発表（回数は参加人数による）（50%）、積極的な発言による毎回の演習への貢献（50%）によって評価する。

授業科目名： ジェンダー論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉原 名穂子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現代社会では女性と男性をめぐるさまざまな問題がある。その議論を検討し、ジェンダーの視点から今を生きる人と人間関係について考えるのが授業の目的である。ジェンダーとは何か理解する。 ジェンダーの観点から社会的紐帯について考察できる。 現代社会が抱える問題を社会学的に論じることができる。			
授業の概要 ジェンダーの社会学1。現代社会のさまざまな領域の問題について、ジェンダーの視点から検討する。			
授業計画 第1回：授業の進め方とジェンダーについて 第2回：フェミニズムとジェンダー 第3回：ジェンダーと社会化 第4回：隠れたカリキュラムと学校文化 第5回：進路選択とジェンダー 第6回：結婚と家族 第7回：子育てと育児戦略 第8回：性別分業とライフコース 第9回：雇用とジェンダー 第10回：階層問題と女性の貧困 第11回：ワーク・ライフ・バランス 第12回：暴力について 第13回：公共圏とシティズンシップ 第14回：法というシステム 第15回：男性学 定期試験：定期試験は実施しない			
テキスト 木村涼子他編『よくわかるジェンダースタディーズ』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 適宜指示する			

学生に対する評価 授業に出席し議論に参加することおよび小レポートを提出すること 7割。
担当回で報告すること 3割。

授業科目名： ジェンダー論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉原 名穂子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
グローバル化がすすむ現代社会では女性と男性をめぐるさまざまな問題がある。その議論を検討し、ジェンダーの視点から今を生きる人々や社会の在り方について考えるのが授業の目的である。ジェンダーの観点から文化や表象、身体、心について考察できる。 現代社会が抱える問題を社会的に論じることができる。 グローバリゼーションとジェンダーの問題について論じることができる。			
授業の概要			
ジェンダーの社会学とグローバリゼーション。グローバル化がすすむ現代社会のさまざまな問題について、ジェンダーの視点から検討する。			
授業計画			
第1回： 授業の進め方と発表者の決定			
第2回： グローバル・フェミニズム：国際的な人権確立の流れ			
第3回： グローバル化と文化研究の新しい展開			
第4回： 社会史とジェンダー			
第5回： フェミニスト・クリティーク			
第6回： 西洋美術、東洋美術とジェンダー			
第7回： ことばとジェンダー			
第8回： 身体とジェンダー			
第9回： スポーツを考える			
第10回： ケアと労働			
第11回： 心のなかをみつめる			
第12回： メディアとジェンダー			
第13回： サブカルチャーとジェンダー			
第14回： セクシャル・マイノリティ			
第15回： 総括討論とまとめ			
定期試験： 定期試験は実施しない			
テキスト	木村涼子他編『よくわかるジェンダースタディーズ』ミネルヴァ書房		
参考書・参考資料等	適宜指示する		

学生に対する評価	授業に出席し議論に参加することおよび小レポートを提出すること7割 担当回で報告すること3割

授業科目名： 文化人類学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 園田 浩司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文化人類学における「社会化」「学習」「教育」をテーマに、狩猟採集社会をはじめとするさまざまな社会に見られる子どもと大人の関係性、文化・社会の特徴と学習内容との関連性、またそれらの関連性を描き出す分析手法を学ぶ。 ・専門的な文献資料や非文字資料を適切に理解・分析できる。 ・修士論文執筆のための基礎的な知識、技術を身に付ける。 ・自らおこなった研究に基づき、修士論文を作成できる。			
授業の概要			
文化人類学はどのようにして他者理解の学問でありうるのか。文化人類学と相互に影響しあう周辺分野において蓄積されてきたさまざまな他者理解実践について学ぶ。			
授業計画			
第1回： オリエンテーションー本授業の概説、受講者同士による関心の共有			
第2回： 『遊びが学びに欠かせないわけ』			
第3回： 「第1章 正統的周辺参加」『状況に埋め込まれた学習』（受講者発表）			
第4回： 「第2章 実践、人、社会的世界」『状況に埋め込まれた学習』（受講者発表）			
第5回： 「第3章 産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、断酒中のアルコール依存症者」『状況に埋め込まれた学習』（受講者発表）			
第6回： 「第4章 実践共同体における正統的周辺参加」『状況に埋め込まれた学習』（受講者発表）			
第7回： 「第5章 結論」「解説」『状況に埋め込まれた学習』（受講者発表）			
第8回： 学校化に抗する狩猟採集社会（講師の研究紹介）			
第9回： 「第1章 なぜ学校を廃止しなければならないのか」『脱学校の社会』（受講者発表）			
第10回： 「第2章 学校の現象学」「第3章 進歩の儀礼化」『脱学校の社会』（受講者発表）			
第11回： 「第4章 制度スペクトル」「第5章 不条理な一貫性」『脱学校の社会』（受講者発表）			
第12回： 「第6章 学習のためのネットワーク」『脱学校の社会』（受講者発表）			
第13回： 「第7章 エピメテウスの人間の再生」「解説」『脱学校の社会』（受講者発表）			
第14回： 「脱学校化する廃校」（講師の研究紹介）			
第15回： 『世界一素敵な学校』と総論			

定期試験： なし	
テキスト ／Textbooks レイヴ, ジーン & ウェンガー, エティエンヌ. 1993. 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』 産業図書. イリッチ, イヴァン (東洋・小澤周三訳) .1977『脱学校の社会』 東京創元社. ロゴフ, バーバラ (當眞千賀子訳) . 2006. 『文化的営みとしての発達—個人、世代、コミュニティー』 新曜社.	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	発表、議論への参加・貢献 50%
レポート	50%

授業科目名： 文化人類学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 園田 浩司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文化人類学は、社会科学や自然科学の知見を総合したメタ・サイエンスとも言われる。本授業では、時代に応じて築き上げられてきた文化人類学の方法論（研究対象への見方、分析の方法、文化や世界の捉え方、など）について、重要な文献の内容に触れつつ、学んでいく。また、受講者自らも研究進捗状況について報告し、研究の精緻化に向けて受講者全員で対話する。 ・専門的な文献資料や非文字資料を適切に理解・分析できる。 ・修士論文執筆のための基礎的な知識、技術を身に付ける。 ・自らおこなった研究に基づき、修士論文を作成できる。			
授業の概要			
文化人類学とその周辺分野における分析手法や記述のあり方を見比べながら、相互の影響、また双方の相違点や類似点について理解することを通して、論文作法を身に付ける。			
授業計画			
第1回： オリエンテーションー本授業の概説、受講者同士による関心の共有			
第2回：文化人類学的記述にむけて：科学らしくない文化人類学？			
第3回：いかに文化・社会構造を捉えるか（機能主義人類学）			
第4回：当事者の経験をどう解釈するか（解釈人類学）			
第5回：「第1章 民族誌的権威について」『文化の窮状』（受講者発表）			
第6回：対話の過程としての文化			
第7回：人類学の外に出ること			
第8回：「第2章 民族誌における権力と対話」『文化の窮状』（受講者発表）			
第9回：「第3章 民族誌的自己成型」『文化の窮状』（受講者発表）			
第10回：ドラマワーク『闇の奥』			
第11回：受講者による研究発表Ⅰ			
第12回：受講者による研究発表Ⅱ			
第13回：受講者による研究発表Ⅲ			
第14回：「聞き取り」をすること（文化人類学論文を読むⅠ）			
第15回：「フィールドに入る」ということ（文化人類学論文を読むⅡ）			
定期試験：なし			

テキスト

クラパンザーノ, ヴィンセント (大塚和夫・渡部重行訳) .1991『精霊と結婚した男 モロッコ人トゥハーミの肖像』紀伊國屋書店.

クリフォード, ジェイムズ (太田 好信 他訳) . 2003『文化の窮状 二十世紀の民族誌学、文学、芸術』人文書院.

クリフォード, ジェイムズ & マーカス, ジョージ (編) (春日直樹 他訳) . 1996『文化を書く』紀伊國屋書店.

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 発表、議論への参加・貢献 50%
レポート 50%

授業科目名： 社会認識教育学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 釜本 健司
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業のねらいは、社会科教育学研究の今日的動向を捉えた内外の文献の講読を通して、社会認識教育諸教科の性格・カリキュラム論・実践理論について認識の形成・深化を図ることにある。（1）社会科の性格やカリキュラム論・内容編成論について、社会科教育学研究の今日的な動向に基づいた認識を形成できる。 （2）学校教育において意図的計画的な社会認識形成を行なう教科の本質・特性に関して、社会科教育学研究の今日的な動向に基づいた認識を形成できる。 （3）各自の問題意識に基づき、社会認識教育の今日的な理論的・実践的課題について、近年の社会科教育学研究の成果・動向に基づいた認識を形成できる。				
授業の概要				
生涯学習社会といわれて久しく社会の変化が急速な今日の日本では、社会認識の形成と成長が生涯を通した課題になってきている。その社会認識形成の基盤として不可欠な機会となるのが、社会認識形成を意図的計画的に行なう初中等学校の社会系教科である。 本授業は、こうした背景に基づいて社会科教育学研究の今日的動向をとらえた社会認識教育のカリキュラム論・内容編成論について議論を深める。そのうえで、受講者各自の課題意識に基づいて、社会系諸教科の理論的・実践的課題について考察していく。				
授業計画				
第1回：教科としての社会科の性格と内容論				
第2回：教科としての社会科の性格をどう捉えるか―社会科の内容構成の類型から―				
第3回：社会科学科としての社会科				
第4回：社会研究科としての社会科				
第5回：社会問題科としての社会科				
第6回：シティズンシップ教育としての社会科				
第7回：社会科カリキュラム編成の考え方（1）―統合か分化か―				
第8回：社会科カリキュラム編成の考え方（2）―社会科における内容の総合性はどの学習においても可能か―				
第9回：社会科カリキュラム編成の考え方（3）―知識中心か問題中心か―				
第10回：社会科カリキュラム編成の考え方（4）―教授学的変換の視点から―				

第11回：社会科の単元構成		
第12回：地理歴史科と社会科との違いは何か		
第13回：社会科公民と公民科の違いは何か		
第14回：社会科らしさとは何か		
第15回：社会科の性格とカリキュラム編成をめぐる現代的論点—社会認識と市民的資質の視点から—		
定期試験：定期試験は実施しない		
テキスト	社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書出版，2012年	
参考書・参考資料等	適宜指示する	
学生に対する評価	(1) 発表レジュメの内容 70%	
	(2) 授業中の取り組み状況 30%	

授業科目名： 社会認識教育学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 釜本 健司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業のねらいは、社会科教育学研究の今日的動向を捉えた内外の文献の講読を通して、社会認識教育諸教科の認識論・カリキュラム論・実践理論について、主権者育成の視点から認識の形成・深化を図ることにある。（1）社会科の性格やカリキュラム論・内容編成論について、社会科教育学研究の今日的な動向に基づいた認識を形成できる。 （2）学校教育において意図的計画的な社会認識形成・市民的資質育成を行ない、主権者育成における中核としての教科の基本的役割に関して、社会科教育学研究の今日的な動向に基づいた認識を形成できる。 （3）各自の問題意識に基づき、社会認識教育の今日的な理論的・実践的課題について、近年の社会科教育学研究の成果・動向に基づいた認識を形成できる。			
授業の概要			
生涯学習社会といわれて久しく社会の変化が急速な今日の日本では、社会認識の形成と成長を通して、主権者として必要な資質・能力の育成と更新が生涯を通した課題になってきている。その基盤として不可欠な機会となるのが、社会認識形成と市民的資質育成を意図的計画的に行なう初中等学校の社会系教科である。 本授業は、こうした背景に基づいて社会科教育学研究の今日的動向をとらえた社会認識教育論・主権者教育論のカリキュラム論・内容編成論・学力評価論・教師教育論について議論を深める。そのうえで、受講者各自の課題意識に基づいて、社会系諸教科の理論的・実践的課題について考察していく。			
授業計画			
第1回：社会科の性格をどう捉えるか―社会科の内容構成の類型から―			
第2回：社会に建設的に参画できる市民を作る			
第3回：主権者教育としてみたときの学習指導要領「社会」			
第4回：社会科におけるカリキュラムマネジメント			
第5回：一般の教師と研究者の授業を見る視点の違い（1）―単元・授業計画の議論の重要性を中心として―			
第6回：一般の教師と研究者の授業を見る視点の違い（2）―社会科授業をどう見るか―			
第7回：一般の教師と研究者の授業を見る視点の違い（3）―ベテラン教師の分析			

第8回：一般の教師と研究者の授業を見る視点の違い（4）―研究者（教育学者）の分析―

第9回：主権者教育の議論と教育学

第10回：社会科教育学研究の学習科学化問題（1）―アメリカの場合―

第11回：社会科教育学研究の学習科学化問題（2）―日本の教育方法学と社会科教育学の場合―

第12回：主権者教育と学力（1）―F・ニューマンの所論を中心として―

第13回：主権者教育と学力（2）―池野範男の所論を中心として―

第14回：主権者教育としての学力と標準化された学力

第15回：主権者教育を担う教師―ゲートキーピングとその意義―

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 渡部竜也『主権者教育論―学校カリキュラム・学力・教師―』春風社，2019年

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 (1) 発表レジュメの内容 70%

(2) 授業中の取り組み状況 30%

授業科目名： 宗教思想	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青柳 かおる
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
四十書から成るガザーリーの主著『宗教諸学の再興（Ihya’ ‘Ulum al-Din）』第12番目の書「婚姻作法の書（Kitab al-Nikah）」英訳を読み、解説および議論を行います。 この書は約900年前に書かれたものですが、現代のイスラーム社会における婚姻、家族、女性問題、ジェンダー、生命倫理等に大きな影響力を持っています。 担当者に訳文作成、内容報告をしていただき、解説、質疑応答を行います。また修士論文の中間発表の時間も多く設ける予定です。「婚姻作法の書」を正確に読み、イスラームの婚姻、家族、女性問題、ジェンダー、生命倫理等の理解を深める。 また古典時代から現代までのイスラーム思想全般に関する幅広い知識を持つこともねらいである。			
授業の概要			
前近代のイスラーム思想家ガザーリーの主著『宗教諸学の再興』所収の「婚姻作法の書」を中心に、スーフイズムやジェンダーについて議論する。			
授業計画			
第1回：以下の予定ですが、履修者の希望を取り入れて変更する可能性もあります。 1 イントロダクション 2 婚姻の利点 3 第一の利益 子供 4 第二の利益 欲望の消滅 5 第三の利益 親しさの増加 6 第四の利益 家事の管理 7 第五の利益 妻たちを養うことによる魂の努力 8 ②～⑦の授業の振り返り 9 婚姻による損害 10 第一の損害 合法なものを求めることができなくなる事 11 第二の損害 妻の権利を守ることができないこと 12 第三の損害 妻子が夫を神から離れさせること			

1 3 守られるべき女性の契約の状態と、契約の条件について

1 4 ⑨～⑬の授業の振り返り

1 5 全体のまとめ。

定期試験： 定期試験は実施しない。

テキスト Madelain Farah trans. Marriage and Sexuality in Islam, University of Utah Press, 1984.

以下のサイトからダウンロード可能

<http://www.ghazali.org/books/marriage.pdf>

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 平常点（発表や授業中の態度） 50%

課題の小レポート、修論に関する期末レポート 50%

授業科目名： 宗教思想演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青柳 かおる
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
四十書から成るガザーリーの主著『宗教諸学の再興（Ihya’ ‘Ulum al-Din）』第12番目の書「婚姻作法の書（Kitab al-Nikah）」英訳を読み、解説および議論を行います。 この書は約900年前に書かれたものですが、現代のイスラーム社会における婚姻、家族、女性問題、ジェンダー、生命倫理等に大きな影響力を持っています。 担当者に訳文作成、内容報告をしていただき、解説、質疑応答を行います。また修士論文の中間発表の時間も多く設ける予定です。 「婚姻作法の書」を創造的に解釈し、イスラームの婚姻論について理解するとともに、法学の視点のみならず、スーフィズムの視点から捉えなおす。				
授業の概要				
前近代のイスラーム思想家ガザーリーの主著『宗教諸学の再興』所収の「婚姻作法の書」を中心に、スーフィズムやジェンダーについて議論する。				
授業計画				
第1回：以下の予定ですが、履修者の希望を取り入れて変更する可能性もあります。 1 イスラーム概説書を読んでおくこと。 2～14 毎回、次回に読む節の和訳およびレジュメを作成しておくこと。教員が授業中に紹介した文献を読んでおくこと。 15 修士論文の中間発表の準備をしておくこと。				
1 イントロダクション 2 婚姻の利点 3 第一の利益 子供 4 第二の利益 欲望の消滅 5 第三の利益 親しさの増加 6 第四の利益 家事の管理 7 第五の利益 妻たちを養うことによる魂の努力 8 婚姻による損害 9 第一の損害 合法的なものを求めることができなくなる				

1 0 第二の損害 妻の権利を守ることができないこと

1 1 第三の損害 妻子が夫を神から離れさせること

1 2 守られるべき女性の契約の状態と、契約の条件について

1 3 第一の種類 女性に婚姻障害がないこと

1 4 第二の種類 女性が持つべき性質

1 5 修士論文中間発表

定期試験： 定期試験は実施しない

テキスト Madelain Farah trans. Marriage and Sexuality in Islam, University of Utah Press, 1984.

以下のサイトからダウンロード可能

<http://www.ghazali.org/books/marriage.pdf>

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 平常点（発表や授業中の態度） 5 0 %

課題の小レポート、修論に関する期末レポート 5 0 %

授業科目名： 哲学演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 ふく子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・近代哲学の基本文献を講読し、知識を深める。			
・哲学のテキストの翻訳・読解スキルを高める。外国語文献を精読し、主題やその背景等基本的な内容を理解し客観的に分析・批判をした上で、自らの見解を提示し、さらなる問題提起をおこなうことができる（以上のスキルをプレゼン、レポート両方において身につけることを目指す）。			
授業の概要			
下記の文献を演習形式で講読する。毎回担当者を決めて翻訳・内容解説をしてもらった上で、全体での議論をおこなう。基本はドイツ語原典を用いるが、邦訳・英訳・仏訳も適宜参照する。			
【文献】 Phänomenologie des Geistes (1807), In: Gesammelte Werke, Bd. IX, Hrsg. v. Wolfgang Bonsiepen und Reinhard Heede, Hamburg: Meiner 1976. (G.W.F. ヘーゲル『精神現象学 上・下』熊野純彦訳、ちくま学芸文庫、2018年)			
授業計画			
第1回： 導入			
第2回： 翻訳・議論（序文）			
第3回： 翻訳・議論（緒論）			
第4回： 翻訳・議論（感覚的確信）			
第5回： 翻訳・議論（知覚）			
第6回： 翻訳・議論（悟性）			
第7回： 翻訳・議論（自己意識）			
第8回： 翻訳・議論（理性）			
第9回： 翻訳・議論（精神：人倫）			
第10回： 翻訳・議論（精神：教養）			
第11回： 翻訳・議論（精神：道徳性）			
第12回： 翻訳・議論（宗教：自然宗教）			
第13回： 翻訳・議論（宗教：芸術宗教）			

第14回：翻訳・議論（宗教：啓示宗教）	
第15回：翻訳・議論（絶対知）	
定期試験： 期末レポート	
テキスト	Phänomenologie des Geistes (1807), In: Gesammelte Werke, Bd. IX, Hrsg. v. Wolfgang Bonsiepen und Reinhard Heede, Hamburg: Meiner 1976. (G.W.F.ヘーゲル『精神現象学 上・下』熊野純彦訳、ちくま学芸文庫、2018年)
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	担当回の翻訳とプレゼン（50%）と期末レポート（50%）により評価する。

授業科目名： 哲学特論I		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 ふく子
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
・哲学教育に関する国内外の理論的・実践的研究を体系的に把握する。 ・特に日本の哲学教育の現状を踏まえた上で自分なりに問題提起をし、哲学そのものの可能性も探究しながら、実践的に有効な方策を構築する。 ・大学における専門的学問としての哲学という枠組みに閉じられることなく、地域社会や学校教育における哲学の可能性を理論的・実践的に探究する。・外国語で書かれた研究論文を精読し、主題やその背景等基本的な内容を理解し客観的に分析・批判をした上で、自らの見解を提示し、さらなる問題提起をおこなうことができる（以上のスキルをプレゼン、レポート両方において身につけることを目指す）。 ・既存の哲学理論や概念を、哲学を専門としない人、哲学を未習の人にも分かるように伝えるスキル（表現力や方法等）を身につける。				
授業の概要				
西洋哲学、哲学教育に関する研究文献（日本語、英語、ドイツ語）をいくつか選び、演習形式で講読する。毎回担当者を決めてレジュメ作成・内容解説をしてもらった上で、全体での議論をおこなう。文献の選定については、ある程度参加者の希望も取り入れる。				
授業計画				
第1回： 導入・テキスト選定				
第2回： プレゼン・議論（哲学教育の理念）				
第3回： プレゼン・議論（哲学教育の方法論）				
第4回： プレゼン・議論（哲学教育の研究史）				
第5回： プレゼン・議論（Philosophy for Children：リップマン）				
第6回： プレゼン・議論（Philosophy for Children：ハワイ大学）				
第7回： プレゼン・議論（哲学カフェ）				
第8回： プレゼン・議論（哲学プラクティス）				
第9回： プレゼン・議論（哲学コレクティブ）				
第10回： プレゼン・議論（日本の哲学教育の現状）				
第11回： プレゼン・議論（プラグマティズム）				
第12回： プレゼン・議論（言語行為）				

第13回：プレゼン・議論（対話の哲学）

第14回：プレゼン・議論（大学論）

第15回：プレゼン・議論（まとめ）

定期試験： 期末レポート

テキスト

- Teaching Philosophy, ed. by Maralee Harrell, Philosophy Documentaiton Center, 1975~

- Zeitschrift für Didaktik der Philosophie und Ethik (ZDPE), Hrsg. v. Vanessa Albus u.a., Bamberg: C.C. Buchner, 1979~.

- 『思考と対話』日本哲学プラクティス学会編、2019年~

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 担当回のプレゼン（50%）と期末レポート（50%）により評価する

授業科目名： 哲学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡嶋 隆佑
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
哲学・倫理学の原典を読み、理論を正確に把握し、要約や議論を通じて文章および口頭での表現力を養う。・外国語で書かれた論文・著作を邦訳に頼らずに読解できるようになること。 ・論文作成・学会発表に必要な議論の構成・表現力を身に付けること。			
授業の概要			
参加者の関心に応じてテキストを選定し、英・仏圏の哲学書を演習形式で講読する。			
授業計画			
第1回： 概要説明、テキストの決定			
第2回： テキストの訳読・要約、議論（例：責務について）			
第3回： テキストの訳読・要約、議論（例：功利性について）			
第4回： テキストの訳読・要約、議論（例：道徳感情について）			
第5回： テキストの訳読・要約、議論（例：主知主義について）			
第6回： テキストの訳読・要約、議論（例：義務について）			
第7回： テキストの訳読・要約、議論（例：道徳意識について）			
第8回： テキストの訳読・要約、議論（例：道徳的系について）			
第9回： テキストの訳読・要約、議論（例：責任について）			
第10回： テキストの訳読・要約、議論（例：社会について）			
第11回： テキストの訳読・要約、議論（例：功績について）			
第12回： テキストの訳読・要約、議論（例：権利について）			
第13回： テキストの訳読・要約、議論（例：処罰について）			
第14回： テキストの訳読・要約、議論（例：徳について）			
第15回：テキストの訳読・要約、議論（例：総括）			
定期試験： 定期試験は実施しない			
テキスト	初回ガイダンス時に提示する。		
参考書・参考資料等	適宜指示する		
学生に対する評価	授業内での訳読・要約の精度（70%）および議論への貢献度（30%）によって評価する。		

授業科目名： 哲学特論Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡嶋 隆佑
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
哲学・倫理学の原典を読み、理論を正確に把握し、要約や議論を通じて文章および口頭での表現力を養う。・外国語で書かれた論文・著作を邦訳に頼らずに読解できるようになること。 ・論文作成・学会発表に必要な議論の構成・表現力を身に付けること。				
授業の概要				
英・仏圏の哲学書を演習形式で講読し、参加者の関心に応じたテキストを選定する。				
授業計画				
第1回： 概要説明、テキストの決定				
第2回： テキストの訳読・要約、議論（例：快苦について）				
第3回： テキストの訳読・要約、議論（例：感覚について）				
第4回： テキストの訳読・要約、議論（例：感情について）				
第5回： テキストの訳読・要約、議論（例：傾向性について）				
第6回： テキストの訳読・要約、議論（例：意志について）				
第7回： テキストの訳読・要約、議論（例：自由について）				
第8回： テキストの訳読・要約、議論（例：習慣について）				
第9回： テキストの訳読・要約、議論（例：本能について）				
第10回： テキストの訳読・要約、議論（例：意識について）				
第11回： テキストの訳読・要約、議論（例：知覚について）				
第12回： テキストの訳読・要約、議論（例：記憶について）				
第13回： テキストの訳読・要約、議論（例：連合について）				
第14回： テキストの訳読・要約、議論（例：注意について）				
第15回： テキストの訳読・要約、議論（例：言語について）				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 初回ガイダンス時に提示する。				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 授業内での訳読・要約の精度（70%）および議論への貢献度（30%）によって評価する。				

授業科目名： 哲学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安田 将
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・哲学の文献を精読し、関連知識を深める。			
・所定の論点を探究するための関連文献をリサーチするスキルを身につける。古代哲学についての基本的な知識を得ること。具体的には、（1）各々の哲学者が取り組んだ問題を説明することができるようになる。（2）哲学的問題を歴史的なアプローチで考察するために必要な、歴史的観点をもつことができるようになる。			
授業の概要			
哲学史の学習のためには、古代哲学に関する基本的な知識が必要である。この授業では、古代哲学における主な哲学的問題の展開をテーマとする。範囲としては、アリストテレス以後の時代を扱う（授業各回の内容については、その順序等を予定のものから入れ替える可能性がある）。			
授業計画			
第1回： イントロダクション（古代における哲学と哲学史）			
第2回： アリストテレス①（学問論、知識論）			
第3回： アリストテレス②（問答法、倫理学の方法論、弁論術と感情論）			
第4回： アリストテレス③（モラル・サイコロジー）			
第5回： アリストテレス④（自然学——運動論）			
第6回： アリストテレス⑤（自然学——宇宙論）			
第7回： アリストテレス⑥（ウーシア論、神論）			
第8回： アリストテレス⑦（観想と実践）			
第9回： エピクロス派の哲学（「プロレープシス」の概念、原子論・神論、エピクロス派の倫理学と功利主義）			
第10回： ストア派の哲学（理性・問答法・世界、自然と神、自由意志論）			
第11回： 懐疑主義①（プラトン主義と「懐疑主義」、「問答法」の諸概念、「蓋然性」の概念史）			
第12回： 懐疑主義②（新ピュロン主義と表象・信念・行為、近代哲学と古代懐疑主義）			
第13回： アリストテレス注釈と新プラトン主義①（哲学の方法としての注釈、ペリパトス派の哲学とアリストテレス主義）			

第14回： アリストテレス注釈と新プラトン主義②（プラトン主義と新プラトン主義、新プラトン主義とアリストテレスの注釈）

第15回： まとめ

定期試験： 試験を実施する

テキスト 内山勝利（編）『哲学の歴史 1 哲学誕生（古代I）』（2008年,中央公論新社），内山勝利（編）『哲学の歴史 2 帝国と賢者（古代II）』（2007年,中央公論新社），神崎繁・熊野純彦・鈴木泉（編）『西洋哲学史 I 「ある」の衝撃から始まる』（2011年,講談社），伊藤邦武・山内志朗・中島隆博。納富信留（編）『世界哲学史 I 古代I（知恵から愛知へ）』・『世界哲学史 II 古代II（世界哲学の成立と展開）』（2020年,筑摩書房），G・E・R・ロイド（著），山野耕治・山口義久（訳）『初期

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 到達目標の達成度にもとづいて成績評価を行う。評価方法は、定期試験（80%）、小テストあるいは小レポート（20%）とする。合格（単位修得）のための最低基準：授業内で紹介した各々の哲学者について、その取り組んだ問題を正確に説明することができること。

授業科目名： 哲学特論Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安田 将
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・哲学の文献を精読し、関連知識を深める。			
・所定の論点を探究するための関連文献をリサーチするスキルを身につける。古代哲学についての基本的な知識を得ること。具体的には、（1）各々の哲学者が取り組んだ問題を説明することができるようになる。（2）哲学的問題を歴史的なアプローチで考察するために必要な、歴史的観点をもつことができるようになる。			
授業の概要			
哲学史の学習のためには、古代哲学に関する基本的な知識が必要である。この授業では、古代哲学における主な哲学的問題の展開をテーマとする。範囲としては、初期ギリシア哲学からプラトンまでの時期を扱う（授業各回の内容については、その順序等を予定のものから入れ替える可能性がある）。			
授業計画			
第1回： イントロダクション（古代における哲学と哲学史）			
第2回： ソクラテス以前の哲学者たち（ミレトス学派）			
第3回： ソクラテス以前の哲学者たち（パルメニデスら）			
第4回： ソクラテス以前の哲学者たち（アナクサゴラスら）			
第5回： ソクラテス以前の哲学者たち（ソフィストたち1：思想史的背景）			
第6回： ソクラテス以前の哲学者たち（ソフィストたち2：プロタゴラスとゴルギアス）			
第7回： ソクラテスおよびソクラテスの徒たち			
第8回： プラトン1（生涯、著作の伝承）			
第9回： プラトン2（何であるかの探究・信念の吟味）			
第10回： プラトン3（探究のパラドクス・想起説）			
第11回： プラトン4（イデア説1）			
第12回： プラトン5（イデア説2）			
第13回： プラトン6（宇宙論1）			
第14回： プラトン7（宇宙論2）			
第15回： プラトン8（政治哲学）			

定期試験：試験を実施する	
テキスト	内山勝利（編）『哲学の歴史 1 哲学誕生（古代I）』（2008年, 中央公論新社）, 神崎繁・熊野純彦・鈴木泉（編）『西洋哲学史 I 「ある」の衝撃から始まる』（2011年, 講談社）, 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留（編）『世界哲学史 I 古代I（知恵から愛知へ）』（2020年, 筑摩書房）, G・E・R・ロイド（著）, 山野耕治・山口義久（訳）『初期ギリシア科学 タレスからアリストテレスまで』（1994年, 原著1970年, 法政大学出版会）, Guthrie, W. K. C., 1962?
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	到達目標の達成度にもとづいて成績評価を行う。評価方法は、定期試験（80%）、小テストあるいは小レポート（20%）とする。合格（単位修得）のための最低基準：授業内で紹介した各々の哲学者について、その取り組んだ問題を正確に説明することができること。

授業科目名： 認知科学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新美 亮輔
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
現代の認知心理学の重要な概念と理論を理解し、かつ、それが実際にどのような研究手法やデータに基づいているのかを理解する。必要に応じて、認知心理学の専門的英語文献を読み、活用できるようになる。これを通して、広く人間に関する諸問題の解決に際して認知心理学の科学的知見を参照し活用できる汎用的能力を養う。現代の認知心理学が扱う主要なトピックについて、重要な概念や理論を説明できる。これらの知識は、単に知っているだけでなく、どのような実験・調査手法やデータに基づいているかや、現代社会の中でどのような重要性を持ちうるかについても説明できる。自らの関心に合わせて、認知心理学の専門的な文献を読み、活用することができる。				
授業の概要				
認知心理学とその関連領域の知識を深める。認知心理学の専門的な英語文献を読みこなす能力を高める。				
授業計画				
第1回： テーマおよびテキストの単元の決定				
第2回： 記憶と学習の講義				
第3回： 記憶と学習の講義（第2回目の授業内容を踏まえての補足を含む。）				
第4回： 記憶と学習の論文輪読・議論				
第5回： 記憶と学習の論文輪読・議論（第4回目の授業内容を踏まえての補足を含む。）				
第6回： 注意と意識の講義				
第7回： 注意と意識の講義（第6回目の授業内容を踏まえての補足を含む。）				
第8回： 注意と意識の輪読・議論				
第9回： 注意と意識の輪読・議論（第8回目の授業内容を踏まえての補足を含む。）				
第10回： Q&A・補足の講義				
第11回： 思考と問題解決の講義				
第12回： 思考と問題解決の講義（第11回目の授業内容を踏まえての補足を含む。）				
第13回： 思考と問題解決の輪読・議論				
第14回： 思考と問題解決の輪読・議論（第13回目の授業内容を踏まえての補足を含む。）				
第15回： Q&A・補足の講義				

定期試験： 第16回 最終試験	
テキスト	テキストとしてEysenck & Keane "Cognitive Psychology: A Student's Handbook (8th ed.)" Psychology Pressを, 輪読する総説論文としてAnnual Review of Psychologyの掲載論文を想定しているが, 受講生の関心に応じて適宜決定する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の輪読・議論への貢献度50%, 最終試験50%で評価する。

授業科目名： 憲法Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上村 都
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義の目標は、日本国憲法の人権保障の概要について、基本的な理解を獲得することである。同時に、アメリカ・ドイツ・フランスなどの主要国家の法制度との比較についても、できるだけ詳しく触れることにしたい。各テーマに関する問題の所在、その問題に関する判例・学説を正確に理解し、それらの問題点を説明することができる。より妥当な見解を、合理的な理由に基づき論証することができる。諸外国の事例と比較検討を行い、わが国における現状の意義と問題点を発見することができる。			
授業の概要			
基本的人権の現代的課題を中心に扱う。憲法が保障する自由は、「国家からの自由」であると観念されてきた。しかし、現在では、生存権や国家による人権救済などの、「国家による自由」の必要性が強調されている。講義では、「ヘイトスピーチ規制」、「個人情報保護」などのいくつかの具体的テーマを設定して、現代人権論の二面性について考えていくことにしたい。			
授業計画			
第1回： 受講者には毎回一つのテーマにつき、報告を義務付ける。授業は演習形式で行う。あるテーマに関する判例・学説を、ディスカッションを通じて詳細に検討し、妥当な結論を模索する。報告のスケジュールについては、初回授業時に、報告者と相談の上、決定することにする。			
第2回： 人権総論１：私人間効力			
第3回： 人権総論２：人権享有主体			
第4回： 幸福追求権			
第5回： プライバシー、個人情報保護			
第6回： 平等			
第7回： 信教の自由と政教分離			
第8回： 報道の自由、取材の自由、取材源秘匿権			
第9回： ヘイトスピーチ規制			
第10回： 青少年保護育成条例と表現の自由			
第11回： 先端科学技術と学問の自由			

第12回：営業の自由とその規制

第13回：財産権

第14回：死刑の合憲性

第15回：生存権

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 大石眞・石川健治編『憲法の争点』（有斐閣、2008年）

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 成績は、授業への参加度合い（40パーセント）および報告内容（60パーセント）により評価する。

授業科目名： 憲法Ⅰ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上村 都
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義の目標は、一つの判例の焦点を当てて、日本国憲法の人権保障についての基本的な理解を獲得することである。併せて、諸外国の状況についても、必要な限りで触れることにしたい。ある判例に内在する問題の所在、その問題に関する裁判所の見解を理解することができる。加えて、関係する判例・学説を整理・考察することにより、選択した判例の意義及び問題点を説明することができる。			
授業の概要			
憲法Ⅱに続いて、本演習においても、基本的人権の現代的課題を中心に考察する。本演習では、「表現の自由」を共通テーマとして、「知る権利」、「アクセス権」、さらに教育現場においても今後生じるであろう「インターネット上における名誉毀損」などの今日的な問題について考えていく。			
授業計画			
第1回： 受講者には毎回一つのテーマにつき、報告を義務付ける。授業は演習形式で行う。報告テーマにつき、関連判例・関連学説を報告し、その報告に基づき、ディスカッションする。報告のスケジュールについては、初回授業時に、報告者と相談の上、決定することにする。			
第2回： 「有害図書」指定と表現の自由			
第3回： 集合住宅へのビラ投函と表現の自由			
第4回： 電話の傍受と通信の秘密			
第5回： プライバシー侵害と表現の自由			
第6回： ウェブサイトの検索結果の提供			
第7回： 公正な論評の法理			
第8回： 少年犯罪報道			
第9回： 公立図書館の蔵書と表現の自由			
第10回： NHK受信料制度			
第11回： わいせつ的表現			
第12回： 車内広告放送			
第13回： 名誉毀損的表現			
第14回： 出版差止め			

第15回：取材源秘匿権	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選1』（有斐閣、2019年）
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	成績は、授業への参加度合い（40パーセント）および報告内容（60パーセント）により評価する。

授業科目名： 行政法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮森 征司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
履修者の研究テーマに関連する行政法上の諸問題を取り上げ、行政法に関する理解を深めるとともに、各履修者の問題意識を掘り下げるとともに、修士論文を執筆する際の基礎的な素養を身に付けることをねらいとする。修士論文を執筆するために求められる行政法に関する基礎的な知見を修得するとともに、各自の研究テーマに関連する行政法上の問題について基本的な論点を理解した上で、個別具体的な問題点について事例分析を行うための素養を身に付けることを到達目標とする。			
授業の概要			
本授業では、各履修者の研究テーマに関連した行政法上の諸問題について検討を行う。授業で取り上げる具体的な内容（各論分野等）は、各履修者と相談の上で決定するが、行政法に関連するものであれば、広く対象とすることを想定しており、基本的には判例や事例を取り上げながら進行することを予定している。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：行政法の一般原則①			
第3回：行政法の一般原則②			
第4回：行政の行為形式論①			
第5回：行政の行為形式論②			
第6回：行政裁量①			
第7回：行政裁量②			
第8回：行政の実効性確保①			
第9回：行政の実効性確保②			
第10回：訴訟要件①			
第11回：訴訟要件②			
第12回：本案審理①			
第13回：本案審理②			
第14回：国家補償①			
第15回：国家補償②			

定期試験： 期末レポート	
テキスト	講義内で適宜指示する。
※特に関心がある分野や扱いたいテーマがある場合には、第1回講義時に個別に相談されたい。	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	質疑・議論への参加（30%）、報告・期末レポート（70%）により評価する。

授業科目名： 行政法演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮森 征司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
履修者の研究テーマに関連する行政法上の諸問題を取り上げ、行政法に関する理解を深めるとともに、各履修者の問題意識を掘り下げるとともに、修士論文を執筆する際の実践的な素養を身に付けることをねらいとする。修士論文を執筆するために求められる行政法に関する知見を修得するとともに、各自の研究テーマに関連する行政法上の問題について基本的な論点を理解した上で、個別具体的な問題点について事例分析を行うことができるようになることを到達目標とする。			
授業の概要			
本授業では、各履修者の研究テーマに関連した行政法上の諸問題について、各受講者が報告し、報告内容に応じた質疑応答・議論を通じて、行政法に関する各受講者の知見を深める。各受講者が報告で取り上げる具体的な内容は、各履修者の問題関心に応じて相談の上で決定するが、行政法に関連するテーマであれば、広く対象とすることを想定している。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション、各履修者の発表スケジュール等の決定			
第2回： 報告・質疑応答・議論（行政法の一般原則①）			
第3回： 報告・質疑応答・議論（行政法の一般原則②）			
第4回： 報告・質疑応答・議論（行政の行為形式論①）			
第5回： 報告・質疑応答・議論（行政の行為形式論②）			
第6回： 報告・質疑応答・議論（行政裁量①）			
第7回： 報告・質疑応答・議論（行政裁量②）			
第8回： 報告・質疑応答・議論（行政の実効性確保①）			
第9回： 報告・質疑応答・議論（行政の実効性確保②）			
第10回： 報告・質疑応答・議論（訴訟要件①）			
第11回： 報告・質疑応答・議論（訴訟要件②）			
第12回： 報告・質疑応答・議論（本案審理①）			
第13回： 報告・質疑応答・議論（本案審理②）			
第14回： 報告・質疑応答・議論（国家補償①）			
第15回： 報告・質疑応答・議論（国家補償②）			

定期試験： 定期試験は実施しない	
テキスト	講義内で適宜指示する。
※特に関心がある分野や扱いたいテーマがある場合には、第1回講義時に個別に相談されたい。	
参考書・参考資料等	講義内で適宜指示する
学生に対する評価	研究報告の内容による（100％）。

授業科目名： 法社会学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田巻 帝子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
基礎法学の一分野としての法社会学という学問領域について全体的な知識を得ること、特に、体系的ではなく、さまざまな学問的アプローチをすることが可能であることや、具体的に身近なトピックを通じて、社会と法のかかわり（＝法社会学の関心）をみることができることにより、法社会学の具体的なテーマについて知識と理解を深め、法学全体における基礎的な考え方を修得することを目指す。法社会学という基礎法の学問に親しみ、自身の言葉で法社会学とは何かを語れるようになること。また、各自が個別に検討するテーマを通して、法社会的な論点を見出したりアプローチをとったりすることができるようになること。			
授業の概要			
法社会学の入門的テキスト等を用いて、法社会学とはどのような学問であるか、どのような学問的アプローチが可能であるかについて、担当者を決めて章もしくはテーマごとに報告を行い、全員で討論を行う。			
授業計画			
第1回： 具体的な授業計画（スケジュールや各回の内容）については、第一回の授業時に受講希望者と相談して決定する。特に使用テキストの中で扱うテーマや報告担当に関しては受講希望者の人数や専攻分野等を勘案して決めることとする。			
第1回 「準備学習」で指示したことを自己紹介を兼ねて報告、授業内容について協議・分担割り振り等、スケジュールの確定。			
第2回： 第2回「1章 子どもと法—法と社会の視点から見る児童虐待への対応」の報告・全員でディスカッション。			
第3回： 第3回「2章 教育—いじめ対応の『法化』について考える」の報告・全員でディスカッション			
第4回： 第4回「3章 家族とジェンダー—『私』が『私』であること」の報告・全員でディスカッション			
第5回： 第5回「7章 事故と災害—津波被災訴訟事件が問いかけるもの」の報告・全員でディスカッション			
第6回： 第6回「8章 高齢者—認知症高齢者をどのように支えていくか」の報告・全員でディスカッション			

第7回：第7回「15章 医療と法、生命倫理—安楽死・尊厳死を題材に考える」の報告・全員でディスカッション	
第8回：第8回 前半まとめ（学習の振り返りを含めた意見交換）	
第9回：第9回「19章 裁判を通じた法の形成—裁判官が『法』や『政策』を創る？」の報告・全員でディスカッション	
第10回：第10回「20章 実務法律家と隣接法律専門職—望ましい裁判官の在り方とは」の報告・全員でディスカッション	
第11回：第11回「22章 司法アクセストラブルに直面した際の人々の行動規定要因とは」の報告・全員でディスカッション	
第12回：第12回「23章 ADR（裁判外紛争解決）—原発ADRは紛争にどう向き合うか？」の報告・全員でディスカッション	
第13回：第13回「24章 市民の司法参加—裁判員裁判にはどのような意味があるか」の報告・全員でディスカッション、期末レポート課題の指示	
第14回：第14回「13章 動物—『物』と『人』の間で」の報告・全員でディスカッション	
第15回：第15回 全体まとめ（学習の振り返りを含めた意見交換）	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	飯考行編著『ディスカッション法と社会』（八千代出版、2024年、ISBN978-4-8429-1861-7、2,700円＋税）を使用する予定である。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業への参加度（30%）、担当時の報告（40%）及び期末レポート課題（30%）による総合評価とする。期末レポート課題については講義時に指示した上で、メールまたは学務情報システムの連絡通知機能で周知する。

授業科目名： 法社会学Ⅰ 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田巻 帝子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
法社会学の観点から家族をめぐる法的問題について英語で書かれた論文を読むことにより、何が問題となっているのか、その問題を考える上で重要な視点や論点はなにか、各国に共通するものと地域や文化特性による違いがあるかなど、法や社会のかかわりについて比較法的な観点から探究することで得られる知識や理解を深めることをねらいとしている。また、大学院での学びの一環として、英語で専門分野の文献を読むことに慣れ、語学力を身に着けることもねらいとしている。 抵抗なく英語で文献を読むことができるようになること。また、家族をめぐる法的問題のテーマにおいて、各自がそれぞれの関心に即したトピックについての一定の知識・理解を得ること。さらに、家族を含めた社会や文化、法に関するテーマにおいて比較法的な検討を行う上で必要かつ重要な視座や分析手法などのポイントを理解すること。			
授業の概要			
本授業科目は、家族をめぐる法的問題を法社会的観点から学習するものであり、日本語の文献を基礎資料として知識を補いながら、家族法に関するテーマで英語の論文（雑誌もしくは書籍の章など）を精読する。その際に当該テーマについて受講者間でディスカッションを行う。			
授業計画			
第1回： 第1回「準備学習」で指示したことを自己紹介を兼ねて報告、授業内容について協議・分担割り振り等、スケジュールの確定。導入用テキストの紹介と通読について指示する。 第2回： 第2回 導入テキスト「序論 法社会学とはどのような科目か」分担した内容で報告・全員でディスカッション 第3回： 第3回 導入テキスト「第3章 民事司法過程」分担した内容で報告・全員でディスカッション 第4回： 第4回 導入テキスト「第6章 日本の法と社会」分担した内容で報告・全員でディスカッション 第5回： 第5回 「離婚」に関する英語文献①：分担した内容で報告・全員でディスカッション			

第6回：第6回 「離婚」に関する英語文献②：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第7回：第7回 「離婚時における子の処遇をめぐる問題」に関する英語文献：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第8回：第8回 前半まとめ	
第9回：第9回 「子どもの親権」に関する英語文献①：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第10回：第10回 「子どもの親権」に関する英語文献②：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第11回：第11回 「LGBTQ+当事者とその家族」に関する英語文献①：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第12回：第12回 「LGBTQ+当事者とその家族」に関する英語文献②：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第13回：第13回 「親密圏におけるDVや家庭内暴力」に関する英語文献①：分担した内容で報告・全員でディスカッション、期末レポート課題の指示	
第14回：第14回 「親密圏におけるDVや家庭内暴力」に関する英語文献②：分担した内容で報告・全員でディスカッション	
第15回：第15回 全体まとめ	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	導入日本語文献として、村山眞維・濱野亮『法社会学〔第3版〕』（有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-22124-6、1,700円＋税）を用いる予定である。その上で各受講者の専攻分野を考慮しながら、「法社会学の観点からみた家族をめぐる法的問題」に関する英語論文を随時選択して資料を共有する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業への参加度（30%）、担当時の報告（40%）、期末レポート課題（30%）による総合評価とする。
期末レポート課題については講義時に指示した上で、参加者へのメールや学務情報システムの連絡通知機能を用いて連絡を行う。	

授業科目名： 政治学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲吉 晃
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
政治は、私たちの生活とは縁遠いと思われがちであるが、決してそうではない。私たちは好むと好まざるとにかかわらず、すでに政治に巻き込まれている。本科目では、一見すると政治とは関係ないようにみえる事柄を取り上げ、その事柄と政治との関係を論じた論文を講読し、議論することで、私たちの生活と政治との関係について理解を深めることを目的とする。2025年度のテーマは「動物と政治」である。到達目標は、近現代日本における動物と政治の関係について、自分なりに理解し、説明できること、とする。			
授業の概要			
近現代日本の政治過程を、歴史的アプローチによって理解を深める。			
授業計画			
第1回： 第1回 ガイダンス			
第2回：文献①を通じて、近現代日本における競馬の概観を理解する。			
第3回：文献②を通じて、近現代日本の地域社会における競馬場建設の政治過程を理解する。			
第4回：文献③を通じて、内地と植民地における競馬政策の相違を理解する。			
第5回： 文献④を通じて、軍馬育成政策と地域社会の関係を理解する。			
第6回： 文献⑤を通じて、近現代日本における犬のあり方を概観する。			
第7回： 文献⑥を通じて、「日本犬」がどのように作られたのか理解する。			
第8回： 文献⑦を通じて、近現代日本における軍犬と地域社会の関係を理解する。			
第9回： 文献⑧を通じて、戦後日本における畜犬行政のあり方を理解する。			
第10回： 文献⑨を通じて、近現代日本における牛肉食について理解する。			
第11回： 文献⑩を通じて、牛肉食の普及と、それに呼応した地域社会の変化について理解する。			
第12回： 文献⑪を通じて、牛肉食政策と地域社会の関係を理解する。			
第13回： 文献⑫を通じて、屠場設置の政治過程を理解する。			
第14回： 文献⑬を通じて、近現代日本における動物園のあり方を概観する。			
第15回：文献⑭を通じて、ペットの家族と葬送のあり方の変化について理解する。			
定期試験：			
使用テキスト			
① 杉本竜「大衆娯楽としての競馬」奥須磨子他編著『都市と娯楽』（日本経済評論社、2004			

年)

- ② 杉本竜「三重県下における戦前期地方競馬場の展開」『桑名市博物館紀要』第9号（2012年）
- ③ 山崎有恒「もう一つの首都圏と娯楽」奥須磨子他編著『都市と娯楽』（日本経済評論社、2004年）
- ④ 大瀧真俊「軍馬資源開発と東北馬産」松本武祝編『東北地方「開発」の系譜』（明石書店、2015年）
- ⑤ 志村正幸「明治期日本の犬たち」志村正幸『日本犬の誕生』（勉誠出版、2017年）
- ⑥ 志村正幸「日本犬保存会と天然記念物」志村正幸『日本犬の誕生』（勉誠出版、2017年）
- ⑦ 森田敏彦「軍犬からみた日本の戦争」上・中・下『歴史地理教育』820・821・823号（2014年）
- ⑧ 春藤献一「動物保護管理法の施行に伴う畜犬行政の転」志村正幸編著『動物たちの日本近代』（ナカニシヤ出版、2023年）
- ⑨ 野間万里子「近代日本における肉食受容過程の分析」『農業史研究』第40号（2006年）
- ⑩ 蔣允杰「軍需牛肉缶詰生産と朝鮮」『日韓相互認識』7（2016年）
- ⑪ 佐川徹「「いい肉」とはなにか」菅豊編著『人と動物の日本史3』（吉川弘文館、2009年）
- ⑫ 中村元「一九三〇年代大都市近郊における都市地域社会と「無産」政治勢力」『日本史研究』577（2010年）
- ⑬ 川田健ほか「動物園の歴史学」村田浩一ほか編『動物園学入門』（朝倉書店、2014年）
- ⑭ エルメル・フェルトキャンプ「ペットの家族化」新井尚紀他編『都市の暮らしの民俗学③』（吉川弘文館、2006年）

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 以下の基準により、総合的に判断する。

- ・受講姿勢（発言などの内容） 40%
- ・課題の提出状況およびその水準 60%

授業科目名： 政治学演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲吉 晃
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
政治の最小単位は個人であり、政治を理解するためには個々の政治指導者の内面を理解することが有用である。本科目では、近代日本の政治指導者の伝記の講読を通じて、近代日本の政治指導者を考察し、理解を深める。 本科目の到達目標は、①近代日本の政治指導者の伝記の精読と既存研究の分析とを通じて、自らの見解を構築できる、②伝記の執筆を通じて、論文作成のための文章技術を習得する、の2点におく。				
授業の概要				
本科目では、近現代日本における政治指導者の伝記を読むことに加えて、自らの研究関心に沿った人物の伝記を書いてみることで、近代日本における政治指導について理解を深めるとともに、アカデミック・ライティングのトレーニングを行う。				
授業計画				
第1回： 第1回 ガイダンス				
第2回： 文献①を通じて、大久保利通の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第3回： 文献②を通じて、山県有朋の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第4回： 文献③を通じて、桂太郎の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第5回： 文献④を通じて、大正天皇の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第6回： 文献⑤を通じて、原敬の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第7回： 文献⑥を通じて、後藤新平の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第8回： 文献⑦を通じて、吉田茂の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第9回： 文献⑧を通じて、田中角栄の政治的生涯とパーソナリティを理解する。				
第10回： 各参加者が、それぞれの研究関心に即して伝記を書く人物を選び、その政治的生涯の概観を報告する。				
第11回： 各参加者が、伝記を書くために必要な資料を収集し、その概要を報告する。				
第12回： 各参加者が、伝記を書く際に注目するテーマ（モチーフ）について、報告する。				
第13回： 各参加者が、伝記作成の途中経過を報告する。				
第14回： 各参加者が、伝記作成の途中経過を報告する。				
第15回： 各参加者が、伝記を完成させ、報告する。				

定期試験：		
テキスト		
① 瀧井一博『大久保利通』新潮選書		
② 岡義武『山県有朋』岩波文庫		
③ 千葉功『桂太郎』中公新書		
④ 原武史『大正天皇』朝日選書		
⑤ 清水唯一朗『原敬』中公新書		
⑥ 北岡伸一『後藤新平』中公新書		
⑦ 高坂正堯『宰相吉田茂』中公クラシックス		
⑧ 服部龍二『田中角栄』講談社現代新書		
参考書・参考資料等	適宜指示する	
学生に対する評価	受講姿勢（発言などの内容）	40%
課題の提出状況 60%		

授業科目名： 国際政治史		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 豊隆
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
上記分野の文献・史料を検討することによって、この分野の専門的理解を深めるとともに、研究手法を習得する。上記分野に関する専門的理解を深めるとともに、研究手法を習得する。本科目は大学院科目であり、大学院生は、それぞれの関心を追求するために必要なディシプリン・研究能力を身に付ける必要がある。本科目の目標は、まさにそうした力を身に付けることにある。				
授業の概要				
国際政治史・日本外交史、国際関係論の理論・思想、現代日本外交論、またそれらの周辺分野に関する研究書を講読する。				
授業計画				
第1回：1. イントロダクション				
第2回：国際政治史の技法(1)（史料、使用テキスト：①）				
第3回：国際政治史の技法(2)（分析枠組、使用テキスト：①）				
第4回：国際政治史の技法(3)（一国外交と多国間国際政治、使用テキスト：①）				
第5回：国際政治史の技法(4)（非政治的アプローチ、使用テキスト：①）				
第6回：ナショナリズム(1)（起源、使用テキスト②）				
第7回：ナショナリズム(2)（研究史、使用テキスト②）				
第8回：ナショナリズム(3)（現代とナショナリズム、使用テキスト②）				
第9回：理論と歴史(1)（社会構成主義、使用テキスト③）				
第10回：理論と歴史(2)（ケーススタディ、使用テキスト③）				
第11回：学際的技法(1)（外交史の伝統、使用テキスト④）				
第12回：学際的技法(2)（カルチュラルスタディーズ、使用テキスト④）				
第13回：研究発表（参加者による）				
第14回：研究発表（参加者による）				
第15回：研究発表（参加者による）				
定期試験：リサーチペーパーをレポートとして提出する。				
テキスト 参加者の関心を聞いた上で決定する。例えば、下記のようなものを使用する。				
①Marc Trachtenberg, The Craft of International History: A Guide to Method (Princeton: Prin				

ceton University Press, 2006)

②B. アンダーソン『想像の共同体』（NTT出版、1997年）

③P. カッツェンスタイン『文化と国防』（日本経済評論社、2007年）

④E. サイード『オリエンタリズム』上・下（平凡社、1993

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 授業の中での研究報告・議論などの平常点と、レポートによって評価する。報告を50%、議論を20%、レポート30%とする。

授業科目名： 国際政治史演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 豊隆
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文献・史料を検討することによって、この分野の専門的理解を深めるとともに、研究手法を習得する。			
参加者の関心を踏まえて、その分野の最新の研究動向を理解することを目指すことになる。			
学界の発展に貢献出来るだけの成果を出すことが求められる。本科目も、そのために必要な能力・姿勢を身に付けることが目標である。			
授業の概要			
国際政治史・日本外交史、国際関係論の理論・思想、現代日本外交論、またそれらの周辺分野に関する研究書を講読する。			
授業計画			
第1回： イントロダクション			
第2回： 国際政治思想（1）（現実主義の歴史：古代、使用テキスト①）			
第3回： 国際政治思想（2）（現実主義の歴史：中世、使用テキスト①）			
第4回： 国際政治思想（3）（現実主義の歴史：近代、使用テキスト①）			
第5回： 国際政治思想（4）（現実主義の歴史：現代、使用テキスト①）			
第6回： 東アジア国際政治史（1）（冷戦の始まり、使用テキスト②）			
第7回： 東アジア国際政治史（2）（朝鮮戦争、使用テキスト②）			
第8回： 東アジア国際政治史（3）（戦後中朝関係、使用テキスト②）			
第9回： 日本外交論（1）（冷戦と講和、使用テキスト③）			
第10回： 日本外交論（2）（戦後日本とアジア、使用テキスト③）			
第11回： 日本外交論（3）（安保闘争、使用テキスト③）			
第12回： 日本外交論（4）（経済成長と現実主義、使用テキスト③）			
第13回： 日本外交論（5）（現代の論点、使用テキスト③）			
第14回： 研究発表（参加者による）			
第15回： 研究発表（参加者による）			
定期試験： リサーチペーパーをレポートとして提出する。			
テキスト 参加者の関心を聞いた上で決定する。例えば、下記のようなものを使用する。			
①Jonathan Haslam, No Virtue like Necessity: Realist Thought in International Relations since			

e Machiavelli (New Haven: Yale University Press, 2002)

②沈志華『最後の「天朝」 毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮』上・下（岩波書店、2016年）

③酒井哲哉編『リーディングス 戦後日本の思想水脈1

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 授業の中での研究報告・議論などの平常点によって評価する。報告を50%、議論を50%とする。

授業科目名： 行政学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 健
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
政策サイクルと、サービス提供との関連を理解する。 住民参加と政策過程との関係について、住民と対象者の準同一性、住民の管理可能性という視点から検討する視座を持つ。公共サービスの提供形態とそのおのおのが持つ課題について基礎的な知識を持つことができるようになる。			
授業の概要			
行政学の一分野である都市行政を対象として、都市のマネジメントの諸要素について概説する。			
授業計画			
第1回： 第1回ガイダンス			
第2回： 第2回住民と地方自治			
第3回： 第3回地方自治の組織			
第4回： 第4回住民と公共サービス			
第5回： 第5回組織と公共サービス			
第6回： 第6回財政と公共サービス			
第7回： 第7回公共サービスを巡る住民と行政との関係			
第8回： 第8回政策サイクル			
第9回： 第9回政策評価			
第10回： 第10回公共サービスの提供形態1			
第11回： 第11回公共サービスの提供形態2			
第12回： 第12回公共サービスの提供形態3			
第13回： 第13回ガバメントとガバナンス1			
第14回： 第14回ガバメントとガバナンス2			
第15回：第15回まとめ			
定期試験： インクラスレポートの作成			
テキスト 馬場健・南島和久編著『地方自治入門』（法律文化社、2500円） 武智秀之『行政学』（中央大学出版会） 他			

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	期末レポートによる評価する。

授業科目名： 行政学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 健
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目のねらいは、行政学を構成する制度、政策、管理という枠組みと、その枠組みに基づく個別の要素を、基礎的文献を講読することで習得できるようにすることにあり、その内容を受講者間で深めることにある。行政学の基礎的文献について、各回1冊ずつ取り上げて受講者の一人が報告し、その内容について討論により、行政学の基礎的項目について一通り説明できるようになることを学習の到達目標とする。自ら通読すべき書籍または論文を探することができるようになることも併せて目標とする。			
授業の概要			
本科目は、行政学の基礎的文献について、各回1冊ずつ取り上げて受講者の一人が報告し、その内容について討論により理解を深める輪読形式の演習科目である。さしあたりの参加者が初学者であることを考慮してテキスト欄に挙げた行政学の古典的教科書を輪読し、受講者の理解度をみて、随時テキストの変更を行う。			
授業計画			
第1回： White, PartI Public Administration:Forms and Trends			
第2回： White, PartII Structure and Organization			
第3回： White, Part III Fiscal Management			
第4回： White, Part IV Personnel Management			
第5回： White, Part V Forms of Administrative Action			
第6回： White, Part VI The System of Responsibility			
第7回： Waldo, Part I The Rise of Public Administration			
第8回： Waldo, Part II Problems of Political Philosophy			
第9回： Waldo, Part III Some Fundermental Concepts: A Critique			
第10回： Simon, C.1～C.5 What is Public Administration?			
第11回： Simon, C.6～C.10 Univesality of Adminstration			
第12回： Simon, C.11～C.15 Growth of Administration			
第13回： Simon, C.16～C.20 The Study of Administration			
第14回： Simon, C.21～C.25 Recommendation of "Good Practice"			
第15回：まとめ			

定期試験： インクラスレポートにより実施	
テキスト	White, L. D., An Introduction to the Study of Public Administration, Revised ed., Macmillan, 1938. Waldo, D., The Administrative State, 2nd ed., Holms&Meier, 1984. Simon, H., Thompson, V. and Smithburg, D., Public Administration, (1950), Transaction, 2000.
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	各回の報告（40パーセント） 各回の発言（質疑応答）（30パーセント） 期末レポート（30パーセント） の比率で評価する。

授業科目名： 国際法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺 豊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
国際社会における様々な事象は、各国の政治・経済・社会における影響を多く与えることになる。そのような国際社会と国内社会の連関を身につける必要があることから、国際社会に関する法的な知見に関する理解の習得と、汎用的スキルとしての現代国際社会を理解する上での視座を獲得することを目指す。国際法上の議論に関する十分な理解及び必要な語学力を修得すること、並びに法学に関する高度な専門知識及び与えられた課題を調査し、探究することができる能力を修得すること。			
授業の概要			
社会をグローバルでダイバーシティのあるものとしてとらえ、他者を尊重しながら独自の見解や立場を構築しようとする姿勢を備えられるように、国際的な事象について法的観点から検討する知見を身につけさせる。			
授業計画			
第1回： Introduction: main features of international community and historical evolution [イントロダクション：国際社会の主要な特徴及びその歴史的展開]			
第2回： International lawmaking process and normative hierarchy [国際法形成過程及び規範の階層関係]			
第3回： Law of treaties [条約法]			
第4回： Ccreation of States and State sovereignty [国家の形成及び国家主権]			
第5回： State Immunity [国家免除]			
第6回： International Organisations [国際組織]			
第7回： Individuals, peoples, enterprises [個人、人民、企業]			
第8回： International Human Rights Law [国際人権法]			
第9回： International Criminal Law [国際刑事法]			
第10回： International Economic Law [国際経済法]			
第11回： International Environmental Law [国際環境法]			
第12回： Law of State Responsibility [国家責任法]			
第13回： Peaceful settlements of international disputes [紛争の平和的解決]			
第14回： Maintenance of peace in international community [国際社会における平和の維持]			

第15回：International Humanitarian Law [国際人道法]	
定期試験：学期末レポート作成	
テキスト	Paola Gaeta, Jorge E. Viñuales, and Salvatore Zappalá, <i>Cassese's International Law</i> (Third Edition), Oxford University Press, 2020. 国際司法裁判所の判決については、 icj-cij.org にて入手可能である。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	講義中の事例発表（50％）、学期末レポート（50％）

授業科目名： 国際法演習		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 渡辺 豊	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項					
授業のテーマ及び到達目標							
国際人権法に関係する現代的課題について、日本語・外国語（英語、フランス語）文献を購読する。演習を通じて、受講者は国際人権法の諸側面に関する基本的な知識を習得し、かつ外国語の運用能力を向上させることを目指す。現代国際社会における人権にまつわる議論を理解し、それに基づく議論の意味を理解できるようになる。							
授業の概要							
国際人権法に関係する現代的課題について、文献・事例を読み進める。それにより、現代国際社会の様々な側面を理解できるようにする。							
授業計画							
第1回： イントロダクション、担当の割り振り							
第2回： 国際人権の基礎的文献講読（1）国際人権法の歴史的展開の検討							
第3回： 国際人権の基礎的文献講読（2）国連人権理事会の実施措置の検討							
第4回： 国際人権の基礎的文献講読（3）国連人権条約の実施措置の検討							
第5回： 国際人権の基礎的文献講読（4）地域人権条約の実施措置の検討							
第6回： 国際人権の基礎的文献講読（5）人権の世代論についての検討							
第7回： 国際人権の基礎的文献講読（6）人権と他分野との関係についての検討							
第8回： 国際人権の事例分析（1）自由権規約委員会・個人通報の検討							
第9回： 国際人権の事例分析（2）自由権規約委員会・個人通報の検討（前回の続き）							
第10回： 国際人権の事例分析（3）女性差別撤廃委員会・個人通報の検討							
第11回： 国際人権の事例分析（4）人種差別撤廃委員会・個人通報の検討							
第12回： 国際人権の事例分析（5）障害者の権利委員会・個人通報の検討							
第13回： 国際人権の事例分析（6）ヨーロッパ人権裁判所の判例の検討							
第14回： 国際人権の事例分析（7）米州人権裁判所の判例の検討							
第15回： 国際人権の事例分析（8）国際司法裁判所の判例の検討							
定期試験： 学期末レポート作成							
テキスト 講義開講時に事例・文献のリストを配布し、学生の興味関心に沿って発表を割り振る。							
参考書・参考資料等 適宜指示する							
学生に対する評価 講義中の発表（50%）、学期末レポート（50%）							

授業科目名： 情報法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 正朝
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
デジタル社会を背景として情報法、なかでもデータ保護法の必要性が増しており、特に立法政策を支える理論的基礎の探究が課題となっている。従来の文書管理法制や守秘法制や財産法制と異なるデータ保護法制の特質を知ることは、今後の企業活動や、立法政策に関与する公務員としての必要な知識やスキルとなる。本科目は、以上のような背景から、情報法に関する系統的な理解の修得と、汎用的スキルとして個人情報保護法の企業対応及び公務員としてのデータ関連政策の立案に際する基礎知識を習得できることを目指す。個人情報保護委員会のガイドライン等を基礎に個人情報保護法の企業対応の実務を修得する 教育データを活用してGIGAスクール政策における個別最適化アルゴリズムやこども見守り政策としてのいわゆる毒親推定アルゴリズムの適切性評価など、事例を踏まえて、個人データを用いた行政・自治体DXにおける個人情報保護法上の留意点を説明することができる。 個人データ保護法制の理論的基礎を説明することができる			
授業の概要			
情報行政法、情報法という新領域法学、発展科目に区分される。憲法学上のプライバシー権、公文書管理法、情報公開法、個人情報保護法をEU法等の比較もしながら学習する。 なお本科目は、企業法務、及び経済産業省等政府の委員や有識者として、JIS Q 15001の起案、プライバシーマーク制度の創設、個人情報保護ガイドラインの作成、個人情報保護法の改正、マイナンバー制度創設に関与してきた経験を有する教員が、それ活かして個人情報保護法の解釈論と企業対応、及び立法論について授業を行う。			
授業計画			
第1回： ガイダンス			
1. 情報法の体系			
(1) 文書管理法制			
(2) 守秘法制			
(3) 情報財産法制			
(4) データ保護法制			
2. 個人情報保護法制の体系			

第2回：個人情報保護法の目的と定義、及び理念

(総則)

第1条～第3条

第3回：1. 国と地方公共団体の個人情報保護

(国及び地方公共団体の責務等)

第4条～第6条

(個人情報の保護に関する施策等)

第7条～第15条

*いわゆる「個人情報保護法制2000個問題」と公民一元化について

2. 個人情報保護委員会

第130条～第170条

(雑則)

第171条～第175条

第4回：個人情報取扱事業者の義務 1

(総則)

第16条

(利用目的)

第17条～第22条

*利用目的管理について

- ・定型約款との関係

第5回：個人情報取扱事業者の義務 2

(安全管理)

第23条～第26条

(第三者提供)

第27条～第31条

(越境データ)

第28条

*十分性認定

*日米欧DFFT政策

第6回：（個人関連情報）

31条

*Cookie問題

(開示等請求権)

第32条～第39条

(苦情処理)

第40条

第7回： 1. 仮名加工情報取扱事業者の義務

第41条～第42条

2. 匿名加工情報取扱事業者等の義務

(匿名加工情報)

第43条～第46条

* 記名式Suica履歴データ提供事件

* 医療データの利活用と仮名加工医療情報、匿名加工医療情報について

一次世代医療基盤法とEHDS

第8回： 行政機関等の義務 1

(総則)

第60条

(行政機関における個人情報の取扱い)

第61条～第73条

第9回： 行政機関個人情報保護法 2

(個人情報ファイル)

第74条～第75条

(開示)

第76条～89条

第10回： 行政機関個人情報保護法 2

(訂正及び利用停止)

第89条～103条

(審査請求)

第104条～107条

(条例との関係)

第108条

第11回： 行政機関個人情報保護法 3

(行政機関等匿名加工情報の提供等)

第109条～第123条

(雑則)

第124条～第129条

第12回： 罰則

第176条～第185条

第13回： 1. 個人情報保護法の3年ごと見直しと立法政策

*教育データとGIGAスクール政策と個人情報保護法

*こどもの見守り政策と個人情報保護法

第14回： 1. 憲法学上のプライバシーの権利

2. 不法行為法上のプライバシー侵害

第15回：個人情報保護法の企業対応

*プライバシーテック

*プライバシーバイデザイン

*パーソナルデータ・インパクト・アセスメント（PDIA）

定期試験： 期末試験を実施

テキスト 学務情報システムを通じて、事前にPDFで講義資料を配付する。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 論文式の試験で評価する

授業科目名： 情報法演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 正朝
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
デジタル社会を背景として情報法、なかでもデータ保護法の必要性が増しており、特に立法政策を支える理論的基礎の探究が課題となっている。従来の文書管理法制や守秘法制や財産法制と異なるデータ保護法制の特質を知ることは、今後の企業活動や、立法政策に関与する公務員としての必要な知識やスキルとなる。本科目は、以上のような背景から、情報法に関する系統的な理解の修得と、汎用的スキルとして個人情報保護法の企業対応及び公務員としてのデータ関連政策の立案に際する基礎知識と実務の基礎を習得できることを目指す。個人情報保護委員会のガイドライン等を基礎に個人情報保護法の企業対応の実務を修得する。 教育データを活用してGIGAスクール政策における個別最適化アルゴリズムやこども見守り政策としてのいわゆる毒親推定アルゴリズムの適切性評価など、事例を踏まえて、個人データを用いた行政・自治体DXにおける個人情報保護法上の留意点を説明することができる。 個人データ保護法制の理論的基礎を説明することができる。 プライバシー侵害の判例評釈ができる。			
授業の概要			
情報行政法、情報法という新領域法学、発展科目に区分される。個人情報保護法の実務対応、憲法学上のプライバシー権及び民法不法行為法上のプライバシー侵害の判例評釈を演習形式で学習する。 なお本科目は、企業法務、及び経済産業省等政府の委員や有識者として、JIS Q 15001の起案、プライバシーマーク制度の創設、個人情報保護ガイドラインの作成、個人情報保護法の改正、マイナンバー制度創設に関与してきた経験を有する教員が、それ活かして個人情報保護法の解釈論と企業対応、及び立法論について授業を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス。課題の説明、分担者の決定、演習の運営について			
第2回：従来の文書管理法制・守秘法制・財産法制			
第3回：従来の文書管理法制・守秘法制・財産法制の問題に関するディスカッション			
第4回：データ保護法制の特質			
第5回：データ保護法制の問題に関するディスカッション			
第6回：プライバシーマーク制度とJIS Q 15001			

第7回：データ保護の問題

第8回：個人情報保護法の実務対応の問題に関するディスカッション

第9回：憲法学上のプライバシー権

第10回：マイナンバー制度

第11回：憲法学上のプライバシー権に関するディスカッション

第12回：民法不法行為法上のプライバシー侵害の判例評釈・事例1

第13回：民法不法行為法上のプライバシー侵害の判例評釈・事例2

第14回：民法不法行為法上のプライバシー侵害の問題に関するディスカッション

第15回：全体のまとめとディスカッション

定期試験：課題レポート提出による

テキスト 学務情報システムを通じて事前に課題及び講義資料を配付する。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 課題レポート（パワーポイント）50%

プレゼンテーション20%

授業中のディスカッションでの発言30%

授業科目名： 民法I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 滉起
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
法学研究を行うにあたっては、法的・社会的な問題状況に対し、自らの問題意識を明確にし、従来の先行研究の成果を批判的に検討した上で、新たな視角や知見を加えることが求められる。すなわち、優れた研究成果を生み出す「良き書き手」になるには、「良き読み手」であることが前提条件となる。本授業では、先行する研究成果を読解する作業を重ねることによって、テキストがどのように編まれているのかを理解し、自分でテキストを編むことができるようになるための準備を行う。法学の専門的なテキストの構造や要点を把握できるようになること。テキストを理解するための背景知識を調査することができるようになること。テキストを内在的に理解した上で外在的な批判を加えることができるようになること。			
授業の概要			
民法学の古典的著作を精読することを通じて、民法学の研究に必要な基礎体力を身に付ける。現時点では、川島武宜『新版 所有権法の理論』（岩波書店、1987）を予定している。			
授業計画			
第1回： 第1回：文献の案内、報告の仕方に関する案内			
第2回： 第一章の講読。履修者による報告と議論。			
第3回： 第二章（1，2）の講読。履修者による報告と議論。			
第4回： 第二章（3，4）の講読。履修者による報告と議論。			
第5回： 第三章（1，2）の講読。履修者による報告と議論。			
第6回： 第三章（3，4）の講読。履修者による報告と議論。			
第7回： 第四章（一1，2）の講読。履修者による報告と議論。			
第8回： 第四章（一3，4）の講読。履修者による報告と議論。			
第9回： 第四章（一1，2）の講読。履修者による報告と議論。			
第10回： 第四章（二1，2）の講読。履修者による報告と議論。			
第11回： 第四章（二3，4）の講読。履修者による報告と議論。			
第12回： 第四章（二5，6）の講読。履修者による報告と議論。			
第13回： 第五章（1，2，3）の講読。履修者による報告と議論。			
第14回： 第五章（4，5）、「解題」の講読。履修者による報告と議論。			

第15回：総括。履修者による報告と議論。

定期試験：

テキスト 川島武宜『新版 所有権法の理論』（岩波書店、1987）。附属図書館で貸出を受けることが可能だが、岩波オンデマンドブックス版（ISBN978-4-00-730326-5）であれば現在でも購入することができる。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 毎回の報告や資料の内容50%、報告後の質疑応答50%

授業科目名： 民法I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 滉起
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
法学研究を行うにあたっては、法的・社会的な問題状況に対し、自らの問題意識を明確にし、従来の先行研究の成果を批判的に検討した上で、新たな視角や知見を加えることが求められる。すなわち、優れた研究成果を生み出す「良き書き手」になるには、「良き読み手」であることが前提条件となる。本授業では、先行する研究成果を読解する作業を重ねることによって、テキストがどのように編まれているのかを理解し、自分でテキストを編むことができるようになるための準備を行う。本演習では、履修者の関心に従って、テキストの選択・報告を行って頂く。法学の専門的なテキストの構造や要点を把握できるようになること。テキストを理解するための背景知識を調査することができるようになること。テキストを内在的に理解した上で外在的な批判を加えることができるようになること。			
授業の概要			
民法学の古典的著作を精読することを通じて、民法学の研究に必要な基礎体力を身に付ける。研究目的に応じて、テキストの選択・分析を行う。			
授業計画			
第1回： 文献の案内、報告の仕方に関する案内			
第2回： 履修者の問題意識に関する報告①			
第3回： 履修者の研究方法に関する報告②			
第4回： 先行研究の分析①			
第5回： 先行研究の分析②			
第6回： 先行研究の分析③			
第7回： 重要判例の分析①			
第8回： 重要判例の分析②			
第9回： 重要判例の分析③			
第10回： 外国法の分析①			
第11回： 外国法の分析②			
第12回： 外国法の分析③			
第13回： 外国法の分析④			

第14回：論文執筆に向けた報告	
第15回：総括（最終報告と議論）	
定期試験：	
テキスト	教員は指定せず、履修者の研究に応じて選択する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	毎回の報告や資料の内容50%、報告後の質疑応答50%

授業科目名： 民法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上山 泰
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代社会はそれぞれに異なる利益を追求する多数のアクターによって構成されている。これらアクターの行為は複雑かつ密接に絡み合っており、他のアクターにも大きな影響を与えることになる。このため、ときに集団的意思決定を通じて、利害の対立する各アクター間の利益調整を図る必要が生じることとなる。この典型かつ最も重要な場面が国会における立法手続きである。本科目では、民法に関する近時の最大の法改正作業であった債権法改正の一連の過程を対象として、個別具体的な特定の争点に焦点を当てて詳細に分析することによって、現実の立法過程において、種々のアクターがどのような利益を主張し、これが審議等の交渉過程を通じて、どのように調整され、民法の新しい規定に結実していったかを学んでいく。こうした分析を通じて、私法の一般法という性質から、社会のすべての人の利害にかかわる民法典のルールが、いかなるタイプの法的紛争をいかなる形で解決しようとしているかを深く理解することを目指す。併せて、現代社会における利害調整や集団的意思決定の在り方を具体的に学ぶとともに、これに伴うスキルを身に着けることを目指す。・債権法改正の現代的な意義を理論的に説明できる。 ・債権法改正の過程において、どのような当事者間において、どのような利害対立があり、それがどのように調整されたかについて説明できる。 ・債権法改正の対象となった重要論点を分析することで、わが国の民法の基本的な構造をより深く理解する。 ・現代的な法政策課題を検討することで、現実の社会的なニーズを、法解釈や立法政策にどのように反映させるべきかを理解する。 ・社会の様々な場面で生じる利害調整や集団的意思決定に関するスキルを身に着ける。 ・担当テーマに関する報告を通			
授業の概要			
法律学の中核的科目の1つである民法のなかの債権法領域を対象として、2017年の債権法改正を主たる素材として、法解釈学と立法論の双方の視点から総合的な考察をおこなう科目である。			
授業計画			
第1回： 第1回 ガイダンス及び報告担当テーマの決定			

まず参加希望者と合議の上で、各自の報告テーマの詳細を決定する。テーマは2020年に施行された改正民法の諸制度の中から関心のあるものを選択してもらう。次回以降は、各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

授業全体の基本的な進行は以下の通りであるが、履修者の人数等によって変更することがある。

第2回：第2回 各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第3回：第3回 各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第4回：第4回 各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第5回：第5回 各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第6回：第6回 報告の中間まとめ（1）

これまでの各自の報告の要点と今後のリサーチ等に関する課題点を挙げてもらい、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。

第7回：第7回 報告の中間まとめ（2）

前回の指導を踏まえた上で、これまでの各自の報告の要点と今後のリサーチ等に関する課題点を再度挙げてもらい、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。

第8回：第8回 各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第9回：第9回 各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第10回：第10回 各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第11回：第11回 各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第12回：第12回 各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第13回：第13回 各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者全員で行う。

第14回：第14回 報告の最終とりまとめと期末レポートの構成作り

これまでの各自の報告の要点と期末レポートの基本的な構想を確認し、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。

第15回：第15回 期末レポートの作成指導

期末レポートの草稿をたたき台として、脚注付与の仕方などの技術的な指摘を含め、期末レポートの完成に向けた個別指導をおこなう。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 基本文献として、潮見佳男『民法(債権関係)の改正法の概要』（きんざい、2017年）、中田裕康ほか『講義債権法改正』（商事法務、2017）、大村敦志・道垣内弘人編『解説 民法（債権法）改正のポイント』（有斐閣、2017）、筒井健夫・村松秀樹編『一問一答 民法（債権関係）改正』（商事法務、2018）を使用するほか、法制審議会議事録（法務省のサイトで取得できるほか、商事法務より資料集として刊行されている）等の各種立法資料を参照する。なお、議事録は大部であるため、各自の報告テーマが決定した時点で、個別に対象となる

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 各回における報告の内容50%、授業参加の積極性（他の報告者及び担当教員との質疑応答の内容等）20%、及び、期末レポート30%で評価する。

授業科目名： 民法Ⅱ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上山 泰
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
財産法と家族法の双方に規定が置かれている成年後見制度を考察することで、わが国の法体系の基盤である民法典の基本的な構造や体系を理解する。また、認知症高齢者等の判断能力不十分者の権利擁護という、現代的な法政策課題を検討することで、現実の社会的なニーズを、法解釈や立法政策にどのように反映させるべきかを学ぶ。さらに、こうした考察を通じて、少子高齢化が極端に進行した現在の日本社会の実情に呼応する形で、私法の一般法である民法における「人」の位置づけ直しという重大な理念的課題が生じていることを理解する。これを踏まえて、広く社会福祉政策全体の中で私法が果たしうる機能（民法と社会福祉法制との協働等）について考察をしていく。 ・わが国の民法典の基本的な構造や体系を説明できる。 ・少子高齢化の進行したわが国において、認知症高齢者等の判断能力不十分者の権利擁護について、どのような法政策上の課題があるかを説明できる。 ・社会福祉政策等の大きな政策課題の中で、私法の一分野である民法が果たしうる機能について具体的な例を挙げて説明できる。 ・現実の社会的なニーズと法律とのギャップがある場合について、どのような対応がありえるか説明できる。 ・担当テーマに関する報告を通じて、法的問題を学術的に分析できる。			
授業の概要			
法律学の中核的科目である民法における成年後見法領域を素材として、法解釈学と立法論の両面の視点から総合的な考察をおこなう。成年後見法については、政府の第2期成年後見制度利用促進基本計画に基づき、令和6年より担当教員も委員として参画している法制審議会において法改正の議論が進められていることから、解釈論による制度運用の限界を踏まえて、いかなる形で立法作業を進めるかについて、実際の立法資料等も用いながら演習を行う。			
授業計画			
第1回： ガイダンス及び報告担当テーマの決定			
まず参加希望者と合議の上で、各自の報告テーマの詳細を決定する。本年度のテーマは、法制審議会民法（成年後見等関係）部会の主要な審議項目に関する論点の中から関心のあるテーマを選択してもらう。 次回以降は、各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議			

を授業参加者全員で行う。

授業全体の基本的な進行は以下の通りであるが、履修者の人数等によって変更することがある。

第2回：各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ-1）

各自の担当テーマについて報告をしてもらう。

第3回：各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ-2）

第2回における報告に基づき、討議を授業参加者員で行う。

第4回：各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ-3）

第3回の授業内容を踏まえ、報告者及び参加者による討議を行う。

第5回：各担当者による報告と参加者による討議（第1ステージ-4）

各自の担当テーマについて報告をしてもらい、その後、この報告に基づく討議を授業参加者員で行う。

第6回：報告の中間まとめ（1）

これまでの各自の報告の要点と今後のリサーチ等に関する課題点を挙げてもらい、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。

第7回：報告の中間まとめ（2）

前回の中間まとめの課題点を踏まえた上で、今後のリサーチ等に関する課題点を再度挙げてもらい、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。

第8回：各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ-1）

各自の担当テーマについて報告をしてもらう。

第9回：各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ-2）

第8回における報告に基づく討議を授業参加者員で行う。

第10回：各担当者による報告と参加者による討議（第2ステージ-3）

第9回の授業の進捗を踏まえ、報告者及び参加者による討議。

第11回：前回までの授業を踏まえ、最終の報告書のとりまとめ準備を行う。

第12回：最終報告書の進捗並びに参加者同士による討議。

第13回：報告の最終とりまとめ

第14回：期末レポートの構成作り

これまでの各自の報告の要点と期末レポートの基本的な構想を確認し、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。

第15回：期末レポートの作成指導

期末レポートの草稿をたたき台として、脚注付与の仕方などの技術的な指摘を含め、期末レポートの完成に向けた個別指導をおこなう。

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 上山泰『専門職後見人と身上監護（第3版）』（民事法研究会、2015）、小林昭彦ほ

か『新成年後見制度の解説（改訂版）』（きんざい、2017）、松原正明ほか『実務成年後見法』（勁草書房、2020）を用いる。そのほか、法務省のサイトで公表されている法制審議会民法（成年後見等関係）部会の資料等を参照してもらう（詳細は授業初回時に指示する）。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 各回における報告の内容50%、授業参加の積極性（他の報告者及び担当教員との質疑応答の内容等）20%、及び、期末レポート30%で評価する。

授業科目名： 民法Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 明彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
民事要件事実論に関する論文・書籍、これに関する判例を幅広く購読することによって、要件事実の民事訴訟上の機能についての理解を深めるとともに、要件事実の具体的な論点を持つ紛争解決上の意義を学ぶ。(1)民事要件事実の考え方の基礎と民事訴訟法上の機能を修得する。(2)民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係を理解する。 民事要件事実の論点の紛争解決上の意義を理解する。 それらの文献・判例を収集し理解することができる。			
授業の概要			
民事要件事実論に関する論文・書籍、これに関する判例を基礎的なものから応用に至るまで幅広く講読する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、担当の決定等			
第2回：売買契約の要件と紛争解決上の機能について（その1）。			
第3回：売買契約の要件と紛争解決上の機能について（その2）。			
第4回：消費貸借契約と紛争解決上の機能について。			
第5回：保証契約の要件と紛争解決上の機能について。			
第6回：賃貸借契約の要件と紛争解決上の機能について（その1）。			
第7回：賃貸借契約の要件と紛争解決上の機能について（その2）。			
第8回：前期のまとめ、振り返り			
第9回：請負契約の要件と紛争解決上の機能について。			
第10回：委任契約の要件と紛争解決上の機能について。			
第11回：土地所有権制度の紛争解決上の機能について（その1）。			
第12回：登記制度の紛争解決上の機能について（その2）。			
第13回：不当利得の要件と紛争解決上の機能について。			
第14回：不法行為の要件と紛争解決上の機能について。			
第15回：講義振り返り			
定期試験：定期試験は実施しない			
テキスト	特になし		

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	発表70%、議論における発言30%。

授業科目名： 民法Ⅲ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 明彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
民法Ⅲで学んだ民事要件事実の民事訴訟上の機能と要件事実の具体的な論点を持つ紛争解決上の意義を踏まえて、修士論文執筆に向けて、各自の研究テーマについて、その意義や問題の所在を明らかにすることを目的とする(1)各自の研究テーマを選定すること。 (2)各自の研究テーマに関する先行研究を収集・要約すること。 先行研究に対して各自の研究テーマの独自性や意義をどこに求めるのかを明確にすること。			
授業の概要			
民法Ⅲの受講を踏まえて、修士論文の執筆に向けて、各自の研究テーマを決定し、かつ、個別報告による検討を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、担当の決定等 第2回：売買契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について（その1）。 第3回：売買契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について（その2）。 第4回：消費貸借契約と紛争解決上の機能に関する論点の探求について。 第5回：保証契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について。 第6回：賃貸借契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について（その1）。 第7回：賃貸借契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について（その2）。 第8回：前期のまとめ、振り返り 第9回：請負契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について。 第10回：委任契約の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について。 第11回：土地所有権制度の紛争解決上の機能に関する論点の探求について（その1）。 第12回：登記制度の紛争解決上の機能について（その2）。 第13回：不当利得の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について。 第14回：不法行為の要件と紛争解決上の機能に関する論点の探求について。 第15回：講義振り返り 定期試験：定期試験は実施しない			
テキスト	特に指定しない		
参考書・参考資料等	適宜指示する		

学生に対する評価	発表70%、議論における発言30%。

授業科目名： 刑法I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田寺 さおり
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
刑法総論・各論に関する知識を前提としつつ、我々を取り巻く経済活動のうち、いかなるものが「逸脱行動」として刑事的規制の対象となるのかを理解することで、刑罰の意義及び限界を具体的に把握するとともに、経済活動を合理的に規制する手段としての刑罰のあり方について模索する。 ①刑法と経済刑法の違いを理解すること。 ②経済刑法の体系を理解すること。 ③経済犯罪についての知見を得ることを通じて、経済活動に対する規制のあり方について合理的な判断ができるようになること。			
授業の概要			
経済刑法の入門的テキスト等を用いて、経済刑法とはどのような学問か、様々な経済犯罪を抑止あるいは制裁するためにはどのようなアプローチが最適かを検討する。			
授業計画			
第1回： ガイダンス（授業内容とスケジュールの確認・決定）			
第2回： 総論① 経済刑法とは何か			
第3回： 総論② 経済刑法における制裁、法人処罰			
第4回： 競争刑法（市場機能の保護）① 独占禁止法			
第5回： 競争刑法（市場機能の保護）② 金融商品取引法			
第6回： 競争刑法（市場機能の保護）③ 金融商品取引法			
第7回： 第1～6回までのまとめ			
第8回： 企業活動の保護① 会社法罰則			
第9回： 企業活動の保護② 企業の名誉・自由・秘密の保護			
第10回： 企業活動の保護③ 企業の財産の保護			
第11回： 消費者刑法① 無限連鎖講			
第12回： 消費者刑法② 高金利罪			
第13回： 租税刑法			
第14回： 補助金詐欺			
第15回： 全体のまとめ＋「期末レポート」			

定期試験： 定期試験は実施しない	
テキスト	使用テキストは、受講希望者の専攻分野や興味関心を勘案して扱うテーマを決定してから指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業への参加度（30%）、報告やレポート課題（70%）による総合評価とする。

授業科目名： 刑法I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田寺 さおり
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
「刑法I」で得た我が国の経済刑法の知識を前提として、諸外国での経済刑法をめぐる状況を理解し、我が国との比較を行う。また、英語で専門分野の文献を読むことに慣れる。			
①諸外国における経済刑法の在り方を理解すること。			
②我が国における経済刑法の在り方と諸外国の在り方との異同を理解すること。			
③英語論文を読む作法を身につけること。			
授業の概要			
経済刑法に関する英語論文を精読し、当該テーマについて討論を行う。			
授業計画			
第1回： ガイダンス（授業内容とスケジュールの確認・決定）			
第2回： 総論① 経済刑法とは何か			
第3回： 総論② 経済刑法の保護法益は何か			
第4回： 総論③ 財産犯との異同			
第5回： 総論④ 経済刑法における制裁			
第6回： 総論⑤ 英米法における法人処罰			
第7回： 総論⑥ 大陸法における法人処罰			
第8回： 第1～7回までのまとめ			
第9回： 不正な取引制限の罪①			
第10回： 不当な取引制限の罪②			
第11回： 不当な取引制限の罪③			
第12回： インサイダー取引の罪①			
第13回： インサイダー取引の罪②			
第14回： インサイダー取引の罪③			
第15回： 全体のまとめ＋「期末レポート」			
定期試験： 定期試験は実施しない			
テキスト	使用テキストは、受講希望者の専攻分野や興味関心を勘案して扱うテーマを決定してから指示する。		

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業への参加度（30%）、報告やレポート課題（70%）による総合評価とする。

授業科目名： 労働法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木南 直之
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
労働法上の諸問題を研究し、論文作成につなげることを目的とする。 また、労働法に関し幅広い素養を修得するために、受講生同士での討論を通じ理解を深めることも目的とする。修士号を取得するため、自らの研究計画に即した分野については、自ら検討した内容を講義において報告し議論ができることが目標となる。 また、他の受講生の報告についても、討論に参加し、労働法の幅広い素養を修得することも目標となる。			
授業の概要			
労働法上の諸問題について、報告及び討論を行う。 具体的には、各受講生が、自らの研究計画に即し、興味関心がある諸問題について、講義において報告し、他の受講者はそれについて討論を行う。 ただし、受講生が労働法の初学者である場合には、受講者は、労働法上の諸問題の問題提起のみを行い、講師がそれに対して講義する形式で行うことがある。			
授業計画			
第1回： ガイダンス・打ち合わせ			
第2回： 労働基準法関連の報告・講義			
第3回： 労働基準法関連の報告・講義（第2回授業を踏まえての補足を含む。）			
第4回： 労働基準法関連の報告・講義・まとめ			
第5回： 労働契約法関連の報告・講義			
第6回： 労働契約法関連の報告・講義（第5回授業を踏まえての補足を含む。）			
第7回： 労働契約法関連の報告・講義・まとめ			
第8回： 労働組合法関連の報告・講義			
第9回： 労働組合法関連の報告・講義（第8回授業を踏まえての補足を含む。）			
第10回： 労働組合法関連の報告・講義・まとめ			
第11回： その他労働関係諸法関連の報告・講義			
第12回： その他労働関係諸法関連の報告・講義（第12回授業を踏まえての補足を含む。）			
第13回： その他労働関係諸法関連の報告・講義・まとめ			
第14回： 総括的報告・講義			

第15回：まとめ	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	ガイダンス時に指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	講義の場における受講生の報告及び討論の内容により決定する(100%)ものとする。

授業科目名： 労働法演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木南 直之
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
労働法上の諸問題を研究し、論文作成につなげることを目的とする。 また、労働法に関し幅広い素養を修得するために、受講生同士での討論を通じ理解を深めることも目的とする。修士号を取得するため、自らの研究計画に即した分野については、自ら検討した内容を講義において報告し議論ができることが目標となる。 また、他の受講生の報告についても、討論に参加し、労働法の幅広い素養を修得することも目標となる。			
授業の概要			
労働法上の諸問題について、判例等を踏まえたうえで、報告及び討論を行う。 具体的には、各受講生が、自らの研究計画に即し、興味関心がある諸問題について、演習において報告し、他の受講者はそれについて討論を行う。報告は、判例等を踏まえて実践的な内容になるよう努めるものとする。 ただし、受講生が労働法の初学者である場合には、受講者は、労働法上の諸問題の問題提起のみを行い、講師がそれに対して講義する形式で行うことがある。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・打ち合わせ			
第2回：労働基準法関連の報告・講義			
第3回：労働基準法関連の報告・講義（第2回目の授業を踏まえての補足説明含む。）			
第4回：労働基準法関連の報告・講義・まとめ			
第5回：労働契約法関連の報告・講義			
第6回：労働契約法関連の報告・講義（第5回目の授業を踏まえての補足説明含む。）			
第7回：労働契約法関連の報告・講義・まとめ			
第8回：労働組合法関連の報告・講義			
第9回：労働組合法関連の報告・講義（第8回目の授業を踏まえての補足説明含む。）			
第10回：労働組合法関連の報告・講義・まとめ			
第11回：その他労働関係諸法関連の報告・講義			
第12回：その他労働関係諸法関連の報告・講義（第11回目の授業を踏まえての補足説明含む。）			
第13回：その他労働関係諸法関連の報告・講義・まとめ			

第14回：総括的報告・講義	
第15回：まとめ	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	なし
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	講義の場における受講生の報告及び討論の内容により決定する(100%)ものとする。

授業科目名： 商法I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内田 千秋
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の経済社会において会社は重要な存在であり、会社法に関する理解は欠かせない。本授業では、会社法の基本的な知識を正確に習得すること、会社法上の伝統的な論点および近時の議論動向に関する理解を深めること、レジュメの作成を通じてより論理的な文章を作成し、法律文献の引用を適切に行うこと、授業での議論を通じて法学的な思考方法・議論の仕方に親しむことを目指す。 ・会社法の基本的な考え方および制度概要について説明することができる。 ・会社法上の論点について判例・学説の状況を説明することができる。 ・会社法の近時のトピックについて説明することができる。 ・法学分野に適した論理的な文章を作成することができる。 ・法律文献の引用を適切に行うことができる。 ・法学分野の議論において、説得的な根拠を示すことができる。			
授業の概要			
本授業では、商法のうち主に会社法について取り扱う。会社法は、会社の機関、株式・資金調達、組織再編等に関する詳細なルールを定めており、会社をめぐる利害関係者の利害を調整することを目的としている。受講者のこれまでの学修状況によるが、本授業では、①会社法の教科書を輪読し、時間があれば、②近時の会社法のトピックスを検討する。報告者がレジュメを作成し、他の者は議論に参加する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 授業概要を説明したのち、使用テキスト、報告日程および各自の分担箇所を決定する。			
第2回：報告① 各自の分担箇所（会社法総論）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。			
第3回：報告② 各自の分担箇所（株式（1）株主の権利）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。			
第4回：報告③ 各自の分担箇所（株式（2）株式の譲渡）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。			
第5回：報告④ 各自の分担箇所（機関（1）株主総会）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。			

第6回：報告⑤ 各自の分担箇所（機関（2）取締役・取締役会）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第7回：報告⑥ 各自の分担箇所（機関（3）監査役等）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第8回：第8回 中間まとめ 受講者が報告①～報告⑥の内容を十分に把握・理解できたかを確認する。

各受講者に報告⑦以降の準備状況を報告してもらう。

報告①～⑥に関連する会社法のトピックについて議論する。

第9回：報告⑦ 各自の分担箇所（計算）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第10回：報告⑧ 各自の分担箇所（資金調達（1）募集株式の発行等）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第11回：報告⑨ 各自の分担箇所（資金調達（2）新株予約権・社債）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第12回：報告⑩ 各自の分担箇所（設立）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第13回：報告⑪ 各自の分担箇所（組織再編（1）合併・会社分割）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第14回：報告⑫ 各自の分担箇所（組織再編（2）株式交換等）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

第15回：報告⑬ 各自の分担箇所（敵対的買収防衛策）について報告してもらい、その後、受講者全員で議論を行う。

定期試験：まとめ 受講者が報告⑦～報告⑬の内容を十分に把握・理解できたかを確認する。

報告⑦～報告⑬に関連する会社法のトピックについて議論する。

テキスト 使用する教科書等は、初回に指示する。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ・報告の準備状況（20%）、報告の内容（50%）、議論への参加状況（30%）

授業科目名： 商法I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内田 千秋
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の経済社会において会社は重要な存在であり、会社法に関する理解は欠かせない。本授業では、会社法分野で近時どのような事件が問題となっているかを把握すること、判決文等、判例評釈、法学分野の論文を読むのに慣れること、判例研究の手法を習得することを目指す。報告者は、報告レジュメを作成するにあたり、先例・学説の状況を整理し、どの立場が妥当であるかについて検討したうえで、当該事案への当てはめを行い、私見を述べる。・会社法の近時の議論動向（近時どのような判例が公表されているか）を説明することができる。 ・判決文等の構造を把握し、要点をつかむことができる。 ・報告判例に関する議論状況を把握し、説明することができる。 ・レジュメにおいて論理的な文章を作成することができる。 ・レジュメにおいて法律文献の引用を適切に行うことができる。 ・説得的な根拠をもって私見を示すことができる。			
授業の概要			
本授業では、商法のうち、主に会社法について取り扱う。会社法は、会社の機関、株式・資金調達、組織再編等に関する詳細なルールを定めており、会社をめぐる利害関係者の利害を調整することを目的としている。本授業では、①会社法の概要について確認したのち、②近時の会社法判例を検討する。報告者がレジュメを作成し、他の受講者は議論に参加する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス①			
授業の概要を説明したのち、報告日程と報告判例を決定する。			
第2回：ガイダンス②			
関連文献の調べ方やレジュメの作成の仕方等について説明する。			
第3回：報告①			
報告者が会社法総論に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。			
第4回：報告②			
報告者が株主の権利に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。			
第5回：報告③			

報告者が株式の譲渡に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第6回：報告④

報告者が株主総会に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第7回：報告⑤

報告者が取締役・取締役会に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第8回：報告⑥

報告者が監査役等に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第9回：報告⑦

報告者が計算に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第10回：報告⑧

報告者が募集株式の発行等に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第11回：報告⑨

報告者が新株予約権・社債に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第12回：報告⑩

報告者が設立に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第13回：報告⑪

報告者が合併・会社分割に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第14回：報告⑫

報告者が株式交換等に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

第15回：報告⑬

報告者が敵対的買収防衛策に関する判例について報告したのち、受講者全員で議論を行う。

定期試験：まとめ

受講者が関連文献の調べ方や判決文等の読み方を習得できたかを確認する。

授業で取り扱っていない会社法判例や論点についても議論する。

テキスト ・ 神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021）¥2500円＋税

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ・ 報告の準備状況（20%）、報告の内容（50%）、議論への参加状況（30%）

授業科目名： 政治経済学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴田 透
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
経済的または社会的事象を多面的に理解するためにも、非主流派の理論の学習は有用であり、多面的な問題解決の糸口にも繋がると考えている。政治経済学の理論的内容を、主流派経済学の理論的内容との対比において、理解し、社会事象の複眼的分析能力の育成を目指す。				
授業の概要				
主流派の理論とは異なる政治経済学の研究成果をについて、それぞれの学問領域と現代的課題とにあわせて学習する予定です。				
授業計画				
第1回： 第1回：ガイダンス				
第2回： 第2回：経済学の基礎概念				
第3回： 第3回：各経済学派の違い				
第4回： 第4回：資本主義の仕組み				
第5回： 第5回：価値と価格				
第6回： 第6回：貨幣と利子				
第7回： 第7回：所得と雇用の決定				
第8回： 第8回：資本の蓄積と再生産				
第9回： 第9回：失業と物価				
第10回： 第10回：所得分配				
第11回： 第11回：景気循環				
第12回： 第12回：成長と危機				
第13回： 第13回：まとめと討論 1				
第14回： 第14回：まとめと討論 2				
第15回： 第15回：まとめと討論 3				
定期試験：筆記試験ないしはレポート課題を課す。				
テキスト 鍋島直樹『現代の政治経済学』ナカニシヤ出版				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 毎回の講義における、報告や議論を踏まえて、総合的に評価する。				

授業科目名： 政治経済学演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴田 透
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 非主流派の経済学を検討することを通じて、経済的または社会的事象を複眼的に分析する能力を養うことを目指す。到達目標としては、問題の所在を正確に理解すること、そして、問題解決のために、多面的に考察することができること、そして異なる意見を尊重しながら、客観的に考察し、表現できることである。				
授業の概要 BowlesのMicroeconomicsの8章を購読することにより、市場概念や機能について理論的に検討する。				
授業計画 第1回： ガイダンス 第2回： 売り手と買い手の多い市場 第3回： 市場精算価格 第4回： 競争均衡 第5回： 均衡状態の企業 第6回： 需給の変化 第7回： 短期均衡と長期均衡 第8回： 石油市場のケーススタディ 第9回： カルテルとゲーム理論 第10回： 競争均衡の批判的検討 第11回： 価格と情報 第12回： 税金の影響 第13回： 価格統制 第14回： 需給曲線の実証的研究 第15回： まとめ				
テキスト Samuel Bowles, <i>The Economy 2.0 Microeconomics</i> , Electroc Book Works				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 毎回の報告や議論の内容を踏まえ、総合的に評価する。				

授業科目名： 課題研究Ⅱ-A（思想科学）	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青柳かおる、阿部ふく子、岡嶋隆佑、 安田将
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、哲学や倫理学などの思想科学の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。導入的な課題研究Ⅰのあと、専攻分野が確定した1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを進め、翌年度のはじめに予定されている研究中間報告の準備を行なう。そして以上の過程を通して、思想科学の領域に関する研究能力を養成し、中学校社会・高等学校公民に関する専門知識の基盤を構築すると共に、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、公民に関わる探究の方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、研究を進める上で必要な資質・能力を練磨すると共に哲学や倫理学などの思想科学の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：哲学や倫理学など思想科学の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：思想科学の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の調査			
第3回：思想科学の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の読解・分析			
第4回：思想科学の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究整理レポート作成			
第5回：思想科学の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の計画			
第6回：思想科学の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の実施			
第7回：思想科学の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査報告資料作成			
第8回：先行研究整理レポート・資料調査報告資料に基づく思想科学の領域に関する教員との討議			
第9回：思想科学の領域に関する教員との討議をふまえた中間報告までの検討課題設定			
第10回：検討課題に基づく先行研究の補足調査・整理			
第11回：検討課題に基づく補足資料調査の計画・実施			

第12回：中間報告に向けた先行研究整理に関する準備資料の作成

第13回：中間報告に向けた資料調査に基づく報告準備資料の作成

第14回：本科目で学んだ思想科学の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本授業で学んだ思想科学の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-A（思想科学）	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青柳かおる、阿部ふく子、岡嶋隆佑、 安田将
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、哲学や倫理学などの思想科学の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱの成果をまとめ、思想科学領域の教員が複数参加する中間報告会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性を確認する。また発表での討議をふまえ、研究を進めていく上で必要な資質・能力・方法や思想科学に関わる知識を再確認しその向上をはかることで、中学校社会・高等学校公民に関する専門知識の基盤を強化するとともに、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、公民に関わる探究の方法に習熟することをめざす。			
授業の概要			
研究成果の中間発表と討議を通して、研究を進める上で必要な資質・能力・方法を再確認すると共に哲学や倫理学などの思想科学に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：哲学や倫理学など思想科学の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：思想科学の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査			
第3回：思想科学の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査結果の整理			
第4回：思想科学の領域に関する中間報告資料の完成に向けた作成方法の学習			
第5回：思想科学の領域に関する中間報告と討議			
第6回：思想科学の領域に関する中間報告における討議の振り返りと論点の確認			
第7回：思想科学の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の調査			
第8回：思想科学の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の整理分析			
第9回：思想科学の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究整理レポート作成			
第10回：思想科学の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の準備			
第11回：思想科学の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の実施			
第12回：思想科学の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査結果レポート作成			

第13回：思想科学の領域に関する中間報告での論点への対応を通した検討課題の抽出

第14回：本科目で学んだ思想科学の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本科目で学んだ思想科学の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-A（思想科学）	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青柳かおる、阿部ふく子、岡嶋隆佑、 安田将
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
哲学や倫理学などの思想科学の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲの中間報告を通して改めて確認した研究を進める上で必要な資質・能力・方法を意識的に運用し、研究成果をまとめ、発表する。発表では2年間の課題研究をふまえ、学際的な「総合知」の視点から自らが獲得した研究の資質・能力・方法の到達を確認すると共に、具体的な題材に即して蓄積した思想科学の領域に関する知見を整理する。また本科目を通して講義科目では涵養しづらい「主体的・対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、その成果を中学校社会・高等学校公民の教育分野をはじめ、社会において幅広く運用する実践的方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
研究成果をまとめ発表することを通して、研究活動の中で自らが獲得した資質・能力・方法を意識化すると共に、哲学や倫理学などの思想科学に関わる領域に関する知見を整理し、社会におけるその幅広い活用を目指す。			
授業計画			
第1回：哲学や倫理学など思想科学の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究補足調査			
第3回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究整理			
第4回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の準備			
第5回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の実施			
第6回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の整理			
第7回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足調査結果の総合的検討			
第8回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の考え方の検討			
第9回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の原案作成と検討			
第10回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめ方（1）―研究目的と方法について―			
第11回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめ方（2）―研究の内容について―			

第12回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめ方（3）―研究の結論について― 第13回：思想科学の領域に関する研究成果のまとめ（4）―研究の学術的な意義と課題について― 第14回：思想科学の領域に関する研究成果の最終発表と討議 第15回：本科目で獲得した思想科学の領域に関する研究方法・知見の全体的なまとめ 定期試験なし
テキスト 担当教員の指示による
参考書・参考資料等 『科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―』日本学術振興会
学生に対する評価 研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 日本社会形成論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 片桐 昭彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
中世の武家文書を解読することにより、中世の地域や権力について理解を深めるとともに、日本中世の政治史・地域史の研究論文が使用する史料や論文などを逐一検討しながら読み解き、その論文の意義と問題点を明確にして研究の現状を理解することをめざす。また文書の調査により実際の文書の料紙・形状・筆跡や保管の有り様について知る。 1. 日本中世の武家文書を解読することで中世の地域・権力への理解を深めることができる。 2. 日本中世の政治史・地域史の研究論文を詳細に検討することにより、その論文の意義と問題点を明確にし、研究の現状を理解することができる。 3. 文書の料紙・形状・筆跡や、保管・展示の有り様を習得することができる。			
授業の概要			
日本中世史の基本史料の一つである武家文書を輪読し、日本中世の政治史・地域史の研究論文を読解し研究の現状を理解する。具体的には新潟県立歴史博物館所蔵「黒川氏文書」5巻92通の文書を取り上げる。また実際に文書の原本調査も行う。なお、講義科目ではあるが履修者の報告を組み込み、双方向性を重視して進める特論となる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方・計画、担当者決めなど）			
第2回：「黒川氏文書」所収の鎌倉期文書の輪読・報告・討論			
第3回：「黒川氏文書」所収の南北朝期文書の輪読・報告・討論			
第4回：「黒川氏文書」所収の相論関係文書の輪読・報告・討論			
第5回：中世文書の原本調査（新潟県立歴史博物館）			
第6回：「黒川氏文書」所収の越後守護関係文書の輪読・報告・討論			
第7回：「黒川氏文書」所収の室町期関係文書の輪読・報告・討論			
第8回：「黒川氏文書」所収の戦国期関係文書の輪読・報告・討論			
第9回：輪読した文書解読成果のまとめ・討論			
第10回：南北朝期越後守護に関する論文の講読・報告・討論			
第11回：室町期越後守護に関する論文の講読・報告・討論			
第12回：室町期幕府・守護に関する論文の講読・報告・討論			
第13回：戦国期越後領主に関する論文の講読・報告・討論			

第14回：戦国期地域権力に関する論文の講読・報告・討論	
第15回：講読した論文の課題のまとめ・討論	
定期試験： 期末レポート	
テキスト とくになし。参考文献として新潟県『新潟県史』通史編2中世（1987年）、上越市『上越市史』通史編2中世（2004年）など	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	報告・討論50%、期末レポート50%。

授業科目名： 日本社会形成論I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 片桐 昭彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、中世の公家・寺僧の日記（古記録）を解読することにより、中世の社会について理解を深めるとともに、日本中世の社会史の研究論文が使用する史料や論文などを逐一検討しながら読み解き、その論文の意義と問題点を明確にして研究の現状を理解することをめざす。また中世文書の料紙・形状・筆跡や保管方法等を知る。 1. 日本中世の公家・寺僧の日記を解読することで中世の社会・文化への理解を深めることができる。 2. 日本中世の社会史の研究論文を詳細に検討することにより、その論文の意義と問題点を明確にし、研究の現状を理解することができる。 3. 中世文書の料紙・形状・筆跡や、保管・展示の有り様を習得することができる。			
授業の概要			
本科目は、日本中世史の基本史料の一つである日記（古記録）を輪読し、日本中世の社会史・文化史の研究論文を読解する。具体的には公家山科言継の『言継卿記』、本願寺の『天文日記』を取り上げる。また、実際に中世史料の原本調査も行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、担当決めなど）			
第2回：『言継卿記』天文13年正月条の輪読・報告・討論			
第3回：『言継卿記』天文13年2月条の輪読・報告・討論			
第4回：『言継卿記』天文13年3月条の輪読・報告・討論			
第5回：中世文書の調査（新潟県立歴史博物館）			
第6回：『天文日記』天文6年正月条の輪読・報告・討論			
第7回：『天文日記』天文6年2月条の輪読・報告・討論			
第8回：『天文日記』天文6年3月条の輪読・報告・討論			
第9回：輪読した史料のまとめ、討論			
第10回：南北朝期の公家に関する論文の講読・報告・討論			
第11回：室町期の公家に関する論文の講読・報告・討論			
第12回：戦国期の公家に関する論文の講読・報告・討論			
第13回：室町期の寺院に関する論文の講読・報告・討論			

第14回：戦国期の寺院に関する論文の講読・報告・討論

第15回：講読した論文のまとめ、討論

定期試験： 期末レポート

テキスト とくにないが、参考文献として、松園斉・近藤好和編『中世日記の世界』ミネルヴァ書房、4,000円＋税、倉本一宏編『日記・古記録の世界』思文閣出版、12,500円＋税など

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 報告・討論50%、期末レポート50%。

授業科目名： 日本社会形成論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原 直史
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、「前近代の総達成」としての日本近世社会の特質に留意しながら、具体的には日本近世史をめぐる諸論点を一次史料に基づいて多面的に論じることによって、日本社会を歴史的に把握する視点の獲得を目ざす科目である。日本近世史の分野について、一次史料を自ら解釈しながら、厳密に史料に即して研究することができること、最新の研究動向を念頭に置きつつ、各自の研究の位置を把握できること、を目指す。			
授業の概要			
本科目は近世史を扱う。日本史における近世は、地球規模の「近代」に包摂される前夜の、伝統的な社会と文化が高度に成熟した時代として位置づけられる。本科目ではこうした観点にもとづき、日本近世史における諸論点を、各自の研究テーマに応じて多面的に論じる			
授業計画			
第1回： 授業内容の決定―履修者の研究テーマに応じて、教員の講義で扱うにふさわしい一次史料を決定する			
第2回： 一次史料の検討と講義 1 履修者があらかじめ読んで解釈をしてきた史料の内容に基づき、教員が講義を行い、当該史料に関わる近世史研究上の論点を明確にする。この回では中近世移行期の領主支配についての史料を扱う。以下毎回同様の講義方法による。			
第3回： 一次史料の検討と講義 2 中近世移行期の地縁共同体についての史料を扱う。			
第4回： 一次史料の検討と講義 3 中近世移行期の公儀形成についての史料を扱う。			
第5回： 一次史料の検討と講義 4 中近世移行期の対外関係につての史料を扱う。			
第6回： 一次史料の検討と講義 5 近世前期の公儀支配にいての史料を扱う。			
第7回： 一次史料の検討と講義 6 近世前期の地域社会についての史料を扱う。			
第8回： 一次史料の検討と講義 7 近世前期の対外関係についての史料を扱う。			
第9回： 一次史料の検討と講義 8 近世前期の文化交流についての史料を扱う。			
第10回： 一次史料の検討と講義 9 近世中後期の公儀支配についての史料を扱う。			
第11回： 一次史料の検討と講義 10 近世紮後期の地域社会についての史料を扱う。			
第12回： 一次史料の検討と講義 11 近世中後期の対外関係についての史料を扱う。			
第13回： 一次史料の検討と講義 12 近世中後期の対外関係についての史料を扱う。			
第14回： 一次史料の検討と講義 13 近世中後期の文化交流についての史料を扱う。			

第15回： 一次史料の検討と講義14 近世の身分制についての史料を扱う	
定期試験： 実施しない	
テキスト	履修者の研究テーマに応じて決定する
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	各回の教員との一次史料の検討内容により総合的に評価する。

授業科目名： 日本社会形成論Ⅱ演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原 直史
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
「前近代の総達成」としての日本近世社会の特質に留意しながら、具体的には日本近世史をめぐる諸論点を一次史料に基づいて多面的に論じることによって、古代から現代、さらには未来へという時間軸のなかで、日本社会を歴史的に把握する視点の獲得を目ざすよう共同研究する。日本近世史の分野について、一次史料を自ら解釈しながら、厳密に史料に即して研究することができること。最新の研究動向を念頭に置きつつ、各自の研究の位置を把握できること。				
授業の概要				
本科目は日本近世史を扱う科目である。日本史における近世は、地球規模の「近代」に包摂される前夜の、伝統的な社会と文化が高度に成熟した時代として位置づけられる。本科目ではこうした観点にもとづき、日本近世史をめぐる諸論点を一次史料に基づいて多面的に共同研究する。				
授業計画				
第1回： 演習テーマ決定一履修者の研究テーマに随って、適切な一次史料を決定する				
第2回： 史料演習一各回の報告者が一次史料から読み取れる事項について報告をし、教員も含めた参加者の討論によりこれを論評する。この回では中近世移行期の領主支配に関する史料を扱う				
第3回： 一次史料の報告と討論2 中近世移行期の地縁共同体についての史料を扱う。				
第4回： 一次史料の報告と討論3 中近世移行期の公儀形成についての史料を扱う。				
第5回： 一次史料の報告と討論4 中近世移行期の対外関係につてとの史料を扱う。				
第6回： 一次史料の報告と討論5 近世前期の公儀支配にいての史料を扱う。				
第7回： 一次史料の報告と討論6 近世前期の地域社会についての史料を扱う。				
第8回： 一次史料の報告と討論7 近世前期の対外関係についての史料を扱う。				
第9回： 一次史料の報告と討論8 近世前期の文化交流についての史料を扱う。				
第10回： 一次史料の報告と討論9 近世中後期の公儀支配についての史料を扱う。				
第11回： 一次史料の報告と討論10 近世紂後期の地域社会についての史料を扱う。				
第12回： 一次史料の報告と討論11 近世中後期の対外関係についての史料を扱う。				
第13回： 一次史料の報告と討論12 近世中後期の対外関係についての史料を扱う。				
第14回： 一次史料の報告と討論13 近世中後期の文化交流についての史料を扱う。				

第15回： 一次史料の報告と討論 14 近世の身分制についての史料を扱う。

定期試験： 実施しない。

テキスト 履修者の研究テーマにしたがって決定する

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 毎回の演習報告内容から総合的に評価する

授業科目名： 日本社会形成論Ⅲ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠崎 敦史
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
東アジア共通の文化と国風文化を手がかりに、日本社会が常に「世界」とのつながりのなかで形成されていることを学び、これを通じて、横断的な学問領域の知識と視座が現代社会の理解には必須であることを学ぶ。1. 国際交流、世界とのつながりの視座から日本社会と東アジア共通の文化と独自性をとらえ、史料・文献から必要な知識と自ら考える姿勢を身に付ける。 2. 上記1の視座に加え、世界と日本の共通性と差異について、自ら考える姿勢を身に付ける。 3. 必要な史料・文献を自ら読め、活用出来るようになる。				
授業の概要				
1. 国際交流、世界とのつながりの視座から、日本社会の形成と特質を考える。 2. 上記1をテーマに、関連する研究、史料などを調査、研究する手法を学ぶ。				
授業計画				
第1回： ガイダンス				
第2回： 東アジアと日本社会 概説				
第3回： 東アジアと日本社会 考察				
第4回： 東アジア文化圏と日本 漢字 概説				
第5回： 東アジア文化圏と日本 漢字 考察				
第6回： 東アジア文化圏と日本 律令 概説				
第7回： 東アジア文化圏と日本 律令 考察				
第8回： 東アジア文化圏と日本 仏教 概説				
第9回： 東アジア文化圏と日本 仏教 考察				
第10回： 東アジア文化圏と日本 儒教 概説				
第11回： 東アジア文化圏と日本 儒教 考察				
第12回： 東アジアの変容と国風文化				
第13回： 東アジア文化圏と国風文化 概説				
第14回： 東アジア文化圏と国風文化 考察				
第15回： まとめ				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 西嶋定生『古代東アジア世界と日本』（2000年、岩波書店、ISBN、9784006000257、1				

100円)	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	・講義中の活動 調査・発表—50% ・まとめレポートなど—50%

授業科目名： 日本社会形成論Ⅲ 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠崎 敦史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 東アジアと日本とのつながりを手がかりに、日本社会が常に「世界」とのつながりのなかで形成されていることを学び、これを通じて、日本、日本史を理解する上で横断的な学問領域の知識と視座が必須であることについて、演習形式で学ぶ。1. 国際交流、世界とのつながりの視座から日本社会と深い関係のあるテーマの調査を通じて、史料・文献から必要な知識と自ら考える姿勢を身に付ける。 2. 上記1の視座に加え、世界と日本の共通性と差異について、自ら考える姿勢を身に付ける。 3. 必要な史料・文献を自ら読め、活用出来るようになる。			
授業の概要 1. 国際交流、世界とのつながりの視座から、日本社会の形成と特質を考える。 2. 上記1をテーマに、関連する研究、史料などを調査、研究する手法を学ぶ。			
授業計画 第1回： ガイダンス 第2回： 世界のなかの日本 調査 第3回： 世界のなかの日本 発表 第4回： 東アジアと日本 調査 第5回： 東アジアと日本 発表 第6回： 中国と日本 調査 第7回： 中国と日本 発表 第8回： 朝鮮半島と日本 調査 第9回： 朝鮮半島と日本 発表 第10回： 渤海と日本 調査 第11回： 渤海と日本 発表 第12回： 国風文化と日本 調査 第13回： 国風文化と日本 発表 第14回： 世界のなかで日本社会の特質を考える 第15回： まとめ 定期試験： まとめレポート			

テキスト	石井正敏『日本史リブレット14 東アジア世界と古代の日本』(2003年、山川出版社、ISBN、9784634541405、880円)
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	・講義中の活動 調査・発表—50% ・まとめレポートなど—50%

授業科目名： 環日本海社会形成 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 元
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 主として日本近現代史研究の観点から、歴史学の課題設定・研究史整理・史料読解・歴史像構築等の諸過程について検討することを通して、近現代における環日本海社会の歴史の変容を考える前提を構築する。到達目標は、①日本近現代史の研究史及びその到達点としての最新の研究動向を理解した上で、自身の問題関心に基づいて整理し説明することができる、②上記①の研究動向と有機的に関連する形で自らの研究課題を設定した上で、史料の収集・調査・読解を行ない、実証的な方法に基づいて新たな歴史像を構築することができる、と設定する。			
授業の概要 近現代における環日本海社会の歴史の変容の過程を考える前提として、日本の近現代の政治、社会、思想、文化等に関する歴史学の観点からの視座について検討をおこなう。			
授業計画 第1回： 本授業のテーマ及び到達目標の説明 第2回： 日本近現代史研究における研究史整理の方法に関する検討 第3回： 日本近現代史研究における史料収集・調査の方法に関する検討 第4回： 日本近現代史研究における史料読解の方法に関する検討 第5回： 日本近現代史研究における歴史像構築の方法に関する検討 第6回： 日本近現代政治史に関する研究動向の検討 第7回： 日本近現代社会史に関する研究動向の検討 第8回： 日本近現代思想史に関する研究動向の検討 第9回： 日本近現代文化史に関する研究動向の検討 第10回： 日本近現代政治史研究から見た環日本海社会の歴史の変容の検討 第11回： 日本近現代社会史研究から見た環日本海社会の歴史の変容の検討 第12回： 日本近現代思想史研究から見た環日本海社会の歴史の変容の検討 第13回： 日本近現代文化史研究から見た環日本海社会の歴史の変容の検討 第14回： 授業参加者の研究課題と関わる環日本海社会の歴史の変容の検討 第15回： 授業における検討全体のまとめ 定期試験： 定期試験は実施しない			
テキスト 松沢裕作・高嶋修一編著『日本近・現代史研究入門』（岩波書店、2022年）			

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	講義に際しての到達目標の達成度により評価する。

授業科目名： 環日本海社会形成 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 元
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本近現代史研究の観点から、歴史学の課題設定・研究史整理・史料読解・歴史像形成等の諸過程を意識的にトレーニングする方法を検討し、近現代における環日本海社会の歴史の変容を考える視座の構築を目指す。到達目標は、①日本近現代史の研究史及びその到達点としての最新の研究動向を理解した上で、自身の問題関心に基づいて整理し説明することができる、②上記①の研究動向と有機的に関連する形で自らの研究課題を設定した上で、史料の収集・調査・読解を行ない実証的な方法に基づいて新たな歴史像を構築することができる、と設定する。			
授業の概要			
近現代における環日本海社会の歴史の変容の過程について考察を深めるため、演習形式により19世紀末以降20世紀にかけての日本における政治、社会、思想、文化に関する諸問題について検討する。			
授業計画			
第1回：本演習のテーマ及び到達目標の説明			
第2回：日本近現代史研究における研究史整理の方法に関する報告と討議			
第3回：日本近現代史研究における史料収集・調査の方法に関する報告と討議			
第4回：日本近現代史研究における史料読解の方法に関する報告と討議			
第5回：日本近現代史研究における歴史像構築の方法に関する報告と討議			
第6回：19世紀末以降20世紀にかけての日本の政治史に関する研究動向に関する報告と討議			
第7回：19世紀末以降20世紀にかけての日本の社会史に関する研究動向に関する報告と討議			
第8回：19世紀末以降20世紀にかけての日本の思想史に関する研究動向に関する報告と討議			
第9回：19世紀末以降20世紀にかけての日本の文化史に関する研究動向に関する報告と討議			
第10回：日本近現代政治史研究から見た環日本海社会の歴史の変容に関する報告と討議			
第11回：日本近現代社会史研究から見た環日本海社会の歴史の変容に関する報告と討議			
第12回：日本近現代思想史研究から見た環日本海社会の歴史の変容に関する報告と討議			
第13回：日本近現代文化史研究から見た環日本海社会の歴史の変容に関する報告と討議			
第14回：授業参加者の研究課題と関わる環日本海社会の歴史の変容に関する報告と討議			
第15回：本演習における報告と討議全体のまとめ			
定期試験：定期試験は実施しない			

テキスト	松沢裕作・高嶋修一編著『日本近・現代史研究入門』（岩波書店、2022年）
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	講義に際しての到達目標達成度により評価する。

授業科目名： 環日本海歴史文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広川 佐保
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
授業を通じて、東北アジア史・内陸アジア史の最新の研究成果を踏まえ、関連する研究の把握に努めるとともに、各人の研究対象地域の歴史について、理解を深めてゆくことをねらいとする。書誌目録やインターネットの書誌を用いながら、東北アジア史・内陸アジア史の最新の研究成果をリサーチする能力を身につけること。これらの研究成果を把握するためには、日本語、中国語のみならず、英語や各国語の知識が必要になりますが、その基礎的作業を進める。近代アジアと日本の関係に関する研究の流れと、基礎的文献を把握できるようになること。				
授業の概要				
清末から現代までの、近現代東北アジア史、ならびに内陸アジア史の展開について、史的理 解を深めます。				
授業計画				
第1回： 初回はテキストの選定、紹介です。				
第2回： アジア史の研究の流れと先行研究について概説します。				
第3回： テキストの内容に沿って、東北アジア史の移動と開発の歴史について検討します。				
第4回： テキストの内容に沿って、東北アジア史の移動と開発の歴史について検討します。				
第5回： テキストの内容に沿って、東北アジア経済史について制度史から検討します。				
第6回： テキストの内容に沿って、東北アジア経済史について制度史から検討します。				
第7回： テキストの内容に沿って、列強の東北アジア進出をめぐる問題について検討します。				
第8回： テキストの内容に沿って、列強の東北アジア進出をめぐる問題について検討します。				
第9回： テキストの内容に沿って、辛亥革命以降の民族運動について検討します。				
第10回： テキストの内容に沿って、辛亥革命以降の民族運動について検討します。				
第11回： テキストの内容に沿って、日本支配時代の東北アジア地域の変化について検討します。				
第12回： テキストの内容に沿って、日本支配時代の東北アジア地域の変化について検討します。				
第13回： テキストの内容に沿って、1945年以降、東北アジア社会の変動について検討します。				
第14回： テキストの内容に沿って、1945年以降、東北アジア社会の変動について検討します。				
第15回：これまでの授業の内容をもとに、東北アジア地域の歴史について総括します。				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 『岩波講座 帝国日本の学知—第三巻 東洋学の磁場』（岩波書店、2006）				

江夏由樹・中見立夫・西村成雄・山本有造編『近代中国東北地域史研究の新視角』（山川出版社、2005）	
塩出浩之『越境者の政治史』（名古屋大学出版会、2015）	
日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史』（勉誠出版、2023）	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	レポート70%
授業中の発言など30%	

授業科目名： 環日本海歴史文化 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広川 佐保
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
東北アジア史・内陸アジア史の最新の研究成果を輪読・通読することによって、これらの社会的秩序に関する先行研究を把握する。			
課題を通じて、各人の研究対象や研究フィールドと比較検討し、東北アジアの歴史について、さらに理解を深めることをねらいとする。それぞれの研究テーマに即して、先行研究や研究史料を把握できる。			
専門書を読みこなし、史料を分析する能力を養う。			
歴史的アプローチと各人の研究テーマを関連させつつ、それぞれの課題を深める。			
授業の概要			
東北アジア史、内陸アジア史に関する最新、もしくは古典的研究書（日本語、洋書）や論文を輪読し、理解を深める			
授業計画			
第1回： ガイダンスおよびテキストの選定を行います。			
第2回： アジア近代史に関する先行研究の調査と受講者全員による討論を行います。			
第3回： アジア近代史に関する先行研究の調査と受講者全員による討論を行います。			
第4回： 近代東北アジア史に関するテキストの輪読と受講者全員による討論を行います。			
第5回： 近代東北アジア史に関するテキストの輪読と受講者全員による討論を行います。			
第6回： 近代東北アジア史に関するテキストの輪読と受講者全員による討論を行います。			
第7回： 東北アジア史を課題として、受講生の研究報告を行います。			
第8回： 東北アジア史を課題として、受講生の研究報告を行います。			
第9回： 東北アジア史を課題として、受講生の研究報告を行います。			
第10回： 内陸アジア民族史に関する書籍の輪読と受講生全員による討論を行います			
第11回： 内陸アジア民族史に関する書籍の輪読と受講生全員による討論を行います			
第12回： 内陸アジアの民族史に関する書籍の輪読と受講生全員による討論を行います			
第13回： 内陸アジアの経済史に関する書籍の輪読と受講生全員による討論を行います			
第14回： 内陸アジアの経済史に関する書籍の輪読と受講生全員による討論を行います			
第15回： 内陸アジアの経済史に関する書籍の輪読と受講生全員による討論を行います			
定期試験： 定期試験は実施しない			

テキスト	中見立夫『「満蒙問題」の歴史的構図』（東京大学出版会、2013） Thomas E Ewing,Between the Hammer and the Anvil?Indiana University,Bloomington,1980. Bogdo Jebtsundamba Khutuktu, the last king of Mongolia : Mongolia's national revolution of 1911 : research work(admon,2011)
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	報告、レポート70% 授業中の発言等30%

授業科目名： 東アジア歴史文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 正和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
歴史学の課題設定、議論、史料分析、歴史像に関する理解を深めることで、東アジアの歴史に関する総合的な理解を修得する。また汎用的なスキルとして、実証的に分析し、議論できる能力を養う。東アジア史の近年の研究成果や歴史学の手法について詳細に理解する。 東アジア史に関わる史料や先行研究を詳細に調査し、自身の見解を提示して、実証的な議論ができるようになる。 歴史学の手法や東アジア史の研究成果を踏まえた専門的な見地から、現代社会の諸問題について探求できるようになる。			
授業の概要			
東アジアの歴史に関する先行研究を精読していく。特に近世東アジアの外交・交易という視点から、東アジアの歴史の変遷について議論する。受講者の関心も踏まえた上で、文献を選ぶ場合もある。			
授業計画			
第1回： ガイダンスを実施し、使用する文献と授業の進め方について説明する。			
第2回： 『朝貢・海禁・互市』序章を用いて、朝貢体制に関する担当者の報告と議論を行う。			
第3回： 『朝貢・海禁・互市』第1章を用いて、明の対外関係に関する担当者の報告と議論を行う。			
第4回： 『朝貢・海禁・互市』第2章を用いて、明の海禁政策に関する担当者の報告と議論を行う。			
第5回： 『朝貢・海禁・互市』第3章を用いて、辺縁の商業に関する担当者の報告と議論を行う。			
第6回： 『朝貢・海禁・互市』第4章を用いて、16世紀の貿易に関する担当者の報告と議論を行う。			
第7回： 『朝貢・海禁・互市』第5章を用いて、沈黙外交に関する担当者の報告と議論を行う。			
第8回： 『朝貢・海禁・互市』第6章・終章を用いて、互市に関する担当者の報告と議論を行う。			
第9回： 朝貢貿易に関する履修者の調査・報告と議論を行う。			
第10回： 海禁に関する履修者の調査・報告と議論を行う。			
第11回： 日本との貿易に関する履修者の調査・報告と議論を行う。			
第12回： イギリスとの貿易に関する履修者の調査・報告と議論を行う。			
第13回： 近世東アジアの文化交流に関する履修者の調査・報告議論を行う。			
第14回： 漂着民の送還に関する履修者の調査・報告議論を行う。			
第15回： 授業全体のまとめと議論を行う。			

定期試験： 定期試験は実施しない	
テキスト	参考書
岩井茂樹『朝貢・海禁・互市 近世東アジアの貿易と秩序』名古屋大学出版会,2020. 岡本隆司『清朝の興亡と中華のゆくえ 朝鮮出兵から日露戦争へ』講談社, 2017. 岸本美緒『中国の歴史』筑摩書房,2015. 岸本美緒・宮嶋博史『明清と李朝の時代』中央公論新社, 2008. 岸本美緒『明末清初中国と東アジア近世』岩波書店, 2021. 岸本美緒編『1571年 銀の大流通と国家統合』山川出版社,2019. 吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房,2021. 渡辺美季『近世琉球と中日関係』吉川弘文館,2012.	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	発表内容（50%）、議論（50%）

授業科目名： 東アジア歴史文化 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 正和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 歴史学の課題設定、議論、史料分析に関する理解を深めることで、汎用的スキルとして実証的な議論、分析ができるようになることを目指す。東アジア史の近年の研究成果や歴史学の手法について詳細に理解する。 歴史学の手法や東アジア史の研究成果を踏まえた専門的な見地から、現代社会の諸問題について探求し、事実に基づいた実証的な分析をすることができるようになる。			
授業の概要 近世・近代東アジアの歴史、とくに社会史に関する近年の主要な研究を精読し、近世・近代という時代の特徴と、東アジアの歴史について理解を深めていく。			
授業計画 第1回： 授業の進め方、発表を担当する回を決める。 第2回：『明末清初中国と東アジア近世』第1章を用いて、近世の政治変動に関する報告・議論を行う 第3回：『明末清初中国と東アジア近世』第2章を用いて、皇帝政治に関する報告・議論を行う。 第4回：『明末清初中国と東アジア近世』第3章・付論を用いて、近世概念に関する報告・議論を行う 第5回：『天津の近代』緒論・第1章を用いて、団練に関する報告・議論を行う。 第6回：『天津の近代』第2章を用いて、天津教案に関する報告・議論を行う。 第7回：『天津の近代』第3章を用いて、災害対応に関する報告・議論を行う。 第8回：『天津の近代』第4章を用いて、義和団に関する報告・議論を行う。 第9回：『天津の近代』第5章を用いて、巡警創設に関する報告・議論を行う。 第10回：『天津の近代』第6章を用いて、寄付と都市管理に関する報告・議論を行う。 第11回：『天津の近代』第7章を用いて、習藝所に関する報告・議論を行う。 第12回：『天津の近代』第8章を用いて、清末のボイコットに関する報告・議論を行う。 第13回：『天津の近代』第9章を用いて、電車経営への反対運動に関する報告・議論を行う。 第14回：『天津の近代』第10章を用いて、尚武理念に関する報告・議論を行う。 第15回：『天津の近代』全体の内容を振り返り、近代のとらえ方に関する報告・議論を行う 定期試験： 定期試験は実施しない			
テキスト 参考図書 太田出『中国近世の罪と罰 犯罪・警察・監獄の社会史』名古屋大学出版会, 2015年.			

岸本美緒『礼教・契約・生存』研文出版, 2020.

岸本美緒『明末清初中国と東アジア近世』岩波書店, 2021.

寺田浩明『中国法制史』東京大学出版会, 2018.

山本英史『郷役と溺女 近代中国郷村管理史研究』汲古書院, 2021.

吉澤誠一郎『天津の近代 清末都市における政治文化と社会統合』名古屋大学出版会, 2002.

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 発表内容 (50%)、議論 (50%)

授業科目名： 朝鮮歴史文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山内 民博
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
朝鮮・韓国の歴史への理解を深めるとともに、歴史研究の方法を身につけ、自らテーマを設定し考える力を養う。・朝鮮・韓国史研究の主要な論点について、その概要を説明できる。 ・必要な研究文献を調査・収集し、それについて批判的に読むことができる。 ・歴史認識について多様な観点から検討することができる。				
授業の概要				
この講義では、朝鮮・韓国に関する歴史研究の基礎として、朝鮮半島をめぐる東アジア史研究の主要な論点を整理・検討する。				
授業計画				
第1回： 第1回 朝鮮・韓国史研究の意義				
第2回： 第2回 古代朝鮮半島と日本・中国① 『三国志』魏書・東夷伝からみた東北アジア				
第3回： 第3回 古代朝鮮半島と日本・中国② 広開土王碑文をめぐって				
第4回： 第4回 古代朝鮮半島と日本・中国③ 『三国史記』と『日本書紀』				
第5回： 第5回 古代朝鮮半島と日本・中国④ 渤海をめぐる歴史認識				
第6回： 第6回 モンゴル・高麗関係史研究①				
第7回： 第7回 モンゴル・高麗関係史研究②				
第8回： 第8回 朝鮮王朝社会の性格と東アジア① 停滞性論・他律性論と内在的発展論				
第9回： 第9回 朝鮮王朝社会の性格と東アジア 朝鮮の建国と明				
第10回： 第10回 朝鮮王朝社会の性格と東アジア③ 朝鮮王朝の国制とその変化				
第11回： 第11回 朝鮮王朝社会の性格と東アジア④ 士族と郷村社会をめぐる議論				
第12回： 第12回 近代東アジアの変動と朝鮮半島① 東アジア各国の開港				
第13回： 第13回 近代東アジアの変動と朝鮮半島② 開化思想の諸相				
第14回： 第14回 近代東アジアの変動と朝鮮半島③ 反乱・蜂起と民衆				
第15回： 第15回 近代東アジアの変動と朝鮮半島④ 植民地近代化論をめぐって				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 石川博樹ほか編『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、ISBN9784623092178, 3,600円				
参考書・参考資料等 適宜指示する				

学生に対する評価	授業中の討論30%、学期末レポート70%

授業科目名： 朝鮮歴史文化演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山内 民博
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
朝鮮・韓国史研究を進める上で必須な史料の読解能力を養成し、自ら歴史研究を実践できる力を身につける。・必要な史料を調査・収集し、その内容を読解・理解して検討することができる。・歴史認識について多様な観点から検討することができる。				
授業の概要				
この科目では、朝鮮半島をめぐる歴史研究の主要な論点について史料を読解しながら検討し、朝鮮・韓国史研究の基礎的な力を養う。				
授業計画				
第1回： 第1回 朝鮮・韓国史研究の動向				
第2回： 第2回 朝鮮王朝時期の基本史料① 朝鮮王朝実録				
第3回： 第3回 朝鮮王朝時期の基本史料② 経国大典とその他の法典				
第4回： 第4回 朝鮮王朝時期の基本史料③ 承政院日記と日省録				
第5回： 第5回 朝鮮王朝時期の基本史料④ 備辺司謄録とその他の謄録類				
第6回： 第6回 清との関係史料1				
第7回： 第7回 清との関係史料2				
第8回： 第8回 清との関係史料3				
第9回： 第9回 日本との関係史料1				
第10回： 第10回 日本との関係史料2				
第11回： 第11回 日本との関係史料3				
第12回： 第12回 古文書を読む 売買文書				
第13回： 第13回 古文書を読む 相続文書				
第14回： 第14回 古文書を読む 訴訟文書				
第15回： 第15回 古文書を読む 官衙間伝達文書				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 朝鮮史研究会編『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会、ISBN9784815806651j、4400円				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 授業での報告50%、学期末レポート50%				

授業科目名： 比較考古学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白石 典之
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
モンゴル高原の遊牧諸民族の興亡史の特徴を正しく理解し、それが中国や中央アジア諸国の歴史的展開に大きな影響を与えたこと踏まえつつ、考古学や歴史学における課題はもちろん、現在社会や持続発展社会創出への課題を解く鍵を、各自で考えてもらいたい。モンゴル高原の遊牧諸民族の興亡史を、考古資料、文字資料などを使い再構成する方法を議論することを通して、遊牧諸民族興亡史について、その概要と研究方法とを理解でき、その上で、モンゴル高原史における考古資料の特徴・重要性を把握し、説明することができるようになること。				
授業の概要				
モンゴル高原域の遊牧民族の興亡史を、考古資料、文字資料などを使い再構成する方法を講義する。モンゴル高原の遊牧民族興亡史について、その概要と研究方法とを紹介し、そのうえで考古資料の特徴・重要性を解説する。				
授業計画				
第1回： モンゴルの自然と文化の概要				
第2回： 旧石器時代				
第3回： 新石器時代				
第4回： 青銅器時代				
第5回： 初期鉄器時代				
第6回： 匈奴時代				
第7回： 鮮卑、柔然時代				
第8回： 突厥第一カガン国時代				
第9回： 突厥第二カガン国時代				
第10回： ウイグル・カガン国時代				
第11回： 阻卜時代				
第12回： 初期モンゴル時代				
第13回： イェケ・モンゴル・ウルス時代（前半）				
第14回： イェケ・モンゴル・ウルス時代（後半）				
第15回： 続モンゴル帝国時代				
定期試験： レポート提出				

テキスト	白石典之（2022）『モンゴル考古学概説』（同成社、ISBN9784886219053、7700円） 白石典之（2025）『遊牧王朝興亡史ーモンゴル高原の5000年』（講談社選書メチエ、ISBN9784065383209、2365円）
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の学習参加度50%、レポート50%で評価する。

授業科目名： 比較考古学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白石 典之
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
東アジア地域の技術史を、考古資料、文字資料などを使い再構成する方法を議論することによって東アジアの文化の動態について、その概要と研究方法とを理解する。それを通して、関連する考古資料の特徴・重要性を把握し、説明することができるようになる。受講者各自の修士論文作成に参考になる点を学び取ってもらいたい。東アジアの技術史を、考古資料、文字資料などを使い再構成する方法を議論することを通して、その概要と研究方法とを理解でき、その上で考古資料の特徴・重要性を把握し、説明することができるようになること。外国考古学における資料収集法や論文作成法を理解することも目指すところである。			
授業の概要			
演習形式の授業である。外国語テキストを用い、東アジア地域の技術発展史を、考古資料、文献史料などを使い再構成する方法を議論する。東アジアの技術史について、その概要と研究方法とを理解する。関連する考古遺物の特徴・重要性を把握し、説明することができる。受講者各自の論文作成における道しるべとなるような授業を目指している。			
授業計画			
第1回：『天工開物』について解説する			
第2回：「穀物、衣服、染色」の章について解説			
第3回：「穀物、衣服、染色」の章についての研究発表			
第4回：「調製、製塩、製糖」について解説			
第5回：「調製、製塩、製糖」について研究発表			
第6回：「製陶、鑄造、舟車」の章について解説			
第7回：「製陶、鑄造、舟車」について研究発表			
第8回：「鑄造、焙焼、製油」について解説			
第9回：「鑄造、焙焼、製油」について研究発表			
第10回：「製紙、精錬、兵器」について解説			
第11回：「製紙、精錬、兵器」について研究発表			
第12回：「朱墨、醸造、珠玉」について解説する			
第13回：「朱墨、醸造、珠玉」について研究発表			
第14回：『天工開物』の意義をディスカッション			

第15回：考古学における技術的視点についてディスカッション	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	宗応星（藪内清訳）『天工開物』（平凡社東洋文庫、kindle版、1540円）
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の学習参加態度50%、発表内容50%で評価する。

授業科目名： 環境地理学演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村 繁
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
地形発達史、第四紀学、火山、自然災害などに関する国内外の自然地理学及び隣接分野の（英語または日本語での）文献講読を通じて、専門知識を深め、研究方法を学ぶ。 ①専門知識を幅広く学習する方法を身に着ける。②研究方法をより具体的に見出す。③最近の研究動向を捉え、自身の研究を進められるようになる。				
授業の概要				
地形発達史、第四紀学、火山、自然災害などに関する国内外の自然地理学及び隣接分野の（英語または日本語の）文献講読。				
授業計画				
第1回： イントロダクション				
第2回： 講読文献の選定				
第3回： 文献の導入部の購読・目次の精査・最初の分担者決定				
第4回： 文献購読の担当箇所の決定・第1担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第5回： 第2担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第6回： 第3担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第7回： 第4担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第8回： 第5担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第9回： 第6担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第10回： 第7担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第11回： 第8担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第12回： 第9担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第13回： 第10担当箇所の担当者による購読内容の紹介				
第14回： 購読内容のまとめ				
第15回： 購読した文献の論評（自分自身の研究テーマと関連して）				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト 第1回及び第2回の授業で適宜指示する。				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 文献の内容紹介（レジメ提出含む）：70%				

授業への取り組み（議論への参加等）：30%

授業科目名： 環境地理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村 繁
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
身近な地形の中で、特に、火山地形を取り上げ、火山地形を形成するプロセス＝噴火と、噴火に伴う火山災害、および、その防災・減災について学ぶ。また、同時に、なぜ人間が火山災害を被るような地域に住み続けてきたか考える。噴火に伴う火山災害を学習し、噴火や地表で生じる現象との関連を理解する。なぜ人間が火山災害を被るような地域に住み続けてきたかを考え、火山周辺に暮らす人々の命を守る防災＝減災について学ぶ。			
授業の概要			
①火山地形 ②火山噴火と火山災害 ③火山の恵み ④火山周辺地域の減災・防災			
授業計画			
第1回： 火山とは何か 火山の定義と火山に関連した用語を整理する			
第2回： 火山地形 火山を形からとらえる			
第3回： 噴火で放出されるもの 噴火の概要を理解する			
マグマの性質 マグマが性質から分類されること、また、分類されたマグマがそれぞれどのような性質をもつかを知る			
第4回： 溶岩流とその分類 様々な溶岩流について学習し、その性質とマグマとの関連性についても考える			
第5回： 溶岩流による災害 溶岩流によってどのような災害が生じるかを学習する			
第6回： 降下火山灰と火山地形 降下火山灰について学習し、それが作り出す地形を知る			
第7回： 降下火山灰による災害 降下火山灰によってどのような災害が生じるかを学習する			
第8回： 火砕流の性質と災害 熱雲の学習を通して、火砕流の性質と災害について学ぶ			
第9回： 火砕流と火山地形 軽石流や大規模火砕流と呼ばれる火砕流とそれを発生させる噴火によって、どのような地形や災害が生じるかを知る			
第10回： 山体崩壊・岩屑なだれと津波 火山性の大規模な山体崩壊とそれによって生じる岩屑なだれについて学び、それによって発生する災害についても学習する			
第11回： 火山泥流と災害 火山泥流について学び、それによって生じる災害について学習する			
第12回： 火山ガスと災害 火山ガスとそれによって生じる災害について学習する			

第13回：火山の恵み① 火山が人間にもたらす恵みについて多角的に学習する

第14回：火山の恵み② 火山が人間にもたらす恵みについて多角的に学習する

第15回：火山周辺地域の減災・防災 火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて学習する

定期試験： 期末レポート

テキスト 特になし

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 平常評価（対面授業に指名されての応答・講義中の自発的な質問または出席レポート）および期末レポート（2000字程度、複数の課題からひとつを選択）。平常評価を5点満点、レポートを95点満点として、総合評価100点満点中60点以上を合格とする。

授業科目名： 地理空間学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堀 健彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地理空間に関わる諸問題について、討議を行い、理解を深める。			
歴史GIS、歴史地理学のありようについて、理解を深める。			
歴史GIS、歴史地理学に関わる諸問題について、知見を深め、批判的思考力や論理構成力を養う。			
歴史GISや歴史資料のデジタルアーカイブ化について、説明することができる。			
現代社会における地理的視角の射程と限界を理解できる。			
自らの研究課題について、空間論的視角からアプローチする際のヒントを獲得する。			
授業の概要			
近年、人文科学全般でもコンピュータを使用した研究の可能性が注目されている。この授業では、歴史地理学におけるGIS(地理情報システム) の利活用の具体的な事例に則しつつ、歴史GISに関する諸問題（含 絵図データのデジタルアーカイブ）について、扱う。			
また、歴史GISを活用した巡検を実施し、歴史資料のコンテンツとしての可能性についても理解を深めていく。			
なお、正規の授業曜限以外に野外活動（巡検）を実施するので、留意すること。			
授業計画			
第1回： ガイダンス			
第2回： 歴史地理学の視角と方法			
第3回： 歴史地理学と歴史GIS・デジタルアーカイブ			
第4回： 近世国絵図のデジタルアーカイブ			
第5回： 近世城下町絵図のデジタルアーカイブ化			
第6回： 越後国新発田城下町絵図の歴史地理学的検討			
第7回： 近代地籍図とデジタルアーカイブ			
第8回： 地籍情報のデジタル化と歴史地理学			
第9回： 地籍図からみた佐渡国相川鉾山町の景観変化ーデジタルデータを活用して			
第10回： 新編会津風土記を中核とした歴史GISの開発			
第11回： 新編会津風土記を中核とした歴史GISからみた会津の地域的特徴			

第12回：新発田城下町絵図を歩く－巡検の事前検討

第13回：新発田城下町絵図を歩く－巡検

第14回：新発田城下町絵図を歩く－巡検の振り返り

第15回：全体のまとめ

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 適宜、指示します

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 期末レポート（50%）、質疑および平常の受講態度など（50%）

授業科目名： 地理空間学演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堀 健彦
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
・地理学におけるフィールドワークにかかわる諸問題について理解を深め、現代社会における地理的視角の有効性と限界を理解する。				
・地理空間に関わる諸問題について討議を行い、理解を深める。				
・フィールドワークを計画・実施し、地理学的な技能を高める。				
授業の概要				
地理学において重要なアプローチである現地調査（フィールドワーク）を実践的に経験することを通して、自らの地域への理解を深めるとともに他者へそれを伝える能力を涵養する。				
具体的には、受講生が設定したフィールドにおいて、巡検を実施するために必要な事前準備、巡検ルートのプランニング、巡検地の下見、巡検の本実施、巡検の振り返りを行う。				
なお、正規の授業曜限以外に野外活動（巡検）を実施するので、留意すること。				
授業計画				
※巡検を行うフィールドは受講生と相談して決定するか、以下は新潟市中央区を事例としたケースを想定して授業計画を示す。				
第1回： ガイダンス				
第2回： フィールドの決定				
第3回： フィールドワーク・巡検実施上の注意点				
第4回： 新潟市および新潟市中央区に関する概説				
第5回： 新潟市中央区の地形および人口構造				
第6回： 新潟市中央区の都市構造と交通体系				
第7回： 新潟市中央区の産業構造				
第8回： 新潟市中央区の文化と伝統				
第9回： 巡検ルート案の提案				
第10回： 巡検ルート案の検討（ディスカッション）				
第11回：巡検ルート案の下見				
第12回： 巡検ルートの再提案と検討（ディスカッション）				
第13回： 新潟市中央区巡検の実施				
第14回： 新潟市中央区巡検の振り返り				

第15回：全体のまとめ	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	適宜指示する
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	期末レポート（40％）、質疑および平常の受講態度など（60％）

授業科目名： 人文地理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 洋介
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、都市・農村をめぐる諸問題やその解決に向けた社会的・学術的な関心高まりを踏まえ、人文地理学に関するに関する系統的な理解の修得と、汎用的スキルとして、社会問題に関するフィールドワークの技法等、系統的・実践的にアプローチするための基礎的技法の修得を目指す。①近代以降の国内外の都市や農村における社会的・経済的・政治的諸現象について幅広く把握できるようになる。 ②そのような問題に関する国内外の人文地理学及び隣接分野の研究内容を幅広く把握できるようになる。			
授業の概要			
本科目は人文地理学分野に関するものであり、地理的分野及び隣接分野の専門書の講読を通じ、とりわけ現代の都市・農村のコミュニティをめぐる諸現象に関する都市地理学・農村地理学・政治地理学・経済地理学・社会地理学分野を扱うものである。			
授業計画			
第1回： イントロダクション（トピック及び講読文献の選定）			
第2回：フォーディズムと都市①：都市の機能と空間構造			
第3回：フォーディズムと都市②：都市の拡大			
取り上げたトピックに関わるフィールドワークの実施			
第4回：ポスト・フォーディズムと都市①：産業構造の転換			
第5回：ポスト・フォーディズムと都市②：都心回帰とジェントリフィケーション			
第6回：都市生活者の日常生活空間			
第7回：都市政治と公共サービス			
第8回：都市のコミュニティ			
第9回：統治機構の再編と都市			
第10回：フォーディズムの時代の農村：人口移動			
第11回：ポスト・フォーディズムの時代の農村：地域振興			
第12回：農村のコミュニティ			
第13回：「平成の大合併」と都市・農村			

第14回：自治体内分権と都市・農村

（第2回～第14回は、上記に示した各トピックの解説及び課題文献に関する議論を行う。）

第15回：まとめ

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト Kelly Dombroski, Mark Goodwin, Junxi Qian, Andrew Williams, Paul Cloke eds. *Introducing Human Geographies* -4th edition. Routledge. ISBN 978-0367211769, 52.99(GBP)

Julie MacLeavy. *Enduring Austerity -The Uneven Geographies of the Post-Welfare State*. ISBN 9

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ・議論への参加：30%

・毎回のレジュメ：70%

授業科目名： 人文地理学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 洋介
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、都市・農村をめぐる諸問題やその解決に向けた社会的・学術的な関心高まりを踏まえ、人文地理学に関する系統的な理解の修得と、汎用的スキルとして、社会問題に関するフィールドワークの技法等、系統的・実践的にアプローチするための基礎的・応用的技法の修得を目指す。①近代以降の国内外の都市や農村における社会的・経済的・政治的諸現象について幅広く把握できるようになる。 ②そのような問題に関する国内外の人文地理学及び隣接分野の研究内容・研究方法を幅広く把握できるようになる。 ③上記の研究内容・研究方法と自身の研究との関連性を見出せるようになる。			
授業の概要			
本科目は人文地理学分野に関するものであり、地理学分野及び隣接分野の国内外の論文の講読を通じ、とりわけ現代の都市・農村のコミュニティをめぐる諸現象に関する都市地理学・農村地理学・政治地理学・経済地理学・社会地理学分野を扱うものである。			
授業計画			
第1回： イントロダクション（トピック及び講読文献の選定。講読文献は、テキストに示したような、地理学分野の国内外の主要な雑誌から選定する。）			
第2回：フォーディズムと都市①：都市の機能と空間構造			
第3回：フォーディズムと都市②：都市の拡大			
取り上げたトピックに関わるフィールドワークの実施			
第4回： ポスト・フォーディズムと都市①：産業構造の転換			
第5回：ポスト・フォーディズムと都市②：都心回帰とジェントリフィケーション			
第6回： 都市生活者の日常生活空間			
第7回： 都市政治と公共サービス			
第8回： 都市のコミュニティ			
第9回： 統治機構の再編と都市			
第10回： フォーディズムの時代の農村：人口移動			
第11回： ポスト・フォーディズムの時代の農村：地域振興			

第12回：農村のコミュニティ

第13回：「平成の大合併」と都市・農村

第14回：自治体内分権と都市・農村

（第2回～第14回は、上記に示した各トピックの課題文献に関する議論を行う。）

第15回：まとめ

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト

講読対象雑誌例：『地理学評論』（日本地理学会），『人文地理学』（人文地理学会），『経済地理学』（経済地理学会），*Transactions of the Institute of British Geographers* (Wiley, Royal Geographical Society (with the Institute of British Geographers)), *Annals of the American Association of Geographers* (Taylor & Francis, Association of American Geographers)

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 ・議論への参加：30%

・毎回のレジュメ：70%

授業科目名： 伝統芸能論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中本 真人
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを検討する。②歌舞伎を通して、日本の芸能文化に対する理解を深める。③忠臣蔵が、江戸時代から現代まで、さまざまな形で演じ続けられてきた背景を探る。④日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを理解している。⑤歌舞伎を通して日本の芸能文化に関する基礎的知識を身につける。⑥芸能のテキストを読解し、実演の内容が理解できる。				
授業の概要				
江戸時代から現代まで続く歌舞伎の世界を概観する。特に「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、日本の芸能文化の基盤を検討する。具体的には、歌舞伎のDVDを視聴しつつ、講義形式で進める。また、これらの演目から派生した芝居や、歌舞伎以外の芸能についても紹介する。				
授業計画				
第1回： 各回の準備学習の具体的内容について指示する。				
第2回： 「仮名手本忠臣蔵 大序」について				
第3回： 「仮名手本忠臣蔵 三段目」について（1）				
第4回： 「仮名手本忠臣蔵 三段目」について（2）				
第5回： 「仮名手本忠臣蔵 四段目」について（1）				
第6回： 「仮名手本忠臣蔵 四段目」について（2）				
第7回： 「仮名手本忠臣蔵 道行旅路の花婿」について				
第8回： 「仮名手本忠臣蔵 五段目」について（1）				
第9回： 「仮名手本忠臣蔵 五段目」について（2）				
第10回： 「仮名手本忠臣蔵 六段目」について（1）				
第11回： 「仮名手本忠臣蔵 六段目」について（2）				
第12回： 「仮名手本忠臣蔵 七段目」について（1）				
第13回： 「仮名手本忠臣蔵 七段目」について（2）				
第14回： 「仮名手本忠臣蔵 十一段目」について				
第15回： 全体のまとめとレポートの提出				
定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト プリントを配布する。				

参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業に対する積極的な参加度 30%、各回後に課すコメントシートの内容 30%、学期末レポート 40%

授業科目名： 伝統芸能論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中本 真人
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを検討する。②人形浄瑠璃（文楽）を通して、日本の芸能文化に対する理解を深める。③忠臣蔵が、江戸時代から現代まで、さまざまな形で演じ続けられてきた背景を探る。①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを理解している。②人形浄瑠璃（文楽）を通して日本の芸能文化に関する基礎的知識を身につける。③芸能のテキストを読解し、実演の内容が理解できる。			
授業の概要 江戸時代から現代まで続く人形浄瑠璃（文楽）の世界を概観する。特に「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、日本の芸能文化の基盤を検討する。具体的には、人形浄瑠璃（文楽）のDVDを視聴しつつ、講義形式で進める。また、これらの演目から派生した芝居や、人形浄瑠璃（文楽）以外の芸能についても紹介する。			
授業計画 第1回：各回の準備学習の具体的内容について指示する。 第2回：「仮名手本忠臣蔵 大序」について 第3回：「仮名手本忠臣蔵 三段目」について（1） 第4回：「仮名手本忠臣蔵 三段目」について（2） 第5回：「仮名手本忠臣蔵 四段目」について（1） 第6回：「仮名手本忠臣蔵 四段目」について（2） 第7回：「仮名手本忠臣蔵 道行旅路の花簪」について 第8回：「仮名手本忠臣蔵 五段目」について（1） 第9回：「仮名手本忠臣蔵 五段目」について（2） 第10回：「仮名手本忠臣蔵 六段目」について（1） 第11回：「仮名手本忠臣蔵 六段目」について（2） 第12回：「仮名手本忠臣蔵 七段目」について（1） 第13回：「仮名手本忠臣蔵 七段目」について（2） 第14回：「仮名手本忠臣蔵 十一段目」について 第15回：全体のまとめとレポートの提出 定期試験：定期試験は実施しない			

テキスト	プリントを配布する。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業に対する積極的な参加度 30%、各回後に課すコメントシートの内容 30%、学期末レポート 40%

授業科目名： 英米歴史文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 康浩
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。 。			
授業の概要			
この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。 。			
授業計画			
第1回：前期は精読が中心であったが、後期のこの授業では毎回、30ページくらいのペースで読んでいく。			
第2回：英語文献の多読と速読の訓練。			
第3回：英語文献の多読と速読の訓練。			
第4回：英語文献の多読と速読の訓練。			
第5回：英語文献の多読と速読の訓練。			
第6回：英語文献の多読と速読の訓練。			
第7回：担当箇所の要約を作成し、発表する。			
第8回：担当箇所の要約を作成し、発表する。			
第9回：担当箇所の要約を作成し、発表する。			
第10回：担当箇所の要約を作成し、発表する。			
第11回：この授業のテーマに基づいた小論の作成と発表。			
第12回：この授業のテーマに基づいた小論の作成と発表。			
第13回：この授業のテーマに基づいた小論の作成と発表。			

第14回：この授業のテーマに基づいた小論の作成と発表。

第15回：定期試験

テキスト 授業の開講時に指示します。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 レポート 70%、試験30%

授業科目名： 英米歴史文化演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 康浩
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
この授業では、現代アメリカにおいて、国内のみでなく国際社会においても、グローバルな視点から、貧困・疾病の根絶、自然環境の保全、紛争解決などに力を注いでいる人々の思想と行動を学ぶ。授業では、彼ら、彼女たちの書いた文献を多読して、それぞれの問題の所在を理解し、自分なりにその課題に応答していく力を育む。アメリカ合衆国の平和主義という問題をグローバルな視点から考える。その過程において、福音主義などの宗教思想を背景に持ちながら、国内の治安改善や武力紛争の解決など国際平和の実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。合衆国内の政治と宗教の関係、またアメリカの宗教思想がグローバルな諸課題にどのように反応しているのか、という点にも注目する。こうした活動をしている人たちの文献は翻訳されていないので、英語の原著をしっかりと多読していくことが求められる。英語文献を多用する力を養い、グローバリゼーションやグローバル・ヒストリーという視点にも強い関心をもつようにする。				
授業の概要				
上記においても述べたとおり、この授業では、現代アメリカにおいて、宗教思想を背景に持ちながら国際平和の実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。テーマは、今世紀に噴出しているグローバルな諸課題であり、多岐にわたる。それぞれの課題が、個別バラバラなのではなく、お互いに有機的に関連することもある。そうした認識をすることが重要である。グローバルな諸問題をアメリカの識者、活動家から学ぶので、そのためには、英語文献を多用する力を養い、国際的な感覚をもってアメリカ合衆国発の平和・人権・環境に関連する思想と実践を学ぶことが求められる。				
授業計画				
第1回：元大統領の平和主義とその実践。人権外交の実践。				
第2回：元大統領の平和主義とその実践。カーター・センターの活動。				
第3回：元大統領の平和主義とその実践。紛争解決の基本理念。				
第4回：福音主義のキリスト教の諸問題。キリスト教原理主義の歴史。				
第5回：福音主義のキリスト教の諸問題。メガ・チャーチの実像。				
第6回：福音主義のキリスト教の諸問題。リベラルな福音主義とは。				
第7回：宗教的リベラリズムの歴史。啓蒙主義とプロテスタンティズム。				

第8回：宗教的リベラリズムの歴史。社会的福音の政治思想。

第9回：宗教的リベラリズムの歴史。公民権運動への視座。

第10回：イラク戦争反対運動の政治社会思想。政府内の告発者たち。

第11回：イラク戦争反対運動の政治社会思想。平和の母の行動。

第12回：イラク戦争反対運動の政治社会思想。指導層たちの平和主義。

第13回：これまでの議論のまとめと全体ディスカッション。政治思想的側面。

第14回：これまでの議論のまとめと全体ディスカッション。宗教思想的側面。

第15回：まとめ

定期試験：試験を実施する

テキスト 授業の開講時に指示します。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 レポート 70%、試験30%

授業科目名： ヨーロッパ歴史文 化I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 繁子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ネサンス期人文主義者（地理学者でありヘブライ学者）セバスティアン・ミュンスターの作品『宇宙誌』を取り上げ、中世後期から近世にかけての人文主義的知の拡大・受容、またヨーロッパ人の地理観（世界観）構築について知見を深める。英語文献を講読することで当該テーマの研究状況を把握すると同時に、英語文献を読みこなす力をつける。①複数史料を用いてそれを批判的に検討する歴史学の基本的な方法論を具体事例を通じて学び、それを自らの研究に生かすことができる。②英語ほか各国語による史・資料を読みこなす力を身につけ、またそれを批判的に検討することができる。			
授業の概要 ルネサンス期人文主義者（地理学者でありヘブライ学者）セバスティアン・ミュンスターの作品『宇宙誌』を扱った以下の著作を講読する。McLean, Matthew: The Cosmographia of Sebastian Münster. Describing the world in the Reformation, Ashgate Publishing Limited, 2007. また適宜史料原典（ラテン語・英語始め各国版あり、授業時に適宜指示する）ないし同時代の旅行記の翻訳を参照し、同時代人の記述を比較する。			
授業計画 第1回： 第1回：ガイダンス（発表担当回スケジュール決定）、ミュンスター『宇宙誌について』概要説明 第2回： Sebastian Münster: A Brief Biography講読、ディスカッション 第3回： Sixteenth-Century Cosmography講読、ディスカッション：プリニウス、プトレマイオスなど16世紀宇宙誌に影響を与えた古代の著作を一つ選び、報告 第4回： The mediaeval Weltbild講読、ディスカッション：中世旅行記の一つを取り上げ報告 第5回： Northern humanism, and the German “Geographhistorians”講読・ディスカッション：北方ルネサンスについて報告 第6回： Chorographers and cosmographers in Münster’s age講読・ディスカッション：同時代の地理学について事例を一つ選び、報告 第7回： The dechristianised Weltbild講読・ディスカッション：キリスト教的地理観について聖書を参照し報告 第8回： The editions of the Cosmographia, ther reception and influence講読・ディスカ			

ッション：16世紀の出版情勢について報告

第9回：The organization of the work and a template of the descriptions講読・ディスカッション

第10回：Geography in the Cosmographia講読・ディスカッション：同時代のアメリカ認識について報告

第11回：History writing in the Cosmographia: sources, topics, purposes講読・ディスカッション：同時代の歴史書について事例を一つ選び報告

第12回：Zoology, botany and prodigies of nature講読・ディスカッション：動植物誌の展開や科学史について報告

第13回：Self and other. National identity, irenicism and religious tolerance講読・ディスカッション：同時代のアジア・トルコ認識について報告

第14回：The book of the world: a moralized geography and an understanding of providence講読・ディスカッション：宗教と科学の関係について、事例を一つ選び報告

第15回：Conclusion講読、全体討論

定期試験：

テキスト McLean, Matthew: The Cosmographia of Sebastian Münster. Describing the world in the Reformation, Ashgate Publishing Limited, 2007.

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 テキストは毎回予習することが必要である。テキストの翻訳（20%）にとどまらず、内容についてディスカッションに参加できているかどうか（10%）を総合的に判断する。15回のうち2回程度、人物・事象等について報告をしてもらう（40%）。以上の総合的評価に加え、最終レポート（30%）を提出してもらう。

授業科目名： ヨーロッパ歴史文化Ⅰ 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 繁子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本演習では今日でもなお読み継がれ、解釈され続ける西洋史の重要著作を講読する。参加者同士で議論することで理解を深め、今日的な研究状況に照らして批判的に検討しつつ、その意義を再確認する。参加者は学説史および今日的な研究状況の知見を得るとともに、テキストを批判的に読み込むことで、自らの問題関心を明確にし、自身の研究の見通しを得ることを到達目標とする。			
授業の概要			
初回に示す講読作品リストの中から参加者の興味関心に沿うものを選び、一作品につき3回をめぐりに講読を行う。報告者は各回レジュメを準備し、自分なりの解釈や自身の研究との関わり、議論の切り口を示す。4～5作品を取り上げる予定である。			
授業計画			
第1回： 第1回：ガイダンス、検討する文献・各回担当者の決定 （以下の授業計画に取り上げた文献は一例である）			
第2回： ブロック『封建社会』①：環境講読、ディスカッション			
第3回： ブロック『封建社会』②：人と人との絆			
第4回： ブロック『封建社会』③：諸階層と人間の支配			
第5回： エリアス『文明化の過程』①：「文明化」と「文化」という概念の社会発生について			
第6回： エリアス『文明化の過程』②：人間の風俗の独特の変化としての「文明化」について			
第7回： エリアス『文明化の過程』③：ヨーロッパ文明の社会発生について			
第8回： バーク『ヨーロッパの民衆文化』①：民衆文化を求めて			
第9回： バーク『ヨーロッパの民衆文化』②：民衆文化の構造			
第10回： バーク『ヨーロッパの民衆文化』③：民衆文化の変化			
第11回： メラー『帝国都市と宗教改革』①：中世末期の帝国都市			
第12回： メラー『帝国都市と宗教改革』②：自由都市における宗教改革の神学			
第13回： トムスン『イギリス労働者階級の形成』①：自由の木			
第14回： トムスン『イギリス労働者階級の形成』②：アダムの罪			
第15回： トムスン『イギリス労働者階級の形成』③：労働者階級の登場			
定期試験： 定期試験は実施しない			

テキスト	マルク・ブロック『封建社会』（岩波書店、1995） ノルベルト・エリアス『文明化の過程』（法政大学出版局、2010） ピーター・パーク『ヨーロッパの民衆文化』（人文書院、1988）等
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	以下の点を総合的に評価する。担当回の報告で適切にテキストをまとめ、論点を提示できているか（40％）。検討テキストのみならず、適切な参考文献を用いて理解につとめているか（40％）。毎回テキストを読み、議論に積極的に参加しているか（20％）。

授業科目名： ヨーロッパ歴史文化Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細田 あや子
				担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）			
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本科目は、以上のような背景から、キリスト教に関する系統的な理解の修得と、文献および造形物資料の解読ができることを目指す。・旧約聖書と新約聖書の関連性を修得し、予型論という考え方が理解できる。 ・偶像破壊と偶像崇拝のそれぞれの立場を説明することができる。				
授業の概要 ヨーロッパ文化に通底する聖書やその伝承を理解し、キリスト教が果たした役割を考察する。				
授業計画 第1回： 聖書について 第2回： 旧約聖書、創世記を読む① 第3回： 旧約聖書、創世記を読む② 第4回： 旧約聖書、出エジプト記を読む① 第5回： 旧約聖書、出エジプト記を読む② 第6回： 新約聖書、福音書を読む① 第7回： 新約聖書、福音書を読む② 第8回： 新約聖書、パウロ書簡を読む 第9回： 予型論について 第10回： 予型論に関する図像 第11回： 宗教美術について① 第12回： 宗教美術について② 第13回： 物質文化について① 第14回： 物質文化について② 第15回： もののエージェンシーについて① 定期試験： 定期試験は実施しない				
テキスト ジャン＝クロード シュミット『中世の聖なるイメージと身体: キリスト教における信仰と実践』（刀水歴史全書）				
参考書・参考資料等		適宜指示する		
学生に対する評価		授業中の発言・コメントシート30%、レジュメ作成と報告40%、期末レポート30%		

授業科目名： ヨーロッパ歴史文化Ⅱ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細田 あや子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、以上のような背景から、ヨーロッパ歴史文化の神話や、宗教、芸術に関する系統的な理解の修得と、汎用的スキルとして歴史資料の総合的な分析ができることを目指す。・神話と聖書との関連性を修得し、神話伝承のひろがりを理解することができる。 ・宗教美術や儀礼における実践について分析することができる。			
授業の概要			
ヨーロッパ、ひいては世界のさまざまな文化に通底する古代の神話を講読することにより、人類の知の歴史の流れを考察する。ヨーロッパ文化の基底をなす文学や芸術の特質について理解を深める。			
授業計画			
第1回： 神話について			
第2回： 宗教美術について			
第3回： もののエージェンシーについて			
第4回： Pongratz-Leisten, B. / Sonik, K. (eds.), The Materiality of Divine Agency, 2015購読①			
第5回： Pongratz-Leisten, B. / Sonik, K. (eds.), The Materiality of Divine Agency, 2015購読②			
第6回： Pongratz-Leisten, B. / Sonik, K. (eds.), The Materiality of Divine Agency, 2015購読③			
第7回： Walker Bynum, C. The Animation and Agency of Holy Food: Bread and Wine as Material Divine in the European Middle Ages, in: The Materiality of Divine Agency, 70-85. ①			

第8回： Walker Bynum, C. The Animation and Agency of Holy Food: Bread and Wine as Material Divine in the European Middle Ages, in: The Materiality of Divine Agency, 70-85. ②

第9回： 儀礼における行為遂行性について①

第10回： 儀礼における行為遂行性について②

第11回： 修士論文中間報告

第12回： 修士論文中間報告

第13回： 宗教儀礼と美術について①

第14回： 宗教儀礼と美術について②

第15回： まとめ

定期試験： 定期試験は実施しない

テキスト Orsi, R. A. (ed.), The Cambridge Companion to Religious Studies, Cambridge University Press.

Bell, C. 1992: Ritual Theory, Ritual Practice

Gell, A., 1998: Art and Agency: An Anthropological Theory

このような文献を予定。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 文献講読のためのレジュメ作成と報告40%、授業中の議論30%、期末レポート30%。

授業科目名： 環地中海歴史文化		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 秀樹
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
履修者が西洋の古代、中世の歴史を理解するにあたって、史料に即した知識に基づいて論理的に考察することができるように指導する。西洋古代、中世の歴史学について、先行研究を参照しつつ、一次史料に即して論理的に考察を進めることができるようになる。				
授業の概要				
西洋の古代、中世の歴史学の研究方法を学ぶ。ヘロドトスを史料として用いる予定。				
授業計画				
第1回： 授業の趣旨説明。履修者の問題関心の確認。共通テキストの選定。				
第2回： ヘロドトス『歴史』の序論の読解と討論。				
第3回： メディアとペルシアの成り立ちについての記述の読解と討論。				
第4回： エジプトの成り立ちについての記述の読解と討論。				
第5回： エジプトの文物についての記述の読解と討論。				
第6回： キュロス王とカンビュセス王についての記述の読解と討論。				
第7回： ダレイオス王についての記述の読解と討論。				
第8回： ペルシア戦争以前のイオニアの情勢についての記述の読解と討論。				
第9回： ペルシア戦争以前のギリシアの情勢の読解と討論。				
第10回： ペルシアのエーゲ海侵攻とマラトンの戦いについての叙述の読解と討論。				
第11回： 戦間期についての叙述の読解と討論。				
第12回： クセルクセス王についての記述の読解と討論。				
第13回： テルモピュライの戦いについての記述の読解と討論。				
第14回： サラミスの戦いについての記述の読解と討論。				
第15回：ヘロドトスの歴史観とその影響についての読解と討論。				
定期試験： 使用テキストで学んだ内容のまとめ。				
テキスト 特になし。				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 授業中の発言等50%、宿題の提出状況50%、				

授業科目名： 環地中海歴史文化 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 秀樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
履修者が西洋の古代、中世の歴史を理解するにあたって、史料に即した知識に基づいて論理的に考察することができるように指導する。			
西洋古代、中世の歴史学について、先行研究を参照しつつ、一次史料に即して論理的に考察を進めることができるようになる。			
授業の概要			
西洋古代、中世の歴史学の研究方法を学ぶ。古代エジプトの資料群を取り上げる予定。			
授業計画			
第1回： 授業の趣旨説明。履修者の問題関心の確認。共通テキストの選定。			
第2回： 古代エジプト創世神話の読解と討論。			
第3回：『ピラミッドテキスト』（抜粋）の読解と討論。			
第4回：『宰相プタハヘテプの教訓』の読解と討論			
第5回：『ウェストカーパピルスの物語』の読解と討論。			
第6回：『豎琴弾きの歌』の読解と討論。			
第7回：『生活に疲れた者の魂との対話』の読解と討論。			
第8回：『雄弁な農夫の物語』の読解と討論。			
第9回：『メリカラー王への教訓』の読解と討論。			
第10回：『シヌへの物語』の読解と討論。			
第11回：『アメンエムハト1世の教訓』の読解と討論。			
第12回：『ネフェルティの予言』の読解と討論。			
第13回：『ナイル賛歌』の読解と討論。			
第14回：『アテン賛歌』の読解と討論。			
第15回：『二人兄弟の物語』の読解と討論。			
定期試験： 使用テキストによる学習内容のまとめ。			
テキスト	履修者との相談により決定する。		
参考書・参考資料等	適宜指示する		
学生に対する評価	授業中の発言50%、宿題及びレポート50%		

授業科目名： 課題研究Ⅱ-A（日本社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：原直史、中村元、堀健彦、片桐昭彦、前田洋介、中本真人、篠崎敦史
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、日本史学や地理学などの日本社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。導入的な課題研究Ⅰのあと、専攻分野が確定した1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などの研究の方法を学び、翌年度のはじめに予定されている研究中間報告の準備を行なう。そして以上の過程を通して、日本社会文化の領域に関する研究能力を養成し、中学校社会・高等学校地理歴史に関する専門知識の基盤を構築すると共に、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、地理歴史に関わる探究の方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、専門的な研究の方法を学ぶと共に日本史学や地理学など日本社会文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：日本史学や地理学など日本社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：日本社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の調査			
第3回：日本社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の読解・分析			
第4回：日本社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究整理レポート作成			
第5回：日本社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の計画			
第6回：日本社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の実施			
第7回：日本社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査報告資料作成			
第8回：先行研究整理レポート・資料調査報告資料に基づく日本社会文化の領域に関する教員との討議			
第9回：日本社会文化の領域に関する教員との討議をふまえた中間報告までの検討課題設定			
第10回：検討課題に基づく先行研究の補足調査・整理			
第11回：検討課題に基づく補足資料調査の計画・実施			

第12回：中間報告に向けた先行研究整理に関する準備資料の作成

第13回：中間報告に向けた資料調査に基づく報告準備資料の作成

第14回：本科目で学んだ日本社会文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本授業で学んだ日本社会文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-A（日本社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：原直史、中村元、堀健彦、片桐昭彦、前田洋介、中本真人、篠崎敦史
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、日本史学や地理学などの日本社会文化に関わる領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱの成果をまとめ、日本社会文化の領域の教員が複数参加する中間報告会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性を確認する。また発表での討議をふまえ、研究を進めていく上で必要な資質・能力・方法や日本社会文化に関わる知識を再確認してその向上をはかることで、中学校社会・高等学校地理歴史に関する専門知識の基盤を強化するとともに、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、地理歴史に関わる探究の方法に習熟することをめざす。			
授業の概要			
研究成果の中間報告と討議を通して、研究を進める上で必要な資質・能力・方法を再確認すると共に日本史学や地理学など日本社会文化の領域に関する専門的知見の基盤を強化する。			
授業計画			
第1回：日本史学や地理学など日本社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：日本社会文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査			
第3回：日本社会文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査結果の整理			
第4回：日本社会文化の領域に関する中間報告資料の完成に向けた作成方法の学習			
第5回：日本社会文化の領域に関する中間報告と討議			
第6回：日本社会文化の領域に関する中間報告における討議の振り返りと論点の確認			
第7回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の調査			
第8回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の整理分析			
第9回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究整理レポート作成			
第10回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の準備			
第11回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の実施			
第12回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査結果レポート作成			

第13回：日本社会文化の領域に関する中間報告での論点への対応を通した検討課題の抽出

第14回：本科目で学んだ日本社会文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本科目で学んだ日本社会文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員との相談により決定

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-A（日本社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：原直史、中村元、堀健彦、片桐昭彦、前田洋介、中本真人、篠崎敦史
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本史学や地理学などの日本社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲの中間発表を通して確認した研究を進める上で必要な資質・能力・方法を意識的に運用し、研究の成果をまとめ、発表する。発表と討議では2年間の課題研究をふまえ、学際的な「総合知」の視点から自らが獲得した研究の資質・能力・方法の到達を確認すると共に、具体的な題材に即して蓄積した日本社会文化の領域に関する知見を整理する。また本科目を通して講義科目では涵養しづらい「主体的・対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、その成果を中学社会・高等学校地理歴史の教育分野をはじめ、社会において幅広く運用する実践的方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
研究成果をまとめ発表することを通して、研究活動の中で自らが獲得した資質・能力・方法を意識化すると共に、日本史学や地理学など日本社会文化に関わる領域に関する知見を整理し、中学社会・高等学校地理歴史の教育における活用をはじめ、社会におけるその幅広い活用を目指す。			
授業計画			
第1回：日本史学や地理学など日本社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究補足調査			
第3回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究整理			
第4回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の準備			
第5回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の実施			
第6回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の整理			
第7回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足調査結果の総合的検討			
第8回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の考え方の検討			
第9回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の原案作成と検討			
第10回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（1）―研究目的と方法について―			
第11回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（2）―研究の内容について―			

第12回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（3）―研究の結論について― 第13回：日本社会文化の領域に関する研究成果のまとめ（4）―研究の学術的な意義と課題について― 第14回：日本社会文化の領域に関する研究成果の最終発表と討議 第15回：本科目で獲得した日本社会文化の領域に関する研究方法・知見の全体的なまとめ 定期試験なし
テキスト 担当教員の指示による
参考書・参考資料等 『科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―』日本学術振興会
学生に対する評価 研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-A（東アジア社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広川佐保、山内民博、白石典之、村上正和 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本科目は、アジア史などの東アジア社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。導入的な課題研究Ⅰのあと、専攻分野が確定した1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などの研究の方法を学び、翌年度のはじめに予定されている研究中間報告の準備を行なう。そして以上の過程を通して、東アジア社会文化の領域に関する研究能力を養成し、中学校社会・高等学校地理歴史に関する専門知識の基盤を構築すると共に、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、地理歴史に関わる探究の方法を修得することを目指す。			
授業の概要 計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、専門的な研究の方法を学ぶと共にアジア史などの東アジア社会文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画 第1回：アジア史など東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認 第2回：東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の調査 第3回：東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の読解・分析 第4回：東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究整理レポート作成 第5回：東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の計画 第6回：東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の実施 第7回：東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査報告資料作成 第8回：先行研究整理レポート・資料調査報告資料に基づく東アジア社会文化の領域に関する教員との討議 第9回：東アジア社会文化の領域に関する教員との討議をふまえた中間報告での検討課題設定 第10回：検討課題に基づく先行研究の補足調査・整理 第11回：検討課題に基づく補足資料調査の計画・実施			

第12回：中間報告に向けた先行研究整理に関する準備資料の作成

第13回：中間報告に向けた資料調査に基づく報告準備資料の作成

第14回：本科目で学んだ東アジア社会文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本授業で学んだ東アジア社会文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-A（東アジア社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広川佐保、山内民博、白石典之、村上正和 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 アジア史などの東アジア社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱの成果をまとめ、東アジア社会文化の領域の教員が複数参加する中間報告会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性を確認する。また発表での討議をふまえ、研究を進めていく上で必要な資質・能力・方法や東アジア社会文化に関わる知識を再確認してその向上をはかることで、中学校社会・高等学校地理歴史に関する専門知識の基盤を強化するとともに、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、地理歴史に関わる探究の方法に習熟することをめざす。			
授業の概要 研究成果の中間報告と討議を通して、研究を進める上で必要な資質・能力・方法を再確認すると共にアジア史など東アジア社会文化の領域に関する専門的知見の基盤を強化する。			
授業計画 第1回：アジア史など東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認 第2回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査 第3回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査結果の整理 第4回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告資料の完成に向けた作成方法の学習 第5回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告と討議 第6回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告における討議の振り返りと論点の確認 第7回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の調査 第8回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の整理分析 第9回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究整理レポート作成 第10回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の準備			

第11回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の実施 第12回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査結果レポート作成 第13回：東アジア社会文化の領域に関する中間報告での論点への対応を通じた検討課題抽出 第14回：本科目で学んだ東アジア社会文化の領域に関する研究の方法の振り返り 第15回：本科目で学んだ東アジア社会文化の領域に関する専門的知識の振り返り 定期試験なし
テキスト 担当教員の指示による
参考書・参考資料等 『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会
学生に対する評価 研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-A（東アジア社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広川佐保、山内民博、白石典之、村上正和
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
アジア史など東アジア社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲの中間発表を通して確認した研究を進める上で必要な資質・能力・方法を意識的に運用し、研究の成果をまとめ、発表する。発表と討議では2年間の課題研究をふまえ、学際的な「総合知」の視点から自らが獲得した研究の資質・能力・方法の到達を確認すると共に、具体的な題材に即して蓄積した東アジア社会文化の領域に関する知見を整理する。また本科目を通して講義科目では涵養しづらい「主体的・対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、その成果を中学校社会・高等学校地理歴史の教育分野をはじめ、社会において幅広く運用する実践的方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
研究成果をまとめ発表することを通して、研究活動の中で自らが獲得した資質・能力・方法を意識化すると共に、アジア史など東アジア社会文化に関わる領域に関する知見を整理し、中学校社会・高等学校地理歴史の教育における活用をはじめ、社会におけるその幅広い活用を目指す。			
授業計画			
第1回：アジア史など東アジア社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究補足調査			
第3回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究整理			
第4回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の準備			
第5回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の実施			
第6回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の整理			
第7回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足調査の総合的検討			
第8回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の考え方の検討			
第9回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成原案作成と検討			
第10回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（1）－研究目的と方法について－			

第11回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（2）－研究の内容について－ 第12回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（3）－研究の結論について－ 第13回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果のまとめ（4）－研究の学術的な意義と課題について－ 第14回：東アジア社会文化の領域に関する研究成果の最終発表と討議 第15回：本科目で獲得した東アジア社会文化の領域に関する研究方法・知見の全体的なまとめ 定期試験なし
テキスト 担当教員の指示による
参考書・参考資料等 『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会
学生に対する評価 研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-A（欧米社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員：細田あや子、高橋秀樹、高橋康浩、小林繁子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、西洋史などの欧米社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。導入的な課題研究Ⅰのあと、専攻分野が確定した1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などの研究の方法を学び、翌年度のはじめに予定されている研究中間報告の準備を行なう。そして以上の過程を通して、欧米社会文化の領域に関する研究能力を養成し、中学校社会・高等学校地理歴史に関する専門知識の基盤を構築すると共に、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、地理歴史に関わる探究の方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、専門的な研究の方法を学ぶと共に西洋史などの欧米社会文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：西洋史など欧米の社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の調査			
第3回：欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の読解・分析			
第4回：欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究整理レポート作成			
第5回：欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の計画			
第6回：欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の実施			
第7回：欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査報告資料作成			
第8回：先行研究整理レポート・資料調査報告資料に基づく欧米社会文化の領域に関する教員との討議			
第9回：欧米社会文化の領域に関する教員との討議をふまえた中間報告での検討課題の設定			
第10回：検討課題に基づく先行研究の補足調査・整理			
第11回：検討課題に基づく補足資料調査の計画・実施			

第12回：中間報告に向けた先行研究整理に関する準備資料の作成

第13回：中間報告に向けた資料調査に基づく報告準備資料の作成

第14回：本科目で学んだ欧米社会文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本授業で学んだ欧米社会文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ・A（欧米社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員：細田あや子、高橋秀樹、高橋康浩、小林繁子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
西洋史などの欧米社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱの成果をまとめ、欧米社会文化の領域の教員が複数参加する中間報告会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性を確認する。また発表での討議をふまえ、研究を進めていく上で必要な資質・能力・方法や欧米社会文化に関わる知識を再確認してその向上をはかることで、中学校社会・高等学校地理歴史に関する専門知識の基盤を強化するとともに、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、地理歴史に関わる探究の方法に習熟することをめざす。			
授業の概要			
研究成果の中間報告と討議を通して、研究を進める上で必要な資質・能力・方法を再確認すると共に西洋史など欧米社会文化の領域に関する専門的知見の基盤を強化する。			
授業計画			
第1回：西洋史など欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：欧米社会文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査			
第3回：欧米社会文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査結果の整理			
第4回：欧米社会文化の領域に関する中間報告資料の完成に向けた作成方法の学習			
第5回：欧米社会文化の領域に関する中間報告と討議			
第6回：欧米社会文化の領域に関する中間報告における討議の振り返りと論点の確認			
第7回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の調査			
第8回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の整理分析			
第9回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究整理レポート作成			
第10回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の準備			
第11回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の実施			
第12回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査結果レポート作成			

第13回：欧米社会文化の領域に関する中間報告での論点への対応を通した検討課題の抽出

第14回：本科目で学んだ欧米社会文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本科目で学んだ欧米社会文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-A（欧米社会文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員：細田あや子、高橋秀樹、高橋康浩、小林繁子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
西洋史など欧米社会文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲの中間発表を通して確認した研究を進める上で必要な資質・能力・方法を意識的に運用し、研究の成果をまとめ、発表する。発表と討議では2年間の課題研究をふまえ、学際的な「総合知」の視点から自らが獲得した研究の資質・能力・方法の到達を確認すると共に、具体的な題材に即して蓄積した欧米社会文化の領域に関する知見を整理する。また本科目を通して講義科目では涵養しづらい「主体的・対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、その成果を中学校社会・高等学校地理歴史の教育分野をはじめ、社会において幅広く運用する実践的方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
研究成果をまとめ発表することを通して、研究活動の中で自らが獲得した資質・能力・方法を意識化すると共に、西洋史など欧米社会文化に関わる領域に関する知見を整理し、中学校社会・高等学校地理歴史の教育における活用をはじめ、社会におけるその幅広い活用を目指す。			
授業計画			
第1回：西洋史など欧米社会文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究補足調査			
第3回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究整理			
第4回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の準備			
第5回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の実施			
第6回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の整理			
第7回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足調査の総合的検討			
第8回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の考え方の検討			
第9回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の原案作成と検討			
第10回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（1）―研究目的と方法について―			
第11回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（2）―研究の内容について―			

第12回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめ方（3）—研究の結論について— 第13回：欧米社会文化の領域に関する研究成果のまとめ（4）—研究の学術的な意義と課題について— 第14回：欧米社会文化の領域に関する研究成果の最終発表と討議 第15回：本科目で獲得した欧米社会文化の領域に関する研究方法・知見の全体的なまとめ 定期試験なし
テキスト 担当教員の指示による
参考書・参考資料等 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』日本学術振興会
学生に対する評価 研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 英米言語文化論Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北田 伸一
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
生成文法理論の理論的な背景および基礎仮説群を、英語論文の精読を通して精確に理解するとともに、本理論が採用する思考法・方法論を身につけることを目標とする。生成文法理論の理論的な背景および基礎仮説群について、英語論文の精読を通して理解することができるようにする。生成文法理論が採用する方法論を身につけることができるようにする。				
授業の概要				
本講義では、英語論文の精読を通して生成文法（generative grammar）理論と呼ばれる言語理論（統語論）の歴史的変遷を辿り、この理論が設定する研究課題および基礎仮説群を整理・概観する。				
授業計画				
第1回： 本講義の目的、受講上の注意、評価の方法などのガイダンス。				
第2回： 1. Introduction				
2. Grammatical Form: Words, Word Classes and Phrases				
第3回： 3. Grammatical Function				
第4回： 4. More on Form: Clauses and Sentences				
第5回： 5. The Grammatical Forms—Grammatical Function Interface				
第6回： 6. Predicates, Arguments and Thematic Roles				
第7回： 7. Cross-categorial Generalizations: X-bar Syntax				
第8回： 8. More on Clauses				
第9回： 9. Movement				
第10回： 10. Tense, Aspect and Mood				
第11回： 11. Syntactic Argumentation				
第12回： 12. Constituency: Movement and Substitution				
第13回： 13. Constituency: Some Additional Tests				
第14回： 14. Predicates and Arguments Revisited				
第15回： 15. Information Packaging				
定期試験： まとめと試験				
テキスト		Aarts, Bas. 2024. English Syntax and Argumentation. London: Bloomsbury Academic.		
参考書・参考資料等		適宜指示する		

授業科目名： 英米言語文化論I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北田 伸一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
生成文法理論の理論的枠組みの下で、英語に観察される様々な統語現象の分析方法を学び、本理論が採用する思考法・方法論を身につけることを目標とする。生成文法理論に基づく言語分析の方法を、英語論文の精読を通して理解することができるようにする。生成文法理論が採用する基礎仮説群を身につけることができるようにする。			
授業の概要			
本講義では、生成文法（generative grammar）理論と呼ばれる言語理論（統語論）の理論枠組みで、英語に観察される様々な文法現象に対する実証研究を行う。			
授業計画			
第1回： 本講義の目的、受講上の注意、評価の方法などのガイダンス。			
第2回： 1 Background			
1.0 Overview			
1.1 Basic concepts			
1.2 Generating syntactic structures			
1.3 Invisible structure and structural relations			
第3回： 1.4 Movement operations			
1.5 Blocking mechanisms			
1.6 Summary			
第4回： 2 A-Movement			
2.0 Overview			
2.1 VP-Internal Subject Hypothesis			
2.2 Argument structure and theta roles			
2.3 Unaccusative structures			
第5回： 2.4 Passive structures			
2.5 Raising and Control structures			
2.6 Mixed structures			
2.7 Summary			
第6回： 3 Agreement			
3.0 Overview			
3.1 Agreement, A-Movement and Case-marking			
3.2 Agreement and case in expletive clauses			

第7回： 3.3 Agreement, A-Movement and case in infinitives

3.4 Cross-clausal agreement

3.5 Summary

第8回： 4 The clause periphery

4.0 Overview

4.1 The Cartographic approach

4.2 Focus projections

第9回： 4.3 Modifier and finiteness projections

4.4 Complete and truncated clauses

4.5 Summary

第10回： 5 More peripheral constituents

5.0 Overview

5.1 Negative and Interrogative Inversion

5.2 Wh-questions without Interrogative Inversion

第11回： 5.3 Yes-no questions

5.4 Exclamative and relative clauses

5.5 Summary

第12回： 6 The subperiphery

6.0 Overview

6.1 Auxiliary and subject projections

6.2 Subperipheral adverbs

第13回： 6.3 Word order variation

6.4 Other subperipheral constituents

6.5 Summary

第14回： 7 Abbreviated registers

7.0 Overview

7.1 Subject Drop

7.2 Auxiliary Drop

7.3 Article Drop

第15回： 7.4 Be Drop

7.5 Object Drop

7.6 Summary

定期試験： まとめと試験

テキスト Radford, Andrew. 2024. Analyzing English Sentence Structure: An Intermediate Course in Syntax. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 質疑応答30%、期末レポート70%

授業科目名： 英米言語文化論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大竹 芳夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
言語学や言語教育に関するテキストと適宜配布される論文の精読を通して、最近の言語学の知見を検証し、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の類似点と相違点を分析し、ことばとは何かを理解することを目指す。・言語間の異同を原理的に解明することで、ことばの本質の理解を深めることができる。 ・英語と日本語の発想や文化の相違を深いレベルで理解できるようになる。 ・英語話者の英語感覚を原理的に解明しながら、発話場面や文脈に応じて適切な表現形式が選択されるメカニズムを理解できる。			
授業の概要			
英語の形式には事物や出来事に対する英語話者の知覚・認識の仕方がそのまま反映される。「形が違えば意味も違う(one form for one meaning)」をテーマに、語句・構文・談話の各レベルで、従来の説明を検証しながら、英語話者の文法を文化や思考パターンと関連付けて原理的に解明する。また、応用言語学的見地から、言語理論と言語教育との接点についても講義する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：教材の特徴・意義と使用方法，授業の進め方，評価方法などについて			
第2回：意味と形の結びつき			
第3回：名詞の可算性について			
第4回：文の情報構造について			
第5回：談話の情報構造について			
第6回：日英語話者のなわ張り意識の相違について			
第7回：敬意・丁寧意識の表し方，なわ張り意識の表し方について			
第8回：事物に対する文化的価値意識の表し方について			
第9回：語用論的観点からの言語研究について			
第10回：比喩，ことわざ，ユーモア，広告文にみられる英語話者の発想と文化について			
第11回：アメリカ，イギリス，オーストラリアの英語と文化背景について			
第12回：英語のディベート，スピーチにみられる論理構造について			
第13回：言語学と言語教育の接点について			

第14回：言語学的知見の英語教育，日本語教育への応用可能性について

第15回：授業のまとめと学位論文作成に役立つ表現について

定期試験：レポート作成

テキスト (受講生の実情に応じてテキストは変更の可能性がある。初回授業時に正式に決定する。)

・登田龍彦. (2021)『英語教師を変える楽しい学び直し—自律的学習を導く語彙・文法指導の原点—』開拓社. 3,740円.

・大竹芳夫. (2016)『談話のことば1 文をつなぐ』研究社. 2,530円.

・適宜配布される英語論文

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 学期末レポートの内容(70%)＋発表内容(30%)＋議論への参加状況を総合的に評価する。

授業科目名： 英米言語文化論Ⅱ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大竹 芳夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本演習では、最近の意味論、語用論、日英語比較研究、言語教育に関するテキストと適宜配布される論文の精読と発表を通して、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の類似点と相違点を原理的に分析し、ことばとは何かを理解することを目指す。また、受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論を通して、研究内容を深化させることも目指す。・言語間の異同を原理的に解明することで、ことばの本質の理解を深めることができる。 ・英語と日本語の発想や文化の相違を深いレベルで理解できるようになる。 ・英語話者の英語感覚を原理的に解明しながら、発話場面や文脈に応じて適切な表現形式が選択されるメカニズムを理解できる。			
授業の概要			
「ことばは文化の乗り物、心の鏡」と言われる。本演習では、最近の意味論、語用論、日英語比較などの研究成果を活用しながら、英語の諸構文の形式と意味・機能の対応関係を考察し、英語話者の発想や認知が英語の仕組みにどのように映し出されるのかを検証する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：教材の特徴・意義と使用方法、授業の進め方、評価方法などについて			
第2回：テキストの読解（テーマ：「聞き手の理解に負担をかけずに文をつなぐ」）と事例分析			
受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論			
第3回：テキストの読解（テーマ：「結束性と首尾一貫性を保ってなめらかにつなぐ」）と事例分析			
受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論			
第4回：テキストの読解（テーマ：「情報を訂正してつなぐ」）と事例分析			
受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論			
第5回：テキストの読解（テーマ：「適切な情報に切り替えてつなぐ」）と事例分析			
受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論			
第6回：テキストの読解（テーマ：「話の方向を本題から突然そらしてつなぐ」）と事例分析			
受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論			
第7回：テキストの読解（テーマ：「他の理屈や事実に理解を示しつつ反論につなぐ」）と事例分析			

例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第8回：テキストの読解（テーマ：「常識や予想を打ち消してつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第9回：テキストの読解（テーマ：「相手の発話を補完してつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第10回：テキストの読解（テーマ：「場面や文脈情報と関連付けて文をつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第11回：テキストの読解（テーマ：「突発的に知覚した状況を継起関係に基づいてつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第12回：テキストの読解（テーマ：「話題を提示してつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第13回：テキストの読解（テーマ：「重要な情報の伝達を告げてつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第14回：テキストの読解（テーマ：「情報の橋渡しをして文をつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

第15回：テキストの読解（テーマ：「先行情報と比較しながら新情報をつなぐ」）と事例分析

受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論

定期試験：レポート作成

テキスト （受講生の実情に応じてテキストは変更の可能性がある。初回授業時に正式に決定する。）

・大竹芳夫. (2016)『談話のことば1 文をつなぐ』（＜シリーズ＞英文法を解き明かす－現代英語の文法と語法③）研究社. 2,530円.

・登田龍彦. (2021)『英語教師を変える楽しい学び直し—自律的学習を導く語彙・文法指導の原点—』開拓社. 3,740円

・適宜配布される英語論文

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 発表内容(50%)と学期末レポートの内容(50%)+議論への参加状況を総合的に評価する。

授業科目名： 英米言語文化論Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 陽子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
「主観性」は言語研究において重要な概念の一つであり、これまでさまざまに論じられてきた。本科目では、テキストの前半におさめられている論文を中心に読み解きながら、言語研究において主観性がどのように捉えられてきているのか理解を深める。また、さまざまな論文を読み解き、自らの研究において必要となる、論文を的確に読み解く力を高める。 1. 「主観性」という概念が言語研究においてどのように論じられ、捉えられてきたのかを理解することができる。 2. 論文を読み解き、「構文」、「主観性」、「主観化」、「拡張」などをキーワードとしながら、ポイントを自分のことばで説明することができる。			
授業の概要			
本科目は、言語研究において重要な概念の一つである「主観性」に焦点をあてる。テキストにおさめられているさまざまな論文を読み解きながら、主観性とは何かを考える。授業では、テキストの前半におさめられている論文を中心に読み解く。			
授業計画			
第1回： イントロダクション			
第2回： 第Ⅰ部 第1章 総論（1. はじめに、2. 構文）			
第3回： 第Ⅰ部 第1章 総論（3. 主観性—主として言語学分野から—）			
第4回： 第Ⅰ部 第1章 総論（4. 間主観性、5. 生態心理学的に見た（間）主観—共同注意（三項関係）—）			
第5回： 第Ⅰ部 第1章 総論（6. 主観性—日本語学分野から—）			
第6回： 第Ⅰ部 第2章 4種類の「主観」の用語法（1. はじめに、2. 4種類の「主観」の2.1～2.2）			
第7回： 第Ⅰ部 第2章 4種類の「主観」の用語法（2. 4種類の「主観」の2.3～2.4、3. 複数の「主観」の重ね合わせ）			
第8回： 第Ⅰ部 第2章 4種類の「主観」の用語法（4. 主観的意味の関わる話題、5. おわりに）			
第9回： 第Ⅱ部 第3章 間主観的から接続的へという変化（1. はじめに、2. 1980年代以降の、意味変遷研究における仮説的方向性、3. 間主観的機能から接続的機能へという方向性—英・日・リトアニア語からの報告）			

第10回：第Ⅱ部 第3章 間主観的から接続的へという変化（4. 間主観的から接続的機能へ話しことばの例—アメリカ英語の延長表現（GEs）—、5. まとめ 間主観的機能から接続的機能へ—アメリカ英語のGEsの場合—）	
第11回：第Ⅱ部 第4章 構文拡張と主観化の解釈について（1. はじめに、2. SN構文の概要、3. 調査手順と調査結果）	
第12回：第Ⅱ部 第4章 構文拡張と主観化の解釈について（4. 構文拡張と主観化、5. 結論）	
第13回：第Ⅱ部 第5章 譲歩構文からの拡張（1. はじめに、2. Having said that, that said, that being said）	
第14回：第Ⅱ部 第5章 譲歩構文からの拡張（3. 譲歩節の多義、4. 発話行為譲歩文としてのHST譲歩文）	
第15回：第Ⅱ部 第5章 譲歩構文からの拡張（5. 逆接からトピックシフトへ、6. 譲歩からトピックシフトへの拡張と（間）主観性、7. おわりに）、	
期末レポート	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	天野みどり・早瀬尚子 編 『構文と主観性』 くろしお出版 ISBN 978-4-87424-877-5
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業内活動：50%、期末レポート：50%

授業科目名： 英米言語文化論Ⅲ 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 陽子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
「主観性」は言語研究において重要な概念の一つであり、これまでさまざまに論じられてきた。本科目では、テキストの後半におさめられている論文を中心に読み解きながら、言語研究において主観性がどのように捉えられてきているのか理解を深める。また、さまざまな論文を読み解き、自らの研究において必要となる、論文を的確に読み解く力を高める。 1. 「主観性」という概念が言語研究においてどのように論じられ、捉えられてきたのかを理解することができる。 2. 論文を読み解き、「構文」、「主観性」、「主題」、「文法化」などをキーワードとしながら、ポイントを自分のことばで説明することができる。			
授業の概要			
本科目は、「英米言語文化論Ⅲ」に引き続き、言語研究において重要な概念の一つである「主観性」に焦点をあてる。テキストにおさめられているさまざまな論文を読み解きながら、主観性とは何かを考える。授業では、テキストの後半におさめられている論文を中心に読み解く。			
授業計画			
第1回： イントロダクション			
第2回： 第Ⅱ部 第7章 後置型懸垂分詞構文について（1. はじめに、2. 先行研究—従属的要素の前置と後置の違いについて—、3. assumingを用いた（懸垂）分詞の3.1～3.2の3.2.1）			
第3回： 第Ⅱ部 第7章 後置型懸垂分詞構文について（3. assumingを用いた（懸垂）分詞の3.2の3.2.2～3.4、4. 理論的考察、5. まとめ）			
第4回： 第Ⅱ部 第8章 中間構文を含む、英語における無標識可能表現のネットワーク（1. はじめに、2. 能動受動構文としての中間構文およびその他の中間構文の成立）			
第5回： 第Ⅱ部 第8章 中間構文を含む、英語における無標識可能表現のネットワーク（3. ゼロの動作主の読み込みとは何か—具体事例からの検討—、4. 能動受動構文としての英語中間構文発生の契機、5. 有対能格自動詞以外の場合、6. 英語無標識可能表現の意味構造とネットワーク）			
第6回： 第Ⅱ部 第8章 中間構文を含む、英語における無標識可能表現のネットワーク（7. 主体性および間主観性の観点からの位置づけ、8. 構文理論における位置づけ、			

9. 結語)

第7回：第Ⅲ部 第9章 日本語主題構文と主観性（1. はじめに、2. 日本語における主題構文の形成、3. ハ主題構文と無標識主題構文）

第8回：第Ⅲ部 第9章 日本語主題構文と主観性（4. 階層構成的モダリティから見た主題構文、5. 英語の主題構文、6. 日本語主題構文における主観性、7. おわりに）

第9回：第Ⅲ部 第10章 「て+みせる」の文法化（1. はじめに、2. 現代語における「て+みせる」の用法）

第10回：第Ⅲ部 第10章 「て+みせる」の文法化（3. 「て+みせる」の歴史、4. 補助動詞の文法化、5. おわりに）

第11回：第Ⅲ部 第11章 感情形容詞の連用修飾（1. はじめに、2. 問題の所在と分析の観点、3. 形容詞分類と感情喚起の連用修飾成分、4. 感情形容詞の連用修飾用法）

第12回：第Ⅲ部 第11章 感情形容詞の連用修飾（5. 話者読みと主観性、6. 形容詞連用修飾の構文機能、7. おわりに—まとめと今後の課題・展望—）

第13回：第Ⅲ部 第12章 逆接の意味と構文（1. はじめに、2. 逸脱的なノヲ文・ノガ文とは、3. 《逆接》《対比》とは）

第14回：第Ⅲ部 第12章 逆接の意味と構文（4. 逸脱的なノヲ文・ノガ文の《逆接性》《対比性》の検討）

第15回：第Ⅲ部 第12章 逆接の意味と構文（5. 連体修飾節を伴う連用句を有する文に《逆接性》が解釈されるとき、6. 《逆接》の意味と《主観性》、7. おわりに）

期末レポート

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 天野みどり・早瀬尚子 編 『構文と主観性』くろしお出版 ISBN 978-4-87424-877-5

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 授業内活動：50%、期末レポート：50%

授業科目名： 英米言語文化論Ⅳ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本間 伸輔
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
理論言語学、普遍文法理論の観点から、英語の統語的・意味的性質について理解を深めること、英語とその他の言語との共通点・相違点について理解することをねらいとする。英語と日本語の諸言語現象の統語的・意味的性質、および英語と日本語の共通点・相違点について、(1)英語についての先行研究の分析を正確に理解すること、(2)先行研究で提出された仮説の妥当性を検証するために、英語や自分の母語の適切な例文を作ることができる以上を主な到達目標とする。				
授業の概要				
理論言語学・普遍文法理論の観点から英語の意味・構造に関する言語現象を考察する。また、日本語や中国語など、他言語との比較も行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
動詞の分類(1)：状態動詞と動作動詞の文法的な違いについて理解を深める				
第2回：動詞の分類(2)：「完了性」についての動詞分類と関連する文法現象について理解を深め、先行研究を批判的に検討する				
第3回：動詞の分類(3)：日本語、中国語など他言語における「完了性」に関わる文法現象について理解を深める				
第4回：意味役割(1)：意味役割と意味領域について理解を深める				
第5回：意味役割(2)：意味役割に関わる文法現象について理解を深め、先行研究を批判的に検討する				
第6回：意味役割(3)：意味構造の統語構造への写像について理解を深める				
第7回：意味役割(4)：心理動詞、二重目的語構文などの構文における項の現れ方について理解を深め、先行研究を批判的に検討する				
第8回：意味役割(5)：受動文、使役文などの構文における項の現れ方について理解を深める				
第9回：意味役割(6)：日本語や中国語など他言語における統語構造への写像について理解を深め、先行研究を批判的に検討する				
第10回：意味役割(7)：非対格動詞の文法的性質について理解を深める				
第11回：主語の性質について理解を深める				
第12回：修飾(1)：副詞・法助動詞の種類と文法的性質について理解を深める				

第13回：修飾(2)：形容詞の種類と文法的性質について理解を深める

第14回：日本語の事例研究(1)：日本語の動詞の意味・項構造について理解を深める

第15回：日本語の事例研究(2)：日本語の動詞の意味・項構造について理解を深め、先行研究を批判的に検討する

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 『生成意味論入門』阿部潤著，開拓社，2600円＋税

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 授業内での口頭報告(20%)，およびレポート(80%)によって評価する。

授業科目名： 英米言語文化論Ⅳ 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本間 伸輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
理論言語学、普遍文法理論の観点から、英語の統語的・意味的性質について理解を深めること、英語とその他の言語との共通点・相違点について理解すること、および先行研究を批判的に検討することをねらいとする。			
英語と日本語の諸言語現象の統語的・意味的性質、および英語と日本語の共通点・相違点について、			
(1) 英語についての先行研究の分析を正確に理解すること、			
(2) 先行研究の分析を検証するために、英語および自分の母語の適切な例文を作ることができる			
(3) 先行研究の分析を批判的に検討できる以上を主な到達目標とする。			
以上を主な到達目標とする。			
授業の概要			
理論言語学・普遍文法理論の観点から英語の意味・構造に関する言語現象を考察する。また、日本語や中国語など、学生の母語との比較も行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
時制と相(1)：ライヘンバッハの時制理論について理解を深める			
第2回：時制と相(2)：ライヘンバッハの時制理論を批判的に検討する			
第3回：時制と相(3)：英語と日本語の時制・相形式との比較を行う			
第4回：否定と作用域(1)：否定文の意味について理解を深める			
第5回：否定と作用域(2)：否定と数量詞の作用域について理解を深める、先行研究を批判的に検討する			
第6回：否定と作用域(3)：否定と数量詞の作用域について先行研究を批判的に検討する、英語と他言語との比較を行う			
第7回：束縛変項としての代名詞(1)：代名詞の種類と先行詞との関係について理解を深める			
第8回：束縛変項としての代名詞(2)：再帰代名詞・相互代名詞の性質について理解を深める			
第9回：束縛変項としての代名詞(3)：数量詞句を先行詞とする代名詞の解釈・統語的性質について理解を深める			
第10回：束縛変項としての代名詞(4)：先行研究を批判的に検討する、英語以外の言語との比			

較を行う

第11回：不透明性：名詞句の指示の透明性・不透明性について理解を深める，英語とその他の言語について比較を行う

第12回：焦点と前提(1)：英語の疑問文における焦点と前提の現れ方について理解を深める，先行研究を批判的に検討する

第13回：焦点と前提(2)：英語の否定文における焦点と前提の現れ方について理解を深める，英語と多言語の比較を行う

第14回：焦点と前提(3)：英語の叙実述語の意味的性質について理解を深める

第15回：焦点と前提(4)：英語の確定記述の意味的性質について理解を深める，英語と多言語の比較を行う

定期試験：定期試験は実施しない

テキスト 『生成意味論入門』阿部潤著，開拓社，2600円＋税

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 授業内での口頭報告(40%)，およびレポート(60%)によって評価する。

授業科目名： 英米文芸文化論Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Hadley Gregory Stuart
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
この授業では、聖書の重要な章やテーマを取り上げ、それらを西洋の芸術、文化、文学、そしてポピュラーメディアの解釈に応用します。本科目は、西洋文化研究の背景にある聖書の影響を理解することで、批判的思考力や文化的洞察力を養うことを目指しています。このような学びを通じて、学院生は西洋文化の深層構造を捉える力を育み、広い視野で物事を考察できる資質を得ることが期待されます。この科目の終了時には、学修者が以下の目標を達成することを目指します。これらの目標は具体的かつ評価可能な形で設定されており、学位授与方針に示されている事項とも関連付けられています。 ＊ 聖書が西洋の理想や創造的表現の形成にどのように影響を与えたかを説明することができる。 ＊ 聖書の主要なテーマや章を分析し、それらが西洋文化や芸術にどのように反映されているかを批判的に考察することができる。 ＊ 学んだ知識を応用し、西洋の文学、芸術、ポピュラーメディアにおける聖書の影響を独自の視点で解釈す				
授業の概要				
この授業では、聖書を神聖なテキストであると同時に世界文学の一部として捉え、その文化的・歴史的役割を探求します。聖書が西洋思想や芸術表現に与えた影響を解明するため、さまざまなテーマや課題について考察します。本科目は、人文学の一環として、聖書がどのように西洋の価値観や創造性の基盤を形成してきたかを理解することを目的としています。				
授業計画				
第1回： 1 コース概要				
第2回： 2 初期の始まり：『ギルガメシュ叙事詩』と『創世記』				
第3回： 3 法の制定：『出エジプト記』				
第4回： 4 講義の続きとグループディスカッション				
第5回： 5 悪の問題：『ヨブ記』				
第6回： 6 講義の続きとグループディスカッション				
第7回： 7 『イザヤ書』：平和への憧れ				
第8回： 8 講義の続きとグループディスカッション				
第9回： 9 『マタイによる福音書』：新しい法				

第10回：10	講義の続きとグループディスカッション
第11回：11	『ルカによる福音書』と『使徒言行録』：ローマへの移行
第12回：12	講義の続きとグループディスカッション
第13回：13	『ヨハネによる福音書』：愛の物語
第14回：14	講義の続きとグループディスカッション
第15回：15	総合的な復習と主要な問題の検討
定期試験：16	最終プレゼンテーション
テキスト	教材は講師が作成し、初回の授業で学生に配布されます。
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	学院生の評価は、宿題（50%）と短いプレゼンテーションテスト（50%）によって行われます。

授業科目名： 英米文芸文化論I演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Hadley Gregory Stuart 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
この科目は、人文学を専攻する大学院生が、芸術や文学における著者の著作をより深く理解し、解釈するために、聖書に関する体系的な知識を身につけることを目的としています。聖書は西洋文化や思想に深く根付いており、その影響を理解することで、学生は自身の研究分野における作品やテーマをより幅広い視点から分析する能力を養うことができます。 また、現代の西洋諸国における文化的・社会的動態を理解するためにも、聖書の知識は重要です。この科目では、聖書の主要な章やテーマを取り上げ、それらを西洋の芸術、文化、文学、そしてポピュラーメディアの解釈に応用します。これにより、学生は聖書が西洋文化の形成に果たした役割を体系的に理解すると同時に、批判的思考力や文化的洞察力を向上させることを目指します。 さらに、この科目は学位授与方針に基づき、人文学における学問的基盤を提供するものであり、学生が研究や実践において汎用的なスキルを身につけることを支援します。具体的には、文化的背景を踏まえた解釈力、テキストの分析力、多文化的な視野を広げる能力などを養うことが期待されます。以上のような背景から、この科目は人文学研究における重要な位置づけを持つものと言えます。この科目の終了時には、大学院生は以下の目標を達成することを目指します。 * 聖書が西洋の理想や創造的表現の形成に与えた影響について、深い理解を得ることができる。 * 西洋の芸術作品をより深く分析し、その文化的・歴史的背景を批判的に考察することができる。 * 作家や他の著作者の視点や動機を理解するために、授業で得た洞察を応用することができる。 * 西洋文化の表現における象徴的な意味や背景を、聖書から導かれた概念と関連付けて説明することができる。			
授業の概要			
この科目は「英米文芸文化論I」を基盤とし、西洋文化思想と発展における聖書の役割を探求します。本科目では、西洋文明における著名な芸術家、哲学者、神学者、思想家の作品を研究し、彼らの思想や芸術表現に聖書がどのような影響を与えたかを明らかにします。本科目は、大学全体および学位プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）およびカリキュラム			

編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、人文学領域における重要な学問的基盤を提供するものです。

授業計画

- 第1回：1 『英米文芸文化論I』の復習と後半の展望
 第2回：2 パウロの伝統
 第3回：3 講義の続きとグループディスカッション
 第4回：4 講義の続きとグループディスカッション
 第5回：5 講義の続きとグループディスカッション
 第6回：6 ダンテの『死者の書』
 第7回：7 講義の続きとグループディスカッション
 第8回：8 ルターと宗教改革
 第9回：9 講義の続きとグループディスカッション
 第10回：10 シェイクスピアと聖書
 第11回：11 講義の続きとグループディスカッション
 第12回：12 ヒュームと自然神論の衰退
 第13回：13 ニーチェと神の死
 第14回：14 キェルケゴールの信仰の飛躍
 第15回：15 ジェームズ・ジョイス：宗教との西洋的格闘
 定期試験：16 最終プレゼンテーション

テキスト 大学院生は、自分の母語で書かれた聖書を購入してください。英語と母語の両方で書かれたものが理想的です。授業で使用する教材はすべて教員が提供します。なお、学生は自身のノートを取るための道具を持参してください。

参考書・参考資料等 適宜指示する

学生に対する評価 評価は、宿題（50%）と短いプレゼンテーションテスト（50%）によって行われます。

授業科目名： 英米文芸文化論II		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 平野 幸彦	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項					
授業のテーマ及び到達目標							
本授業科目を履修することにより、現代のグローバルな芸術文化成立の一端を担った地域及び時代についての個別的な知識・理解を得る一方、汎用的スキルとしてテキスト分析能力及び論理的プレゼンテーション能力の涵養を目指す。・19世紀アメリカ文学ひいては世界文学におけるPoeの位置づけを正しく理解することができる。 ・時代や地域を問わず適用可能な文学的知識及びテキスト分析技法を修得する。 ・大学院博士前期課程の学生にふさわしい論理的思考力及びプレゼンテーション能力を修得する。							
授業の概要							
本授業科目が属する学問領域は文学であり、地域的には欧米文化研究、時代的には19世紀研究に分類される。							
授業計画							
第1回：“Ligeia”「ライジーア」講読（その1）							
第2回：“Ligeia”「ライジーア」講読（その2）							
第3回：“Ligeia”「ライジーア」講読（その3）							
第4回：“Ligeia”「ライジーア」講読（その4）							
第5回：“Ligeia”「ライジーア」講読（まとめとディスカッション）							
第6回：“The Fall of the House of Usher”「アッシャー家の崩壊」講読（その1）							
第7回：“The Fall of the House of Usher”「アッシャー家の崩壊」講読（その2）							
第8回：“The Fall of the House of Usher”「アッシャー家の崩壊」講読（その3）							
第9回：“The Fall of the House of Usher”「アッシャー家の崩壊」講読（その4）							
第10回：“The Fall of the House of Usher”「アッシャー家の崩壊」講読（まとめとディスカッション）							
第11回：“William Wilson”「ウィリアム・ウィルソン」講読（その1）							
第12回：“William Wilson”「ウィリアム・ウィルソン」講読（その2）							
第13回：“William Wilson”「ウィリアム・ウィルソン」講読（その3）							
第14回：“William Wilson”「ウィリアム・ウィルソン」講読（その4）							
第15回：“William Wilson”「ウィリアム・ウィルソン」講読（まとめとディスカッション）							
定期試験：定期試験は実施しない							

テキスト	
Edgar Allan Poe, <i>Selected Tales</i> (Oxford World's Classics), ISBN-13: 978-0199535774	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の学修態度50%, 期末レポートの成績50%

授業科目名： 英米文芸文化論Ⅱ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平野 幸彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業科目を履修することにより、現代のグローバルな芸術文化成立の一端を担った地域及び時代についての個別的な知識・理解を得る一方、汎用的スキルとしてテキスト分析能力及び論理的プレゼンテーション能力の涵養を目指す。・19世紀アメリカ文学ひいては世界文学におけるPoeの位置づけをより正しく理解することができる。 ・時代や地域を問わず適用可能な文学的知識及びテキスト分析技法を修得する。 ・大学院博士前期課程の学生にふさわしい論理的思考力及びプレゼンテーション能力をさらに涵養する。			
授業の概要			
本授業科目が属する学問領域は文学であり、地域的には欧米文化研究、時代的には19世紀研究に分類される。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（使用テキストについて）			
第2回：David S. Reynolds, “Poe’s Art of Transformation.”（デイヴィッド・S・レナルズ「ポーの変容の芸術」）読解とディスカッション（その1）			
第3回：David S. Reynolds, “Poe’s Art of Transformation.”（デイヴィッド・S・レナルズ「ポーの変容の芸術」）読解とディスカッション（その2）			
第4回：John T. Irwin, “A Platonic Dialogue.”（ジョン・T・アーウィン「プラトンの対話」）読解とディスカッション（その1）			
第5回：John T. Irwin, “A Platonic Dialogue.”（ジョン・T・アーウィン「プラトンの対話」）読解とディスカッション（その2）			
第6回：Shawn Rosenheim, “Detective Fiction, Psychoanalysis, and the Analytic Sublime.”（ショーン・ローゼンハイム「探偵小説、精神分析、分析的崇高」）読解とディスカッション（その1）			
第7回：Shawn Rosenheim, “Detective Fiction, Psychoanalysis, and the Analytic Sublime.”（ショーン・ローゼンハイム「探偵小説、精神分析、分析的崇高」）読解とディスカッション（その2）			
第8回：Harriet Hustis, “Reading Encrypted But Persitent”（ハリエット・ハスティス「暗号化された、しかし執拗な読解」）読解とディスカッション（その1）			
第9回：Harriet Hustis, “Reading Encrypted But Persitent”（ハリエット・ハスティス「暗号化された、しかし執拗な読解」）読解とディスカッション（その2）			

第10回：Leland S Person, “Poe’s Philosophy of Amalgamation.”（リーランド・S・パーソン「ポエの混血の哲学」）読解とディスカッション（その1）	
第11回：Leland S Person, “Poe’s Philosophy of Amalgamation.”（リーランド・S・パーソン「ポエの混血の哲学」）読解とディスカッション（その2）	
第12回：Dorothea E. von Mucke, “Ligeia”（ドロテア・E・フォン・ミュッケ「ライジーア」）読解とディスカッション（その1）	
第13回：Dorothea E. von Mucke, “Ligeia”（ドロテア・E・フォン・ミュッケ「ライジーア」）読解とディスカッション（その2）	
第14回：John H. Timmerman, “House of Mirrors”（ジョン・H・ティーマーマン「鏡の家」）読解とディスカッション（その1）	
第15回：John H. Timmerman, “House of Mirrors”（ジョン・H・ティーマーマン「鏡の家」）読解とディスカッション（その2）	
定期試験：定期試験は実施しない	
テキスト	
Harold Bloom (ed.), <i>Edgar Allan Poe</i> (Bloom's Modern Critical Views), Chelsea House. ISBN 978-0-7910-8567-8	
参考書・参考資料等	適宜指示する
学生に対する評価	授業中の学修態度50%, 期末レポートの成績50%

授業科目名： 英米文芸文化論Ⅲ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市橋 孝道
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 イギリス文学史全般についての基本的知識を確実に身につけ、文学研究をより分析的・客観的に進めていくことにより、その社会的意義や目的についても考察を深められるようになる。イギリス文学史の基礎知識を確実に身につけ、それらを説明できるようになるとともに、自身の文学研究にもそれらを導入することができるようになる。				
授業の概要 本講義では、イギリス文学史について書かれた概説書を丁寧に読むことによってイギリス文学全般についての基本的知識を習得し、文学史の歴史的潮流を意識しながら文学作品を分析・研究する姿勢を身につけます。				
授業計画 第1回：イントロダクション（演習の進め方）＋「序論」の講読 第2回：第1章 発端からロマンス群まで（1. 発端 2. ルーン文字と手写本） 第3回：第1章 発端からロマンス群まで（3. 初期のイギリス民族の詩 4. 古英語の詩） 第4回：第1章 発端からロマンス群まで（5. アルフレッド時代までのラテン語による作品） 第5回：第2章 中世の終わり（1. 『農夫ピアーズ』とその関連作品） 第6回：第2章 中世の終わり（3. 英語の散文の始まり） 第7回：第2章 中世の終わり（4. チョーサー 13. 印刷術の導入 16. 過渡期英語の歌謡集） 第8回：第3章 ルネッサンスと宗教改革（2. イギリスにおける宗教改革的文学） 第9回：第3章 ルネッサンスと宗教改革（5. テューダー朝の社会的文学） 第10回：第3章 ルネッサンスと宗教改革（11. スペンサーの詩 12. エリザベス朝のソネット） 第11回：第4章 散文と詩（2. 欽定訳聖書とその影響 5. 航海と旅行 6. 歌の本と詩歌集） 第12回：第4章 散文と詩（9. スペンサーの後継者たち 11. ダン 14. イギリス哲学の創始） 第13回：第4章 散文と詩（16. ロンドンの大衆文学の発達 19. 図書館の創設） 第14回：第5章 一六四二年までの演劇（第1部）（1. イギリス演劇の起源 2. 初期宗教劇） 第15回：第5章 一六四二年までの演劇（第1部）（6. 大学出の才子たちの劇） 定期試験：定期試験は実施しない				
テキスト The Concise Cambridge History of English Literature 3rd Edition AUTHOR: George Sampson, EDITOR: R. C. Churchill DATE PUBLISHED: February 1970 ISBN: 9780521095815				

参考書・参考資料等	適宜指示する		
学生に対する評価	毎回の課題と発表	60%	レポート 40%

授業科目名： 英米文芸文化論Ⅲ 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市橋 孝道
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
イギリス文学史全般についての基本的知識を確実に身につけ、文学研究をより分析的・客観的に進めていくことにより、その社会的意義や目的についても考察を深められるようになる。イギリス文学史の基礎知識を確実に身につけ、それらを説明できるようになるとともに、自身の文学研究にもそれらを導入することができるようになる。			
授業の概要			
本講義では、イギリス文学史について書かれた概説書を丁寧に読むことによってイギリス文学全般についての基本的知識を習得し、文学史の歴史的潮流を意識しながら文学作品を分析・研究する姿勢を身につけます。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（演習の進め方）＋既読箇所の概要説明			
第2回：第5章 一六四二年までの演劇（第1部）（7. マーロウとキッド）			
第3回：第5章 一六四二年までの演劇（第1部）（8. ～11. シェイクスピア）			
第4回：第6章 一六四二年までの演劇（第2部）（1. ベン・ジョンソン 2. チャップマン）			
第5回：第6章 一六四二年までの演劇（第2部）（5. ボーモントとフレッチャー）			
第6回：第6章 一六四二年までの演劇（第2部）（10. エリザベス朝の劇場 13. 仮面劇と牧歌劇）			
第7回：第7章 王党派とピューリタン（1. 王党派抒情詩人たち 2. 宗教詩人たち）			
第8回：第7章 王党派とピューリタン（5. ミルトン 7. アンドルー・マーヴェル）			
第9回：第7章 王党派とピューリタン（13. ホップズとその時代の哲学 15. ジャーナリズム）			
第10回：第8章 ドライデンの時代（1. ドライデン 2. サミュエル・バトラー）			
第11回：第8章 ドライデンの時代（8. 宮廷詩人たち 9. 一七世紀の韻律法）			
第12回：第8章 ドライデンの時代（14. ジョン・ロックとその他の経済学者たち）			
第13回：第9章 スティール、アディソンからポープ、スウィフトまで（1. デフォー）			
第14回：第9章 スティール、アディソンからポープ、スウィフトまで（2. スティール）			
第15回：第9章 スティール、アディソンからポープ、スウィフトまで（4. スウィフト）			
定期試験：定期試験は実施しない			
テキスト <i>The Concise Cambridge History of English Literature</i> 3rd Edition			
AUTHOR: George Sampson EDITOR: R. C. Churchill DATE PUBLISHED: February 1970			
ISBN: 9780521095815			

参考書・参考資料等	適宜指示する		
学生に対する評価	毎回の課題と発表	60%	レポート 40%

授業科目名： 言語学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江畑 冬生
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 一般言語学の知識を前提とし、言語学の諸分野に関する質の高い研究発表を行えるようにトレーニングする。加えて、言語学の諸領域をカバーする研究発表に対するコメントができるようにする。これらのことにより、言語教育や広く異文化理解への貢献を行う一般言語学の知識を踏まえて、自らの研究テーマに関する質の高い研究発表を行える。他の研究発表に対して適切なコメントができる。これらのことにより、言語教育や広く異文化理解に資することができる				
授業の概要 言語学の諸分野（記述言語学，対照言語学，言語類型論，言語教育学，理論言語学，社会言語学など）を広く扱う				
授業計画 第1回：研究テーマ紹介および発表担当割り当て 第2回：研究文献の講読①：記述言語学 第3回：研究文献の講読②：対照言語学 第4回：研究文献の講読③：言語類型論 第5回：大学院生による研究発表①：アスペクト 第6回：大学院生による研究発表②：テンス 第7回：大学院生による研究発表③：ボイス 第8回：大学院生による研究発表④：授受表現 第9回：大学院生による研究発表⑤：可能表現 第10回：大学院生による研究発表⑥：側置詞 第11回：大学院生による研究発表⑦：数量表現 第12回：大学院生による研究発表⑧：とりたて表現 第13回：大学院生による研究発表⑨：述語構造 第14回：大学院生による研究発表⑩：補助動詞構文 第15回：まとめの議論と今後の展望				
テキスト 受講者の専門と関心を考慮した上で決定する				
参考書・参考資料等 適宜指示する				
学生に対する評価 研究発表の内容70%，他の研究発表に対するコメント30%				

授業科目名： 言語学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江畑 冬生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 一般言語学の知識を前提とし、言語学の諸分野に関する質の高い研究発表を行えるようにトレーニングする。加えて、言語学の諸領域をカバーする研究発表に対するコメントができるようにする。これらのことにより、言語教育や広く異文化理解への貢献を行う一般言語学の知識を踏まえて、自らの研究テーマに関する質の高い研究発表を行える。他の研究発表に対して適切なコメントができる。これらのことにより、言語教育や広く異文化理解に資することができる			
授業の概要 言語学の諸分野（記述言語学、対照言語学、言語類型論、言語教育学、理論言語学、社会言語学など）を広く扱う			
授業計画 第1回：研究テーマ紹介および発表担当割り当て 第2回：研究文献の講読①：言語教育と言語研究 第3回：研究文献の講読②：理論言語学 第4回：研究文献の講読③：社会言語学 第5回：大学院生による研究発表①：複合動詞 第6回：大学院生による研究発表②：動詞の自他 第7回：大学院生による研究発表③：指示詞 第8回：大学院生による研究発表④：談話分析 第9回：大学院生による研究発表⑤：格 第10回：大学院生による研究発表⑥：再帰性 第11回：大学院生による研究発表⑦：モダリティ 第12回：大学院生による研究発表⑧：証拠性 第13回：大学院生による研究発表⑨：連体修飾構造 第14回：大学院生による研究発表⑩：存在・所有表現 第15回：まとめの議論と今後の展望			
テキスト 受講者の専門と関心を考慮した上で決定する			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価 研究発表の内容70%、他の研究発表に対するコメント30%			

授業科目名： 課題研究Ⅱ－A（英米言語文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員：大竹芳夫、本間伸輔、 Hadley Gregory Stuart、江畑冬生、 北田伸一、山田陽子、平野幸彦、 市橋孝道 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
本科目は、英米文学や英語学などの英米言語文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。導入的な課題研究Ⅰのあと、専攻分野が確定した1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを進め、翌年度のはじめに予定されている研究中間報告の準備を行なう。そして以上の過程を通して、英米言語文化の領域に関する研究能力を養成し、中学校及び高等学校英語に関する専門知識の基盤を構築すると共に、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、英語に関わる探究の方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
計画に従って研究を開始し、自らのテーマの探究を通して、研究を進める上で必要な資質・能力を練磨すると共に英米文学や英語学などの英米言語文化の領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：英米文学や英語学など英米言語文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：英米言語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の調査			
第3回：英米言語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究の読解・分析			
第4回：英米言語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく先行研究整理レポート作成			
第5回：英米言語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の計画			
第6回：英米言語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査の実施			
第7回：英米言語文化の領域に関する各自の研究計画に基づく資料調査報告資料作成			
第8回：先行研究整理レポート・資料調査報告資料に基づく英米言語文化の領域に関する教員との討議			
第9回：英米言語文化の領域に関する教員との討議をふまえた中間報告までの検討課題設定			
第10回：検討課題に基づく先行研究の補足調査・整理			
第11回：検討課題に基づく補足資料調査の計画・実施			
第12回：中間報告に向けた先行研究整理に関する準備資料の作成			
第13回：中間報告に向けた資料調査に基づく報告準備資料の作成			

第14回：本科目で学んだ英米言語文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本授業で学んだ英米言語文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ－A（英米言語文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員：大竹芳夫、本間伸輔、 Hadley Gregory Stuart、江畑冬生、 北田伸一、山田陽子、平野幸彦、 市橋孝道
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、英米文学や英語学などの英米言語文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱの成果をまとめ、英米言語文化の領域の教員が複数参加する中間報告会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性を確認する。また発表での討議をふまえ、研究を進めていく上で必要な資質・能力・方法や英米言語文化に関わる知識を再確認しその向上をはかることで、中学校及び高等学校英語に関する専門知識の基盤を強化するとともに、講義科目では涵養しづらい「主体的で対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、英語に関わる探究の方法に習熟することをめざす。			
授業の概要			
研究成果の中間発表と討議を通して、研究を進める上で必要な資質・能力・方法を再確認すると共に英米文学や英語学などの英米言語文化に関わる領域に関する知識を深める。			
授業計画			
第1回：英米文学や英語学など英米言語文化の領域に関する各自の研究計画の確認			
第2回：英米言語文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査			
第3回：英米言語文化の領域に関する中間報告資料の補足・修正のための追加調査結果の整理			
第4回：英米言語文化の領域に関する中間報告資料の完成に向けた作成方法の学習			
第5回：英米言語文化の領域に関する中間報告と討議			
第6回：英米言語文化の領域に関する中間報告における討議の振り返りと論点の確認			
第7回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の調査			
第8回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究の整理分析			
第9回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点に関する先行研究整理レポート作成			
第10回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の準備			
第11回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査の実施			
第12回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点に関する資料調査結果レポート作成			
第13回：英米言語文化の領域に関する中間報告での論点への対応を通した検討課題の抽出			

第14回：本科目で学んだ英米言語文化の領域に関する研究の方法の振り返り

第15回：本科目で学んだ英米言語文化の領域に関する専門的知識の振り返り

定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ－A（英米言語文化）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員：大竹芳夫、本間伸輔、 Hadley Gregory Stuart、江畑冬生、 北田伸一、山田陽子、平野幸彦、 市橋孝道
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英米文学や英語学などの英米言語文化の領域について、体系的な学位プログラムの一環として、自ら課題を設定し、担当教員の指導を受け、専門的に研究する能力を涵養する授業である。 2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲの中間報告を通して改めて確認した研究を進める上で必要な資質・能力・方法を意識的に運用し、研究成果をまとめ、発表する。 発表では2年間の課題研究をふまえ、学際的な「総合知」の視点から自らが獲得した研究の資質・能力・方法の到達を確認すると共に、具体的な題材に即して蓄積した英米言語文化の領域に関する知見を整理する。また本科目を通して講義科目では涵養しづらい「主体的・対話的で深い学び」を自らが経験・実践することで、その成果を中学校及び高等学校英語の教育分野をはじめ、社会において幅広く運用する実践的方法を修得することをめざす。			
授業の概要			
研究成果をまとめ発表することを通して、研究活動の中で自らが獲得した資質・能力・方法を意識化すると共に、英米文学や英語学などの英米言語文化の領域に関する知見を整理し、社会におけるその幅広い活用を目指す。			
授業計画			
第1回：英米文学や英語学など英米言語文化の領域に関する各自の研究計画の確認 第2回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究補足調査 第3回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた先行研究整理 第4回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の準備 第5回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の実施 第6回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足資料調査の整理 第7回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた補足調査結果の総合的検討 第8回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の考え方の検討 第9回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめに向けた全体構成の原案作成と検討 第10回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめ方（1）―研究目的と方法について― 第11回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめ方（2）―研究の内容について― 第12回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめ方（3）―研究の結論について―			

第13回：英米言語文化の領域に関する研究成果のまとめ（4）—研究の学術的な意義と課題について—

第14回：英米言語文化の領域に関する研究成果の最終発表と討議

第15回：本科目で獲得した英米言語文化の領域に関する研究方法・知見の全体的なまとめ
定期試験なし

テキスト

担当教員の指示による

参考書・参考資料等

『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』日本学術振興会

学生に対する評価

研究を進めていくうえで必要なコミュニケーション（Communication）、コラボレーション（Collaboration）、批判的思考（Critical Thinking）、創造的思考（Creative Thinking）、学際的思考（Interdisciplinary Thinking）の能力を、普段の研究態度・姿勢（50%）と成果物（発表資料、レジュメ、レポートなど各教員が指示するもの、50%）から評価する。

授業科目名： 代数構造特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小島（庭山） 秀雄
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 代数幾何学における基礎的概念を理解し、それらの概念に関する計算ができるようになる。 2. アフィン平面曲線と射影平面曲線の基本的概念を理解し、それらの概念に関する計算ができるようになる。 3. 楕円曲線に関する基本的事項を理解し、暗号への応用について理解する。				
授業の概要				
代数幾何学、特に代数曲線論の基礎的事項とその暗号理論への応用について授業を行う。				
授業計画				
第1回：代数幾何学の概説について、学部時代の代数学の復習を含めて説明する。 第2回：斉次多項式と射影平面代数曲線について、適宜環論の内容を復習しながら説明する。 第3回：アフィン平面曲線と射影平面曲線の非特異点、特異点について説明する。更に、それらの曲線の非特異点での接線の概念を説明する。 第4回：重複度の高い特異点を持つ射影平面曲線を分類する。更に、直線と射影平面曲線の交わりの重複度を定義し、それらの応用について説明する。平面曲線の特異点に関する演習を行う。 第5回：射影平面曲線の変曲点の概念とその計算方法を説明する。 第6回：ベズーの定理を紹介し、その応用として、3次以上の非特異射影平面曲線は変曲点を持つことを証明する。また、射影平面2次曲線について説明する。更に、次回の受講生の発表に関する内容を説明する。 第7回：射影平面曲線の特異点と非特異点、変曲点、射影平面2次曲線の分類に関してのまとめを行い、その後演習を行う。 第8回：射影平面曲線の1次系について、応用も含めて説明する。 第9回：二つの 射影平面曲線の交わりの重複度を定義する。そして、平面代数曲線を研究する際に重要である、ベズーの定理を説明する。 第10回：ベズーの定理の証明の概略を述べる。 第11回：射影平面3次曲線の標準形について、曲線が特異点を持つ場合を中心に説明する。証明の一部は演習とする。 第12回：前回に続き、射影平面3次曲線の標準形について、曲線が非特異である場合を説明する。証明の一部は演習とする。				

第13回：射影平面3次曲線の変曲点について、説明する。 第14回：既約射影平面3次曲線の群構造について説明する。そして、その暗号への応用について説明する。 第15回：楕円曲線暗号のしくみについて説明する。 定期試験なし
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポート（80％）、講義中の演習（20％）により評価する。

授業科目名： 整数論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 星 明考
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ルジャンドル記号，四元数環の分裂と被約ノルムの関係を理解する。			
p進数体とヒルベルト記号について理解する。			
ハッセ-ミンコフスキーの定理を理解し，ヒルベルト記号を実際に計算してみる。			
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に係る以下の能力を有することを目指す：			
(1) 自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力			
(2) 基礎理論・技術を理解し、応用する能力			
(3) 課題を発見し、解決する能力			
(4) 学会発表を含むコミュニケーション能力			
(5) 定められた期間で報告する能力			
授業の概要			
整数論の基本的な事柄である，局所大域原理（ハッセ原理）について学ぶ。			
四元数環，ノルム群，被約ノルムの乗法性，分解型四元数環の特徴付け，p進数体，p進展開，p進整数環，p進付値，ヒルベルト記号の計算，ハッセ-ミンコフスキー定理，積公式などを学んでいく。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：初等整数論の復習			
第3回：ユークリッド整域，PID			
第4回：オイラーの定理，中国の剰余定理			
第5回：ルジャンドル記号			
第6回：平方剰余の相互法則			
第7回：類体論との関係			
第8回：四元数環，ノルム群			
第9回：被約ノルムの乗法性			
第10回：分解型四元数環の特徴付け			
第11回：p進数体			

第12回： p 進展開 第13回： p 進整数環， p 進付値 第14回：ヒルベルト記号の計算 第15回：ハッセ-ミンコフスキーの定理，積公式 定期試験なし
テキスト 整数論，斎藤秀司著，236ページ，共立出版
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポート100%で評価

授業科目名： 代数的整数論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊東 良純
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
Riemannゼータ関数やDirichlet L関数の特殊値のp進的性質を説明できるようになる. p進数体について理解し, p進展開が計算できるようになる. p進測度を用いたp進L関数の構成方法を説明できるようになる.			
授業の概要			
Riemannゼータ関数やDirichlet L関数の基本的事項, p進数体の基本的事項, p進測度を用いたp進L関数の構成について学ぶ. Riemannゼータ関数, Dirichlet L関数, Ostrowskiの定理, 逆極限, p進数体, p進付値, p進測度, p進ゼータ関数, p進L関数などを学んでいく.			
授業計画			
第1回：イントロダクション 第2回：有理数体上の絶対値 第3回：p進数体とp進整数環 第4回：p進数体とp進整数環の性質 第5回：p進数体の乗法群の構造 第6回：p進数体の拡大 第7回：Riemannゼータ関数とDirichlet L関数 第8回：Riemannゼータ関数とDirichlet L関数の解析接続 第9回：Bernoulli数のp進的側面 第10回：p進分布とp進測度 第11回：p進分布のregularization 第12回：p進Riemann和 第13回：Bernoulli測度による積分 第14回：イデアル類群と類数 第15回：岩澤類数公式 定期試験なし			
テキスト			
青木美穂著 「p進ゼータ関数 久保田-レオポルドから岩澤理論へ」 日本評論社, 2200円＋税			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
レポート100%で評価する.

授業科目名： 代数多様体論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋詰 健太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ピカル数、オイラー標数、双有理射、極小曲面、小平次元などを理解し説明できるようになる。			
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に係る以下の能力を有することを目指す：			
(1) 自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力			
(2) 基礎理論・技術を理解し、応用する能力			
(3) 課題を発見し、解決する能力			
(4) 学会発表を含むコミュニケーション能力			
(5) 定められた期間で報告する能力			
授業の概要			
複素数体上の曲面がどのような量によって解析、分類されるかを学ぶ。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：交点数、ピカル数			
第3回：オイラー標数			
第4回：リーマン-ロッホの公式			
第5回：ブローアップ			
第6回：有理射			
第7回：双有理射			
第8回：極小曲面			
第9回：線織面(1)：ベクトル束			
第10回：線織面(2)：定義と特徴付け			
第11回：線織面(3)：線織面上の因子			
第12回：小平次元			
第13回：小平次元0の曲面			
第14回：小平次元1の曲面			
第15回：小平次元2の曲面			

定期試験なし
テキスト Arnaud Beauville著 : Complex algebraic surfaces, London Mathematical Society, Student text 34
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポートの成績100%

授業科目名： 位相幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 有祐
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
グラフを扱うことにより，必要十分条件をはっきりと区別したり，背理法や数学的帰納法などの基本的な論法を習得する．オイラーの多面体公式を一般の閉曲面上の議論に拡張し，“正則地図”を分類できるようになる．			
数理現象（離散数学）の基礎を理解し，議論の内容を論理的かつ明確に説明することができる．（学位授与方針該当部分）			
授業の概要			
離散グラフとは点と線からなるとても単純な図形である．その離散グラフを曲面や空間に埋め込むことで表面化する幾何学的構造を研究対象とする「位相幾何学的グラフ理論」の概要を学ぶ．			
授業計画			
第1回：グラフ理論的準備（次数，木，閉路）（講義）			
第2回：グラフ理論的準備（連結度，メンガーの定理）（講義）			
第3回：位相幾何学的準備（閉曲面の分類，閉曲面上の閉曲線）（講義）			
第4回：位相幾何学的準備（オイラーの多面体公式）（講義）			
第5回：グラフのローテーションの導入（テキストの輪読・発表・議論）			
第6回：グラフの最大種数（テキストの輪読・発表・議論）			
第7回：埋め込みの同値性（テキストの輪読・発表・議論）			
第8回：representativity（テキストの輪読・発表・議論）			
第9回：局所平面グラフ（テキストの輪読・発表・議論）			
第10回：三角形分割（テキストの輪読・発表・議論）			
第11回：四角形分割（テキストの輪読・発表・議論）			
第12回：メディアルグラフ，メディアルグラフ（テキストの輪読・発表・議論）			
第13回：閉曲面上のグラフの彩色（テキストの輪読・発表・議論）			
第14回：四色定理，ヒューッド数（テキストの輪読・発表・議論）			
第15回：輪読したテキストの内容について，受講者間でまとめの議論を行う．			
定期試験なし			
テキスト			

書名：曲面上のグラフ理論

著者：中本敦浩・小関健太

出版社：サイエンス社

ISBN:978-4-7819-1530-2

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

発表 50%, 議論への参加度 30%, 演習の取り組み 20%

授業科目名： 微分位相幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 折田 龍馬
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ シンプレクティック幾何学の基本的な定義および定理を理解し，説明ができる。			
・ Darbouxの定理やWeinsteinの管状近傍定理などを通じ，シンプレクティック多様体が局所的には，Euclid空間や余接束と本質的に同じであることを理解し，説明できる。			
・ シンプレクティック幾何学の諸概念の解析力学における対応物を理解し，説明できる。			
・ ベクトル場や微分形式に対する各種演算（括弧積，外積，内部積，Lie微分，外微分）を使いこなせる。			
授業の概要			
シンプレクティック幾何学の入門的な講義を行う。シンプレクティック幾何学は解析力学の数学における一般化であり，数学の他の分野（代数幾何学，複素幾何学，位相幾何学）だけでなく現代物理学とも密接に関係する。授業ではシンプレクティックベクトル空間の導入からはじめ，最も基本的なシンプレクティック多様体である余接束を扱う。その後，一般のシンプレクティック多様体についてDarbouxの定理，シンプレクティック微分同相写像，ラグランジュ部分多様体，Moserの定理，Weinsteinの管状近傍定理などを紹介する。			
授業計画			
第1回：シンプレクティック多様体（1）「シンプレクティック形式」			
第2回：シンプレクティック多様体（2）「余接束上のシンプレクティック形式」			
第3回：シンプレクティック微分同相写像（1）「ラグランジュ部分多様体」			
第4回：シンプレクティック微分同相写像（2）「Generating Functions」			
第5回：シンプレクティック微分同相写像（3）「Recurrence」			
第6回：局所形式（1）「局所理論への準備」			
第7回：局所形式（2）「Moserの定理」			
第8回：局所形式（3）「Darboux-Moser-Weinstein理論」			
第9回：局所形式（4）「Weinsteinの管状近傍定理」			
第10回：接触多様体（1）「接触形式」			
第11回：接触多様体（2）「接触力学系」			
第12回：概複素構造（1）「概複素構造」			
第13回：概複素構造（2）「Compatible Triples」			

第14回：概複素構造（3）「Dolbeault理論」 第15回：概複素構造（4）　まとめ 定期試験なし
テキスト Ana Cannas da Silva 著「Lectures on Symplectic Geometry」Springer, ISBN: 978-3-540-42195-5
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポートで評価する。

授業科目名： 微分幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 土満
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ベクトル束の定義や基本的なベクトル束の操作（直和，テンソル積，引き戻しなど）について説明できる． ・その操作とベクトル束の特性類の関係を説明できる． ・ベクトル束の接続，曲率，および曲率から得られる特性類について説明できる． ・具体的に与えられたベクトル束の特性類が計算できる．逆に与えられたコホモロジー類を特性類に持つようなベクトル束の構成ができる． （以下，主束について解説する場合） ・主束とその接続について説明できる． ・Frobeniusの定理について説明でき，それを主束の曲率の幾何学的な理解に役立てることができる． ・接続の理論のRiemann幾何への応用について説明できる．			
授業の概要			
ベクトル束の微分幾何に関連した内容（ベクトル束の接続と曲率，Chern-Weil理論など）について解説を行う．場合によっては主束，Riemann面，Riemann-Rochの定理などについても解説する．			
授業計画			
第1回：多様体論について復習する．			
第2回：微分形式とド・ラームコホモロジーについて復習する．			
第3回：引き続き微分形式とド・ラームコホモロジーについて復習する．			
第4回：ベクトル束についての基礎事項を解説する．			
第5回：ベクトル束の接続と曲率について解説する．			
第6回：ベクトル束の特性類について解説する．			
第7回：Pontryagin類の応用として，葉層構造の消滅定理の主張を紹介する．			
第8回：主束の基礎事項について解説する．			
第9回：主束の接続と曲率について解説する．			
第10回：可積分な接分布に関するFrobeniusの定理について復習する．			
第11回：Ambrose-Singerのホロノミー定理を証明する．			

第12回：Riemann多様体のLevi-Civita接続や曲率テンソルなどの基礎事項について解説する。 第13回：引き続きRiemann多様体のLevi-Civita接続や曲率テンソルなどの基礎事項について解説する。 第14回：Thom同型について解説する。 第15回：Thom同型を用いて，Riemann多様体におけるPoincare双対について解説する。 第16回：引き続きThom同型を用いて，Riemann多様体におけるPoincare双対について解説する。
テキスト なし
参考書・参考資料等 今野宏「微分幾何学」（東京大学出版会）3600円＋税 小林昭七「接続の微分幾何とゲージ理論」（裳華房）4700円＋税 R. Bott・L. W. Tu「微分形式と代数トポロジー」（丸善出版）6000円＋税
学生に対する評価 レポート100％で評価する。

授業科目名： 複素解析特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三浦 毅
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
関数環及び可換Banach環論の基本的事項を理解し，自由に使えるようになること．また関連した関数解析学の内容を理解し使えるようになること．研究課題を独自に探することができるようになること．課題の解決に取り組むことができること．			
授業の概要			
関数環論や可換Banach環論の基礎を学ぶ．さらに最新の話題に触れることにより，基礎概念が研究においてどのような役割を果たすのかを知り，修得した専門的な知識を課題解決に活かす．			
授業計画			
第1回：関数環の定義			
第2回：関数環の具体例			
第3回：関数環の基本的性質			
第4回：Choquet境界			
第5回：端点			
第6回：可換Banach環の定義			
第7回：可換Banach環の具体例			
第8回：可換Banach環の基本的性質			
第9回：Gelfand変換			
第10回：極大イデアル空間とスペクトル			
第11回：スペクトル保存写像の歴史			
第12回：スペクトル保存写像の近年の発展			
第13回：正則関数のなすLipschitz関数空間			
第14回：正則関数のなすLipschitz空間と等距離写像			
第15回：等距離写像の構造＋期末レポート			
定期試験なし			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

D. Hirota, I. Matsuzaki and T. Miura, Phase-isometries between the positive cones of the Banach space of continuous real-valued functions, Ann. Funct. Anal. 15, No.4, Paper No. 77, 11 p. (2024).

T. Miura and N. Niwa, Surjective isometries on a Banach space of analytic functions with bounded derivatives, Acta Sci. Math. 89, No. 1--2 (2023), 109--145.

学生に対する評価

レポート（100％）によって，到達目標の達成状況を評価する．

授業科目名： 関数解析特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 恵一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ユークリッド空間と実内積ジャイロベクトル空間の類似および相違を説明できること。特殊相対論の速度の和，複素平面の単位開円板に定義されるメビウスの和などに関する基本的な結果や典型的な応用を説明できること。			
授業の概要			
関数解析学の話題として実内積ジャイロベクトル空間に関する基礎的内容を講ずる。			
授業計画			
第1回：複素単位開円板に入るメビウスの演算について			
第2回：ジャイロ群の公理			
第3回：左縮約法則，gyrationが恒等写像になる場合，左零元は右零元でもあること，零元の一意性，左逆元は右逆元でもあること，逆元の一意性，gyrator 公式			
第4回：gyrosum inversion, nested gyroautomorphism identity, 余演算			
第5回：方程式 $a + x = b$ および $x + a = b$ について，第1および第2右縮約法則			
第6回：ジャイロ自己同型と一般の自己同型の関係			
第7回：ジャイロ半直積群			
第8回：gyroautomorphism inversion, evenness, inversive symmetry, 右ジャイロ結合法則，右ループ性など			
第9回：ジャイロ可換なジャイロ群，余演算の可換性，ジャイロ平行移動，ジャイロ中点など			
第10回：実内積空間の開球におけるメビウス和，メビウスジャイロ群			
第11回：アインシュタインジャイロ群			
第12回：実内積ジャイロベクトル空間の公理			
第13回：ジャイロ直線，余ジャイロ直線，ジャイロ中点II，ジャイロ平行四辺形など			
第14回：メビウスジャイロベクトル空間			
第15回：その後続く理論の概略			
定期試験：期末レポート			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

Abraham Albert Ungar, Analytic Hyperbolic Geometry and Albert Einstein's Special Theory of Relativity, 2008.

学生に対する評価

期末レポート100%。

授業科目名： 偏微分方程式論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 應和 宏樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
偏微分方程式、特に保存則方程式と自然現象との対応を理解し、保存則方程式の初期値問題に対する基本的解法を身につける。また、保存則方程式の初期値問題に対する基本理論を身につけ、応用できるようになる。			
授業の概要			
この講義では、実解析学（微分積分、線形代数、ルベーグ積分、微分方程式論の初歩）を基本知識として、偏微分方程式の現代論について説明する。特に保存則方程式を中心に扱い、偏微分方程式と自然現象との対応についても説明する。			
授業計画			
第1回：Rankine-Hugoniot条件とentropy条件（弱解の導入）			
第2回：Rankine-Hugoniot条件とentropy条件（弱解の一意性条件）			
第3回：Rankine-Hugoniot条件とentropy条件（弱解の一意性定理）			
第4回：単独保存則方程式に対するRiemann問題（Riemann問題の可解性）			
第5回：単独保存則方程式に対するRiemann問題（Riemann問題の一意性）			
第6回：単独保存則方程式に対する一般の初期値問題（波面追跡アルゴリズム）			
第7回：単独保存則方程式に対する一般の初期値問題（一般の初期値問題の可解性）			
第8回：単独保存則方程式に対する一般の初期値問題（一般の初期値問題の一意性）			
第9回：保存則方程式系に対するRiemann問題（希薄波と衝撃波）			
第10回：保存則方程式系に対するRiemann問題（衝撃波許容条件）			
第11回：保存則方程式系に対するRiemann問題（Riemann問題の一意可解性）			
第12回：保存則方程式系に対する一般の初期値問題（波面追跡アルゴリズムの安定性）			
第13回：保存則方程式系に対する一般の初期値問題（リップシッツ半群）			
第14回：保存則方程式系に対する一般の初期値問題（一般の初期値問題の一意可解性）			
第15回：まとめ及び期末レポート			
定期試験なし			
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	なし		
学生に対する評価	レポートの出来により判断する。		

授業科目名： 関数空間特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大井 志穂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
バナッハ環論の定義やGelfand変換など基本的な事項を理解し，説明できるようになる。 関数解析学，バナッハ環論の議論の内容を論理的かつ明確に説明することができる。			
授業の概要			
バナッハ環とその重要な具体例をいくつか紹介する。講義では，連続関数からなる環などの具 体的なバナッハ環の性質等について学ぶことを通してバナッハ環における基本的な理論を説明 する。			
授業計画			
第1回：連続関数からなるBanach環について			
第2回：コンパクトハウスドルフ空間上に定義される複素数値連続関数のなすバナッハ環			
第3回：有界線形汎関数やその表現（1）有界線形汎関数の定義			
第4回：有界線形汎関数やその表現（2）連続関数空間上の正値線形汎関数			
第5回：有界線形汎関数やその表現（3）局所コンパクトハウスドルフ空間上のハール測度			
第6回：コンパクト位相群上のL1空間（1）位相群について			
第7回：コンパクト位相群上のL1空間（2）L1空間が可換バナッハ環であること			
第8回：コンパクト位相群上のL1空間（3）可換バナッハ環の一般論			
第9回：Fourier 変換（1）指標群			
第10回：Fourier 変換（2）指標群の位相			
第11回：Fourier 変換（3）L1空間上のFourier 変換			
第12回：Gelfand変換（1）weak*位相の定義と性質			
第13回：Gelfand変換（2）可換バナッハ環上の極大イデアル空間			
第14回：フーリエ環上の保存問題（1）等距離写像			
第15回：フーリエ環上の保存問題（2）スペクトル保存写像			
定期試験なし			
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	なし		
学生に対する評価	レポート100%で評価する		

授業科目名： 最適化概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 修司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 数理計画問題に対する最適化手法の基礎となる数学的理論を理解する			
・ 数理計画問題を解析する数理的手法を身につける			
授業の概要			
非線形計画問題に対する最適化に必要な数学的基礎知識（凸解析学など）や最適性条件について学習する。さらに、最適化アルゴリズムのプログラミングを行い、現実問題に対する最適化手法の活用方法を身につける。			
授業計画			
第1回：凸集合とその性質			
第2回：ワイエルシュトラスの定理			
第3回：分離超平面と支持超平面			
第4回：錐と極錐			
第5回：凸多面集合とその表現			
第6回：線形計画とシンプレックス法			
第7回：凸関数とその性質			
第8回：劣勾配ベクトルと劣微分			
第9回：凸関数の最大・最小			
第10回：凸関数の一般化			
第11回：制約付き数理計画問題に対する最適性条件			
第12回：アルゴリズム論とアルゴリズム写像			
第13回：アルゴリズム写像の収束性			
第14回：アルゴリズムの合成と比較			
第15回：アルゴリズムの大域的収束性			
定期試験なし			
テキスト Tuy, Hoang, Convex analysis and global optimization. Second edition, Springer Optim. Appl., 110, Springer, 2016			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業で発表した内容100%			

授業科目名： ベイズ統計学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伏木 忠義
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ベイズ法がどのような統計的手法なのかを数理的に説明できるようになる．現代社会における様々な現象を統計モデルを用いて記述できるようになる．現代社会における応用研究において，どのような状況でベイズ法を使えばよいのかを判断できるようになる．			
授業の概要 本科目は物質創成・基礎科学プログラムの選択科目の1つである．近年の統計学においては，ベイズ法を用いた手法が広く利用されるようになってきている．本科目では，ベイズ法の基礎と応用について説明する．			
授業計画 第1回：ベイズの定理の復習 第2回：条件付き分布と条件付き期待値 第3回：最尤法の復習と応用 第4回：ベイズ法の基礎 第5回：ベイズ推定 第6回：共役事前分布 第7回：モンテカルロ法の基礎 第8回：マルコフ連鎖の基礎 第9回：メトロポリス・ヘイスティング法 第10回：ギブス・サンプリング 第11回：階層ベイズモデル 第12回：階層線形モデル 第13回：ベイジアンネットワークの基礎 第14回：ベイジアンネットワークを用いた推論 第15回：まとめ 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 レポート(80%)，授業内での演習の取り組み状況(20%)で評価する．			

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅰ-C（数理科学 ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 士満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論を理解し、応用できる。 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に係る以下の能力を有することを目指す： （1）自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力 （2）基礎理論・技術を理解し、応用する能力 （3）課題を発見し、解決する能力 （4）学会発表を含むコミュニケーション能力 （5）定められた期間で報告する能力			
授業の概要 各指導教員の指導の下、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（ セミナー）を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：ガイダンス 第2回：数理科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：数理科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			

第8回：総括に関する討議
定期試験なし
テキスト
なし
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
演習（セミナー）に対する態度、事前準備の周到さ、1つの事柄に対する考察の深さ、人にも のをわかりやすく伝えられるかなどから総合的に判断する。（100%）

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅱ-C（数理科学 ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 士満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論を理解し、応用できる。 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に係る以下の能力を有することを目指す： （1）自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力 （2）基礎理論・技術を理解し、応用する能力 （3）課題を発見し、解決する能力 （4）学会発表を含むコミュニケーション能力 （5）定められた期間で報告する能力			
授業の概要 各指導教員の指導の下、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（ セミナー）を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：数理科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：数理科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			

第8回：総括に関する討議 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 演習（セミナー）に対する態度、事前準備の周到さ、1つの事柄に対する考察の深さ、人にも のをわかりやすく伝えられるかなどから総合的に判断する。（100%）

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅲ-C（数理科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 土満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論を理解し、応用できる。 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に係る以下の能力を有することを目指す： （1）自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力 （2）基礎理論・技術を理解し、応用する能力 （3）課題を発見し、解決する能力 （4）学会発表を含むコミュニケーション能力 （5）定められた期間で報告する能力			
授業の概要 各指導教員の指導の下、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（セミナー）を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：数理科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：数理科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			

第8回：総括に関する討議 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 演習（セミナー）に対する態度、事前準備の周到さ、1つの事柄に対する考察の深さ、人にも のをわかりやすく伝えられるかなどから総合的に判断する。（100%）

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅳ-C（数理科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 土満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論を理解し、応用できる。 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に係る以下の能力を有することを目指す： （1）自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力 （2）基礎理論・技術を理解し、応用する能力 （3）課題を発見し、解決する能力 （4）学会発表を含むコミュニケーション能力 （5）定められた期間で報告する能力			
授業の概要 各指導教員の指導の下、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（セミナー）を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：数理科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：数理科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			

第8回：総括に関する討議 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 演習（セミナー）に対する態度、事前準備の周到さ、1つの事柄に対する考察の深さ、人にも のをわかりやすく伝えられるかなどから総合的に判断する。（100%）

授業科目名： 課題研究Ⅰ-C（数理科学）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山）秀雄、星 明考、三浦 毅、山田 修司、渡邊 恵一、應和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 士満、伊東 良純、橋詰 健太
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の分野において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な文献・資料調査およびその内容の解析と深化を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得し、研究テーマに関する研究や課題解決に取り組み、研究討論を通じて見識を深めることのみならず科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力といった科学的素養を身に着ける。				
授業の概要				
数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の分野における学術研究や課題解決のための文献・資料調査およびその内容の解析と深化を実施するための基礎的方法・知識およびスキルについて、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。				
授業計画				
第1回：ガイダンスおよび討論				
第2回：数理科学研究（特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の分野）の特質および討論				
第3回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査の方法および討論				
第4回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査および討論				
第5回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査の結果および討論				
第6回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化の計画の方法および討論				
第7回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化の計画および討論				
第8回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化の実施および討論				
第9回：数理科学に関する基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の整理および討論				

第10回：数理学に関する基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化を報告する資料の作成方法および討論 第11回：数理学に関する基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化結果の報告および討論 第12回：基礎的な文献・資料調査・内容の解析・深化に基づく課題研究計画立案の方法および討論 第13回：研究テーマの課題研究計画の作成および討論 第14回：研究テーマの課題研究計画の報告と検討および討論 第15回：総括討論 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力・人にものを分かりやすく伝えられるかどうかなどから総合的に判断する。(100%)

授業科目名： 課題研究Ⅱ-C（数理科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 土満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
数理科学の諸分野（特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の分野）において、専門的な課題を解決するための方法論および課題選定、文献・資料調査およびその内容の解析と深化のための基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深め、研究テーマに関する研究や課題解決に取り組むことで、研究討論を通じて見識を深めることのみならず科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力といった科学的素養を身に着ける。			
授業の概要			
数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の分野において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献・資料調査、その内容の解析と深化を実施するための基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンスおよび討論			
第2回：数理科学（特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の分野）における研究方法論の特質および討論			
第3回：数理科学における研究方法論および討論			
第4回：数理科学における課題選定の方法と特質および討論			
第5回：課題選定に関する方法論および討論			
第6回：数理科学に関する文献・資料調査の特質および討論			
第7回：数理科学に関する文献・資料調査の方法と実際および討論			
第8回：数理科学に関する課題の解析と深化の方法および討論			
第9回：数理科学に関する課題の解析と深化に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の方			

法および討論

第10回：数理科学に関する課題の解析と深化に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の実施および討論

第11回：数理科学に関する課題の解析と深化に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の整理と報告および討論

第12回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果に基づく研究計画立案の方法および討論

第13回：研究計画に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の実施および討論

第14回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の整理と報告資料作成および討論

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力・人にものを分かりやすく伝えられるかどうかなどから総合的に判断する。(100%)

授業科目名： 課題研究Ⅲ-C（数理科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 土満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
計画に基づいた課題の遂行に資する文献・資料調査およびその内容の解析と深化を通して、数 理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論と、諸分野における文献・資 料調査およびその内容の解析と深化の方法論の理解を深め、研究テーマに関する研究や課題解 決に取り組むことで、研究討論を通じて見識を深めることのみならず科学的な探究力・態度・ コミュニケーション力・表現力といった科学的素養を身に着ける。			
授業の概要			
計画に基づいた課題の遂行に資する文献・資料調査およびその内容の解析・深化およびその計 画や結果について討論を通して、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学 の理論と文献・資料調査およびその内容の解析・深化の方法論を理解し、応用できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンスおよび討論			
第2回：課題に基づく研究計画の検討および討論（1）―数理科学における研究内容の視点から ―			
第3回：課題に基づく研究計画の検討および討論（2）―文献・資料調査・内容の解析・深化の 方法の視点から―			
第4回：課題に基づく研究計画の検討および討論（3）―基本文献・資料調査―			
第5回：課題に基づく研究計画の検討および討論（4）―関連する研究の調査―			
第6回：研究計画の深化および討論―数理科学の深化を中心として―			
第7回：研究計画に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の計画および討論			
第8回：研究計画に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の実施および討論			
第9回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の整理および討論			

第10回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の報告および討論 第11回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の検討および討論（1）—文献・資料調査・内容の解析・深化の計画の視点から— 第12回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の検討および討論（2）—文献・資料調査・内容の解析・深化の方法の視点から— 第13回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の検討および討論（3）—数理科学の視点から— 第14回：文献・資料調査・内容の解析・深化の結果に基づく研究計画の再検討および討論 第15回：まとめの討論 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力・人にものを分かりやすく伝えられるかどうかなどから総合的に判断する。（100％）

授業科目名： 課題研究Ⅳ-C（数理科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 有祐、小島（庭山） 秀雄、星 明考、三浦 毅、 山田 修司、渡邊 恵一、應 和 宏樹、折田 龍馬、伏木 忠義、大井 志穂、高田 士満、伊東 良純、橋詰 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
文献・資料調査およびその内容の解析と深化の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論の理解を深め、研究テーマに関する研究や課題解決に取り組むことで、研究討論を通じて見識を深めることのみならず科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力といった科学的素養を身に着ける。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの文献・資料調査およびその内容の解析・深化の研究計画の検討・報告をもとに、文献・資料調査およびその内容の解析・深化の結果と方法の吟味を通して、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの文献・資料調査およびその内容の解析・深化の結果に基づく今後の方向性の検討および討論			
第2回：数理科学における論文作成方法および討論			
第3回：対外発表の準備と検討および討論—数理科学における理論の深化を視点として—			
第4回：これまでの文献・資料調査・内容の解析・深化の結果の発表および討論			
第5回：発表に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の計画および討論			
第6回：発表に基づく文献・資料調査・内容の解析・深化の実施および討論			
第7回：数理科学に関する文献・資料調査の方法と実際および討論			
第8回：数理科学に関する課題の解析と深化の方法および討論			
第9回：数理科学に関する各自の研究課題の体系化および討論—理論の深化を視点として—			

第10回：研究結果の整理に資する文献・資料調査・内容の解析・深化の方法と実施および討論 第11回：数理科学の理論の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討および討論 第12回：数理科学の理論の深化を視点とした課題の解析と深化・考察結果の検討および討論 第13回：数理科学の理論の深化を視点とした研究の成果と意義の検討および討論 第14回：数理科学の理論の深化を視点とした今後の研究課題の検討および討論 第15回：研究成果の発表 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 科学的な探究力・態度・コミュニケーション力・表現力・人にもものを分かりやすく伝えられるかどうかなどから総合的に判断する。(100%)

授業科目名： 実験素粒子物理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 遊佐 洋右 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
授業で学んだ素粒子の標準模型や粒子加速器、放射線検出器などについての知識は、実際に実験室等で研究を行う時に必要になる。授業内容を理解することで研究を遂行するときに実験室の現場において、学んだ知識を基に判断し、行動できるようになること。			
授業の概要			
レプトンやクォークの相互作用について、素粒子の標準模型を学ぶ。また、陽子崩壊等の標準模型を越える素粒子物理やこれらの実験を行うための加速器や放射線検出器について学ぶ。			
授業計画			
第1回：Introduction and overview（導入と概要）			
第2回：Particle detectors1（粒子検出器1）～ガス検出器～			
第3回：Particle detectors2（粒子検出器2）～半導体検出器～			
第4回：Particle detectors3（粒子検出器3）～シンチレーション検出器～			
第5回：Particle detectors4（粒子検出器4）～粒子識別装置～			
第6回：Particle detectors5（粒子検出器5）～最先端の検出器～			
第7回：Accelerators1（加速器1）～原理～			
第8回：Accelerators2（加速器2）～最先端の加速器～			
第9回：Invariance principles and conservation laws（対称性と保存則）			
第10回：Hadron-hadron interactions（ハドロン反応）			
第11回：Static quark model of hadrons（ハドロンの静的クォークモデル）			
第12回：Electromagnetic interactions（電磁相互作用）			
第13回：Weak interactions（弱い相互作用）			
第14回：Quark-quark interactions（クォーク反応）			
第15回：The unification of electroweak and other interactions（電弱相互作用と力の統一）			
定期試験なし			
テキスト	Introduction to High Energy Physics Donald H. Perkins, Addison-Wesley Pub.		
参考書・参考資料等	なし		
学生に対する評価	授業への参加状況や担当したゼミでの発表の状況によって評価する。		

授業科目名： 実験素粒子物理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 優太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 標準模型の概要を説明することができる。 放射線検出器の原理を説明することができる。 適切な統計処理の方法を習得する。			
授業の概要 素粒子物理学の基礎である標準模型を学び、物質の基本的な構成要素や相互作用について理解を深める。また、超対称性模型や陽子崩壊など、標準模型を越える理論・物理現象についても学ぶ。加えて、これらの理論を実験的に検証するために必要な、最先端の加速器技術や放射線検出器についても学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス。担当の割り振りを行う。 第2回：1 章(A Preview of Particle Physics)（1）～フェルミオン～ 第3回：1 章(A Preview of Particle Physics)（2）～ボソン～ 第4回：2 章(Symmetries and Quarks)（1）～対称性の概要～ 第5回：2 章(Symmetries and Quarks)（2）～具体的な対称性の例～ 第6回：3 章(Antiparticles) 第7回：4 章(Electrodynamics of Spinless Particles) 第8回：5 章(The Dirac Equation) 第9回：6章(Electrodynamics of Spin-1/2 Particles) 第10回：11章(e^+e^- Annihilation and QCD) 第11回：12章(Weak Interactions) 第12回：13章(Electroweak Interactions) 第13回：14章(Gauge Symmetries) 第14回：15章(The Weinberg-Salam Model and Beyond)（1）～標準模型～ 第15回：15章(The Weinberg-Salam Model and Beyond)（2）～標準模型を越えた物理～ 定期試験なし			
テキスト Francis Halzen and Alan D. Martin・Quarks and Leptons: An Introductory Course in Mod			

ern Particle Physics・Wiley・0471811874
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
ゼミの発表60%、授業中の発言30%、期末レポート10%

授業科目名： 理論素粒子物理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅賀 岳彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 標準模型に登場する構成粒子を理解する。 2. 標準模型におけるゲージ対称性の役割を理解する。 3. 標準模型に基づき、素粒子の質量獲得機構を理解する。 4. 標準模型に基づき、素粒子の崩壊率・散乱断面積が計算できるようになる。			
授業の概要			
ゲージ対称性に基づく量子場の理論、および素粒子標準模型について学び、素粒子反応の解析方法を説明する。素粒子間の相互作用を記述するゲージ場の量子化について解説し、強い相互作用、弱い相互作用、および電磁相互作用を記述する標準模型の理論的枠組みを説明する。さらに、対称性の自発的破れに伴うヒッグス機構により、ゲージ場およびフェルミオン場の質量発生機構についても解説する。さらに、素粒子間の相互作用を把握し、崩壊率・散乱断面積がいかに計算されるか述べる。最後に、標準模型の抱える問題点を整理し、新しい物理への展望について解説する。			
授業計画			
第1回：古典場の理論1：最小作用の原理と運動方程式			
第2回：古典場の理論2：対称性と保存則			
第3回：ゲージ場の理論1：大域的対称性と局所的対称性			
第4回：ゲージ場の理論2：SU(N)対称性に基づく場の理論			
第5回：標準模型1：ゲージ対称性と構成場			
第6回：標準模型2：対称性の自発的破れとヒッグス機構			
第7回：標準模型3：湯川相互作用と素粒子フェルミオンの質量獲得機構			
第8回：標準模型4：素粒子のゲージ相互作用と小林-益川機構			
第9回：量子場の理論：場の量子化			
第10回：素粒子反応1：弱ゲージボゾンの崩壊過程			
第11回：素粒子反応2：弱ゲージボゾンの崩壊率の計算			
第12回：素粒子反応3：電子・陽電子衝突過程			
第13回：素粒子反応4：電子・陽電子散乱断面積の計算			
第14回：標準模型が抱える問題点			

第15回：標準模型を超えた新しい物理

定期試験なし

テキスト

“Gauge Theories of the Strong, Weak, and Electromagnetic Interactions” ,
Chris Quigg (Princeton University Press, 2013)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

成績は、講義中の質疑応答・議論の時間における発言内容（20%）、および
レポート（80%）により総合的に評価する。

授業科目名： 理論素粒子物理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中野 博章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
場の量子論における簡単な1ループ計算を実行でき、それに基づいて、素粒子標準模型における階層性問題について理解する。カイラルおよびベクトル超多重項に含まれる成分場について説明できる。物質場およびゲージ場を含む超対称作用の構成法を理解し、超対称性の破れについて説明できる。			
授業の概要			
相対論的場の量子論における簡単な摂動計算の例を踏まえて、素粒子標準模型の概要と課題を扱う。それを踏まえて、超対称な場の理論の構成方法や発散の相殺について理解することを目指す。			
授業計画			
第1回：Higgs 機構と階層性問題			
第2回：有効ポテンシャルと量子補正の計算：有効結合定数			
第3回：超対称性と発散の相殺			
第4回：超対称代数と超空間による実現			
第5回：超場と成分場			
第6回：超対称作用			
第7回：一般の超場とカイラル超場			
第8回：Wess-Zuminoモデル：R対称性と非くりこみ定理			
第9回：ベクトル超場と超対称ゲージ変換			
第10回：Wess-Zuminoゲージとゲージ不変作用			
第11回：摂動的くりこみ群方程式			
第12回：厳密なベータ関数と赤外固定点			
第13回：超対称性の自発的破れについて			
第14回：超対称標準模型：現状と展望			
第15回：超対称大統一模型			
定期試験なし			
テキスト			
Julius Wess and Jonathan Bagger, "Supersymmetry and Supergravity (Revised Edition)"			

(Princeton series in Physics) ISBN: 0-691-02530-4
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 研究室におけるミーティングへの参加および報告状況 40%、口頭試問またはレポート 60% 。

授業科目名： 理論素粒子物理学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江尻 信司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ゲージ場の量子論を習得する。 量子色力学の諸性質について理解する。 標準的な摂動計算と、コンピューターによる非摂動論的計算方法を習得する。			
授業の概要 ゲージ場の量子論、特に、量子電磁力学と量子色力学について解説する。標準的な計算方法である摂動論に加え、コンピューターによる非摂動論的計算方法についても説明する。			
授業計画 第1回：場の量子論の基礎 第2回：量子電磁力学（QED）の摂動論 第3回：QEDのファインマン則 第4回：QEDの輻射補正 第5回：次元正則化 第6回：経路積分 第7回：ゲージ対称性と非可換ゲージ理論 第8回：量子色力学（QCD） 第9回：QCDの摂動論 第10回：漸近的自由性 第11回：QCDの非摂動論的な性質：クォークの閉じ込めとカイラル対称性の破れ 第12回：格子ゲージ理論（ゲージ場） 第13回：格子ゲージ理論（フェルミオン場） 第14回：クォークの閉じ込め（ウィルソンループ） 第15回：格子QCDの数値計算 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 マンデル、ショー著 「場の量子論」 丸善プラネット			

学生に対する評価

ゼミでの発表(50%)とレポート(50%)により評価する。

授業科目名： 宇宙素粒子物理学概 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金田 邦雄
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 宇宙の熱史について、ボルツマン方程式に基づいて説明できる。インフレーションがなぜ必要なのか説明できる。密度揺らぎの生成と発展について理解する。初期宇宙における重力波の生成について理解する。			
授業の概要 インフレーション宇宙に基づく標準宇宙論の基礎について学ぶ。特に、素粒子物理と宇宙物理の関係について注意を払いながら、現代的な宇宙描像の獲得を目指す。			
授業計画 第1回：宇宙論で使う相対性理論1：特殊相対性理論の基礎事項 第2回：宇宙論で使う相対性理論2：一般相対性理論の基礎事項 第3回：宇宙論で使う相対性理論3：Friedmann方程式 第4回：元素合成と標準宇宙論1：Boltzmann方程式 第5回：元素合成と標準宇宙論2：熱平衡状態と粒子数変化 第6回：元素合成と標準宇宙論3：元素合成と残存物質 第7回：インフレーションと宇宙再加熱1：標準宇宙論に残された課題 第8回：インフレーションと宇宙再加熱2：インフレーション 第9回：インフレーションと宇宙再加熱3：宇宙の熱化 第10回：密度揺らぎと構造形成1：揺らぎの発展 第11回：密度揺らぎと構造形成2：相関関数 第12回：密度揺らぎと構造形成3：構造形成の基礎 第13回：原始重力波の生成1：重力場の動力学 第14回：原始重力波の生成2：インフレーション中の重力場 第15回：原始重力波の生成3：重力波観測 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業への参加状況50%、口頭試問またはレポート50%。			

授業科目名： 原子核実験特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大坪 隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
原子核の一般的性質や原子核の構造を表すシェルモデルを始めとする、核模型について理解する。これらを用いて準位構造や電磁気モーメントの性質を説明できる。核反応の基本的な内容について説明できる。			
授業の概要			
この科目では、原子核物理学領域の内容を取り扱う。原子核の基本的な性質を理解する。さらに核力及び原子核の構造、核反応などについて理解する。またシェルモデルなど原子核模型についての理解を深める。原子核物理学の研究を行うための原子核に関する基礎的な知識及び理解を得るものである。			
授業計画			
第1回：Introduction and Early Discoveriesについての解説			
第2回：核子、同位体、同中性子体、同重体			
第3回：原子核質量、束縛エネルギー			
第4回：原子核内の核子状態			
第5回：原子核のエネルギー準位構造			
第6回：α崩壊、β崩壊、γ崩壊、内部転換			
第7回：崩壊則、崩壊系列			
第8回：核反応の表記、プローブ、断面積、反応率			
第9回：同位体生成、核反応の種類、弾性散乱、直接反応、複合核、共鳴			
第10回：核力、準経験的質量公式			
第11回：原子核の安定性			
第12回：原子核の殻構造、魔法数、独立粒子模型、シェルモデル			
第13回：スピン軌道ポテンシャル、原子核の単一模型 パリティ、単一粒子空孔スペクトル			
第14回：振動モード、変形核			
第15回：回転バンド、超変形核			
定期試験なし			
テキスト			
John Lilley, Nuclear Physics -Principles and Applications, John Wiley & Sons, Ltd			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
セミナー発表を通じてその理解度について評価する.

授業科目名： 原子核理論特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本郷 優
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 - クォーク模型により，複合粒子としてのハドロンの性質を理解する． - QCDのカイラル対称性とその破れについて理解する． - 南部・ゴールドストーンの定理と有効場の理論の構築法について理解する - 有限温度・有限密度のQCDを取り扱う理論的手法について理解する．			
授業の概要 強い相互作用で記述されるハドロンの性質について，対称性と場の量子論に基づいた理論的記述法を学ぶ．			
授業計画 第1回：本講義の目的、受講上の注意、評価の方法などのガイダンスを行う。 第2回：クォーク模型により，複合粒子としてのハドロンの性質を理解する． 第3回：QCDのカイラル対称性とその破れについて理解する． 第4回：南部・ゴールドストーンの定理と有効場の理論の構築法について理解する 第5回：有限温度・有限密度のQCDを取り扱う理論的手法について理解する． 第6回：フェルミのベータ崩壊の理論とVマイナスA理論 第7回：カレント代数と低エネルギー定理 第8回：カイラル対称性の自発的破れ 第9回：Nambu-Jona-Lasinioモデル 第10回：有効場の理論とカイラル摂動論 第11回：南部・ゴールドストーンの定理とその一般化 第12回：カイラルアノマリー 第13回：虚時間形式の場の理論 第14回：有限温度摂動論とHard Thermal Loop 第15回：重イオン衝突実験とクォーク・グルーオン・プラズマ 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜指示する．			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

講義中の質問や討論などの参加状況40％，レポート課題の提出状況40％，以上を含めた授業の理解度20％を目安に総合的に判断する．具体的には，講義の初回授業時に説明する．

授業科目名： 宇宙物理学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西 亮一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 宇宙における星間物質の進化と天体形成の物理的基礎を理解し，特に本質的に重要な過程について説明できるようになること。			
授業の概要 星間物質の進化および恒星形成を中心とした天体形成の物理過程について学習する。			
授業計画 第1回：宇宙流体物理学の基礎方程式 第2回：磁気流体力学の概要 第3回：衝撃波などの不連続面の物理 第4回：天体形成の基礎物理課程 第5回：ビリアル方程式とその定式化 第6回：重力の特徴と重力のガンマ 第7回：ガス雲の自己重力不安定性 第8回：分子雲の熱過程と力学過程 第9回：恒星形成の特徴 第10回：一様近似を用いたガス雲の収縮過程 第11回：星形成過程におけるガスの冷却効率と形成された恒星の初期半径 第12回：非一様収縮による星形成過程 第13回：恒星形成過程における自己相似解 第14回：宇宙最初期天体の形成過程 第15回：第一世代星の形成 第16回：まとめと口頭試問			
テキスト 現代の天文学6・「星間物質と星形成 [第2版]」・日本評論社・ISBN：978-4-535-60756-9 ・3300円			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 天体形成過程についての口頭試問100%。			

授業科目名： 宇宙物理学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 下西 隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
○様々な天体・領域に付随する星間物質に関する知識			
○星形成の基礎物理過程に関する知識			
○星間物質・星間分子の赤外線および電波天文観測に関する知識			
を獲得し、星間物質の観測研究を自ら立案できるようになることが目標です。			
授業の概要			
星間物質や星形成の物理・化学過程の理解は、私たちの住む世界の物質的起源を理解する上で重要です。本講義では、これらの内容およびその具体的な観測手法について、英文教科書や関連する文献の輪読を通して学びます。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：宇宙における星間物質の循環			
第3回：星間分子の放射過程			
第4回：星間分子観測による物理量の導出			
第5回：回転ダイアグラム解析			
第6回：分子雲における気相の分子反応			
第7回：分子雲における星間分子の破壊			
第8回：星間分子生成における星間ダストの役割			
第9回：星間ダスト表面への吸着：気相から固相へ			
第10回：ダスト表面における分子生成反応			
第11回：星間氷の赤外線観測			
第12回：星の形成			
第13回：小質量形成領域の化学進化			
第14回：大質量形成領域の化学進化			
第15回：分子雲における複雑有機分子の生成			
定期試験なし			
テキスト			
●“Introduction to Astrochemistry”, S. Yamamoto, Springer			

●“Dust in the Galactic Environment” , D. C. B. Whittet, Institute of Physics Publishing

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する

学生に対する評価

レポート70%および授業における積極性（発言・質問など）30%で評価します。

授業科目名： 宇宙物理学特論Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 翔子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
アルマ望遠鏡やイベント・ホライズン・テレスコープをはじめとする干渉計観測で取り扱う天体起源のデータがどのように取得されているのかを理解する。			
授業の概要			
電波天文学の進展によって、活動銀河やその中心にある大質量ブラックホール、星形成領域、ビッグバン宇宙の証拠などを観測することが可能になった。ここでは電波望遠鏡全体の構造と機能の概要を学び、単一鏡観測と干渉計観測について学ぶ。パラボラアンテナを介して宇宙から到来する電磁波を受信し、物理量を抽出する過程を学ぶ。			
授業計画			
第1回：電波望遠鏡概論：電波望遠鏡の構成、単一鏡型と干渉計型の比較			
第2回：電波望遠鏡概論：世界の望遠鏡、単一鏡、結合素子型干渉計、超長基線干渉計、観測			
第3回：アンテナの基礎理論：放射を表す電場と磁場			
第4回：アンテナの特性：感度の角度依存性			
第5回：アンテナの光学系：ガウスビーム、アンテナ開口上の電場			
第6回：パラボラアンテナの光学系、開口能率			
第7回：電波望遠鏡に要求される性能とその測定方法			
第8回：ヘテロダイン受信機、周波数変換			
第9回：電波望遠鏡の雑音と測定方法			
第10回：電波分光計、観測データの量子化			
第11回：単一鏡観測：アンテナ温度の較正法			
第12回：単一鏡観測：連続波観測			
第13回：単一鏡観測：スペクトル線観測			
第14回：干渉計観測の概要と原理			
第15回：干渉計の観測量：ビジビリティ			
定期試験なし			
テキスト			
シリーズ現代の天文学（日本評論社）16第2版 宇宙の観測II 電波天文学			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

学生の主体的な学習態度と議論への積極的な参加を重視する。発表約50%、議論・発言約40%、全体の参加姿勢約10%、として評価する。発表は、担当部分の内容をどれだけ深く理解し、適切かつわかりやすく説明できたかを評価する。論理構成、重要なポイントの整理、明瞭さなどを考慮する。議論・発言については、担当部分以外も積極的にテキストや関連書籍、論文などを読み、疑問や質問を述べるなど、理解を深めるための発言をどれだけ行ったかを評価する。全体への参加姿勢は、講義への積極的な関与、他者の発表を聞く姿勢、などを評価する。

授業科目名： 固体物性物理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 彩子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 以下を到達目標として設定する： ・結晶構造を決める基本要素（空間群・格子定数・原子座標など）が理解できる ・X線をはじめとする回折の原理及び回折法による結晶構造解析の手法が理解できる ・粉末X線回折で得た回折データについて構造モデルを用いて解析できる			
授業の概要 固体の結晶構造は物質の最も基礎的な要素であり、物性を理解する上で必要不可欠である。本講義では、結晶構造やその評価方法として主にX線を用いた回折法について基礎を講義した後、粉末X線回折パターンから各種構造パラメータを抽出するリートベルト解析法の具体的な実施方法を解説する。			
授業計画 第1回：結晶格子・単位格子と対称性（基礎） 第2回：対象操作と空間群 第3回：結晶の物理的性質と対称性 第4回：X線の基本的性質 第5回：原子及び結晶によるX線の回折 第6回：構造因子と消滅測 第7回：実格子と逆格子 第8回：粉末及び単結晶試料による回折法 第9回：中性子回折法の紹介 第10回：回折実験の実際 第11回：粉末試料からの回折X線積分強度 第12回：リートベルト解析Ⅰ：構造解析法の概要 第13回：リートベルト解析Ⅱ：プログラム準備とシミュレーション 第14回：リートベルト解析Ⅲ：標準物質の解析 第15回：リートベルト解析Ⅳ：研究関連物質の解析 定期試験なし			
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義終了後にレポートを課し、レポートの内容により成績評価を行う。レポートは、講義内容の理解度と考察の内容によって評価し、60点以上の者に単位を付与する。

授業科目名： 固体物性物理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 撰待 力生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
固体中で現れる様々な相の出現と共存状態や、固体の熱的・電氣的・磁氣的性質について理解し、金属の性質を特徴づける伝導電子がもつバンド構造やフェルミ面を記述する手法と観測方法の基礎を理解できるようにする。			
授業の概要			
物質の相の出現や固体の電氣的・磁氣的性質の起源について学ぶ。			
授業計画			
第1回：単結晶育成法，いろいろな相図，相の平衡，ギブスの相律			
第2回：全率固溶体の相図			
第3回：共晶反応の相図			
第4回：包晶反応の相図，相図の熱力学的背景			
第5回：2成分系の自由エネルギー			
第6回：2相共存の自由エネルギーと相図			
第7回：3成分系の相図			
第8回：固体の熱的性質-格子比熱			
第9回：固体の熱的性質-電子比熱			
第10回：固体の熱的性質-磁気比熱			
第11回：固体の熱的性質-ショットキー比熱，核比熱			
第12回：重い電子系の性質			
第13回：磁場中の電子状態			
第14回：量子振動			
第15回：強相関電子系のdHvA振動とフェルミ面			
定期試験なし			
テキスト			
坂 公恭 材料系の 状態図入門 朝倉書店 ISBN：978-4-254-20147-5			
大貫惇睦・上田和夫著 重い電子系の物理 裳華房 ISBN 978-4-7853-2324-0			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 宿題の提出状況50%，期末レポート50%			

授業科目名： 固体物性物理学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 根本 祐一、赤津 光洋
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 以下の到達目標を設定する。 ・電子のスピン，軌道の自由度を理解する。 ・電子が物質中で受ける静電場（結晶場）について理解する。 ・電子状態をもとに磁化率および四極子感受率を理解する。 ・既約表現，点群など群論の基礎を理解する。			
授業の概要 物質中での原子に局在した電子による磁性の基礎を講義する。結晶場や等価演算子を理解し，摂動外場による感受率を計算する。磁場に対する磁気双極子の応答である帯磁率（磁化率）に加え，応力場（歪み）に対する電気四極子の応答である四極子感受率（歪み感受率）を理解する。また，点群や既約表現などの群論の初歩を説明し，物理量と対称性について基礎的な講義をする。			
授業計画 第1回：強相関電子系の紹介（担当：赤津 光洋） 第2回：自由イオンの多重項，磁気双極子モーメント（担当：赤津 光洋） 第3回：LS結合，J多重項（担当：赤津 光洋） 第4回：結晶場（担当：赤津 光洋） 第5回：等価演算子法（担当：赤津 光洋） 第6回：結晶場中での帯磁率（担当：赤津 光洋） 第7回：応力場と歪み，弾性定数と結晶場中での四極子感受率（担当：赤津 光洋） 第8回：物理量とテンソル，選択則，感受率（担当：根本 祐一） 第9回：群，表現，行列による表現（担当：根本 祐一） 第10回：結晶，点群，対称操作（担当：根本 祐一） 第11回：基底，既約表現，指標，既約分解（担当：根本 祐一） 第12回：回転群，空間群（担当：根本 祐一） 第13回：射影演算子（担当：根本 祐一） 第14回：電気四極子，電気16極子，多極子と物性（担当：根本 祐一） 第15回：超音波実験による物性物理学の基礎研究（担当：根本 祐一）			

定期試験なし
テキスト 物性科学選書「化合物磁性 局在スピンの系」安達健五（裳華房）
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 講義で学ぶ事例について実際に計算してもらうため小テスト(30%)を実施する。また，レポート(70%)により評価する。

授業科目名： 固体物性物理学IV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 文洋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 固体の磁氣的性質に関する基本的な知識を習得する。 ・ 磁氣的性質の実験結果を理解し説明できる。 ・ 磁氣的性質の実験結果について基礎的な解析をすることができる。 ・ 論文に出ている磁氣的性質に関する結果を理解することができる。			
授業の概要			
固体の磁氣的性質は、物性物理を研究するにおいて重要な事項である。磁性に関する興味は基礎的な面から応用の面まで幅広く広がっている。本講義では、固体の磁氣的性質の基礎について学び、物性に関して磁性の観点から議論していく。			
授業計画			
第1回：第1回 基礎的な磁氣的性質と磁性における単位			
第2回：第2回 局在スピン系の磁性（1）磁性の起源			
第3回：局在スピン系の磁性（2）原子の常磁性磁化率			
第4回：局在スピン系の磁性（3）強磁性の発現			
第5回：遍歴電子磁性（1）電子の常磁性磁化率			
第6回：遍歴電子磁性（2）バンド磁性			
第7回：遍歴電子磁性（3）合金の磁気モーメント			
第8回：反強磁性			
第9回：フェリ磁性			
第10回：磁氣的相互作用（1）交換相互作用			
第11回：磁氣的相互作用（2）超微細相互作用			
第12回：磁区			
第13回：磁場の発生			
第14回：磁化の測定			
第15回：磁性の応用			
定期試験なし			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義終了後にレポートを課し、レポートの内容により成績評価を行う。レポートは、講義内容の理解度と考察の内容によって評価し、60点以上の者に単位を付与する。

授業科目名： 物性理論特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野 義章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 電子間に働く相互作用が、磁性や超伝導の起源となることを理解する。			
・ 相互作用する電子系を取り扱うための、第二量子化や場の量子論の方法を習得する。			
・ 強相関電子系が、重い電子やモット転移、高温超伝導などの異常物性を示すことを理解する。			
。			
授業の概要			
固体中では、1立方センチメートルあたり10の23乗個もの膨大な数の電子が、互いに働くクーロン相互作用や格子振動との相互作用を受けて運動している。このような相互作用する固体電子の理論を、磁性や超伝導を中心に講義する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション，対称性の破れと断熱的連続			
第2回：第二量子化法（1），生成・消滅演算子			
第3回：第二量子化法（2），物理量と場の演算子			
第4回：保存則と選択則，対称性の自発的破れ			
第5回：温度グリーン関数			
第6回：ファインマン・ダイアグラム			
第7回：自己エネルギーと準粒子			
第8回：重い電子とモット転移，動的平均場理論（DMFT）			
第9回：電子フォノン相互作用			
第10回：超伝導のBCS理論			
第11回：線形応答理論			
第12回：磁気・電荷感受率，乱雑位相近似（RPA）			
第13回：磁気・電荷ゆらぎを媒介とする異方的超伝導			
第14回：銅酸化物と鉄化合物の高温超伝導			
第15回：まとめと補足			
定期試験は実施しない			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

ス波弘行著・新版 固体の電子論・森北出版・978-4-627-15661-6

ス波弘行著・電子関連の物理【新物理学選書】・岩波オンデマンドブックス・9784007303678

学生に対する評価

講義ノート（60%）および受講態度（40%）により評価する。

授業科目名： 物性理論特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉森 明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
非平衡物理学の全体的なイメージをつかみ、平衡系の物理との違いを理解する。 ブラウン運動の基礎的な概念が理解できる。 線形応答と久保公式の基礎的な概念が、ブラウン運動の理論で理解できる。 オンサーガーの相反定理の基礎的な概念が理解できる。			
授業の概要			
非平衡物理学は、物理だけでなく化学や生物、最近では経済学などに応用され、大きな広がりを持っている。また、未解決な問題も多く、物理学の一つの最先端と考えられる。 主に次の内容について、出来るだけ例を挙げて説明する。例は、物理だけでなく、化学現象その他からも取り上げる予定である。			
(1) ブラウン運動：ブラウン運動はもともと花粉から出た微粒子が水中でする不規則な運動に対して考えられた。しかし、その理論の一般的な性質から、電流の雑音などの物理現象、溶液中の異性化反応などの化学現象、生物の個体群の時間変化などの生物現象などに応用され、大きな成功をおさめている。最近では株価の変動にも用いられ、その有用性を示している。授業ではブラウン運動の数学的性質を中心に、その基礎を説明し、 応用の足がかりを与える。			
(2) 線形応答と久保公式：外場に対する応答が外場に比例する現象は、自然界に広く見られる。久保公式は、この線形応答とゆらぎの間に簡単で美しい関係を与える。授業では、ブラウン運動の理論を使って、線形応答とゆらぎを説明し、統一的に理解する。			
(3) 時間反転対称性とOnsagerの相反定理：時間反転対称性は、非平衡現象の不可逆性を考える時、必ず議論される。しかし、そういった概念的なことだけではなく、実用上も役に立つ関係を導く。それが、Onsagerの相反定理である。授業では、時間反転対称性を詳しく説明し、Onsagerの相反定理を導く。			
授業計画			
第1回：はじめに			
講義の目的を説明する。扱う現象や歴史の中での位置づけ非平衡物理学の特徴などを理解する。			

第2回：ランジュバン方程式

ランジュバン方程式の形を覚え、ブラウン運動以外にも不規則な時間変化に応用できることを理解する。

第3回：フォッカー・プランク (FP) 方程式

FP 方程式の導出における仮定を理解し、ランジュバン方程式からFP 方程式を自分でつくれるようにする。

第4回：第2種揺動散逸定理

第2種揺動散逸定理 (2nd FDT) の概略を理解する。

第5回：遷移確率とブラウン運動の例(2. のまとめ)

遷移確率について定義、求め方、公式を理解する。2 で説明した知識を実際に応用できるようになる。

第6回：時間相関関数

時間相関関数 (Time Correlation Function: TCF) を何となくイメージできるようにする。その性質を仮定とともにきちんと覚える。

第7回：ウィナー-ヒンチンの定理

Wiener-Khinchin の定理 (WK 定理) を理解する。仮定と結論を覚える。

第8回：時間遅れの応答

時間遅れの線形応答の式を覚える。その式が線形応答の範囲で一般的な式であることを理解する

第9回：Kramers-Kronig の関係式

パワーロスとクラマース・クロニッヒの関係式を理解する。

第10回：久保公式

久保公式とその導出の概要を理解する。

第11回：第緩和過程の現象論

緩和現象を表す共通の式があることを理解する。

第12回：時間反転対称性

時間相関関数の新しい性質を理解し、その仮定(時間反転対称性)を覚える。

第13回：オンサーガーの相反定理(第13回、14回)

相反定理とは何かを理解し、その仮定を覚える。証明の流れを理解する。

第14回：ブラウン運動の微視的導出(森理論)I

孤立系の微視的な方程式から線形ランジュバン方程式を導くことにより、射影演算子の方法を体験する。射影演算子の定義と性質、森の公式などを説明する。

第15回：ブラウン運動の微視的導出(森理論)II

実際に運動方程式からランジュバン方程式を導く。定期試験なし

テキスト なし

参考書・参考資料等

「非平衡系の統計力学」北原和夫(岩波書店)

ライヘル「現代統計物理下」鈴木増雄訳(丸善)(P432以降)

ランダウ・リフシッツ「統計物理学下」小林秋男他訳(岩波書店)12章

学生に対する評価

毎週のレポートにより評価。

授業科目名： 原子分子物理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 副島 浩一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 双極子近似とフェルミの黄金則を使って光の相互作用の取り扱いができること。 2. 軌道放射光の発生原理とその特徴を理解すること。 3. 軌道放射光を使った最新の実験・研究を知ること。			
授業の概要			
本科目は、放射光科学、特に光電子分光学分野に関係しています。光を使って原子や分子の性質を調べる原理や方法についてのトピックを扱っています。本科目の学問領域は、原子・分子を研究対象にしているため、物理学と化学の境界領域に位置し、物理学の基礎的知識をもつ学生には化学への応用を、一方化学身につけることができます。			
授業計画			
第1回：量子力学の復習①－1次摂動論について1－ 相互作用が主要項と摂動項に分離でき、摂動項が時間に依存しない場合のエネルギー固有状態と固有値の求め方について解説する。			
第2回：量子力学の復習②－1次摂動論について2－ 相互作用が主要項と摂動項に分離でき、摂動項が時間に依存する場合、特に調和摂動の場合を例にとって、エネルギー固有状態と固有値の求め方について解説する。			
第3回：量子力学の復習③－フェルミの黄金則－ 第二回で解説した摂動項が時間に依存する場合のエネルギー固有状態と固有値の求め方を応用し、1次摂動近似下での遷移率を導出する方法を解説する。			
第4回：電磁気学の復習①－古典的放射場について1－ マクスウェル方程式を復習すると共に、そこから電磁波の発生が導かれることを解説する。			
第5回：電磁気学の復習②－古典的放射場について2－ 電磁波中の原子内電子の全エネルギーを、ベクトルポテンシャルを使って表記する方法および遅延ポテンシャルについて解説する。			
第6回：軌道放射光の紹介 軌道放射光の特徴や、光の分光方法について解説する。また、代表的な分野の放射光施設で行われた研究例を紹介する。			
第7回：軌道放射光の特徴			

軌道放射光の特徴である高輝度光が発生する原理を中心に解説する。

第8回：光電子分光法①ー運動エネルギー分析の原理ー

電子の運動エネルギーを分析する原理について解説する。

第9回：光電子分光法②ー分析手法ー

実際に使用されている電子分光装置の種類、方法について解説をおこなう。

第10回：光電子分光法③ー分析装置の性能評価ー

運動エネルギー分析装置の分解能や検出効率など性能の目安になる諸物理量について解説する。

第11回：光電子スペクトルの読み取り方①

原子の光電子スペクトルの特徴について解説する。また、光吸収スペクトルとの相違点について概観する。

第12回：光電子スペクトルの読み取り方②

分子の光電子スペクトルの特徴について解説する。また、光吸収スペクトルとの相違点について概観する。

第13回：光電子スペクトルの読み取り方③

バルクの光電子スペクトルの特徴について解説する。また、原子・分子の光電子スペクトルとの相違点について概観する。

第14回：最新研究紹介①ー準安定多価分子イオンの生成機構ー

内殻電離後のどのような緩和過程によって準安定的な多価分子イオンが生成されるのか解説する。

第15回：最新研究紹介②ー内殻2重空孔状態からの電子緩和過程ー

1光子で内殻2重空孔状態が生成する機構について解説をおこなう。

定期試験なし

テキスト

著者：Volker Schmidt

タイトル：Electron Spectrometry of Atoms using Synchrotron Radiation

出版社：Cambridge University Press

ISBN：052155053X

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

課題問題の評価点：20%、課題レポートの評価点：80%

授業科目名： 溶液化学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梅林 泰宏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
溶液内反応を理解することを目的として、受講者各自の修士論文課題に基づいて、溶液内反応を理解するに必要な熱力学、(熱)統計力学、量子化学の基礎を固めるとともに、分析化学的な立場からより定量的な方法論を学び、分子内・分子間ポテンシャルに基づいて、溶質および溶媒の分子構造と液体構造、ならびに溶媒和構造と反応性の相関を予測・解釈できる。			
授業の概要			
この授業では、溶液内反応を理解することを目的として、受講者各自の修士学位論文研究に有用な、溶液内反応を理解するに必要な熱力学、(熱)統計力学、量子化学の基礎を固めるとともに、分析化学的な立場からより定量的な方法論を学ぶ。			
授業計画			
第1回：導入			
第2回：修士論文概要紹介① 次世代電池電解液の溶液化学			
第3回：修士論文概要紹介② 次世代電析電解浴の溶液化学			
第4回：修士論文概要紹介③ 溶媒抽出の溶液化学			
第5回：修士論文概要紹介④ 固/液界面の溶液化学			
第6回：修士論文概要紹介⑤ 金属錯体の溶液化学			
第7回：修士論文概要紹介⑥ 生物無機化学の溶液化学			
第8回：修士論文概要紹介⑦ 有機化学反応の溶液化学			
第9回：文献紹介① 次世代電池電解液の溶液化学			
第10回：文献紹介② 次世代電析電解浴の溶液化学			
第11回：文献紹介③ 溶媒抽出の溶液化学			
第12回：文献紹介④ 固/液界面の溶液化学			
第13回：文献紹介⑤ 金属錯体の溶液化学			
第14回：文献紹介⑥ 生物無機化学の溶液化学			
第15回：文献紹介⑦ 有機化学反応の溶液化学			
第16回：まとめ			
定期試験なし			
テキスト 適宜、授業で指定する。			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
出席と受講姿勢や取り組み(30 %)、学期末のレポート(70 %)で総合的に評価する。

授業科目名： 核化学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 真一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 超重元素の合成原理および実験手法について説明できる。			
・ ディラック方程式の導出を通じて、軌道電子に対する相対論的效果について説明でき出る。			
・ one-atom-at-a-time chemistryの概念について説明できる。			
授業の概要			
超重元素合成の原理および超重元素の化学について詳細に解説し、実際の研究例等を紹介する。			
授業計画			
第1回：元素の起源			
第2回：超重元素の合成（核反応の理論）			
第3回：超重元素の合成（実験手法）			
第4回：軌道電子に対する相対論的效果（Dirac方程式の導出）			
第5回：軌道電子に対する相対論的效果（自由電子に対するDirac方程式の解）			
第6回：軌道電子に対する相対論的效果（水素様原子に対するDirac方程式の解）			
第7回：相対論的電子状態計算（Dirac方程式の多電子系への拡張）			
第8回：相対論的電子状態計算（実際の計算例）			
第9回：one-atom-at-a-time chemistry（トレーサスケールの化学）			
第10回：one-atom-at-a-time chemistry（平衡論的議論）			
第11回：one-atom-at-a-time chemistry（統計力学的議論）			
第12回：one-atom-at-a-time chemistry（実際の実験への適用）			
第13回：超重元素の化学研究（液相化学研究の例）			
第14回：超重元素の化学研究（気相化学研究の例）			
第15回：超重元素の化学研究（最新の超重元素化学）			
定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
毎回の授業での質疑応答(50%)および授業中での発表(50%)により評価する。			

授業科目名： 有機合成方法論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田山 英治
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【前半】			
1．新規有機化合物の合成を試みる際、現在の研究室で実現可能な方法を発案できること。			
2．研究室で行われている有機化合物の合成方法が、様々な視点から適切であるか判断できること。			
3．検索で得られたある化合物の合成方法が、現在の研究環境や実験技術で実施できるか判断できること。			
【後半】			
1．Stevens転位とSommelet-Hauser転位の歴史を理解できること。			
2．Stevens転位とSommelet-Hauser転位のメカニズムを理解できること。			
授業の概要			
学部での有機化学から引き続き、以下の発展的内容についての講義を行う。			
【前半】発展的有機合成化学			
有機合成化学では多くの反応が開発されているものの、操作の手間や試薬の価格の問題もあり、実際に研究室で使用できる方法はかなり限られる。(1)使用頻度が高い、(2)利用価値が高い、(3)比較的簡便な操作で実施できる、(4)安価である、といった現実の研究室で行いやすい反応に絞り解説する。			
【後半】オニウムイリドの転位反応			
Stevens転位とSommelet-Hauser転位について、初期の研究内容と最近の報告例を解説する。			
授業計画			
第1回：Enolate を用いる合成の解説			
第2回：Enolate の類縁体を用いる合成の解説			
第3回：Nucleophile を用いる合成の解説			
第4回：Electrophile と炭素－炭素多重結合の反応の解説			
第5回：カルボニル化合物とその類縁体の還元反応の解説			
第6回：ペリ環状反応の解説			
第7回：典型有機金属化合物を利用する合成反応の解説			
第8回：遷移有機金属化合物を利用する合成反応の解説			

第9回：Stevens転位の初期研究 第10回：Sommelet-Hauser転位の初期研究 第11回：塩基もしくは遷移金属触媒によるオニウムイリドの発生方法 第12回：様々なオニウムイリドの発生方法 第13回：最近のStevens転位の研究 第14回：最近のSommelet-Hauser転位の研究 第15回：最近のStevensおよびSommelet-Hauser転位を用いた合成への応用 定期試験なし
テキスト 【授業前半】 (1) Advanced Organic Chemistry: Reaction and Synthesis Francis A. Carey and Richard J. Sundberg, Springer-Verlag ISBN-13: 978-0387683546 (Fifth Edition), 978-0306462450 (Fourth Edition) 【授業後半】 (2) Nitrogen- and Sulfur-Based Stevens and Related Rearra
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 前半と後半それぞれについてレポート：計100%

授業科目名： 有機合成方法論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 俣野 善博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
典型元素の基礎物性、ならびに、典型元素や遷移金属を含む有機化合物の基礎物性、構造、反応性を説明することができる。また、これらの化合物群がどのように利用されているのか解説することができる。			
授業の概要			
元素の特徴を活かした有機機能性材料や有機合成反応の開発を指向した、有機元素化合物の合成法、構造、反応性、および物性について総括的に解説する。			
授業計画			
第1回：序論：元素化学と有機化学1（周期律）			
第2回：序論：元素化学と有機化学2（構造と性質）			
第3回：有機典型元素化学の基礎			
第4回：有機典型元素化合物の合成1（14族・15族）			
第5回：有機典型元素化合物の合成2（16族・17族）			
第6回：有機典型元素化合物の構造と反応性1（14族・15族）			
第7回：有機典型元素化合物の構造と反応性2（16族・17族）			
第8回： π 共役典型元素化合物の合成1（14族・15族）			
第9回： π 共役典型元素化合物の合成2（16族）			
第10回： π 共役典型元素化合物の物性1（14族・15族）			
第11回： π 共役典型元素化合物の物性2（16族）			
第12回： π 共役典型元素化合物の機能化			
第13回：有機遷移金属化学の基礎			
第14回：有機遷移金属化合物の構造と反応			
第15回：有機遷移金属化合物の物性			
定期試験			
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	なし		
学生に対する評価	発表課題（60%），期末試験（40%）の結果を総合して評価する。期末試験は対面で実施する。詳細については、初回の講義の際に説明する。		

授業科目名： 構造有機化学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩本 啓
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1. 有機分子の基本骨格を形成する共有結合について理解する 2. 立体異性体（光学、幾何、回転、配座の各異性体）について理解する 3. 非共有結合性相互作用（van der Waals力、水素結合、電荷移動相互作用、疎水性相互作用）について理解する。 4. 有機分子が示す様々な性質は、その立体構造に依存したものであることが理解できるようにする。			
授業の概要 有機化合物の構造と、物理的および化学的性質との関連性について、クラウンエーテル、シクロファン、シクロデキストリンなどを基盤とした包接錯体や超分子錯体による最近の研究動向を含めて学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：構造有機化学とは 第2回：立体異性体（光学、幾何、回転、配座の各異性体） 第3回：分子の対称と光学的性質の関連 第4回：エナンチオマー、ジアステレオマー、エピマー 第5回：中心性キラリティー、軸性キラリティー、面性キラリティー、ヘリシティ表示法 第6回：分子内の位置の定義：ホモトピック、エナンチオトピック、ジアステレオトピック、プロキラリティー 第7回：立体配座：コンフォマーの名称、アリリックストレイン 第8回：シクロアルカンと立体配座 第9回：立体障害：官能基の立体的な嵩高さ、F-Strain、B- Strain 第10回：分子間相互作用：van der Waals相互作用、水素結合、電荷移動相互作用 第11回：分子認識：クラウンエーテル 第12回：分子認識：シクロファン、カリックスアレーン 第13回：分子認識：シクロデキストリン 第14回：機能性分子の化学：電気伝導性 第15回：機能性分子の化学：刺激応答性			

期末レポート
定期試験なし
テキスト
別途指示する。適宜、プリントなどを配布する。
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
授業への参加状況を参考に最終レポート(発表を含む) (100%) により評価する。

授業科目名： 分子生理化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中馬 吉郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 生命現象の主たる担い手であるタンパク質の立体構造と機能の基礎的な概念と知識を修得する。自身の研究テーマについて、分子構造と機能の相関関係の視点から理解し、他者に説明できるようになること。			
授業の概要 タンパク質は、生命活動の主たる担い手である。その特異的な機能は各タンパク質固有の立体構造に起因しており、他のタンパク質あるいは生体分子との相互作用の調節によって制御されている。本講義では、タンパク質の構造および相互作用をととした生命現象の制御機構を理解するため、その基礎的な概念と知識を習得する。がん関連タンパク質を標的とした創薬開発や創薬同定法に関して実務経験のある教員が、それを活かして新規創薬の探索や生体分子の機能解析に関する最先端のトピックスを含めて解説し、理解を深める。			
授業計画 第1回：タンパク質の基本構造I：タンパク質の一次構造，二次構造 第2回：タンパク質の基本構造II：タンパク質の三次構造 第3回：タンパク質の基本構造III：タンパク質の四次構造 第4回：タンパク質の安定性と構造モチーフI：αドメイン構造 第5回：タンパク質の安定性と構造モチーフII：α/β構造 第6回：タンパク質の安定性と構造モチーフIII：β構造 第7回：タンパク質の複合体形成I：タンパク質の相補性 第8回：タンパク質の複合体形成II：膜タンパク質 第9回：タンパク質の複合体形成III：キナーゼ，ホスファターゼ 第10回：タンパク質の分子認識I：抗体 第11回：タンパク質の分子認識II：抗体模倣分子 第12回：タンパク質の分子認識III：核酸アプタマー 第13回：タンパク質の構造と機能I：タンパク質の配列と構造予測 第14回：タンパク質の構造と機能II：タンパク質ホモロジーモデリング 第15回：タンパク質の構造と機能III：生成AIを用いて構造予測 定期試験なし			

テキスト タンパク質の構造入門 (Newton Press)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業中の参加状況40% (小テストとレポートを含む) とテスト60% (プレゼンテーションを含む) で評価する。

授業科目名： 凝縮相物性論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丸山 健二
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 原子による粒子線散乱について次のことがらを理解・解析できる。 粒子線の種類と原子による散乱強度の関係が理解できる。 粒子線散乱の実験方法ごとの特徴に応じたデータの取扱いの理解。 構造因子、対分布関数等の構造関数と散乱強度の関係の理解と計算の基礎が分かる。 混合系における部分構造とその散乱強度との関係の計算。 密度および濃度ゆらぎと散乱強度の関係の計算。 非弾性散乱の原理を理解し、物質のダイナミクスとの関係を導ける。			
授業の概要 長距離秩序を持たない非晶質および液体相の物質について構造解析の種々の方法を解説するとともに、構造や物性とのかわりについて、実例をあげながら説明する。特に、X線や中性子散乱測定のための加速器施設での実験について概説する。			
授業計画 第1回：構造解析についての概要 第2回：種々の粒子線について 第3回：粒子線を用いた回折実験（実験装置の構成） 第4回：粒子線を用いた回折実験（測定データからの構造情報の抽出） 第5回：非晶質および液体の構造解析（物質による回折現象の基礎） 第6回：非晶質および液体の構造解析（結晶との違いについて） 第7回：非晶質および液体の構造解析（構造因子、対分布関数の定義、散乱強度からの導出） 第8回：非晶質および液体の構造解析（混合系の部分構造と散乱強度との関係、実験からの導出法） 第9回：非晶質および液体の構造解析（種々の部分構造の表現方法） 第10回：非晶質および液体の構造解析物（密度、濃度ゆらぎとの関係） 第11回：非弾性散乱 第12回：物質の動的構造についての解説 第13回：非弾性散乱実験法と散乱強度と動的構造の関係 第14回：その他の構造解析方法			

第15回：EXAFSなどの解説
定期試験なし
テキスト N.E. Cucak "The Physics of Structurally Disordered Matter"1987, IOP Publishing P.A. Egelstaff "An Introduction to the Liquid State 2nd ed." 1994, Oxford
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 講義中の発表や議論内容(20%)、レポート(80%)により総合的に評価する

授業科目名： 反応化学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古川 貢
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1. 励起状態における電子，振動，電子スピン構造を説明できる． 2. 電子スピン共鳴の原理を説明出来る 3. 電子スピン共鳴スペクトルの解析が出来，そのパラメータの意味を解釈出来る．			
授業の概要 有機化合物の光化学反応のダイナミクスにおける基本原理について学習する． とくに反応中間体となるラジカルを検出する電子スピン共鳴法，および，その解析方法について学習する．			
授業計画 第1回：分子性物質の電子スピン共鳴法による磁気物性測定 ～電子スピン共鳴法の原理～ 第2回：分子性物質の電子スピン共鳴法による磁気物性測定（2） ～溶液試料～ 第3回：分子性物質の電子スピン共鳴法による磁気物性測定（3） ～固体粉末試料～ 第4回：分子性物質の電子スピン共鳴法による磁気物性測定（4） ～固体単結晶試料～ 第5回：分子性物質の電子スピン共鳴法による磁気物性測定（5） ～信号強度と磁気特性～ 第6回：電子スピン共鳴法による光誘起伝導性メカニズムの解釈（1） ～電子スピン共鳴と時間分解電子スピン共鳴～ 第7回：電子スピン共鳴法による光誘起伝導性メカニズムの解釈（2） ～時間分解電子スピン共鳴～ 第8回：電子スピン共鳴法による光誘起伝導性メカニズムの解釈（3） ～励起3重項状態の観測～ 第9回：電子スピン共鳴法による光誘起伝導性メカニズムの解釈（4） ～励起3重項状態のシミュレーション～ 第10回：電子スピン共鳴法による光誘起伝導性メカニズムの解釈（5）			

～メカニズム解釈～ 第1 1回：電子スピン共鳴法による光誘起磁気特性のメカニズムの解釈（1） ～固体の磁気特性～ 第1 2回：電子スピン共鳴法による光誘起磁気特性のメカニズムの解釈（2） ～磁性物質の時間分解電子スピン共鳴～ 第1 3回：電子スピン共鳴法による光誘起磁気特性のメカニズムの解釈（3） ～光励起状態における磁気特性～ 第1 4回：電子スピン共鳴法による光誘起磁気特性のメカニズムの解釈（4） ～メカニズムの解釈～ 第1 5回：電子スピン共鳴法を用いた光反応のまとめ 定期試験なし
テキスト 講義時に適宜示す
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 チューター発表(60%)ならびに授業中の学習態度(40%)

授業科目名： 化学反応計測学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生駒 忠昭
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ ESRの原理を説明できる。			
・ ESRの測定装置を理解できる。			
・ g因子の異方性の機構を説明でき、g因子がESRスペクトルに与える影響を説明できる。			
・ 磁気双極子間相互作用を説明でき、ゼロ磁場相互作用がESRスペクトルに与える影響を説明できる。			
・ 交換相互作用を説明でき、交換相互作用がESRスペクトルに与える影響を説明できる。			
・ スピン緩和がESRスペクトルに与える影響を説明できる。			
授業の概要			
本科目では、ESR法の基本原理および応用例を解説する。			
授業計画			
第1回：電子の軌道角運動量と軌道磁気モーメント			
第2回：電子のスピン角運動量とスピン磁気モーメント			
第3回：ESRの原理			
第4回：ESR実験装置			
第5回：g因子とは			
第6回：g因子の等方性			
第7回：g因子の異方性			
第8回：ゼロ磁場相互作用			
第9回：磁気双極子相互作用とスピン軌道相互作用			
第10回：近距離交換相互作用			
第11回：長距離交換相互作用			
第12回：スピン縦緩和			
第13回：スピン横緩和			
第14回：定常状態ESR			
第15回：時間分解ESR			
定期試験なし			
テキスト			

- ・ “EPR Spectroscopy: Fundamentals and Methods” ed. by Daniella Goldfarb and Stefan Stoll, Wiley (2018) ISBN:978-1-119-16299-5, 本体定価212.95ドル(税抜き)
- ・ 山内淳 著 「新・物質科学ライブラリ15 磁気共鳴-ESR -電子スピンの分光学-」サイエンス社 (2012年) ISBN:978-4781911229, 本体定価3,200円(税抜き)
- ・ 日本化学会 編, 大庭裕範・

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業中の学習態度・姿勢(60%)ならびレポートの出来(40%)を総合して評価する。

授業科目名： 量子反応速度論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三浦 智明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
時間分解分光の測定結果を速度論的に解析できる。			
スピンハミルトニアン の定常解から時間分解ESRスペクトルを計算できる。			
密度演算子について理解し、その時間発展を計算できる。			
ラジカル対機構に基づく磁場効果とその支配因子を量子力学的に説明できる。			
授業の概要			
光化学反応を中心とした反応の速度論とこれを支配する量子力学について学ぶ。まず、古典的な反応速度論の概説を行うとともに、コンピューターシミュレーションを用いて化学種濃度の時間変化を計算する方法を学ぶ。これにより、時間分解分光の測定結果を解析し速度定数を決定する方法を学ぶ。次に、光誘起電子移動で生じるラジカル対について、電子スピンの量子動力学が反応に及ぼす影響を学ぶ。まず、量子力学の基礎を学習し、ラジカル対のスピンハミルトニアン の定常解から時間分解ESRスペクトルやその時間変化をシミュレーションする方法を学ぶ。さらに、密度演算子の時間発展を計算することにより、時間分解ESRや磁場効果のシミュレーションを行う方法を学ぶ。ここから、ラジカル対の電子スピン依存的な反応過程を支配する因子について考察する。			
授業計画			
第1回：古典的反応速度論～一次反応と二次反応の確率論的理解～			
第2回：古典的反応速度論～二次反応の特殊例～			
第3回：古典的反応速度論～複合反応の速度式～			
第4回：古典的反応速度論～反応速度式の数値解法～			
第5回：スピンドYNAMICSⅠ ～スピンの量子力学の基礎～			
第6回：スピンドYNAMICSⅠ ～シュレディンガー方程式の定常解とESRスペクトル～			
第7回：スピンドYNAMICSⅠ ～単一スピンの量子ダイナミクス～			
第8回：スピンドYNAMICSⅠ ～1スピン密度演算子の時間発展～			
第9回：スピンドYNAMICSⅠ ～スピン緩和過程とCWESRスペクトル～			
第10回：スピンドYNAMICSⅠ ～時間分解ESRスペクトルの時間変化～			
第11回：スピンドYNAMICSⅡ ～ラジカル対のスピン状態混合メカニズム～			
第12回：スピンドYNAMICSⅡ ～スピン選択的再結合～			

第13回：スピンドYNAMICSII ～1核スピンモデルによる磁場効果のシミュレーション～
第14回：スピンドYNAMICSII ～半古典近似による磁場効果のシミュレーション～
第15回：スピンドYNAMICSII ～ラジカル対特有のスピン緩和現象～
定期試験なし

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業中の演習（50%）およびレポート（50%）

授業科目名： 電気化学要論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 五十嵐 智志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・種々の酸化還元反応，電池反応，電極反応を電解質溶液論，熱力学的平衡論，反応速度論の視点から説明することができる。			
・各種のボルタンメトリーの特徴について説明することができる。			
・環境化学における電気化学の役割を説明することができる。			
授業の概要			
電気化学は，電解質溶液論，熱力学的平衡論，反応速度論，電気化学測定法を主体として構成される境界領域の科学であり，その応用はきわめて多岐にわたっている．本講義では，電気化学の基礎的事項（電気化学量論・電気化学熱力学・電気化学速度論・電極反応機構）と各種のボルタンメトリーの特徴について論ずる．また，グリーンエレクトロケミストリーについても述べる．			
授業計画			
第1回：電気化学の基礎：電気に関する物理諸法則			
第2回：電気化学の基礎：電気化学に関する化学の基礎事項			
第3回：電気化学セル：化学エネルギーと電気エネルギーの変換			
第4回：電極：作用電極と参照電極，電極電位とネルンスト式			
第5回：電極反応：電極反応の速度論と反応機構			
第6回：輸送現象：泳動，拡散，対流			
第7回：電極の分極：電流と電極電位との相互依存関係と相互関係を支配する要因とその効果			
第8回：電極－溶液界面の構造：電気的二重層について			
第9回：過渡応答ボルタンメトリー：電位ステップクロノアンペロメトリー			
第10回：過渡応答ボルタンメトリー：パルスボルタンメトリー			
第11回：過渡応答ボルタンメトリー：線形走査ボルタンメトリー			
第12回：グリーンエレクトロケミストリー：環境分析センサ			
第13回：グリーンエレクトロケミストリー：電気化学分析による汚染物質の特定			
第14回：グリーンエレクトロケミストリー：電気化学法による汚染物質の除去			
第15回：グリーンエレクトロケミストリー：細胞の電気化学			
定期試験なし			

テキスト

K. B. Oldham, J. C. Myland, A. M. Bond 著, 大阪武男, 岡島武義, 松本太, 北村房男 訳, 『電気化学 基礎と応用』, 東京化学同人, 978-4-8079-0847-9

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義終了後にレポートを課し, レポートの内容により成績評価を行う. [100%]

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅰ-C（物質宇宙 基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、撰 待 力生、副島 浩一、早坂 圭司、吉森 明、石川 文 洋、江尻 信司、大坪 隆、 大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮一、根本 祐 一、本郷 優、赤津 光洋、 金田 邦雄、小山 翔子、佐 藤 優太郎、遊佐 洋右、野 垣 康介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し、各専門分野における課題解決能力を身につける。			
授業の概要 博士前期課程（修士）の学生を対象とした演習（情報収集，理論計算・データ取得・分析，議論など）を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：ガイダンス 第2回：物質宇宙基礎科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：物質宇宙基礎科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト 各指導教員が指示したテキスト			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

演習の成果（５０％）および日々の取り組み（５０％）で評価する。

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅱ-C（物質宇宙 基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し，各専門分野における課題解決能力を身につける。			
授業の概要			
博士前期課程（修士）の学生を対象とした演習（情報収集，理論計算・データ取得・分析，議論など）を行う。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。			
下記は一例である。			
第1回：課題の決定			
第2回：物質宇宙基礎科学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：物質宇宙基礎科学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			

テキスト 各指導教員が指示するテキスト
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 演習の成果（５０％）および日々の取り組み（５０％）で評価する。

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅲ-C（物質宇宙 基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し，各専門分野における課題解決能力を身につける。			
授業の概要 博士前期課程（修士）の学生を対象とした演習（情報収集，理論計算・データ取得・分析，議論など）を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：物質宇宙基礎科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：物質宇宙基礎科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			

テキスト 各指導教員が指示するテキスト
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 演習の成果（５０％）および日々の取り組み（５０％）で評価する。

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅳ-C（物質宇宙 基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し，各専門分野における課題解決能力を身につける。			
授業の概要			
博士前期課程（修士）の学生を対象とした演習（情報収集，理論計算・データ取得・分析，議論など）を行う。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。			
第1回：課題の決定			
第2回：物質宇宙基礎科学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：物質宇宙基礎科学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			

テキスト 各指導教員が指示するテキスト
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 演習の成果（５０％）および日々の取り組み（５０％）で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅰ-C（物質 宇宙基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の領域において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な資料調査や実験・調査・解析を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得できる。			
授業の概要 物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の領域における学術研究や課題解決のための資料調査および実験・調査の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：物質宇宙基礎科学研究（特に物理学、宇宙物理学、天文学の領域）の特質 第3回：物質宇宙基礎科学に関する基礎資料調査の方法 第4回：物質宇宙基礎科学に関する基礎資料調査 第5回：物質宇宙基礎科学に関する基礎資料の調査の結果に基づく討論 第6回：物質宇宙基礎科学に関する基礎的な実験・調査・解析計画の方法 第7回：物質宇宙基礎科学に関する基礎的な実験・調査・解析の計画 第8回：物質宇宙基礎科学に関する基礎的な実験・調査・解析の実施 第9回：物質宇宙基礎科学に関する基礎的な実験・調査・解析の結果の整理			

第10回：物質宇宙基礎科学に関する基礎的な実験・調査・解析を報告する資料の作成方法
第11回：物質宇宙基礎科学に関する基礎的な実験・調査・解析結果の報告と討論
第12回：基礎的な実験・調査・解析に基づく課題研究計画立案の方法
第13回：課題研究計画の作成
第14回：課題研究計画の報告と検討
第15回：総括討論
定期試験なし
テキスト
研究に関連する論文、文献
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
研究成果（50％）および日々の研究への取り組み（50％）で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-C（物質 宇宙基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 物質宇宙基礎科学の諸分野（特に物理学、宇宙物理学、天文学の領域）において、専門的な課題を解決するための調査方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深めることができる。			
授業の概要 物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の領域において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：物質宇宙基礎科学（特に物理学、宇宙物理学、天文学の領域）における研究方法論の特質 第3回：物質宇宙基礎科学における研究方法論 第4回：物質宇宙基礎科学における課題選定の方法と特質 第5回：課題選定に関する討論 第6回：物質宇宙基礎科学に関する文献調査の特質 第7回：物質宇宙基礎科学に関する文献調査の方法と実際			

第 8 回：物質宇宙基礎科学に関する課題分析の方法
第 9 回：物質宇宙基礎科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の方法
第 10 回：物質宇宙基礎科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の実施
第 11 回：物質宇宙基礎科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の結果の整理と報告
第 12 回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画立案の方法
第 13 回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施
第 14 回：実験・調査・解析結果の整理と報告資料作成
第 15 回：まとめの討論
定期試験なし
テキスト
研究に関連する論文、文献
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
研究成果（50％）および日々の研究への取り組み（50％）で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-C（物質 宇宙基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析を通して、物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の理論と、諸分野における実験・調査・解析の方法論の理解を深めることができる。			
授業の概要 計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析およびその計画や結果について討論を通して、物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の理論と実験・調査・解析方法論を理解し、応用できる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：課題に基づく研究計画の検討（1）―物質宇宙基礎科学における研究内容の視点から― 第3回：課題に基づく研究計画の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から― 第4回：課題に基づく研究計画の検討（3）―基本文献の調査― 第5回：課題に基づく研究計画の検討（4）―関連する研究の調査― 第6回：研究計画の深化―物質宇宙基礎科学理論の深化を中心として― 第7回：研究計画に基づく実験・調査・解析の計画 第8回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施 第9回：実験・調査・解析結果の整理			

第10回：実験・調査・解析結果の報告

第11回：実験・調査・解析結果の検討（1）―実験・調査・解析計画の視点から―

第12回：実験・調査・解析結果の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―

第13回：実験・調査・解析結果の検討（3）―物質宇宙基礎科学理論の視点から―

第14回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画の再検討

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

研究に関連する論文、文献

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

研究成果（50％）および日々の研究への取り組み（50％）で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-C（物質 宇宙基礎科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅賀 岳彦、大野 義章、 摂待 力生、副島 浩一、 早坂 圭司、吉森 明、石 川 文洋、江尻 信司、大 坪 隆、大村 彩子、下西 隆、中野 博章、西 亮 一、根本 祐一、本郷 優 、赤津 光洋、金田 邦雄 、小山 翔子、佐藤 優太 郎、遊佐 洋右、野垣 康 介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
実験・調査・解析の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の理論の理解を深め、応用できる。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの実験・調査・解析や研究計画の検討・報告をもとに、実験・調査・解析の結果と方法の吟味を通して、物質宇宙基礎科学の諸分野、特に物理学、宇宙物理学、天文学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの実験・調査・解析結果に基づく今後の方向性の検討			
第2回：物質宇宙基礎科学における論文作成方法			
第3回：対外発表論文の作成と検討―物質宇宙基礎科学における理論の深化を視点として―			
第4回：これまでの実験・調査・解析結果の発表			
第5回：発表に基づく補足実験・調査・解析の計画			
第6回：発表に基づく補足実験・調査・解析の実施			
第7回：物質宇宙基礎科学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：物質宇宙基礎科学に関する課題分析の方法			
第9回：物質宇宙基礎科学に関する各自の研究課題の体系化―理論の深化を視点として―			

第10回：研究結果の整理に資する予備実験・調査・解析の方法と実施
第11回：物質宇宙基礎科学理論の理解の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討
第12回：物質宇宙基礎科学理論の理解の深化を視点とした分析・考察結果の検討
第13回：物質宇宙基礎科学理論の理解の深化を視点とした研究の成果と意義の検討
第14回：物質宇宙基礎科学理論の理解の深化を視点とした今後の研究課題の検討
第15回：研究成果の発表
定期試験なし
テキスト
研究に関連する論文、文献
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
研究成果（50％）および日々の研究への取り組み（50％）で評価する。

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅰ-C（基礎化学 ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、中 馬 吉郎、俣野 善博、丸山 健二、五十嵐 智志、岩本 啓、後藤 真一、田山 英 治、古川 貢、三浦 智明、 HAN JIHAE
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
各専門分野の基礎的な知識を取得し、研究背景を理解することができる。さらに、調査した内容をまとめて発表することができる。			
授業の概要			
化学の各専門分野の教員の指導の下、高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の基礎的な知識を取得し、研究背景を理解する能力を身につける。さらに、調査した内容をまとめて発表し、討論する。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。			
下記は一例である。			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎化学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：基礎化学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			
テキスト 指定なし			
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
学生に対する評価			
演習の成果および日々の課題への取り組みで評価する（100％）。			

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅱ-C（基礎化学 ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、中 馬 吉郎、俣野 善博、丸山 健二、五十嵐 智志、岩本 啓、後藤 真一、田山 英 治、古川 貢、三浦 智明、 HAN JIHAE
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
各専門分野の高度な知識を取得し、研究背景を理解することができる。さらに、調査した内容をまとめて発表し、討論することができる。			
授業の概要			
化学の各専門分野の教員の指導の下、高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識を取得し、研究背景を理解する能力を身につける。さらに、調査した内容をまとめて発表し、討論する。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。			
下記は一例である。			
第1回：課題の決定			
第2回：基礎化学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：基礎化学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			
テキスト 指定なし			
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
学生に対する評価			
演習の成果および日々の課題への取り組みで評価する（100％）。			

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅲ-C（基礎化学 ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、 中馬 吉郎、俣野 善博、 丸山 健二、五十嵐 智志 、岩本 啓、後藤 真一、 田山 英治、古川 貢、三 浦 智明、HAN JIHAЕ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
各専門分野の高度な知識を取得し、研究背景を理解することができる。さらに、調査した内容をまとめて発表し、討論することができる。			
授業の概要			
化学の各専門分野の教員の指導の下、高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識を取得し、研究背景を理解する能力を身につける。さらに、調査した内容をまとめて発表し、討論する能力をより一層高める。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。			
下記は一例である。			
第1回：課題の決定			
第2回：基礎化学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：基礎化学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			
テキスト 指定なし			
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
学生に対する評価			
演習の成果および日々の課題への取り組みで評価する（100％）。			

授業科目名： 物質創成・基礎科学 演習Ⅳ-C（基礎化学 ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、 中馬 吉郎、俣野 善博、 丸山 健二、五十嵐 智志 、岩本 啓、後藤 真一、 田山 英治、古川 貢、三 浦 智明、HAN JIHAЕ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
各専門分野の高度な知識を取得し、研究背景を理解することができる。さらに、調査した内容をまとめて発表し、社会に向けて発信することができる。			
授業の概要			
化学の各専門分野の教員の指導の下、高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識を取得する。さらに、調査した内容をまとめて発表し、討論する能力をより一層高める。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。			
下記は一例である。			
第1回：課題の決定			
第2回：基礎化学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：基礎化学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			
テキスト 指定なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			
演習の成果および日々の課題への取り組みで評価する（100％）。			

授業科目名： 課題研究Ⅰ-C（基礎化学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、 中馬 吉郎、俣野 善博、 丸山 健二、五十嵐 智志、 岩本 啓、後藤 真一、 田山 英治、古川 貢、三浦 智明、HAN JIHAЕ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の領域において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な資料調査や実験・調査・解析を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得できる。			
授業の概要			
基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の領域における学術研究や課題解決のための資料調査および実験・調査の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎化学研究（特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の領域）の特質			
第3回：基礎化学に関する基礎資料調査の方法			
第4回：基礎化学に関する基礎資料調査			
第5回：基礎化学に関する基礎資料の調査の結果に基づく討論			
第6回：基礎化学に関する基礎的な実験・調査・解析計画の方法			
第7回：基礎化学に関する基礎的な実験・調査・解析の計画			
第8回：基礎化学に関する基礎的な実験・調査・解析の実施			
第9回：基礎化学に関する基礎的な実験・調査・解析の結果の整理			
第10回：基礎化学に関する基礎的な実験・調査・解析を報告する資料の作成方法			
第11回：基礎化学に関する基礎的な実験・調査・解析結果の報告と討論			
第12回：基礎的な実験・調査・解析に基づく課題研究計画立案の方法			
第13回：課題研究計画の作成			
第14回：課題研究計画の報告と検討			

第15回：総括討論
定期試験なし
テキスト
指定なし
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
研究成果および日々の研究への取り組みで評価する（100％）。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-C（基礎化学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、 中馬 吉郎、俣野 善博、 丸山 健二、五十嵐 智志、 岩本 啓、後藤 真一、 田山 英治、古川 貢、三浦 智明、HAN JIHAЕ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
基礎化学の諸分野（特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の領域）において、専門的な課題を解決するための調査方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深めることができる。			
授業の概要			
基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の領域において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎化学（特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の領域）における研究方法論の特質			
第3回：基礎化学における研究方法論			
第4回：基礎化学における課題選定の方法と特質			
第5回：課題選定に関する討論			
第6回：基礎化学に関する文献調査の特質			
第7回：基礎化学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：基礎化学に関する課題分析の方法			
第9回：基礎化学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の方法			
第10回：基礎化学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の実施			
第11回：基礎化学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の結果の整理と報告			
第12回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画立案の方法			

第13回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施

第14回：実験・調査・解析結果の整理と報告資料作成

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

研究成果および日々の研究への取り組みで評価する（100％）。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-C（基礎化学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、 中馬 吉郎、俣野 善博、 丸山 健二、五十嵐 智志、 岩本 啓、後藤 真一、 田山 英治、古川 貢、三 浦 智明、HAN JIHAЕ 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析を通して、基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の理論と、諸分野における実験・調査・解析の方法論の理解を深めることができる。			
授業の概要 計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析およびその計画や結果について討論を通して、基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の理論と実験・調査・解析方法論を理解し、応用できる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：課題に基づく研究計画の検討（1）—基礎化学における研究内容の視点から— 第3回：課題に基づく研究計画の検討（2）—実験・調査・解析方法の視点から— 第4回：課題に基づく研究計画の検討（3）—基本文献の調査— 第5回：課題に基づく研究計画の検討（4）—関連する研究の調査— 第6回：研究計画の深化—基礎化学理論の深化を中心として— 第7回：研究計画に基づく実験・調査・解析の計画 第8回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施 第9回：実験・調査・解析結果の整理 第10回：実験・調査・解析結果の報告 第11回：実験・調査・解析結果の検討（1）—実験・調査・解析計画の視点から— 第12回：実験・調査・解析結果の検討（2）—実験・調査・解析方法の視点から— 第13回：実験・調査・解析結果の検討（3）—基礎化学理論の視点から— 第14回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画の再検討			

第15回：まとめの討論
定期試験なし
テキスト
指定なし
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
研究成果および日々の研究への取り組みで評価する（100％）。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-C（基礎化学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生駒 忠昭、梅林 泰宏、 中馬 吉郎、俣野 善博、 丸山 健二、五十嵐 智志、 岩本 啓、後藤 真一、 田山 英治、古川 貢、三浦 智明、HAN JIHAЕ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
実験・調査・解析の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の理論の理解を深め、応用できる。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの実験・調査・解析や研究計画の検討・報告をもとに、実験・調査・解析の結果と方法の吟味を通して、基礎化学の諸分野、特に無機・分析化学、有機・生化学、物理化学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの実験・調査・解析結果に基づく今後の方向性の検討			
第2回：基礎化学における論文作成方法			
第3回：対外発表論文の作成と検討—基礎化学における理論の深化を視点として—			
第4回：これまでの実験・調査・解析結果の発表			
第5回：発表に基づく補足実験・調査・解析の計画			
第6回：発表に基づく補足実験・調査・解析の実施			
第7回：基礎化学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：基礎化学に関する課題分析の方法			
第9回：基礎化学に関する各自の研究課題の体系化—理論の深化を視点として—			
第10回：研究結果の整理に資する予備実験・調査・解析の方法と実施			
第11回：基礎化学理論の理解の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討			
第12回：基礎化学理論の理解の深化を視点とした分析・考察結果の検討			
第13回：基礎化学理論の理解の深化を視点とした研究の成果と意義の検討			
第14回：基礎化学理論の理解の深化を視点とした今後の研究課題の検討			

第15回：研究成果の発表
定期試験なし
テキスト
指定なし
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
研究成果および日々の研究への取り組みで評価する（100％）。

授業科目名： 免疫細胞生物学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井筒（宍戸） ゆみ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1，自己・非自己など免疫学特有の概念を理解する。			
2，免疫現象を生命科学の1つとして位置づけ、関連する生物の生理的な現象とそれにかかわるメカニズムを理解する。			
3，生命現象を免疫学の観点から考え、理解し、科学的に解釈できる。			
授業の概要			
免疫学は、病原体から体を守るしくみとして現象論的視点から出発し、近年、細胞生物学とそれに続く分子生物学をベースに、生命現象を理解するための生命科学の中心的存在として急激に発展・進化してきた。免疫応答の特性は、多様な外来性抗原（微生物、環境中の天然物－自分以外のあらゆる生物由来成分、あるいは人工物）に対して様々に反応（免疫応答）しつつも、自己成分に対しては無反応の状態（免疫寛容）を呈することである。あらゆる「自己で無いもの」から「自己」を区別し、アイデンティティを確立し、正常な生理機能を維持するために免疫機能は発達してきた。免疫系の成り立ちについて解説する。			
授業計画			
第1回：近代免疫学の歴史			
第2回：自然免疫に働く細胞			
第3回：獲得免疫に働く細胞			
第4回：自然免疫の最先端			
第5回：獲得免疫の最先端			
第6回：自然免疫おもしろワークショップ(パネルディスカッション)			
第7回：自然免疫の最先端の原著論文の紹介			
第8回：自然免疫の研究における最先端の解析法			
第9回：自然免疫の研究における実験データの解釈			
第10回：自然免疫の研究における実験データについてのパネルディスカッション			
第11回：免疫と動物の器官形成の研究の歴史			
第12回：免疫と動物の器官形成の研究についての原著論文の紹介			
第13回：免疫と動物の器官形成の研究についての実験データの解釈			
第14回：免疫と動物の器官形成の研究についてのパネルディスカッション			

第15回：免疫研究のこれまでとこれから
定期試験なし
テキスト
B. Alberts らによる「Molecular Biology of the Cell-5E (Fifth Edition)」(Garland Science社出版)中のChapter 25 Immunityに関する章。
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
レポートで評価する（100%）。

授業科目名： 遺伝子工学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉本 健吉 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
生命科学研究を支えるさまざまな基礎的な遺伝子・細胞工学技術について学び、理解する。 1. DNAやRNAなどの核酸を取り扱う基礎技術について学び、理解する。 2. 大腸菌や培養細胞株などを取り扱う基礎技術について学び、理解する。 3. ベクターの構築、遺伝子導入、ゲノム編集などの技術について学び、理解する。 4. 遺伝子工学技術を活用した応用例について学ぶ。			
授業の概要			
現代の生命科学の研究では、核酸や細胞を対象としたさまざまな遺伝子工学技術が活用されている。 この講義では、これらの技術の原理、使用される薬品や機器、そしてそれによって可能となることについて、わかりやすく解説する。また実際の研究現場での具体的な使用例も紹介する。			
授業計画			
第1回 遺伝子工学の歴史			
第2回 実験をはじめるとにあって～実験計画とサンプルの調製について			
第3回 核酸の抽出、精製、オリゴ合成、保存について			
第4回 核酸解析技術（電気泳動、PCR、NGS）			
第5回 原核生物の取り扱い方法と遺伝子組換え実験時の注意事項について			
第6回 大腸菌用ベクターと遺伝子クローニング			
第7回 大腸菌を使った遺伝子クローニングの実際			
第8回 大腸菌を使ったタンパク質発現制御			
第9回 動物培養細胞の取り扱いについて			
第10回 動物細胞発現用ベクターの選択と遺伝子クローニング			

第 11 回 動物細胞への遺伝子導入方法と導入した細胞の選別の実際

第 12 回 モノクローナル抗体と分子標的薬について

第 13 回 遺伝子工学技術を利用した新しい疾患治療薬の開発について

第 14 回 論文紹介

第 15 回 演習 (各自の研究についての発表とディスカッション)

定期試験なし

テキスト

適宜配布する

参考書・参考資料など

なし

学生に対する評価

講義レポート 70% および 出席 30%で評価する。

授業科目名： 糖鎖生物学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長東 俊治
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1．糖鎖の分子構造がわかる。 2．糖鎖分子の生合成過程がわかる。 3．糖鎖分子の化学的性質がわかる。 4．糖鎖分子の基礎的な生物機能がわかる。 5．糖鎖研究の未来像がわかる。			
授業の概要			
基礎的な糖鎖生物学の講義。糖鎖の構造や生体内における存在様式から、生理的な機能までを概説する。また、糖鎖科学の発展形としての細胞社会学のアウトラインについても解説する。			
授業計画			
第1回：ゲノムからグライコームへ 第2回：EvoDevoと糖鎖システム 第3回：N-グリカンの生合成 第4回：細胞内輸送タグとしてのN-グリカン 第5回：細胞外輸送タグとしてのN-グリカン 第6回：白血球ホーミング 第7回：系統発生と糖鎖 第8回：個体発生と糖鎖 第9回：自他識別のための糖鎖 第10回：毒素タンパク質の細胞侵入 第11回：ウイルス感染レセプターとしての糖鎖 第12回：癌と糖鎖 第13回：糖鎖構造解析 第14回：糖鎖システムの特徴 第15回：糖鎖生物学の未来			
定期試験なし			
テキスト			
Essentials of Glycobiology, 4th ed., Varki, A. et al., CSH press, 2022.			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
講義中の質疑応答などとレポートにより評価する。平常点(50%)、レポート(50%)。

授業科目名： 構造生物学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊東 孝祐
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・生体高分子の化学的性質や立体構造を理解することができる。 ・生体高分子がどのように機能して生命現象を演出しているかを理解することができる。 ・生体高分子に関する論文を読むことができる。 ・生体高分子に関する様々なデータベースを使うことができる。 ・生体高分子に関する分子表示ソフト、計算ソフトが使用できる。			
授業の概要 本講義では、講義を聴講するとともに、自ら論文を読んで、また自らプログラムやデータベースを使用して、タンパク質や核酸の生体高分子が、どのような化学的性質や立体構造に基づいて機能発現し、生命現象を演出しているかを学ぶ。			
授業計画 第1回：生体高分子の化学的性質 第2回：生体高分子の立体構造 第3回：生体高分子の機能 第4回：生体高分子による生命現象の演出 第5回：第1回～第4回のまとめと演習 第6回：生体高分子のデータベース 第7回：生体高分子の分子表示ソフト（1）PyMOL 第8回：生体高分子の分子表示ソフト（2）COOT 第9回：生体高分子の構造予測プログラム 第10回：第6回～第9回のまとめと演習 第11回：生体高分子に関する論文の抄読（1）遺伝情報発現			

第 1 2 回：生体高分子に関する論文の抄読（2）代謝、酸化還元

第 1 3 回：生体高分子に関する論文の抄読（3）糖鎖

第 1 4 回：生体高分子に関する論文の抄読（4）その他

第 1 5 回：第 1 1 回～第 1 4 回のまとめと総括

定期試験なし

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義への取り組みと学習の状況(平常点) (50%)および提出されたレポート(50%)により評価する。
。出席回数が2/3に満たない場合は成績評価の対象としない。

授業科目名： 分子細胞生理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤間（伊東） 真紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
分子生物学，細胞生物学分野の先端研究に関する文献を読み，内容を理解し，他者に分かり易く説明できる。科学論文の内容や自身の研究内容について分かりやすくまとめ、他者とのディスカッションに積極的に参加できる。			
授業の概要			
主に免疫細胞分化や細胞間相互作用，細胞内シグナル伝達の仕組みに関する研究の先端を学び，その意義や将来性について考える。			
授業計画			
第1回：脊椎動物で発達した生体防御システム			
第2回：免疫細胞による非自己の排除			
第3回：自己寛容と免疫記憶			
第4回：免疫応答の機序、制御			
第5回：感染症と免疫			
第6回：インフルエンザ			
第7回：その他の感染症			
第8回：ワクチンとは			
第9回：細胞生物学，および免疫生物学に関する身近なニュースの紹介			
第10回：細胞生物学，および免疫生物学に関する身近なニュースの解説			
第11回：課題論文，または各自の研究について（まとめ）			
第12回：課題論文，または各自の研究について（スライド作成）			
第13回：課題論文，または各自の研究について（発表練習）			
第14回：課題論文，または各自の研究について（発表とディスカッション）			
第15回：授業の振り返り			
定期試験なし			
テキスト			
各自の研究分野の論文雑誌など。			
その他、授業で講義資料を配布する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

授業内容に関するレポート50%, 授業中に行う各自のプレゼンテーション50%で評価する。

授業科目名： バイオイノベーション特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田崎 英祐
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・生物学的に老化や寿命の概念を説明できるようになる。			
・ある課題について、作業仮説をどのように立てるか、またその仮説検証のためにどのような実験を行うかを理解できる。			
・自身の専門分野において、的確な作業仮説の構築とその検証のための実験計画立案ができるようになる。			
授業の概要			
バイオイノベーションに関連した学際研究のうち、生物の「老化」や「寿命制御」について論じる。近年、ヒトの高齢化が社会問題として生じている中、老抗老化薬の探索など、その応用面が注目されている。老化とは「何か」を考えるだけでなく、「なぜ」そして「どのように」生物は老化するのかについて考えていく。本講義は、集中講義形式で行う。			
授業計画			
第1回：生物における寿命と老化のダイナミクスとメカニズム（オリエンテーション）			
第2回：生物における寿命と老化のダイナミクスとメカニズム（寿命の多様性）			
第3回：生物における寿命と老化のダイナミクスとメカニズム（進化）			
第4回：生物における寿命と老化のダイナミクスとメカニズム（生体分子の恒常性）			
第5回：生物における寿命と老化のダイナミクスとメカニズム（分子シグナル）			
第6回：抗老化と寿命制御の応用（哲学的思考）			
第7回：抗老化と寿命制御の応用（抗老化研究）			
第8回：抗老化と寿命制御の応用（寿命制御研究）			
第9回：抗老化と寿命制御の応用（応用研究）			
第10回：抗老化と寿命制御の応用（ディスカッション）			
第11回：演習（論文選択法）			
第12回：演習（1班）			
第13回：演習（2班）			
第14回：演習（3班）			
第15回：演習（まとめ）			
定期試験なし			

テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 講義への取組面を50%、論文紹介などの演習面を50%の割合で評価する。

授業科目名： 細胞生物学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 周一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・一つの課題について作業仮説をどのように立て、その仮説を検証するためにどのような実験（など）を行ったかを理解できる。 ・自分の専門とする研究分野において、的確な作業仮説の構築とその検証のための実験計画立案ができるようになる。			
授業の概要 植物の生殖、および、オルガネラと品質管理について論じる。あわせて、その研究方法についてイメージング解析技術を中心に講義する。			
授業計画 第1回：生殖過程観察に必要なイメージング技術 第2回：ライブイメージングによる生殖過程の解析 第3回：配偶体形成 第4回：受粉と花粉管ガイダンス 第5回：受精過程 第6回：種子形成 第7回：タンパク質品質管理とは何か 第8回：タンパク質のフォールディング 第9回：タンパク質の分解システム 第10回：小胞体ストレス応答 第11回：小胞体関連分解 第12回：オートファジー 第13回：植物生殖に関する論文紹介 第14回：小胞体品質管理に関する論文紹介 第15回：オートファジーに関する論文紹介 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 講義への取組状況を50%、輪読などの演習を50%の割合で評価する。			

授業科目名： 植物生理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 朗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1．植物が持つ環境ストレスへの応答および耐性獲得機構を理解することによって、動物とは異なる植物の生存戦略について考察できるようになる。			
2．植物の環境ストレス応答および耐性獲得機構への理解が進むことによって、温暖化や水環境の悪化、人口増加による食料需要の逼迫など、地球的規模の課題とその解決策について考察できるようになる。			
3．植物生理学の学術論文を読解し、その内容をまとめ、説明できるようになる。			
授業の概要			
植物はストレスをどのように感知し、どのような対抗手段をもつのかについて、温度、乾燥などの非生物的ストレス要因に対抗するしくみを中心に、個体、細胞、分子レベルで理解する。			
授業計画			
第1回：環境ストレスと植物1 植物と環境ストレス			
第2回：環境ストレスと植物2 水（水分）、塩分、温度、光、他の生物			
第3回：水分ストレスと植物の分子応答1 水分ストレスとは何か 水分ストレスはどのように発生するか			
第4回：水分ストレスと植物の分子応答2 水分ストレスによる機能障害 水分ストレスに対する植物の分子応答			
第5回：温度ストレスと植物の分子応答1 温度ストレスとは何か 温度ストレスによる機能障害			
第6回：温度ストレスと植物の分子応答2 高温ストレスに対する植物の分子応答			
第7回：温度ストレスと植物の分子応答3 低温ストレスに対する植物の分子応答			
第8回：植物の熱感知機構			
第9回：その他の環境ストレス1 光ストレスと植物の分子応答			
第10回：その他の環境ストレス2 酸化ストレスと植物の分子応答			
第11回：課題プレゼンテーション1 成果発表と質疑応答（第1グループ）			
第12回：課題プレゼンテーション2 成果発表と質疑応答（第2グループ）			
第13回：課題プレゼンテーション3 成果発表と質疑応答（第3グループ）			
第14回：課題プレゼンテーション4 成果発表と質疑応答（第4グループ）			
第15回：総合討論			

定期試験なし
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 講義終了後に実施する小テストが40%、レポートもしくはプレゼンテーションが60%の比率で評価する。

授業科目名： 神経内分泌学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
動物の行動と生理機能を統合的に調節している神経内分泌系の構造と機能、およびその中で働く化学情報分子の定量的解析法の理解を基に、動物の環境適応のしくみを理解できる。			
授業の概要			
動物の行動と生理機能は、生まれながらに持っている環境適応のしくみであり、密接に連動している。両者を統合しているのは、視床下部一下垂体系を中心とした神経内分泌系である。本講義では、神経系、内分泌系、神経内分泌系の構造と機能について基礎知識を解説するとともに、これらの細胞間情報伝達系に関わる生命現象の調節に関する先端的研究論文を精読する。また、ホルモンをはじめとした化学情報分子の定量的解析法と生物統計の基礎を解説する。			
授業計画			
第1回：化学情報伝達分子の基礎			
第2回：細胞間化学情報伝達の基礎			
第3回：内分泌系の構造と機能についての解説			
第4回：脊椎動物の脳の構造についての解説			
第5回：脳下垂体の構造と機能についての解説			
第6回：神経内分泌系の構造と機能についての解説			
第7回：季節繁殖についての解説			
第8回：下垂体隆起葉についての解説			
第9回：行動と生理機能の統合的調節についての研究論文精読（図1と2）			
第10回：行動と生理機能の統合的調節についての研究論文精読（図3と4）			
第11回：生体内物質の測定法についての解説			
第12回：測定データの検証についての解説			
第13回：統計検定についての解説			
第14回：検定法についての解説			
第15回：神経内分泌系の構造と機能についてのまとめ			
定期試験なし			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

生命をあやつるホルモン，日本比較内分泌学会編，講談社ブルーバックス（2003）、脳とホルモンの行動学，近藤保彦他編，西村書店（2010）、ホルモンから生命現象と進化シリーズ全7巻、日本比較内分泌学会編，裳華房（2016）、多様性の内分泌学、丸善（2021）

学生に対する評価

事前学習の理解度（30%）、発表および討論を通じて把握する理解度（70%）を基に、出席状況も加味して総合的に到達度を評価する。

授業科目名： 植物分子遺伝学特論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 酒井 達也 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 植物の分子遺伝学的研究手法論を理解できる。植物の環境応答機構について原著論文を読み、パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて人に説明できる。			
授業の概要 植物の環境応答について、突然変異体を用いた分子遺伝学的研究手法による解析方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析1（歴史） 第2回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析2（突然変異体解析） 第3回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析3（フォトトロピンの機能の研究） 第4回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析4（RPT2の研究） 第5回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析5（NPH3の研究） 第6回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析6（PP2C・PKSの研究） 第7回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析7（オーキシン不均等勾配形成の研究） 第8回：植物の光屈性の分子遺伝学的解析8（オーキシンによる細胞伸長制御の研究） 第9回：植物のその他の屈性の分子遺伝学的解析 第10回：担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（論文A） 第11回：担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（論文B） 第12回：担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（論文C） 第13回：担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（論文D） 第14回：担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（論文E） 第15回：担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（論文F） 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 講義及び論文ゼミにおける平常点100%。			

授業科目名： 動物ゲノム多様性概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神林 千晶
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1. 動物の一般的なゲノム構造や多様性に関する基礎知識を習得する 2. ゲノムシーケンスの原理と解析手法の基本を理解する 3. ゲノム情報を比較することで動物の多様性と進化を科学的に解釈できる			
授業の概要 生物がもつ遺伝情報の総体であるゲノムのレベルで多様性を理解することを目的とし、開発の進んでいる各シーケンサーの原理ならびにバイオインフォマティクスを用いた解析手法を概説する。また、近年明らかになってきた生物の多様性をもたらす進化のメカニズム等、進化生物学に関するトピックについても紹介する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：動物の多様性とゲノム 第3回：ゲノムの構造 第4回：ゲノムの機能 第5回：シーケンス技術と原理 第6回：ゲノム解析技術 第7回：進化の仕組み 第8回：種分化 第9回：新規形質の獲得 第10回：新規ニッチへの適応 第11回：共生 第12回：転移因子 第13回：水平伝播 第14回：動物の系統関係 第15回：まとめ 定期試験なし			
テキスト 講義時に適宜提示する。			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
講義中の質疑応答やレポート等で評価する。平常点(50%)、レポート(50%)。

授業科目名： 比較認知生態学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 宏司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・自身の興味をもとに、異分野の中においてもテーマを探索・表現できる ・専門知識を超えた幅広い興味とそれを探求する能力を身につける ・限られた情報から自身の考えを整理し、新たなテーマを考案できる			
授業の概要			
ヒトにみられる様々な認知・心理現象は、心理学や認知科学の分野で盛んに研究がされてきた。一方で、ヒトは動物であり、その行動原理や行動基盤は動物と共通する点も多く、動物の知見はヒトに適用できる可能性を秘めている。動物の認知・心理は、彼らの行動生態と密接な関係にある。本授業では、動物の行動生態学的な研究を基盤として、ヒトの認知・心理に関する理解を深めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：比較認知生態学の趣旨と方針			
第2回：ヒトに関する認知・心理について「興味の整理」			
第3回：ヒトに関する認知・心理について「先行研究の調査」			
第4回：動物に関する認知・心理について「興味の整理」			
第5回：動物に関する認知・心理について「先行研究の調査」			
第6回：ヒトおよび動物に関する認知・心理について「研究に関する議論」			
第7回：ヒトの認知に関するプレゼン			
第8回：ヒトの心理に関するプレゼン			
第9回：動物の認知に関するプレゼン			
第10回：動物の心理に関するプレゼン			
第11回：ヒトおよび動物に関する認知・心理について「課題の探索」			
第12回：ヒトおよび動物に関する認知・心理について「研究計画」			
第13回：ヒトに関する認知・心理についてテーマ発表			
第14回：動物に関する認知・心理についてテーマ発表			
第15回：比較認知生態学の今後の展望			
定期試験なし			
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
各回の出席（20%）およびプレゼン（40%×2回）から評価する

授業科目名： 先端臨海実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、大森 紹仁
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
海洋動物の形態や発生、生理機能、行動、生態を研究・観察する方法論や先端的研究法を理解し、それらを自身の研究に役立てることができる。また、動物の形態と機能の多様性と普遍性について理解できる。			
授業の概要			
本実習では、豊かな自然環境が残る佐渡島において、磯採集やプランクトン採集などの手法を用いて多様な海洋動物を採集し、それらを用いて動物の形態や機能、生態、進化に関する実習を行う。具体的な実習内容は、担当教員と相談して決定するが、実習生が自律的に課題を設定して研究に取り組むことも可能である。			
授業計画			
第1回：実習のガイダンス			
第2回：佐渡の海の特徴と海洋生物の多様性についての講義			
第3回：岸壁での夜行性海洋生物の灯火採集			
第4回：夜行性海洋生物の観察・スケッチ			
第5回：磯の生物のシュノーケリング採集			
第6回：磯の生物の観察・スケッチ			
第7回：砂浜でのドレッジ採集			
第8回：砂浜に生息する海産底生動物の観察			
第9回：プランクトン採集			
第10回：海産プランクトンの観察			
第11回：方形枠を用いた磯の生物の帯状分布の調査			
第12回：採集した生物の同定と分布の解析			
第13回：海洋生物に関する観察・研究発表会			
第14回：磯生物の帯状分布に関する研究発表会			
第15回：先端臨海実習のまとめ			
定期試験なし			
テキスト			
「佐渡環境大全改訂版」、野崎眞澄・下谷豊和・西山真樹著、新潟県佐渡市、2012年			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

実習の取組状況（30％）、研究成果発表（30％）、スケッチ・レポート（40％）を基に、討論を通じて把握する理解度も加味して、総合的に到達度を評価する。

授業科目名： 生物形態機能論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 八寿子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・最近の細胞機能形態学的研究手法の原理を理解し、説明することができる。 ・実験によって得られるデータの解釈（読み取り）能力を身につける。 ・どのような研究の積み重ねによって、現在、どこまでが明瞭に解明されているのか、説明することができる。			
授業の概要 最近の植物細胞学、植物生理学、機能形態学などの知見を学び、解析するために用いられている最近の研究の手法を知り、それぞれの研究成果の示す意味を明確に理解して、生物の環境適応の仕組みや細胞の進化についての知識を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：植物細胞の機能形態学的な研究トピックスの紹介① 「オルガネラ間の相互作用」について 第3回：植物細胞の機能形態学的な研究トピックスの紹介② 「細胞内小器官の進化」について 第4回：植物細胞の機能形態学的な研究トピックスの紹介③ 「植物細胞の環境応答機構」について 第5回：植物の機能形態学的な研究トピックスの紹介④ 「緑色植物門の多様性と進化」について 第6回：輪講① Nuclei and Chromosomes （核と染色体） 第7回：輪講② Mitochondria and chloroplasts （ミトコンドリアと葉緑体） 第8回：輪講③ The Endoplasmic Reticulum and Golgi Apparatuses （小胞体とゴルジ体） 第9回：輪講④ Endocytic Organelles and Vacuoles and Storage Organelles （内因性小器官と液胞および貯蔵小器官）			

第10回：輪講⑤

Cytoskeletons and Cell Walls and Generative Cells （細胞骨格と細胞壁および生成細胞）

第11回：課題の発表会①

「オルガネラ間の相互作用」について（一人45分）

第12回：課題の発表会②

「細胞内小器官の進化」について（一人45分）

第13回：課題の発表会③

「植物細胞の環境応答機構」について（一人45分）

第14回：課題の発表会④

「緑色植物門の多様性と進化」について（一人45分）

第15回：まとめ

定期試験なし

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

取り組む姿勢（40%）、プレゼンテーションの出来（30%）、本人の理解度（30%）を評価する。

授業科目名： 共生生物学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 墨谷 暢子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・進化生物学における共進化の位置づけについて理解する ・論文を読んで、その研究分野の背景や研究の流れを理解した上で、他の学生にもわかりやすくプレゼンテーションできる			
授業の概要 進化の過程においては、ほかの種との相互作用が引き起こす共進化が大きな要因となっている。本特論においては共進化のさまざまな例について学ぶとともに、共生に関連した最新の研究動向について概観する			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 第2回：進化学のうち共進化分野に関する最近のトピックの紹介(二次共生と進化) 第3回：進化学のうち共進化分野に関する最近のトピックの紹介(人工的共生系の創成の試み) 第4回：第4回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション(過去例：寄生蜂の研究) 第5回：第5回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（過去例：腸内細菌の研究） 第6回：第6回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（過去例：植物と菌類の共生関係の研究） 第7回：第7回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（過去例：植物と昆虫の共生関係の研究） 第8回：第8回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（過去例：藻類と刺胞動物の共生関係の研究） 第9回：第9回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（過去例：アリと寄生バチの共生関係の研究） 第10回：第10回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション過去例：植物の受粉を媒介する昆虫と植物との関係の研究） 第11回：第11回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション（過去例：二枚貝に寄生する生物の研究）			

第12回：第12回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション (過去例：昆虫と土壌細菌の共生に関する研究)
第13回：第13回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション (過去例：カニとイソギンチャクの共生に関する研究)
第14回：第14回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション (過去例：両生類の卵塊に共生する藻類に関する研究)
第15回：第15回の担当学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション (過去例：蜂に寄生するダニに関する研究)
定期試験なし
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業への取り組み姿勢 (60%)、プレゼンテーションの評価 (40%) を総合して評価する

授業科目名： 動物進化発生学特論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤村 衡至 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 脊椎動物の進化と発生について、概要を説明できる。 脊椎動物の進化における発生の重要性を理解する。 英語で書かれた専門書を解説し、内容を適切に説明できる。			
授業の概要 動物の進化や多様化をもたらす要因を理解するためには、発生生物学の観点から把握する必要がある。この科目では、英語で書かれた専門書を用いて、脊椎動物の進化と発生について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教科書の輪読（1）発生生物学の序論（Developmental Biology 第1章） 第3回：教科書の輪読（2）特定化（Developmental Biology 第2章） 第4回：教科書の輪読（3）差次的遺伝子発現（Developmental Biology 第3章） 第5回：教科書の輪読（4）細胞間コミュニケーション（Developmental Biology 第4章） 第6回：教科書の輪読（5）魚類・両生類の発生（Developmental Biology 第12章） 第7回：教科書の輪読（6）神経管形成（Developmental Biology 第15章） 第8回：教科書の輪読（7）神経堤（Developmental Biology 第17章） 第9回：教科書の輪読（8）外胚葉性プラコード（Developmental Biology 第18章） 第10回：教科書の輪読（9）脊椎動物の序論（Vertebrates 第1章） 第11回：教科書の輪読（10）脊椎動物の進化（Vertebrates 第3章） 第12回：教科書の輪読（11）脊椎動物の発生（Vertebrates 第5章） 第13回：教科書の輪読（12）脊椎動物の頭蓋骨（Vertebrates 第7章） 第14回：教科書の輪読（13）脊椎動物の神経系（Vertebrates 第16章） 第15回：まとめ 定期試験なし			
テキスト M. Barresi, S. Gilbert著, “Developmental Biology, 13th edition”, Sinauer Associates Inc, ISBN 978-0197574614			

K. Kardong著, “Vertebrates, 8th edition”, McGraw-Hill Education, ISBN 978-1259700910
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業への取組み(事前の準備と内容の理解度)の平常点(100%)で評価する。

授業科目名： 岩石学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： MADHUSOODHAN SATISH KUMAR
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地球科学コースのディプロマ・ポリシーのうち、「当該分野固有の能力」との関係において、安定同位体と放射性同位体の違いについて学び、地球科学分野でそれぞれの同位体の応用を検討できる。			
授業の概要			
地球科学コースのカリキュラム・ポリシーのうち、「科目群B」に含まれる、自らの研究課題に即した分野あるいは隣接する分野について、発展的知識を理解する科目である。安定同位体と放射性同位体を用いた地殻・マントル相互作用について考える。			
授業計画			
第1回：岩石の同位体地球化学			
第2回：放射壊変と地質年代学の基礎			
第3回：放射壊変と地質年代学の基礎-放射壊変			
第4回：Rb-Sr地質年代学			
第5回：Sm-Nd地質年代学			
第6回：U-Th-Pb地質年代学			
第7回：安定同位体の基礎			
第8回：安定同位体の基礎-分別プロセス			
第9回：水素安定同位体の地球化学			
第10回：炭素安定同位体の地球化学			
第11回：酸素安定同位体の地球化学			
第12回：硫黄安定同位体の地球化学			
第13回：その他の安定同位体の地球化学			
第14回：炭素同位体地質温度計			
第15回：酸素同位体地質温度計			
定期試験なし			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

研究発表またはレポート（日本語または英語）100%

授業で取り扱った安定同位体と放射性同位体の内容が，研究発表またはレポートに反映されているかをどうかを評価する．

授業科目名： 岩石学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 俊郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地球科学コースのディプロマ・ポリシーのうち、「当該分野固有の能力」との関係において、自らの研究課題に即した分野および隣接分野について発展的知識を身に付ける。マグマの発生機構とその起源物質ついて説明できる。放射性同位体を用いた解析の原理を説明できる。地球内部の物質循環について説明できる。			
授業の概要			
地球科学コースのカリキュラム・ポリシーのうち、「科目群B」に含まれる、自らの研究課題に即した分野あるいは隣接する分野について、発展的知識を理解する科目である。 マグマの発生とその起源物質・マグマの分化過程について、記載岩石学的手法による研究例、および微量元素・放射性同位体を用いた地球化学的手法による研究例とともに解説する。			
授業計画			
第1回：マグマ発生と起源物質			
第2回：結晶分化作用，記載岩石学的特徴と主成分元素組成の変化			
第3回：結晶分化作用，微量成分元素組成の変化			
第4回：地殻物質の混染作用			
第5回：放射性同位体を用いた解析手法，概論			
第6回：放射性同位体を用いた解析手法の原理，Rb-Sr系			
第7回：放射性同位体を用いた解析手法，Rb-Sr系			
第8回：放射性同位体を用いた解析手法の原理，Sm-Nd系			
第9回：放射性同位体を用いた解析手法，Sm-Nd系			
第10回：放射性同位体を用いた解析手法，その他の系			
第11回：火成活動の場と地球内部の物質循環			
第12回：地球内部の物質循環，マントル			
第13回：地球内部の物質循環，海洋地殻			
第14回：地球内部の物質循環，大陸地殻			
第15回：地球内部の物質循環と島弧火成活動			
定期試験			
テキスト 周藤賢治・小山内康人著「岩石学概論(下)解析岩石学」共立出版株式会社			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

成績は口頭試験とレポートにより評価をおこなう（口頭試験30%，課題レポート70%）。評価においてはマグマの発生・分化および地球内部における物質循環への理解と解析手法・原理の理解ができているかどうかを評価する。

授業科目名： 鉱物学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小西 博巳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
①透過電子顕微鏡法によりどのようなデータが得られるか、どういう問題を解決できるかについて知る。			
②透過電子顕微鏡を使った観察・実験を経験する。			
③透過電子顕微鏡法の基本的原理、結晶学、回折結晶学の基本について理解する。			
授業の概要			
透過電子顕微鏡法による鉱物および無機結晶の解析法について学ぶ。また、その基礎となる鉱物結晶学、回折結晶学、透過電子顕微鏡法の原理について学ぶ。			
授業計画			
第1回：鉱物・結晶について			
第2回：結晶学の基礎（単位格子、方向の表し方、面指数、結晶系、格子タイプ、ブラベー格子）			
第3回：結晶学の基礎（対称性）			
第4回：最密充填と結晶構造の多様性			
第5回：回折結晶学の基礎（波の式、ブラッグ条件）			
第6回：回折結晶学の基礎（逆格子、エバルト球）			
第7回：回折結晶学の基礎（構造因子、消滅測）			
第8回：International Tables for Crystallographyの活用法			
第9回：透過電子顕微鏡法の基礎			
第10回：透過電子顕微鏡観察のプロポーサル作成			
第11回：透過電子顕微鏡実習（試料作成）			
第12回：透過電子顕微鏡実習（観察）			
第13回：透過電子顕微鏡観察（2回目の観察）			
第14回：高速フーリエ変換（FFT）およびDigitalMicrographソフトウェアによるデータ解析法			
第15回：透過電子顕微鏡実習（データ解析）			
定期試験なし			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

受講態度（50%）、レポートまたは/およびプレゼンテーション等（50%）により評価する。

授業科目名： 構造岩石学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 健太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地球科学コースのディプロマ・ポリシーのうち、「当該分野固有の能力」に関係する科目であり、以下を身につける。変形岩、地震岩、断層岩の組織的特徴について理解できる。面構造・線構造などの構造データを採取し、解析することができる。身につけた手法を、各自の研究に活かす計画を説明することができる。			
授業の概要 地球科学コースのカリキュラム・ポリシーのうち、「科目群B」に含まれる、自らの研究課題に即した分野あるいは隣接する分野について、発展的知識を理解する科目である。変形岩、地震岩、断層岩の組織的特徴を紹介し、それらに記録されている形成環境と過程、変形機構について解説する。休日を用いた一泊二日の野外実習を実施する。岩石を野外で観察し、採取したデータを用いて構造解析演習を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：面・線構造(ステレオ投影の基礎) 第3回：面・線構造(構造解析への活用) 第4回：沈下方向・沈下角・レークの相互変換 第5回：野外実習についての事前概説 第6回：手作業での構造解析(断層：共軸変形) 第7回：手作業での構造解析(断層：非共軸変形) 第8回：手作業での構造解析(褶曲) 第9回：コンピュータによる構造解析(概説) 第10回：コンピュータによる構造解析(Mac) 第11回：コンピュータによる構造解析(Win) 第12回：三軸圧縮試験(概説) 第13回：三軸圧縮試験(試験機の見学) 第14回：各自の研究紹介(概説) 第15回：各自の研究紹介(発表) 定期試験なし			

テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 野外実習地で実施する口述試験により、変形岩、地震岩、断層岩の形成環境と過程、変形機構、構造解析の方法に関する理解度 を評価する。

授業科目名： 地質調査法特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 植田 勇人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 全球測位衛星システム (GNSS) で野外調査時の位置情報を適切に取得・記録できる。 ・ 取得した測位データを地理情報システム (GIS) 上で活用できる。			
授業の概要			
野外地質調査における全球測位衛星システム (GNSS) や地理情報システム (GIS) を用いたルートマップや地質図の作成法を学ぶ。なお本科目は、民間会社で地質コンサルタント業を、また国の研究機関の客員研究員として地質図幅調査に携わった経験を有する教員が授業を行います。			
授業計画			
第1回：野外地質調査におけるデジタル地理情報のニーズ			
第2回：全球衛星測位システムの概要			
第3回：全球衛星測位システムのしくみ			
第4回：全球衛星測位システムによる測位ができる機器について			
第5回：野外調査時における衛星測位の方法			
第6回：測位データの種類と内容			
第7回：測位データの出力と読み込み			
第8回：地理情報システムの概要			
第9回：地形図上へのポイントデータのプロット			
第10回：ラインやポリゴンの表示			
第11回：野外で取得したポイントデータからラインやポリゴンデータを作成する			
第12回：走向傾斜などの構造データの作成と表示			
第13回：GIS上での地層等高線と地層境界線の作図			
第14回：地質図の塗色と凡例の制作			
第15回：断面投影			
定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
講義の内容に沿った課題の成果物で評価する(レポート100%)。			

授業科目名： マントル・地殻ダイ ナミクス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高澤 栄一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
自らの研究課題に即した分野あるいは隣接する分野について、発展的知識を理解し、以下の事項について具体的に説明できる。 ・上部マントルの構成鉱物と化学組成の多様性を説明することができる。 ・上部マントルで玄武岩質マグマが形成するプロセスの概要を説明できる。 ・火成岩の化学組成の多様性とその成因について説明できる。 ・マントルの同位体的不均質性について説明できる。			
授業の概要			
自らの研究課題に即した分野あるいは隣接する分野について、発展的知識を理解する科目である。地球深部を構成するマントルは地殻への玄武岩マグマの供給源であると同時に、沈み込み帯での地殻物質のリサイクルによって影響を受けている。本科目ではマントルの部分融解とメルトの生成、マントルの不均質性に焦点を当てつつ地殻－マントル系のダイナミクスについて解説する。			
授業計画			
第1回：マントルの物理的状态			
第2回：マントルの化学組成と構成鉱物			
第3回：地表に露出したマントル物質とその多様性			
第4回：造山帯レルズライト岩体の例			
第5回：オマーンオフィオライト			
第6回：海洋プレートの形成過程と層序			
第7回：マントルの部分溶融とメルトの抽出過程			
第8回：メルトの分離と流動（上昇）メカニズム			
第9回：流動するメルトとマントルとの反応			
第10回：微量元素からみた上部マントル			
第11回：ダナイトの成因			
第12回：マントルメタゾマチズム			
第13回：マントルのフラックス溶融			
第14回：放射性同位体比からみたマントルの進化			

第15回：マントルかんらん岩の蛇紋岩化作用
定期試験なし
テキスト
授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
成績は小テスト（50％）およびレポート（50％）に基づき，上部マントルの物質構成と化学組成の多様性およびそれらの形成要因における理解度から評価する。出席率が3分の2に満たない受講生については，原則として単位を認めない。

授業科目名： ダイナミック層序学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高清水 康博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 最近の新知見を取り込んだ陸域から深海に至るまでの多様な環境で形成される堆積岩の特徴を理解することを目標とする。また、実際の地層形成過程を把握するために、粒子画像解析や水路実験などのいずれかを行い、堆積岩を構成する粒子の配列や粒度選別効果、ベッドフォームの特徴等のいずれかについて自らの言葉で説明ができる。			
授業の概要 堆積物・堆積岩の特徴とその成因について考える。特に堆積地質学的な立場から流れる水の働きにより形成される堆積物の特徴を紹介し、大地の成立ちについての理解を深める。			
授業計画 第1回：イダンスとイントロダクション 第2回：粒子の円磨実験先行研究 第3回：様々な粒子形状パラメータ 第4回：円磨度と球形度 第5回：新開発の野外撮影装置を用いたデジタル粒子画像の取得 第6回：New Parameter of Roundnessレビュー 第7回：ImageJ を利用した粒子形状Rの計測 第8回：粒子形状解析演習 第9回：粒径、平均流速、レイノルズ数 第10回：級化と沈降速度 第11回：ユルストロム図とFr数 第12回：ベッドフォームの特徴 第13回：巨大ベッドフォーム 第14回：振動流および複合流ベッドフォーム 第15回：ベッドフォーム形成実験演習 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 レポート（80%）と授業への取り組み態度・貢献度（20%）。			

授業科目名： 地球表層の物質循環 と資源	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗原 敏之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ある地球表層および内部の地質学的プロセスに関わる事象の説明を受け、それがどのような現象であるかを理解できる。			
・実際の地層や生産現場での観察・見学を通して、地球表層における大きなスケールの物質循環とその歴史性、および資源との関りを理解できる。			
授業の概要			
地球の表層や内部で進行している様々な無機的・有機的プロセスは、それぞれが影響し合っ て複雑な相互作用システムを形成している。それらはまた、我々の社会生活と深い関りを持っ ている。本講義では、地球表層～内部における大きなスケールの物質循環プロセスのうち、主 に日本と東アジアの地質の形成と生物に関わる資源を題材に、地球・資源の仕組みや歴史性、 それらに人類生存の位置づけを絡めたトータルな理解の端緒となることを目指す。			
授業計画			
第1回：日本列島の中・古生代の地質体と地史の概要			
第2回：日本列島の中・古生代の地質体と地質資源（特に石灰岩について）			
第3回：日本列島の中・古生代の地質体と地質資源を例とした地球表層の物質循環			
第4回：北東アジアの地質体と地史の概要、およびこれらに関わる地球表層の物質循環			
第5回：東南アジアの地質体と地史の概要、およびこれらに関わる地球表層の物質循環			
第6回：西アジアの地質体と地史の概要			
第7回：西アジアの地質体と地史の概要、特に白亜紀の地球表層環境に関わる物質循環と地質 資源について			
第8回：新潟市内での新生代の地層を対象とした演習（新潟市秋葉区石油の里公園を予定）： 地質の概要			
第9回：新潟市内での新生代の地層を対象とした演習（新潟市秋葉区石油の里公園を予定）： 地層の形成その1（粒度、岩相）			
第10回：新潟市内での新生代の地層を対象とした演習（新潟市秋葉区石油の里公園を予定） ：地層の形成その2（重力流堆積物）			
第11回：新潟市内での新生代の地層を対象とした演習（新潟市秋葉区石油の里公園を予定） ：地史の考察			

第12回：新潟県内での資源生産現場を対象とした演習（新潟県胎内市を予定）：概要 第13回：新潟県内での資源生産現場を対象とした演習（新潟県胎内市を予定）：資源の地質形成史的な背景 第14回：新潟県内での資源生産現場を対象とした演習（新潟県胎内市を予定）：資源生産現場の活動 第15回：新潟市内の新生代の地層および新潟県内での資源生産現場を題材としたディスカッション 定期試験なし
テキスト 講義時に適宜、テキストを配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 地球・生物、資源と社会の関連についてのレポート（50%）および学外での演習のレポート（50%）で評価する。地質学などの地球に関わる学問が、実際の社会、生産現場でどのように生かされているのか、および歴史的にどのように生かされてきたのかを考察し、意見を持てたかについて評価する。

授業科目名： 進化形態学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 椎野 勇太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・形を取り巻く内のおよび外的現象の階層性を区別できる ・形が進化するきっかけや原動力を説明できる ・様々な時間スケールで起きる変化傾向を、諸生命現象と関連付けて考えられる			
授業の概要 生物の生態や行動は、「かたち」の機能に少なからず依存する。したがって形態の変化は、進化を促す原動力となる。本講義では、生物の形態に関わる生物学的な性質や物理的な環境条件などを踏まえ、生物の形がどのように進化してきたのか解説する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：時間軸上における変化とその意義 第3回：生命のボディープラン 第4回：構造の共通性から見る生物学的傾向 第5回：陸上生物の動物設計論 第6回：水生生物の動物設計論 第7回：化石の性質と進化 第8回：地球生命史の基礎 第9回：環境と生命の共進化―顕生累代 第10回：古無脊椎動物の形態進化 第11回：進化にみられる漸進性と断続平衡性 第12回：ヒトの生物的・文化的進化 第13回：多様性の構築と重要性 第14回：受講者によるプレゼンテーション 第15回：受講者による討論 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

講義中に課すプレゼンテーション（50%），発表内容の要旨（20%），討論の内容（30%）に基づき，形と進化への概念的理解とその外化に伴う構成能力・表現能力で評価する。

授業科目名： 古環境解析特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 葉田野 希
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 新生代を中心とした過去の地球環境変動のメカニズムや地域的な特徴を説明することができる。 ・ 堆積物や古土壌を用いた古環境解析の基本的手法を説明することができる。 ・ 古環境解析から得られる知見をもとに、現代の気候変動や環境問題への示唆を論理的に議論することができる。			
授業の概要			
本講義では、講義形式で地球規模の古環境変動の基礎知識を学びつつ、演習や実践的な解析を通じて古環境解析の手法を体験的に習得する。特に、日本列島やアジア地域の具体的な研究事例を題材に、地域的な環境変動の特性を議論し、堆積物や古土壌、化石などの地球表層の記録をもとに、気候変動や海水準変動、テクトニクスなど、地球と生物の相互作用の歴史がどのような証拠をもとに解明されてきたのかを理解する。講義と演習を通じ、地球環境の変遷を包括的に理解し、環境問題や気候変動といった現代的環境課題への洞察を深める力を育成することを目指す。			
授業計画			
第1回：新生代（古第三紀～新第三紀）の地球環境変動の概要			
第2回：日本やアジア地域における古環境解析の研究事例			
第3回：新生代（第四紀）の地球環境変動の概要			
第4回：日本やアジア地域における古環境解析の研究事例			
第5回：古土壌解析の基礎			
第6回：古土壌を扱った古環境解析の事例			
第7回：堆積物コア解析の基礎			
第8回：湖底堆積物コアの研究事例			
第9回：露頭・堆積物コア・古土壌の観察に基づく古環境解析の演習			
第10回：露頭の観察に基づく古環境解析の演習			
第11回：堆積物コアの観察に基づく古環境解析の演習			
第12回：古土壌の観察に基づく古環境解析の演習			
第13回：堆積物や古土壌の鏡下観察，データ解析の演習（未固結堆積物の薄片作成）			

第14回：堆積物や古土壌の鏡下観察，データ解析の演習（鏡下観察と記載）

第15回：堆積物や古土壌の鏡下観察，データ解析の演習（微細組織のデータ解析）

定期試験なし

テキスト

講義時に適宜，資料を配布する．

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

新生代の環境変動とその解析手法に関するレポート（40%）および演習のレポート（60%）で評価する．地球環境の変動をとらえる多様な手法を理解し，それに基づくデータを多角的に考察，論理的にまとめることができたか，について評価する．

授業科目名： 気象災害特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河島 克久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本各地で発生する気象災害や異常気象について、その背景や原因を議論することができる。 また、気象災害を防止・軽減する上で必要な対策方法について考察することができる。			
授業の概要			
本科目は、豪雨・豪雪などの異常気象がもたらす気象災害をトピックとするものであり、地球惑星科学分野や社会・安全システム科学分野の自然災害科学・防災学に位置づけられる。			
授業計画			
第1回：豪雨災害の実例（1）平成16年7月新潟・福島豪雨（講義）			
第2回：豪雨災害の実例（2）令和4年8月新潟県下越地方豪雨（講義）			
第3回：豪雪災害の実例（1）昭和の豪雪（講義）			
第4回：豪雪災害の実例（2）平成～令和の豪雪（講義）			
第5回：気象情報と天気予報（1）気象の観測（講義）			
第6回：気象情報と天気予報（2）天気予報（講義）			
第7回：防災気象情報とその利用（1）防災気象情報（講義）			
第8回：防災気象情報とその利用（2）避難行動（講義）			
第9回：地球温暖化と異常気象（1）気候変動の実態（講義）			
第10回：地球温暖化と異常気象（2）異常気象（講義）			
第11回：豪雨災害発生現場の見学とディスカッション(1)（7.13水害の破堤現場等）			
第12回：豪雨災害発生現場の見学とディスカッション(2)（信濃川の治水対策現場等）			
第13回：防災機関の見学とディスカッション(1)（新潟地方気象台）			
第14回：防災機関の見学とディスカッション(2)（国土交通省北陸地域整備局）			
第15回：求められる気象災害対策・対応に関する総合討論			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
試験50%、レポート50%			

授業科目名： 雪氷環境特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新屋 啓文
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
一連の雪氷現象の特徴を習得することで，雪氷現象のメカニズムから雪氷災害を引き起こす原因を説明することができる．さらに，雪氷災害の防減災に資する独自の方策を提案することができる．				
授業の概要				
日本の国土の半分以上が豪雪地帯と定義されており，雪氷災害は人的被害や物的損害だけでなく社会経済に大きな影響をもたらしている．本科目では，雪氷現象の特徴やメカニズムについて解説するとともに，国内における最近の雪氷研究について議論する．				
授業計画				
第1回：雪氷と降雪の特徴　～氷の構造と物性～				
第2回：雪氷と降雪の特徴　～降水過程～				
第3回：雪氷と降雪の特徴　～雪結晶の分類と物性～				
第4回：積雪の時間変化　～積雪の変態過程～				
第5回：積雪の時間変化　～積雪の物性～				
第6回：積雪の時間変化　～積雪の層構造～				
第7回：吹雪の時空間構造　～接地境界層の大気運動～				
第8回：吹雪の時空間構造　～吹雪の鉛直構造～				
第9回：吹雪の時空間構造　～吹雪の輸送理論～				
第10回：雪崩のダイナミクス　～雪崩の分類～				
第11回：雪崩のダイナミクス　～斜面積雪の崩壊過程～				
第12回：雪崩のダイナミクス　～雪崩の運動形態～				
第13回：最近の雪氷研究　～積雪の基礎研究～				
第14回：最近の雪氷研究　～吹雪の基礎研究～				
第15回：最近の雪氷研究　～雪崩の基礎研究～				
定期試験なし				
テキスト				
前野紀一・黒田登志雄，基礎雪氷学講座Ⅰ　雪氷の構造と物性，古今書院，ISBN：9784772210942				

菊池勝弘・大畑哲雄，基礎雪氷学講座Ⅱ 降雪現象と積雪現象，古今書院，ISBN：9784772216555
前野紀一・福田正己，基礎雪氷学講座Ⅲ 雪崩と吹雪，古今書院，ISBN：9784772213523
日本雪氷学会，雪氷辞典 新版，古今書院，ISBN：9784772241731
亀田貴雄・高橋修平，雪氷学，古今書院，ISBN：97847722
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業に出席した上で，レポート（100%）で評価する．

授業科目名： 第四紀・地盤災害特 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ト部 厚志 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地震に伴う様々な地盤災害の予測と軽減に関して、これまで学部講義で学んだ理学・工学・農学的な基礎的知識を用いた応用や新たな技術，解決手法などの提言を行うことができる。			
授業の概要 平野・丘陵部における地盤災害の予測と軽減に関する問題を解説する。地震に伴う災害，平野・丘陵部の伏在断層，地盤の液状化災害等の具体例（近代，歴史時代等）を述べるとともに地盤を構成する地層の基本的な堆積様式，空間分布，成因から発生が予測される災害の規模や質を予測することについても解説する。			
授業計画 第1回：地震災害の概要と特徴1：2024年能登半島地震による災害 第2回：地震災害の概要と特徴2：2004年中越地震・2007年中越沖地震による災害 第3回：地震災害の概要と特徴3：1964年新潟地震による災害 第4回：地震災害の概要と特徴4：近代の国内における地震災害 第5回：地盤災害の複合要因 第6回：液状化災害の発生と予測：2024年能登半島地震による液状化の特徴 第7回：液状化災害の発生と予測：液状化災害の予測と軽減 第8回：活断層の概要 第9回：伏在活断層の調査法と新潟平野における実態 第10回：沖積層と地盤災害：地層の形成からみた沖積層の形成 第11回：沖積層と地盤災害：沖積層の形成と活断層 第12回：沖積層と地盤災害：沖積層の形成過程（国内事例） 第13回：沖積層と地盤災害：沖積層の特性による強震動・揺れやすさ 第14回：沖積層と地盤災害：地盤に起因した災害現象の概要 第15回：沖積層と地盤災害：地盤災害の予測と軽減 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

レポートにより評価する。レポートは、地盤災害の予測と軽減を行うための理学・工学・農学的な基礎的知識を用いた応用や新たな技術，解決手法などの論考を予定している。

授業科目名： 応用地形学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西井（池田） 稜子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 地形図の読図から，その場の地形形成作用を類推できる。			
・ 土砂災害の潜在的危険箇所を推察できる。			
授業の概要			
湿潤変動帯における土砂移動現象の実態とそれらのメカニズムを解説する。また，今後の気候変動に伴う土砂移動の変化について論じる。			
授業計画			
第1回：湿潤変動帯の概要と地形営力			
第2回：湿潤変動帯における地形変化の特徴（表層崩壊）			
第3回：湿潤変動帯における地形変化の特徴（深層崩壊）			
第4回：湿潤変動帯における地形変化の特徴（地すべり）			
第5回：地形図を用いた土砂災害発生場所の特徴の判読			
第6回：湿潤変動帯における地形変化の特徴（火山）			
第7回：地形図を用いた火山地形の判読			
第8回：湿潤変動帯における地形変化の特徴（河川，海岸）			
第9回：地形図を用いた河川・海岸地形の判読			
第10回：国内における気候変動に伴う土砂移動の変化			
第11回：極域・寒冷圏における気候変動に伴う土砂移動の変化			
第12回：乾燥地域における気候変動に伴う土砂移動の変化			
第13回：人為活動に伴う土砂移動の特徴と変化			
第14回：国内における土砂災害対策の概要と課題			
第15回：海外における土砂災害対策の概要と課題			
定期試験なし			
テキスト			
山崩れ・地すべりの力学 地形プロセス学入門，2008，松倉公憲			
建設技術者のための地形図読図入門1～4，鈴木隆介			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

原則として授業の全てに出席することを前提とし、レポート課題（60％）、発表（40％）で成績を評価する。

授業科目名： 災害地球化学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡部 直喜
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・水溶液における基本的な化学平衡計算に習熟する。			
・安定・放射性同位体地球化学に関する基礎知識を身につける。			
・自然災害現象の解析に水文学、気象学、地形・地質学の情報を活用できる。			
・自然災害現象の解析に有効な地球化学的指標、観測・調査法を選択できる。			
授業の概要			
自然災害、とりわけ斜面災害（地すべり・崩壊・土石流など）を事例として、地球化学的な手法や指標を利用した調査・観測、データ解析方法について解説する。			
授業計画			
第1回：化学平衡論の基礎			
第2回：酸化還元反応の基礎			
第3回：同位体地球化学の基礎			
第4回：大気、水、陸、海洋を通じての物質循環：			
（1）大気の成り立ち：大気の酸素、二酸化炭素濃度をコントロールする要因			
第5回：大気、水、陸、海洋を通じての物質循環：			
（2）生命の出現・大陸の出現と地球史を通じた大気組成の変遷			
第6回：大気、水、陸、海洋を通じての物質循環：			
（3）陸地における大気－水－岩石相互作用：化学的風化作用と酸素・二酸化炭素の消費			
第7回：大気、水、陸、海洋を通じての物質循環：			
（4）陸地における大気－水－岩石相互作用：化学的風化作用・熱水変質作用にともなう物質の移動・再配分			
第8回：大気、水、陸、海洋を通じての物質循環：			
（5）海洋の役割（大気・地殻との物質交換）：堆積作用による化学物質の埋積・固定、化学的沈殿による物質の固定、海洋生物による化学物質の濃集・固定、沈み込み帯における物質交換			
第9回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む：（1）地下水の挙動と地すべり：水質および水温を指標とした地下水流動の推定			
第10回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む：（2）地下水の挙動と地すべり：安定同位体・放射性同位体を指標とした地下水流動の推定			

第11回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む：(3)豪雨と土石流：集水地形、降水量等の水文地形指標を用いた流出の解析 第12回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む：(4)豪雨と土石流：地球化学的指標を用いた流出の解析 第13回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む：(5)斜面災害：化学的風化作用と斜面・土砂災害 第14回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む：(6)斜面災害：物理的風化作用と斜面・土砂災害 第15回：地球化学的指標を用いて自然災害現象を読む(7)火山・地震：前兆や変状を捉えるための地球化学的観測・調査＋「学期末レポート」 定期試験なし
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・学習内容に関する質疑応答40%と学期末のレポート60%によって成績を評価する。

授業科目名： 火山災害特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 片岡 香子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 火山活動が多様であり、それがもたらす災害の質が異なることが理解できる。 2. 火山災害の防止・軽減に対する自らのアイデアを提案できる。 3. 火山災害予測図が理解できる。			
授業の概要			
火山の噴火現象、噴火後現象を論じ、それぞれの火山災害について解説する。日本列島は島弧のセッティングにあるため火山活動が非常に活発である。火山の影響は、火山周辺だけでなく、広域に及ぶもので、我々の生活にしばしば重大な困難をもたらす。火山がもたらす現象や火山災害の事例を知り、その危険性を理解することは、今後の災害の予測や軽減には重要である。			
授業計画			
第1回：火山の分布 第2回：火山の噴火現象（概論・溶岩流） 第3回：火山の噴火現象（噴石・降下火山灰） 第4回：火山の噴火現象（火砕流・火砕サージ） 第5回：火山の噴火現象（噴火様式・規模・火山地形） 第6回：火山の噴火後現象（火山泥流） 第7回：火山の噴火後現象（火山体崩壊） 第8回：火山の噴火後現象（火山性津波） 第9回：様々な火山災害（海外の事例） 第10回：様々な火山災害（国内の事例） 第11回：様々な火山災害（最近の事例） 第12回：火山災害の軽減・防止（火山の監視） 第13回：火山災害の軽減・防止（突発的な噴火に備える） 第14回：火山災害の軽減・防止（火山ガス） 第15回：火山災害予測図について			
定期試験なし			
テキスト			

火山のはなしー災害軽減に向けて：下鶴大輔

火山噴火と災害：宇井忠英

「火山学I・II」：ハンス-ウルリッヒ・シュミンケ著（隅田まり・西村裕一訳）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への参加の上、レポート（100%）によって成績を評価する。

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（基礎生命 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、井 筒（宍戸） ゆみ、長束 俊 治、西川 周一、宮崎 勝 己、伊東 孝祐、藤間（伊東） 真紀、加藤 朗、杉本 健 吉、墨谷 暢子、高橋 宏 司、田崎 英祐、林 八寿 子、大森 紹仁、神林 千 晶、藤村 衡至
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
学習の到達目標は、生命・食料科学専攻の各専門分野における基礎理論や、応用的に展開され た理論における研究の手法について理解し、それらの内容を説明することができるとともに、 専門家などと議論することができる。			
授業の概要			
本講義の科目の概要は、生命・食料科学専攻の各専門分野における研究や調査、さらに分析し た内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎生命科学分野に関する基礎資料の学習			
第3回：基礎生命科学分野の実験・演習に関する資料の学習			
第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習			
第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施			
第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表			
第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議			
第8回：総括に関する討議			
定期試験なし			
テキスト			

一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1) 、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

発表内容 (50%)、および、質問に対する回答 (50%)で評価する。

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（基礎生命 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、 井筒（宍戸） ゆみ、長東 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間 （伊東） 真紀、加藤 朗 、杉本 健吉、墨谷 暢子 、高橋 宏司、田崎 英祐 、林 八寿子、大森 紹仁 、神林 千晶、藤村 衡至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 学習の到達目標は、生命・食料科学専攻の各専門分野における基礎理論や、応用的に展開され た理論における研究の手法について理解し、それらの内容を説明することができるとともに、 専門家などと議論することができる。			
授業の概要 本講義の科目の概要は、生命・食料科学専攻の各専門分野における研究や調査、さらに分析し た内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：基礎生命科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：基礎生命科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト			

一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1) 、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

発表内容 (50%)、および、質問に対する回答 (50%)で評価する。

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（基礎生命 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、 井筒（宍戸） ゆみ、長東 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間 （伊東） 真紀、加藤 朗 、杉本 健吉、墨谷 暢子 、高橋 宏司、田崎 英祐 、林 八寿子、大森 紹仁 、神林 千晶、藤村 衡至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 学習の到達目標は、生命・食料科学専攻の各専門分野における基礎理論や、応用的に展開され た理論における研究の手法について理解し、それらの内容を説明することができるとともに、 専門家などと議論することができる。			
授業の概要 本講義の科目の概要は、生命・食料科学専攻の各専門分野における研究や調査、さらに分析し た内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：基礎生命科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：基礎生命科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト			

一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1) 、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

発表内容 (50%)、および、質問に対する回答 (50%)で評価する。

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（基礎生命 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、 井筒（宍戸） ゆみ、長東 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間 （伊東） 真紀、加藤 朗 、杉本 健吉、墨谷 暢子 、高橋 宏司、田崎 英祐 、林 八寿子、大森 紹仁 、神林 千晶、藤村 衡至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 学習の到達目標は、生命・食料科学専攻の各専門分野における基礎理論や、応用的に展開され た理論における研究の手法について理解し、それらの内容を説明することができるとともに、 専門家などと議論することができる。			
授業の概要 本講義の科目の概要は、生命・食料科学専攻の各専門分野における研究や調査、さらに分析し た内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：基礎生命科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：基礎生命科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト			

一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1) 、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

発表内容 (50%)、および、質問に対する回答 (50%)で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅰ-E（基礎生命科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、 井筒（宍戸） ゆみ、長東 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間（ 伊東） 真紀、加藤 朗、 杉本 健吉、墨谷 暢子、 高橋 宏司、田崎 英祐、 林 八寿子、大森 紹仁、 神林 千晶、藤村 衡至
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の領域において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な資料調査や実験・調査・解析を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得できる。			
授業の概要			
基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の領域における学術研究や課題解決のための資料調査および実験・調査の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎生命科学研究（特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の領域）の特質			
第3回：基礎生命科学に関する基礎資料調査の方法			
第4回：基礎生命科学に関する基礎資料調査			
第5回：基礎生命科学に関する基礎資料の調査の結果に基づく討論			
第6回：基礎生命科学に関する基礎的な実験・調査・解析計画の方法			
第7回：基礎生命科学に関する基礎的な実験・調査・解析の計画			
第8回：基礎生命科学に関する基礎的な実験・調査・解析の実施			
第9回：基礎生命科学に関する基礎的な実験・調査・解析の結果の整理			
第10回：基礎生命科学に関する基礎的な実験・調査・解析を報告する資料の作成方法			

第11回：基礎生命科学に関する基礎的な実験・調査・解析結果の報告と討論

第12回：基礎的な実験・調査・解析に基づく課題研究計画立案の方法

第13回：課題研究計画の作成

第14回：課題研究計画の報告と検討

第15回：総括討論

定期試験なし

テキスト

一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1)、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852。他、各分野の参考文献。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

研究方法の立案や推進方法(25%)、議論の準備(25%)、それらの報告及び対応(50%)で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-E（基礎生命科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、井筒（宍戸） ゆみ、長東 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間（伊東） 真紀、加藤 朗、杉本 健吉、墨谷 暢子、高橋 宏司、田崎 英祐、林 八寿子、大森 紹仁、神林 千晶、藤村 衡至
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
基礎生命科学の諸分野（特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の領域）において、専門的な課題を解決するための調査方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深めることができる。			
授業の概要			
基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の領域において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：基礎生命科学（特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の領域）における研究方法論の特質			
第3回：基礎生命科学における研究方法論			
第4回：基礎生命科学における課題選定の方法と特質			
第5回：課題選定に関する討論			
第6回：基礎生命科学に関する文献調査の特質			
第7回：基礎生命科学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：基礎生命科学に関する課題分析の方法			
第9回：基礎生命科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の方法			

第10回：基礎生命科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の実施 第11回：基礎生命科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の結果の整理と報告 第12回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画立案の方法 第13回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施 第14回：実験・調査・解析結果の整理と報告資料作成 第15回：まとめの討論 定期試験なし
テキスト 一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1)、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852。他、各分野の参考文献。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 研究方法の立案や推進方法(25%)、議論の準備 (25%)、それらの報告及び対応 (50%)で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-E（基礎生命科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、 井筒（宍戸） ゆみ、長束 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間 （伊東） 真紀、加藤 朗 、杉本 健吉、墨谷 暢子 、高橋 宏司、田崎 英祐 、林 八寿子、大森 紹仁 、神林 千晶、藤村 衡至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析を通して、基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の理論と、諸分野における実験・調査・解析の方法論の理解を深めることができる。			
授業の概要 計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析およびその計画や結果について討論を通して、基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の理論と実験・調査・解析方法論を理解し、応用できる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：課題に基づく研究計画の検討（1）―基礎生命科学における研究内容の視点から― 第3回：課題に基づく研究計画の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から― 第4回：課題に基づく研究計画の検討（3）―基本文献の調査― 第5回：課題に基づく研究計画の検討（4）―関連する研究の調査― 第6回：研究計画の深化―基礎生命科学理論の深化を中心として― 第7回：研究計画に基づく実験・調査・解析の計画 第8回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施 第9回：実験・調査・解析結果の整理 第10回：実験・調査・解析結果の報告 第11回：実験・調査・解析結果の検討（1）―実験・調査・解析計画の視点から―			

第12回：実験・調査・解析結果の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から― 第13回：実験・調査・解析結果の検討（3）―基礎生命科学理論の視点から― 第14回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画の再検討 第15回：まとめの討論 定期試験なし
テキスト 一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版（2022/7/1）、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852。他、各分野の参考文献。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 研究方法の立案や推進方法(25%)、議論の準備（25%）、それらの報告及び対応（50%）で評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-E（基礎生命科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、酒井 達也、 井筒（宍戸） ゆみ、長東 俊治、西川 周一、宮崎 勝己、伊東 孝祐、藤間 （伊東） 真紀、加藤 朗 、杉本 健吉、墨谷 暢子 、高橋 宏司、田崎 英祐 、林 八寿子、大森 紹仁 、神林 千晶、藤村 衡至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
実験・調査・解析の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の理論の理解を深め、応用できる。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの実験・調査・解析や研究計画の検討・報告をもとに、実験・調査・解析の結果と方法の吟味を通して、基礎生命科学の諸分野、特に生化学、分子生物学、細胞生物学、動物学、植物学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの実験・調査・解析結果に基づく今後の方向性の検討			
第2回：基礎生命科学における論文作成方法			
第3回：対外発表論文の作成と検討—基礎生命科学における理論の深化を視点として—			
第4回：これまでの実験・調査・解析結果の発表			
第5回：発表に基づく補足実験・調査・解析の計画			
第6回：発表に基づく補足実験・調査・解析の実施			
第7回：基礎生命科学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：基礎生命科学に関する課題分析の方法			
第9回：基礎生命科学に関する各自の研究課題の体系化—理論の深化を視点として—			
第10回：研究結果の整理に資する予備実験・調査・解析の方法と実施			
第11回：基礎生命科学理論の理解の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討			

第12回：基礎生命科学理論の理解の深化を視点とした分析・考察結果の検討 第13回：基礎生命科学理論の理解の深化を視点とした研究の成果と意義の検討 第14回：基礎生命科学理論の理解の深化を視点とした今後の研究課題の検討 第15回：研究成果の発表 定期試験なし
テキスト 一例であるが、Molecular Biology of the Cell (ISE). 7th ed., 著者Bruce Alberts、出版社 W W Norton & Co Inc; 第7版 (2022/7/1)、ISBN-10 : 0393884856、ISBN-13 : 978-0393884852。他、各分野の参考文献。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 研究方法の立案や推進方法(25%)、議論の準備 (25%)、それらの報告及び対応 (50%)で評価する。

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（地質学）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、高澤 栄 一、 MADHUSOODHAN SATISH KUMAR、植田 勇人、椎野 勇太、高清水 康博、高橋 俊郎、葉田野 希、小林 健太 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理に関連して，有益な発表・討論ができる。				
授業の概要 課題解決のための計画性・自発性を涵養し，情報収集から解決に至るプロセスを実践し，表現・発信する能力を身に付ける科目である。博士前期課程（1年1学期）の研究について，専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う。受講生は，セミナーの運営に積極的に関わること。また，広く国内外の文献を読むとともに，他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって，その内容を学ぶこと。本科目は課題研究Ⅰ-E（地質学）との有機的関連を伴う。				
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：ガイダンス 第2回：地質学分野に関する基礎資料の学習 第3回：地質学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし				

テキスト
関連する国内外の学術雑誌や指導教員の示す参考文献.
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
学生がセミナーで行う説明・討論の内容および作成したレジメに基づいて，専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理，に関する修得の度合いを総合的に評価する（100％）．

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（地質学）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOO DHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊 郎、葉田野 希、小林 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理に関連して，有益な発表・討論ができる．				
授業の概要 課題解決のための計画性・自発性を涵養し，情報収集から解決に至るプロセスを実践し，表現・発信する能力を身に付ける科目である．博士前期課程（1年1学期）の研究について，専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う．受講生は，セミナーの運営に積極的に関わる事．また，広く国内外の文献を読むとともに，他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって，その内容を学ぶこと．本科目は課題研究Ⅱ-E（地質学）との有機的関連を伴う．				
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：地質学分野に関する基礎資料の学習 第3回：地質学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし				

テキスト
関連する国内外の学術雑誌や指導教員の示す参考文献.
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
学生がセミナーで行う説明・討論の内容および作成したレジメに基づいて，専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理，に関する修得の度合いを総合的に評価する（100％）．

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（地質学）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOO DHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊 郎、葉田野 希、小林 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理に関連して，有益な発表・討論ができる．				
授業の概要 課題解決のための計画性・自発性を涵養し，情報収集から解決に至るプロセスを実践し，表現・発信する能力を身に付ける科目である．博士前期課程（1年1学期）の研究について，専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う．受講生は，セミナーの運営に積極的に関わる事．また，広く国内外の文献を読むとともに，他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって，その内容を学ぶこと．本科目は課題研究Ⅲ-E（地質学）との有機的関連を伴う．				
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：地質学分野に関する基礎資料の学習 第3回：地質学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし				

テキスト
関連する国内外の学術雑誌や指導教員の示す参考文献.
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
学生がセミナーで行う説明・討論の内容および作成したレジメに基づいて，専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理，に関する修得の度合いを総合的に評価する（100％）．

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（地質学）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOO DHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊 郎、葉田野 希、小林 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理に関連して，有益な発表・討論ができる。				
授業の概要 課題解決のための計画性・自発性を涵養し，情報収集から解決に至るプロセスを実践し，表現・発信する能力を身に付ける科目である．博士前期課程（1年1学期）の研究について，専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う．受講生は，セミナーの運営に積極的に関わること．また，広く国内外の文献を読むとともに，他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって，その内容を学ぶこと．本科目は課題研究Ⅳ-E（地質学）との有機的関連を伴う。				
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：地質学分野に関する基礎資料の学習 第3回：地質学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし				

テキスト
関連する国内外の学術雑誌や指導教員の示す参考文献.
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
学生がセミナーで行う説明・討論の内容および作成したレジメに基づいて，専攻分野に関する基礎的知識・技術，研究を遂行する上で必要な課題発見・解決能力，コミュニケーション能力，研究と社会との関わり・倫理，に関する修得の度合いを総合的に評価する（100％）．

授業科目名： 課題研究Ⅰ-E（地質学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOO DHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊 郎、葉田野 希、小林 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の領域において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な資料調査や実験・調査・解析を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得できる。			
授業の概要			
地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の領域における学術研究や課題解決のための資料調査および実験・調査の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：地質学研究（特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の領域）の特質			
第3回：地質学に関する基礎資料調査の方法			
第4回：地質学に関する基礎資料調査			
第5回：地質学に関する基礎資料の調査の結果に基づく討論			
第6回：地質学に関する基礎的な実験・調査・解析計画の方法			
第7回：地質学に関する基礎的な実験・調査・解析の計画			
第8回：地質学に関する基礎的な実験・調査・解析の実施			
第9回：地質学に関する基礎的な実験・調査・解析の結果の整理			
第10回：地質学に関する基礎的な実験・調査・解析を報告する資料の作成方法			
第11回：地質学に関する基礎的な実験・調査・解析結果の報告と討論			
第12回：基礎的な実験・調査・解析に基づく課題研究計画立案の方法			

第13回：課題研究計画の作成 第14回：課題研究計画の報告と検討 第15回：総括討論 定期試験なし
テキスト 特定のテキストはない。指導教員から指定されることがある。
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 研究グループ内での発表・討論・報告・レジメを基に、研究の実践の達成度を総合的に評価する（100%）。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-E（地質学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOODHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊郎、葉田野 希、小林 健太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地質学の諸分野（特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の領域）において、専門的な課題を解決するための調査方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深めることができる。			
授業の概要			
地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の領域において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：地質学（特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の領域）における研究方法論の特質			
第3回：地質学における研究方法論			
第4回：地質学における課題選定の方法と特質			
第5回：課題選定に関する討論			
第6回：地質学に関する文献調査の特質			
第7回：地質学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：地質学に関する課題分析の方法			
第9回：地質学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の方法			
第10回：地質学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の実施			
第11回：地質学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の結果の整理と報告			

第12回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画立案の方法

第13回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施

第14回：実験・調査・解析結果の整理と報告資料作成

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

特定のテキストはない。指導教員から指定されることがある。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

研究グループ内での発表・討論・報告・レジメを基に、研究の実践の達成度を総合的に評価する（100%）。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-E（地質学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOODHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊郎、葉田野 希、小林 健太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析を通して、地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の理論と、諸分野における実験・調査・解析の方法論の理解を深めることができる。			
授業の概要			
計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析およびその計画や結果について討論を通して、地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の理論と実験・調査・解析方法論を理解し、応用できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：課題に基づく研究計画の検討（1）―地質学における研究内容の視点から―			
第3回：課題に基づく研究計画の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―			
第4回：課題に基づく研究計画の検討（3）―基本文献の調査―			
第5回：課題に基づく研究計画の検討（4）―関連する研究の調査―			
第6回：研究計画の深化―地質学に関わる理論の深化を中心として―			
第7回：研究計画に基づく実験・調査・解析の計画			
第8回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施			
第9回：実験・調査・解析結果の整理			
第10回：実験・調査・解析結果の報告			
第11回：実験・調査・解析結果の検討（1）―実験・調査・解析計画の視点から―			
第12回：実験・調査・解析結果の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―			
第13回：実験・調査・解析結果の検討（3）―地質学に関する理論の視点から―			

第14回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画の再検討

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

特定のテキストはない。指導教員から指定されることがある。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

研究グループ内での発表・討論・報告・レジメを基に、研究の実践の達成度を総合的に評価する（100%）。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-E（地質学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗原 敏之、小西 博巳、 高澤 栄一、MADHUSOO DHAN SATISH KUMAR 、植田 勇人、椎野 勇太 、清水 康博、高橋 俊 郎、葉田野 希、小林 健 太 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
実験・調査・解析の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の理論の理解を深め、応用できる。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの実験・調査・解析や研究計画の検討・報告をもとに、実験・調査・解析の結果と方法の吟味を通して、地質学の諸分野、特に鉱物学、岩石学、構造地質学、堆積学、古環境学、層位・古生物学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの実験・調査・解析結果に基づく今後の方向性の検討			
第2回：地質学における論文作成方法			
第3回：対外発表論文の作成と検討―地質学における理論の深化を視点として―			
第4回：これまでの実験・調査・解析結果の発表			
第5回：発表に基づく補足実験・調査・解析の計画			
第6回：発表に基づく補足実験・調査・解析の実施			
第7回：地質学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：地質学に関する課題分析の方法			
第9回：地質学に関する各自の研究課題の体系化―理論の深化を視点として―			
第10回：研究結果の整理に資する予備実験・調査・解析の方法と実施			
第11回：地質学に関わる理論の理解の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討			
第12回：地質学に関わる理論の理解の深化を視点とした分析・考察結果の検討			
第13回：地質学に関わる理論の理解の深化を視点とした研究の成果と意義の検討			

第14回：地質学に関わる理論の理解の深化を視点とした今後の研究課題の検討

第15回：研究成果の発表

定期試験なし

テキスト

特定のテキストはない。指導教員から指定されることがある。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

研究グループ内での発表・討論・報告・レジメを基に、研究の実践の達成度を総合的に評価する（100%）。

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（自然災害 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、河 島 克久、西井（池田） 稜 子、新屋 啓文、渡部 直 喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 自然災害科学に関連した国内外の先行研究について，論文の検索やその内容の理解を効率的に行うことができるようになる．			
授業の概要 主指導教員のもとで，自然災害科学に関わるテーマを設定し，これに関連した分野における国内外の先行研究を調査する．			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：ガイダンス 第2回：自然災害科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：自然災害科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 主指導教員が，演習に関する取り組みや理解度等を評価する．			

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（自然災害 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、河 島 克久、西井（池田） 稜 子、新屋 啓文、渡部 直 喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 自然災害科学に関連した国内外の研究動向を理解するとともに、自らの理解を高め論議できるようになる。			
授業の概要 主指導教員のもとで、設定された自然災害科学に関わるテーマの先行研究について、内容の理解と要約の説明及び論議を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：自然災害科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：自然災害科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 主指導教員が、演習に関する取り組みや論議能力等を評価する。			

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（自然災害 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、河 島 克久、西井（池田） 稜 子、新屋 啓文、渡部 直 喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 自然災害科学に関連した研究領域のトレンドや課題，どこまでが既に明らかとなっていて何がまだ分かっていないのかを説明できるようになる。			
授業の概要 主指導教員のもとで，設定された自然災害科学に関わるテーマに関する国内外の先行研究をレビューし，研究トピックに関する理解の現状を議論する。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：自然災害科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：自然災害科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 主指導教員が，文献レビューに関する取り組み・能力等を評価する。			

授業科目名： 生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（自然災害 科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、河 島 克久、西井（池田） 稜 子、新屋 啓文、渡部 直 喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 自然災害科学に関連した研究領域の論文レビューのプレゼンテーションと質疑応答ができるようになる。			
授業の概要 設定された自然災害科学に関わるテーマに関する論文レビューを発表し，質疑応答を行う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定 第2回：自然災害科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：自然災害科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 主指導教員が，プレゼンテーションに関する取り組み・能力等を評価する。			

授業科目名： 課題研究Ⅰ-E（自然 災害科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、 河島 克久、西井（池田） 稜子、新屋 啓文、渡部 直喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 自然災害科学の諸分野、特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の領域において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な資料調査や実験・調査・解析を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得できる。			
授業の概要 自然災害科学の諸分野、特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の領域における学術研究や課題解決のための資料調査および実験・調査の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：自然災害科学研究（特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の領域）の特質 第3回：自然災害科学に関する基礎資料調査の方法 第4回：自然災害科学に関する基礎資料調査 第5回：自然災害科学に関する基礎資料の調査の結果に基づく討論 第6回：自然災害科学に関する基礎的な実験・調査・解析計画の方法 第7回：自然災害科学に関する基礎的な実験・調査・解析の計画 第8回：自然災害科学に関する基礎的な実験・調査・解析の実施 第9回：自然災害科学に関する基礎的な実験・調査・解析の結果の整理 第10回：自然災害科学に関する基礎的な実験・調査・解析を報告する資料の作成方法 第11回：自然災害科学に関する基礎的な実験・調査・解析結果の報告と討論 第12回：基礎的な実験・調査・解析に基づく課題研究計画立案の方法 第13回：課題研究計画の作成 第14回：課題研究計画の報告と検討 第15回：総括討論			

定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 主指導教員が、課題研究に関する取り組み等によって評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-E（自然 災害科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、 河島 克久、西井（池田） 稜子、新屋 啓文、渡部 直喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
自然災害科学の諸分野（特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の領域）において、専門的な課題を解決するための調査方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深めることができる。			
授業の概要			
自然災害科学の諸分野（特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の領域）において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：自然災害科学（特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の領域）における研究方法論の特質			
第3回：自然災害科学における研究方法論			
第4回：自然災害科学における課題選定の方法と特質			
第5回：課題選定に関する討論			
第6回：自然災害科学に関する文献調査の特質			
第7回：自然災害科学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：自然災害科学に関する課題分析の方法			
第9回：自然災害科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の方法			
第10回：自然災害科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の実施			
第11回：自然災害科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の結果の整理と報告			
第12回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画立案の方法			
第13回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施			

第14回：実験・調査・解析結果の整理と報告資料作成 第15回：まとめの討論 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 主指導教員が、課題研究に関する取り組み等によって評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-E（自然 災害科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、 河島 克久、西井（池田） 稜子、新屋 啓文、渡部 直喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析を通して、自然災害科学の諸分野、特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の理論と、諸分野における実験・調査・解析の方法論の理解を深めることができる。			
授業の概要			
計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析およびその計画や結果について討論を通して、自然災害科学の諸分野、特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の理論と実験・調査・解析方法論を理解し、応用できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：課題に基づく研究計画の検討（1）―自然災害科学における研究内容の視点から―			
第3回：課題に基づく研究計画の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―			
第4回：課題に基づく研究計画の検討（3）―基本文献の調査―			
第5回：課題に基づく研究計画の検討（4）―関連する研究の調査―			
第6回：研究計画の深化―自然災害科学理論の深化を中心として―			
第7回：研究計画に基づく実験・調査・解析の計画			
第8回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施			
第9回：実験・調査・解析結果の整理			
第10回：実験・調査・解析結果の報告			
第11回：実験・調査・解析結果の検討（1）―実験・調査・解析計画の視点から―			
第12回：実験・調査・解析結果の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―			
第13回：実験・調査・解析結果の検討（3）―自然災害科学理論の視点から―			
第14回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画の再検討			
第15回：まとめの討論			
定期試験なし			

テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 主指導教員が、課題研究に関する取り組み等によって評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-E（自然 災害科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ト部 厚志、片岡 香子、 河島 克久、西井（池田） 稜子、新屋 啓文、渡部 直喜、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
実験・調査・解析の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、自然災害科学の諸分野、特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の理論の理解を深め、応用できる。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの実験・調査・解析や研究計画の検討・報告をもとに、実験・調査・解析の結果と方法の吟味を通して、自然災害科学の諸分野、特に地球惑星科学、地質学、地形学、地球化学、気象学、地球物理学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの実験・調査・解析結果に基づく今後の方向性の検討			
第2回：自然災害科学における論文作成方法			
第3回：対外発表論文の作成と検討―自然災害科学における理論の深化を視点として―			
第4回：これまでの実験・調査・解析結果の発表			
第5回：発表に基づく補足実験・調査・解析の計画			
第6回：発表に基づく補足実験・調査・解析の実施			
第7回：自然災害科学に関する文献調査の方法と実際			
第8回：自然災害科学に関する課題分析の方法			
第9回：自然災害科学に関する各自の研究課題の体系化―理論の深化を視点として―			
第10回：研究結果の整理に資する予備実験・調査・解析の方法と実施			
第11回：自然災害科学理論の理解の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討			
第12回：自然災害科学理論の理解の深化を視点とした分析・考察結果の検討			
第13回：自然災害科学理論の理解の深化を視点とした研究の成果と意義の検討			
第14回：自然災害科学理論の理解の深化を視点とした今後の研究課題の検討			
第15回：研究成果の発表			
定期試験なし			

テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 研究指導委員会（特に主指導教員）が、課題研究に関する取り組み、成果の内容、発表や質疑応答の適切さ等によって評価する。

授業科目名： 地圏環境論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奈良間 千之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
福島県いわき市～相馬周辺において、東日本大震災の複合災害と復興の現状を説明できる。			
授業の概要			
東日本大震災は、2011年3月11日14時46分に三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で発生した東北地方太平洋沖地震（M9.0；海溝型プレート境界地震）による災害である。被害状況は、地震被害よりも、原発事故と津波による被害が深刻で2万人以上の死者・行方不明者がでた。福島の被害の特徴は、津波地震被災と原子力被災との複合災害である。津波地震被災地は復興が進みつつあるが、原子力被災地は環境の回復に長い時間を要する。授業では、福島県いわき市～相馬周辺を訪れ、事前に決めたテーマについて調べてきたことを、現地で観察・議論して、東日本大震災後の被害と復興の現状を学ぶ。			
授業計画			
第1回：巡検のガイダンス（テーマ決め）			
第2回：地震による災害事例（阪神淡路大震災）			
第3回：地震による災害事例（熊本地震）			
第4回：地震による災害事例（能登半島地震）			
第5回：福島の津波被害について（津波）			
第6回：福島の津波被害について（被災の特徴）			
第7回：福島の津波被害について（震災遺構）			
第8回：原発被害について（いわき市）			
第9回：原発被害について（浪江町）			
第10回：原発被害について（被害の特徴と問題点）			
第11回：復興の現状と地域差について（復興計画）			
第12回：復興の現状と地域差について（復興の現状）			
第13回：復興の現状と地域差について（津波被災地域の復興）			
第14回：復興の現状と地域差について（原発被災地域の復興）			
第15回：復興の現状と地域差について（復興の課題）			
定期試験なし			
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
野外巡検への参加を基本とし，巡検（30％）とレポート（70％）によって評価する．

授業科目名： フィールド惑星科学 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野口 里奈
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 太陽系天体間の地質・地形の相違点・共通点をフィールド科学の観点から説明することができる。 惑星表層データを検索・閲覧・解析することができる。 フィールドでの調査・実験計画を立案・実行できる。			
授業の概要 太陽系には無数の天体が存在しており、それぞれの天体は個別の表層地形や地質を持っている。これらの天体には固有の特徴が現れる一方、共通する特徴を持つものも多く見られる。本科目では、太陽系の天体の表層における地質や地形の特徴について、地球上でのフィールドワークや実験を通じて、これらの天体がどのような条件や過程で現在の形態を形成したのかを学ぶ。また、他の天体の地質学的な構造や成り立ちを理解することで、地球外の天体における地質学的な探査の重要性も認識できるようになる。			
授業計画 第1回：五十嵐浜観察（1）ガイダンス、危険予知活動 第2回：五十嵐浜観察（2）五十嵐浜アナログ地形調査 第3回：五十嵐浜観察（3）五十嵐浜アナログ地質調査 第4回：五十嵐浜観察（4）調査結果まとめ 第5回：五十嵐浜観察（5）調査結果プレゼンテーション 第6回：五十嵐浜での実験内容検討（1）五十嵐浜での惑星科学的実験実施検討 第7回：五十嵐浜での実験内容検討（2）実験計画まとめ 第8回：五十嵐浜での実験内容検討（3）実験計画プレゼンテーション 第9回：五十嵐浜での実験内容検討（4）レビュー結果をもとにした実験計画修正 第10回：五十嵐浜での実験準備 第11回：五十嵐浜での実験実施（1） 実験1の実施 第12回：五十嵐浜での実験実施（2） 実験2の実施 第13回：五十嵐浜での実験実施（3） 実験3の実施 第14回：五十嵐浜での実験撤収、原状回復 第15回：五十嵐浜での実験実施（5） まとめ			

定期試験なし
テキスト 宮本英昭　ほか編　「惑星地質学」 東京大学出版会，ISBN 978-4-13-062713-9
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 成績は講義中におけるプレゼンテーション（2回各10%、計20%）と最終レポート（80%）で評価する。実習にフル出席できない履修生については、原則として単位を認めない。

授業科目名： 環境化学要論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 則末 和宏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
海洋における生物地球化学および化学海洋学の諸概念を理解でき、説明できる。 また、それらの独特の考え方を身につける。 異分野融合的・学際的な学修・探究姿勢を身につける。			
授業の概要			
フィールド科学プログラムでは海洋・気象学，地形・地質学，惑星科学，地球環境物理化学，生態・森林再生・保全学，人文地理学，自然災害科学の多彩なフィールド科学分野の高度な専門知識・学際的素養の獲得を目指している。その位置付けにおいて，本科目は海洋化学と付随するトピックを扱うことで海洋科学と必要となる地球環境の物理・化学の知識と考えの養成を担っている。			
授業計画			
第1回：本講義の目的，受講上の注意，評価の方法などのガイダンスを行う。			
第2回：海水の物理化学的知見および海洋の物理的過程：海洋水の諸性質			
第3回：海水の物理化学的知見および海洋の物理的過程：鉛直方向の因子			
第4回：海水の物理化学的知見および海洋の物理的過程：海洋水の諸性質			
第5回：海洋循環と重要な水塊の地理的分布と特性，TSダイアグラム			
第6回：生物地球化学サイクル：炭素循環と気候変動			
第7回：生物地球化学サイクル：炭素化学種・アルカリ度・レッドフィールド比・酸素の循環			
第8回：生物地球化学サイクル：関連する生物と硬組織			
第9回：化学海洋学方法論			
化学トレーサー（天然放射性核種，トランジェントトレーサー等），大気-海洋間ガス交換速度・薄膜の解析・底層渦拡散係数の解析			
第10回：化学海洋学方法論			
粒子の実態・種々の除去モデル・粒子の平均沈降速度			
第11回：化学海洋学方法論			
境界域での物質除去と交換			
第12回：微量元素と同位体のグローバル循環			
国際GEOTRACES計画			

第13回：超微量元素・同位体の新規分析化学手法開発 第14回：海底堆積物の化学 続成作用・マンガン団塊・生鉱物 第15回：古海洋解析 定期試験なし
テキスト Marine Biogeochemical Cycles, 2nd Ed, Open University（英文テキスト）等
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 成績はレポート100%で評価する。

授業科目名： 大気物理学特論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本田 明治 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地球流体力学、放射の知識を用いて、さまざまな大気現象（対流の仕組み、熱収支、温帯低気圧、大気大循環など）、および地球温暖化をはじめとする気候変動について理論的、定量的に説明できる。			
授業の概要 地球大気におけるさまざまな現象を理解するために、他の惑星大気との比較を通して、大気組成、大気鉛直構造、大気の安定度、水平・鉛直対流、放射平衡、温室効果、熱輸送における地球大気の特徴を理論的に理解する。			
授業計画 第1回：惑星の大気と気象Ⅰ 地球型惑星 第2回：惑星の大気と気象Ⅱ その他の惑星等 第3回：大気の鉛直構造Ⅰ 鉛直分布特性 第4回：大気の鉛直構造Ⅱ 温室効果 第5回：大気の鉛直構造Ⅲ 大気の安定性 第6回：大気の鉛直構造Ⅳ 鉛直対流 第7回：大気の水平対流Ⅰ 温度差による対流 第8回：大気の水平対流Ⅱ 圧力差による対流 第9回：熱機関としての大気Ⅰ 放射平衡 第10回：熱機関としての大気Ⅱ 南北熱輸送 第11回：自転の効果Ⅰ コリオリ力と地衡風 第12回：自転の効果Ⅱ ロスビー波 第13回：自転の効果Ⅲ 子午面循環 第14回：温帯低気圧Ⅰ 傾圧不安定 第15回：温帯低気圧Ⅱ 前線 定期試験なし			
テキスト 『気象学入門』 松田佳久著 東京大学出版会 ISBN978-4-13-062721-4			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

レポート（80％）及びノート（20％）の提出で評価する。

授業科目名： 環境化学要論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松岡 史郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・自身の研究の中で行わなければならないさまざまな定量分析に対し、独力で対応できるような能力を養う。			
・誤った結論を導かないため、正確な分析値を得ることはもちろん、得られた分析値の正しい評価が行える能力を養う。			
授業の概要			
本講義科目の中心的な学問分野は、化学的手法により環境試料中の目的成分濃度を定量するための、原理や手法を取り扱う環境分析化学である。本講義では、環境試料の中に含まれる成分の定量を行う前段階として、データの取り扱いや試料の調製法、データの質の保証、検出限界などを中心に議論する。			
授業計画			
第1回：定量分析を行う際の一般的な手順			
第2回：試料の調整1）サンプリングの際のばらつき			
第3回：試料の調整2）試料の溶解法			
第4回：試料の調整3）試料の前処理（溶媒抽出）			
第5回：試料の調整4）試料の前処理（固相抽出）			
第6回：演習問題			
第7回：分析データの評価1）定量値の質とデータの吟味			
第8回：分析データの評価2）Validationの重要性			
第9回：検量線1）非線形最小二乗法とその応用			
第10回：検量線2）標準添加法とその意味			
第11回：検量線3）標準物質			
第12回：検量線4）検出限界の定義とその評価			
第13回：演習問題			
第14回：データの統計処理1）誤差，有限個のデータの統計処理			
第15回：データの統計処理2）信頼区間，有意性の検討，データの棄却			
定期試験なし			
テキスト			

Quantitative Chemical Analysis (10TH) , Harris, Daniel C. 著, W.H.Freeman & Co Ltd
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 成績の評価は、講義中の発言（20％）、演習問題への取り組み（40％）、期末レポート（40％）により行なう。

授業科目名： 気候物理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 直也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
気候変動及び大気海洋相互作用に関する知識を用いて、科学的根拠に基づいた議論・発信をすることができる。地球物理学分野以外の研究テーマとの関連性を発見することができる。			
授業の概要			
我々の生活と深く結びついている気候変動、それらに対する大気海洋の役割を定量的に理解し、最新の研究動向を学ぶ。			
授業計画			
第1回：はじめに IPCC AR6報告書について			
第2回：A Changing Climate（気候の変化）（1） 現在の気候			
第3回：A Changing Climate（気候の変化）（2） 過去の気候			
第4回：A Changing Climate（気候の変化）（3） 未来の気候			
第5回：Large-scale Climate Change（大規模な気候変動）（1） 全球気候システム			
第6回：Large-scale Climate Change（大規模な気候変動）（2） 全球気候システム変動要因			
第7回：Large-scale Climate Change（大規模な気候変動）（3） 大気・海洋			
第8回：Large-scale Climate Change（大規模な気候変動）（4） 雪氷圏・炭素循環・水循環			
第9回：Details in Physical Processes of Climate Change（気候変動の物理過程の詳細）（1） 放射・エネルギー収支			
第10回：Details in Physical Processes of Climate Change（気候変動の物理過程の詳細）（2） 気候感度・フィードバック			
第11回：Details in Physical Processes of Climate Change（気候変動の物理過程の詳細）（3） 気候状態の安定性			
第12回：Details in Physical Processes of Climate Change（気候変動の物理過程の詳細）（4） 対策			
第13回：Regional Climate Change（地域的な気候変動）（1） 地域的な特徴			
第14回：Regional Climate Change（地域的な気候変動）（2） 地域的な気候変動要因 part 1			
第15回：Regional Climate Change（地域的な気候変動）（3） 地域的な気候変動要因 part 2			
第16回：Regional Climate Change（地域的な気候変動）（4） 極端現象			
定期試験なし			

テキスト

The Intergovernmental Panel on Climate Change AR6

参考書・参考資料等

” Global Physical Climatology” Dennis L. Hartmann, Elsevier, Hardback ISBN: 9780123285317 / eBook ISBN: 9780080918624

学生に対する評価

発表資料（70%）及びレポート（30%）の提出で評価する。

授業科目名： 希少生物学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高津 邦夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 希少生物の特性や、保全の取り組みについて、最新の知見に基づいて、正しく理解し説明することができる。			
授業の概要 地球規模の気候変動、人為攪乱により生物の個体数は減少し、絶滅の危機に瀕している希少な生物が増えている。また、地球上には希少種として存在する生物もいる。本科目では、希少種とはなにか、希少種の時空間的な特性・進化、希少種の小集団に起因する問題や生物学的特性、保全などに関する講義を実施し、受講生による関連論文の紹介をもとに議論を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：希少生物とはなにか 第3回：希少性をどのように測定するか 第4回：個体数と分布域の相互作用 第5回：空間的な変動 第6回：時間的な変動 第7回：希少種になる要因 第8回：希少種と保全 第9回：11回目以降のプレゼン形式での論文紹介に関するガイダンス 第10回：総説論文の紹介と議論 第11回：論文紹介と議論：個体数と分布域の相互作用について 第12回：論文紹介と議論：空間的な変動 第13回：論文紹介と議論：時間的な変動 第14回：論文紹介と議論：希少種になる要因 第15回：論文紹介と議論：希少種と保全 定期試験なし			
テキスト 必要に応じて講義資料を配布。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

授業への取組み（講義・論文発表時の質疑応答（30%）、および、レポート（70%））を基に評価する。

授業科目名： 進化生物学特論Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石崎（太田） 智美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 遺伝的多様性を測定し解析する手法について説明できる。			
・ 生物の進化における遺伝的多様性の重要性を理解する。			
授業の概要			
生物の集団内、集団間、種間には様々な遺伝的多様性があり、これらは生物の進化を促す原動力でもある。生物の進化や多様化をもたらす要因を理解するためには、集団内、集団間、種間といった様々なレベルの遺伝的多様性を把握する必要がある。講義では、英語の教科書を用いて、遺伝的多様性を測定・解析する手法とその解析例を学ぶ。			
授業計画			
第1回：テキストの確認、担当分担			
第2回：「Studying adaptation」（適応の研究）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第3回：「Planning and interpreting experiments」（実験計画と解釈）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第4回：「Observational studies」（観察研究）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第5回：「The comparative methods」（比較手法）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第6回：「Phenotypic plasticity」（表現型可塑性）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第7回：「Trade-offs and constraints」（トレードオフと制約）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第8回：「Selection operates on different levels」（様々なレベルでの選択）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第9回：「Strategies for asking interesting questions」（興味深い質問を投げかけるための戦略）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第10回：「Mechanisms of speciation」（種分化のメカニズム）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第11回：「Species concepts」（種の概念）についてプレゼンテーションとディスカッション			
第12回：「Mechanisms of isolation」（分離のメカニズム）についてプレゼンテーションとディス			

カッション 第13回：「Mechanisms of divergence」（分岐のメカニズム）についてプレゼンテーションとディスカッション 第14回：「Hybridization and gene flow between species」（種間の交雑と遺伝子流動）についてプレゼンテーションとディスカッション 第15回：「What drives diversification?」（多様化を促進する要因は何か？）についてプレゼンテーションとディスカッション 定期試験なし
テキスト “Evolutionary Analysis, Fifth edition” Jon C. Herron, Scott Freeman 著, Pearson
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業への取組み（事前の準備 [50%] と発表態度 [50%] ）を基に評価する。

授業科目名： 進化生物学特論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎 勝己
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
系統樹について、その内容及び関連する用語を正しく理解し説明できる。生物の系統や進化に関して、現在理解されている内容について正しく説明できる。			
授業の概要			
生物の進化の過程や、生物間の系統関係を表現する手段として、最も広く用いられているのが「系統樹」である。この授業では系統樹に基づく系統学の基本を、英語の教科書の輪読により学んでいく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（自己紹介、使用教科書の説明、発表形式の確認、担当章及び担当回の決定）。			
第2回：第1章「Tree of Life in Ancient Human Culture and Art」 “生命の樹” の意味。			
第3回：第1章「Tree of Life in Ancient Human Culture and Art」 各地の文明に見られる “生命の樹”。			
第4回：第2章「History of the Modern Concept of the Tree of Life」 “生命の樹” と進化思想。			
第5回：第2章「History of the Modern Concept of the Tree of Life」 “生命の樹” 構築法の歴史。			
第6回：第3章「Building the Tree of Life: A Biodiversity Moonshot」 “生命の樹” 構築の困難さ。			
第7回：第3章「Building the Tree of Life: A Biodiversity Moonshot」 困難に挑む様々な方法。			
第8回：第4章「How Many Living Species?」 地球上の全生物種数：既知種について。			
第9回：第4章「How Many Living Species?」 地球上の全生物種数：未知種について。			
第10回：第5章「The Value of the Tree of Life」 “生命の樹” と産業。			
第11回：第5章「The Value of the Tree of Life」 “生命の樹” と文化。			
第12回：第6章「Fate of the Tree of Life」 種の絶滅と大量絶滅。			
第13回：第6章「Fate of the Tree of Life」 “生命の樹” の運命。			
第14回：第7章「Teaching the Tree」 “生命の樹” と教育。			
第15回：第7章「Teaching the Tree」 “生命の樹” の教育法。			
定期試験なし			

テキスト

Soltis, D.E. & Soltis, P.S. (2019) The Great Tree of Life. Academic Press (ISBN: 9780128125533)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

担当回における発表内容(70%)と、発表内容に関するディスカッションに対する積極性とその内容(30%)で評価する。

授業科目名： 生態学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 工藤 起来
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 生態学についての理解ができる。野外において自然調査法を学び、その意義を見いだすことができる。得られたデータを吟味することができる。			
授業の概要 生態学の基礎的な理解が得られるとともに、身の周りの生物の存在について実習形式で学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：昆虫の分類 第3回：昆虫の進化と多様性 第4回：昆虫の体節構造の歴史的変遷 第5回：昆虫の体節構造 第6回：昆虫の採集法 第7回：昆虫が多様化した要因：主に体のつくりや環境との関連 第8回：昆虫が多様化した要因：被子植物との共生や生態学的視点 第9回：昆虫の採集方法や標本の作成法 第10回：昆虫の採集：トラップ 第11回：昆虫の採集：トラップの評価 第12回：捕虫網による昆虫採集法 第13回：捕虫網による昆虫の採集：内陸 第14回：捕虫網による昆虫の採集：湖沼沿岸 第15回：捕虫網によって昆虫の評価 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 レポート3割、標本提出7割で評価する。			

授業科目名： 進化生物学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 志賀 隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
進化生物学、系統分類学、集団遺伝学、系統地理学、保全生態学の基礎的な用語を理解し、自ら当該分野の研究課題を見出すことができるとともに、絶滅危惧植物の保全策を検討することができる。			
授業の概要			
系統分類学、進化生物学、系統地理学、保全生態学分野の論文講読を行うとともに、野外で実際に維管束植物の絶滅危惧種を含む野生植物の生育状況を観察し、当該分野の知識を深める。 また、論文講読に加えて、日本語の専門書について章ごとを聴講者が担当して紹介する輪読も適宜行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：論文紹介（第1回；植物学全般）と輪読（第1回）を行う。			
第3回：論文紹介（第2回；植物分類学）と輪読（第2回）を行う。			
第4回：論文紹介（第3回；植物生態学）と輪読（第3回）を行う。			
第5回：論文紹介（第4回；保全生物学）と輪読（第4回）を行う。			
第6回：論文紹介（第5回；植物形態学）と輪読（第5回）を行う。			
第7回：論文紹介（第6回；生物地理学）と輪読（第6回）を行う。			
第8回：論文紹介（第7回；古植物学）と輪読（第7回）を行う。			
第9回：論文紹介（第8回；植物社会学）と輪読（第8回）を行う。			
第10回：論文紹介（第9回）と輪読（第9回）を行う。			
第11回：野外において主に複数の植物の形態観察を行う。			
第12回：野外において観察対象の植物の選定を行う。			
第13回：野外において植物の生育状況の観察を行う。			
第14回：野外において観察対象の植物のデータ取得を行う。			
第15回：野外において得られたデータの解析を行う。			
定期試験なし			
テキスト			
使用テキストおよび紹介する論文は聴講者との打ち合わせによって決定する。			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

以下の割合で成績を評価する。

- ・講義への出席状況（30%）
- ・論文講読における資料（40%）
- ・プレゼンの内容（30%）

授業科目名： フィールド科学演習 I（理）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、河 島 克久、工藤 起来、栗原 敏之、松岡 史郎、宮崎 勝 己、奈良間 千之、本田 明 治、西井（池田） 稜子、石崎 （太田） 智美、椎野 勇 太、志賀 隆、野口 里奈、 則末 和宏、村山 敏夫、渡 部 直喜、高津 邦夫、林 八寿子、大森 紹仁、高橋 直也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
・最先端の知にアクセスする能力を身につける。 ・既往の研究の内容を理解・整理し、それに基づき議論できる能力を身につける。 ・グループ活動（課題、ゼミ）においてメンバーを尊重する態度と協調して活動する姿勢を身につける。 ・他者とのコミュニケーションを通じて問題解決策を提案できる能力を身につける。				
授業の概要				
修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を調べ、課題、研究手法、研究分野の最新の知見を学ぶ。先行研究から見出した課題を解決するために必要な調査・実験方法の計画を立案し、調査や実験を実施する。得られたデータの分析と考察をおこない、研究成果をパワーポイントの発表資料にまとめる。研究成果を発表し、多様なメンバーと幅広く議論する。これら課題の設定から問題解決、研究成果の議論に至るプロセスを実施できる能力を養う。				
授業計画				
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：ガイダンス 第2回：フィールド科学分野に関する基礎資料の学習				

第3回：フィールド科学分野の実験・演習に関する資料の学習

第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習

第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施

第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表

第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議

第8回：総括に関する討議

定期試験なし

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

討議への取り組み姿勢（50％）と討議内容と適切な頻度で課す課題に対する回答（50％）によって評価する。

授業科目名： フィールド科学演習 Ⅱ（理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之 、本田 明治、西井（池田 ） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・最先端の知にアクセスする能力を身につける。 ・既往の研究の内容を理解・整理し、それに基づき議論できる能力を身につける。 ・グループ活動（課題、ゼミ）においてメンバーを尊重する態度と協調して活動する姿勢を身につける。 ・他者とのコミュニケーションを通じて問題解決策を提案できる能力を身につける。			
授業の概要			
修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を調べ、課題、研究手法、研究分野の最新の知見を学ぶ。先行研究から見出した課題を解決するために必要な調査・実験方法の計画を立案し、調査や実験を実施する。得られたデータの分析と考察をおこない、研究成果をパワーポイントの発表資料にまとめる。研究成果を発表し、多様なメンバーと幅広く議論する。これら課題の設定から問題解決、研究成果の議論に至るプロセスを実施できる能力を養う。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定			

第2回：フィールド科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：フィールド科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 討議への取り組み姿勢（50％）と討議内容と適切な頻度で課す課題に対する回答(50%)によって評価する。

授業科目名： フィールド科学演習 Ⅲ（理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之 、本田 明治、西井（池田 ） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・最先端の知にアクセスする能力を身につける。 ・既往の研究の内容を理解・整理し、それに基づき議論できる能力を身につける。 ・グループ活動（課題、ゼミ）においてメンバーを尊重する態度と協調して活動する姿勢を身につける。 ・他者とのコミュニケーションを通じて問題解決策を提案できる能力を身につける。			
授業の概要			
修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を調べ、課題、研究手法、研究分野の最新の知見を学ぶ。先行研究から見出した課題を解決するために必要な調査・実験方法の計画を立案し、調査や実験を実施する。得られたデータの分析と考察をおこない、研究成果をパワーポイントの発表資料にまとめる。研究成果を発表し、多様なメンバーと幅広く議論する。これら課題の設定から問題解決、研究成果の議論に至るプロセスを実施できる能力を養う。			
授業計画			
主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定			

第2回：フィールド科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：フィールド科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 討議への取り組み姿勢（50％）と討議内容と適切な頻度で課す課題に対する回答（50％）によって評価する。

授業科目名： フィールド科学演習 IV（理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之 、本田 明治、西井（池田 ） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・最先端の知にアクセスする能力を身につける。 ・既往の研究の内容を理解・整理し、それに基づき議論できる能力を身につける。 ・グループ活動（課題、ゼミ）においてメンバーを尊重する態度と協調して活動する姿勢を身につける。 ・他者とのコミュニケーションを通じて問題解決策を提案できる能力を身につける。			
授業の概要 修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を調べ、課題、研究手法、研究分野の最新の知見を学ぶ。先行研究から見出した課題を解決するために必要な調査・実験方法の計画を立案し、調査や実験を実施する。得られたデータの分析と考察をおこない、研究成果をパワーポイントの発表資料にまとめる。研究成果を発表し、多様なメンバーと幅広く議論する。これら課題の設定から問題解決、研究成果の議論に至るプロセスを実施できる能力を養う。			
授業計画 主指導教員と綿密な打合せを行い、柔軟かつ適切な計画を設定する。 下記は一例である。 第1回：課題の決定			

第2回：フィールド科学分野に関する基礎資料の学習 第3回：フィールド科学分野の実験・演習に関する資料の学習 第4回：研究テーマの関連分野に関する資料の学習 第5回：実験・調査・解析に関する演習の実施 第6回：実験・調査・解析結果のまとめ、発表 第7回：実験・調査・解析結果に関する意見交換・討議 第8回：総括に関する討議 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 討議への取り組み姿勢（50％）と討議内容と適切な頻度で課す課題に対する回答（50％）によって評価する。

授業科目名： 課題研究Ⅰ-K（フィールド科学・理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之、 本田 明治、西井（池田） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の領域において、学術研究や専門的な問題解決を行う上で必要となる基礎的な資料調査や実験・調査・解析を計画・実施するために必要な知識とスキルを修得できる。			
授業の概要 フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の領域における学術研究や課題解決のための資料調査および実験・調査の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：フィールド科学研究（特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の領域）の特質 第3回：フィールド科学に関する基礎資料調査の方法 第4回：フィールド科学に関する基礎資料調査 第5回：フィールド科学に関する基礎資料の調査の結果に基づく討論 第6回：フィールド科学に関する基礎的な実験・調査・解析計画の方法			

第7回：フィールド科学に関する基礎的な実験・調査・解析の計画 第8回：フィールド科学に関する基礎的な実験・調査・解析の実施 第9回：フィールド科学に関する基礎的な実験・調査・解析の結果の整理 第10回：フィールド科学に関する基礎的な実験・調査・解析を報告する資料の作成方法 第11回：フィールド科学に関する基礎的な実験・調査・解析結果の報告と討論 第12回：基礎的な実験・調査・解析に基づく課題研究計画立案の方法 第13回：課題研究計画の作成 第14回：課題研究計画の報告と検討 第15回：総括討論 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 課題研究計画の報告時には、報告内容に関する質疑を行い、研究に関する現状認識・分析と問題点の抽出、実験・解析・調査結果の考察等、研究内容についての理解が十分であることを確認する。成績評価は、報告内容、質疑応答の内容を総合的に判断して行う。

授業科目名： 課題研究Ⅱ-K（フィールド科学・理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之、 本田 明治、西井（池田） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 フィールド科学の諸分野（特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の領域）において、専門的な課題を解決するための調査方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法の理解を通して、諸分野における理論の特質の理解を深めることができる。			
授業の概要 フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の領域において、研究テーマに関する学術研究や専門的な課題解決のための研究方法論および課題選定、文献調査、課題分析の基礎的方法について、受講学生の発表や担当教員と受講学生の討論を通して、理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：フィールド科学（特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学 の領域）における研究方法論の特質 第3回：フィールド科学における研究方法論 第4回：フィールド科学における課題選定の方法と特質			

第5回：課題選定に関する討論

第6回：フィールド科学に関する文献調査の特質

第7回：フィールド科学に関する文献調査の方法と実際

第8回：フィールド科学に関する課題分析の方法

第9回：フィールド科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の方法

第10回：フィールド科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の実施

第11回：フィールド科学に関する課題分析に基づく実験・調査・解析の結果の整理と報告

第12回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画立案の方法

第13回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施

第14回：実験・調査・解析結果の整理と報告資料作成

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

報告資料の内容に関する質疑を行い、研究に関する現状認識・分析と問題点の抽出、実験・解析・調査結果の考察等、研究内容についての理解が十分であることを確認する。成績評価は、報告内容、質疑応答の内容を総合的に判断して行う。

授業科目名： 課題研究Ⅲ-K（フィールド科学・理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之、 本田 明治、西井（池田） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析を通して、フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の理論と、諸分野における実験・調査・解析の方法論の理解を深めることができる。			
授業の概要			
計画に基づいた課題の遂行に資する実験・調査・解析およびその計画や結果について討論を通して、フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の理論と実験・調査・解析方法論を理解し、応用できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：課題に基づく研究計画の検討（1）―フィールド科学における研究内容の視点から―			
第3回：課題に基づく研究計画の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―			
第4回：課題に基づく研究計画の検討（3）―基本文献の調査―			
第5回：課題に基づく研究計画の検討（4）―関連する研究の調査―			
第6回：研究計画の深化―フィールド科学理論の深化を中心として―			
第7回：研究計画に基づく実験・調査・解析の計画			

第8回：研究計画に基づく実験・調査・解析の実施

第9回：実験・調査・解析結果の整理

第10回：実験・調査・解析結果の報告

第11回：実験・調査・解析結果の検討（1）―実験・調査・解析計画の視点から―

第12回：実験・調査・解析結果の検討（2）―実験・調査・解析方法の視点から―

第13回：実験・調査・解析結果の検討（3）―フィールド科学理論の視点から―

第14回：実験・調査・解析結果に基づく研究計画の再検討

第15回：まとめの討論

定期試験なし

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

研究計画の再検討内容に関する質疑を行い、研究に関する現状認識・分析と問題点の抽出、実験・解析・調査結果の考察等、研究内容についての理解が十分であることを確認する。成績評価は、再検討内容、質疑応答の内容を総合的に判断して行う。

授業科目名： 課題研究Ⅳ-K（フィールド科学・理）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安東 宏徳、卜部 厚志、 河島 克久、工藤 起来、 栗原 敏之、松岡 史郎、 宮崎 勝己、奈良間 千之、 本田 明治、西井（池田） 稜子、石崎（太田） 智美、椎野 勇太、志賀 隆、野口 里奈、則末 和 宏、村山 敏夫、渡部 直 喜、高津 邦夫、林 八寿 子、大森 紹仁、高橋 直 也、北村 繁、堀 健彦、 前田 洋介、安田 浩保 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
実験・調査・解析の結果と方法を吟味するとともに、計画に基づく研究の成果を論文にまとめることを通して、フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の理論の理解を深め、応用できる。			
授業の概要			
課題研究Ⅰ～Ⅲでの実験・調査・解析や研究計画の検討・報告をもとに、実験・調査・解析の結果と方法の吟味を通して、フィールド科学の諸分野、特に生態学、海洋科学、気象学、地形学、地質学、地球惑星科学、災害科学の理論の深化に資する課題についての研究を行う。			
授業計画			
第1回：これまでの実験・調査・解析結果に基づく今後の方向性の検討			
第2回：フィールド科学における論文作成方法			
第3回：対外発表論文の作成と検討ーフィールド科学における理論の深化を視点としてー			
第4回：これまでの実験・調査・解析結果の発表			
第5回：発表に基づく補足実験・調査・解析の計画			
第6回：発表に基づく補足実験・調査・解析の実施			
第7回：フィールド科学に関する文献調査の方法と実際			

第8回：フィールド科学に関する課題分析の方法 第9回：フィールド科学に関する各自の研究課題の体系化—理論の深化を視点として— 第10回：研究結果の整理に資する予備実験・調査・解析の方法と実施 第11回：フィールド科学理論の理解の深化を視点とした研究全体の目的・方法の検討 第12回：フィールド科学理論の理解の深化を視点とした分析・考察結果の検討 第13回：フィールド科学理論の理解の深化を視点とした研究の成果と意義の検討 第14回：フィールド科学理論の理解の深化を視点とした今後の研究課題の検討 第15回：研究成果の発表 定期試験なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 研究成果発表会では、発表内容に関する質疑を行い、研究に関する現状認識・分析と問題点の抽出、実験・解析・調査結果の考察等、研究内容についての理解が十分であることを確認する。成績評価は、発表内容、質疑応答の内容を総合的に判断して行う。